

令和5年度補正予算

オーバーツーリズムの未然防止・抑制による 持続可能な観光推進事業

「先駆モデル地域」における取組み事例集



令和7年7月25日 第一版



本事例集について

2022年秋の入国制限の緩和後、国内外からの観光需要は急速に回復し、昨年2024年には、訪日外国人旅行者数は約3,700万人と過去最高を記録するとともに、訪日外国人旅行者の消費額も過去最高の約8.1兆円となるなど、力強い成長軌道にある状況です。一方で、観光客が集中する一部の地域や時間帯においては、過度の混雑やマナー違反行為が発生し、地域住民の方々の生活環境に影響を及ぼしたり、旅行者にとっても満足度の低下につながりかねないといった課題が生じている状況です。

こうした課題に対処するため、「オーバーツーリズムの未然防止・抑制に向けた対策パッケージ（令和5年10月18日観光立国推進閣僚会議決定）」においては、観光客の受け入れと住民の生活の質の確保を両立しつつ、持続可能な観光地域づくりを実現するためには、地域自身があるべき姿を描いて、地域の実情に応じた具体策を講じることが有効であり、国としてこうした取組に対し総合的な支援を行うことが盛り込まれたところです。

これを踏まえ、観光庁では、令和5年度補正予算「オーバーツーリズムの未然防止・抑制による持続可能な観光地域づくり事業」（以下「本事業」といいます。）において、先駆的な取組みを行うモデル地域として全国26地域を採択し、各地域における対策への総合的な支援を実施しました。

本事例集は、受入環境の整備・増強、需要の適切な管理、需要の分散・平準化、マナー違反行為の防止・抑制といった現に発生しているまたはその懸念がある課題への対応に加え、地域住民と協働した観光振興など、観光需要をより良い地域づくりに活かす取組みも併せ、本事業で各地域が主に令和6年度に実施した取組みについてまとめたものです。成果が挙げた取組みや、さらなる課題が明らかになった地域など、様々なものが記載されていますが、参照される地方自治体、DMO・観光協会、関係事業者の方々などにとって、観光地域づくりの立案・実施につながるヒントが得られるものとなることを期待します。

観光庁では、引き続き観光客の受け入れと住民の生活の質の確保の両立が図られるよう、地域の実情に応じた取組を支援を行ってまいります。

目次 (1/2)

No	実施主体 (対象地域)	取組み内容	主な具体的取組み	ページ
1	北海道倶知安町 (ニセコエリア)	倶知安・ニセコエリアにおける二次交通改善対策	◆ 冬季におけるタクシー不足解消「ニセコモデル」実施 ◆ 「ひらふ無料循環バス」の運行	P.5
2	北海道美瑛町 (美瑛町)	美瑛町エリアにおける交通渋滞緩和事業計画	◆ 白金青い池のトイレ増設による混雑・交通渋滞の解消 ◆ セブンスターの木駐車場改修	P.16
3	青森県 (奥入瀬溪流)	オーバーツーリズムがない“未来の奥入瀬”実現事業	◆ マイカー規制にあわせたシャトルバスの運行 ◆ シャトルバスの運行にあわせた臨時バス停の設置	P.25
4	山形県山形市 (蔵王温泉)	エリア全体での観光客の適切な需要管理による、世界に誇れるスノーリゾート“世界の蔵王”の推進事業	◆ 蔵王ロープウェイの混雑緩和施策	P.38
5	山形県尾花沢市 (銀山温泉)	「GINZAN is an Art Museum」持続可能な観光地づくり事業	◆ パーク＆ライドと組み合わせたマイカー規制の実証	P.48
6	埼玉県川越市 (川越市)	川越市におけるオーバーツーリズム対策事業	◆ 適切な交通規制等のあり方の検討 ◆ ごみポイ捨て防止対策によるまちの環境美化	P.59
7	埼玉県秩父市 (秩父地域)	地域住民と観光客が共存した持続可能な山間地域を目指す“三峰駐車場の混雑分散化事業”	◆ AIカメラを活用した混雑の予測、混雑情報の発信 ◆ 道の駅等ヘデジタルサイネージの整備 ◆ まちなか夜間イベントの実施と観光行動のデータ分析	P.72
8	東京都台東区 (浅草)	台東区浅草地区における持続可能な観光地づくり事業	◆ ごみの目視・組成調査 ◆ ごみ拾いイベントによるポイ捨て防止の啓発活動	P.85
9	神奈川県鎌倉市 (鎌倉市・藤沢市エリア)	鎌倉市・藤沢市エリアにおけるオーバーツーリズムの未然防止・抑制による持続可能な観光推進事業	◆ 鎌倉観光混雑マップ・鎌倉観光公式ガイドの改修による情報発信の充実 ◆ 混雑駅への誘導員配置による滞留解消と安全確保 ◆ 公共交通機関の利用促進による渋滞抑制〈一般型〉	P.97
10	神奈川県箱根町 (箱根町)	箱根エリアにおける混雑平準化および道路渋滞緩和推進事業	◆ 手ぶら観光（キャリアケースの配送）サービスの整備 ◆ 路線バス車内のラゲージスペースの整備 ◆ 箱根ロープウェイにおける時間指定事前予約システムの導入 ◆ 渋滞多発エリアにおける対策	P.114
11	新潟県佐渡市 (佐渡島)	持続可能な佐渡観光の推進に向けた受入環境整備事業	◆ 「相川周遊バス」運行による人流増加対策 ◆ 「ライナーバス」運行及びパーク＆ライドの推進	P.129
12	山梨県 (富士山吉田口)	富士山吉田口における安全登山環境確保に関する事業計画	◆ 富士山登山の規制等による安全の確保	P.139
13	山梨県大月市 (大月駅周辺地域)	大月市における富士山観光に係るオーバーツーリズムの未然防止・分散・抑制による持続可能な観光推進事業対策計画	◆ 外国人観光客の大月市内への誘導を目的としたモデルコースの整備	P.150

目次 (2/2)

No	実施主体 (対象地域)	取組み内容	主な具体的取組み	ページ
14	岐阜県高山市 (高山市)	「住んでよし、訪れてよし」の持続可能な地域の実現に向けた観光課題対策事業	◆ 市民生活と観光振興の調和を図るためのマナー周知・啓発 ◆ 災害時の観光客対応に関する体制の構築	P.158
15	岐阜県白川村 (白川郷合掌造り集落)	白川郷観光最適化デザイン計画	◆ 駐車場等の混雑情報のリアルタイム配信 ◆ レスポンシブル・ツーリズムを周知する独自ウェブサイトの構築	P.172
16	静岡県 (富士山(富士宮口、御殿場口、須走口))	富士山(富士宮口、御殿場口、須走口)における安全登山環境確保に関する事業計画	◆ 「静岡県富士登山事前登録システム」の導入と試行 ◆ 山頂付近への安全誘導員の配置	P.185
17	京都府京都市 (京都市全域)	市民生活と調和した「持続可能な京都観光」の実現に向けた観光課題対策推進事業	◆ 嵯峨嵐山エリアにおける回遊ルート誘導実証事業 ◆ 観光に便利な系統の新設等と利用促進 ◆ 観光客による「京都観光モラル」宣言促進事業 ◆ 市民に対する観光効果の見える化	P.193
18	奈良県 (奈良公園及び「山の辺の道」)	「奈良公園」及び「山の辺の道」エリアにおけるオーバーツーリズム対策事業計画	◆ 奈良公園における混雑可視化、スマートごみ箱の設置 ◆ 「山の辺の道」エリアにおける受入環境整備、地域活動参加型ツーリズムの実施	P.212
19	和歌山県高野町 (高野山)	聖地高野山の交通渋滞の緩和や持続的な参拝観光地の創出に向けた取り組み	◆ 駐車場混雑情報の発信 ◆ 地域における財源の確保に向けた検討、中心部駐車場の有料化	P.222
20	島根県出雲市 (出雲大社周辺)	出雲大社周辺エリアにおける渋滞対策及び持続可能な観光推進事業	◆ ETC2.0プローブデータを用いた交通情報の分析 ◆ 駐車場有料化に向けた交通対策協力金の実施	P.233
21	広島県廿日市市 (宮島・宮島口)	宮島・宮島口エリアにおけるサステナブル・スマート観光推進事業計画	◆ デジタルマップにおける混雑状況可視化とお薦めルート情報の一元化 ◆ 観光客も参画するマナー啓発イベント等の実施	P.245
22	香川県小豆島町 (小豆島)	「観光により持続できる島、小豆島」を実現するための環境整備	◆ エンジェルロード駐車場の整備・有料化 ◆ 新モビリティ(EVバイク) 導入による二次交通の充実	P.256
23	高知県いの町 (にこ淵を中心とした仁淀川流域)	にこ淵を中心とした仁淀川流域のオーバーツーリズム対策	◆ にこ淵における遊歩道・ビューポイントの新設 ◆ 地域資源を活用した新たな観光コンテンツの造成	P.266
24	熊本県阿蘇市 (阿蘇市)	「サステナブルな阿蘇」で旅行者も地域も潤う環境トライアル	◆ 自然エリアでのアクティビティ整備による混雑の分散 ◆ 地域住民向け体験会の実施による観光の意義の発信 ◆ 多言語モニター設置による観光施設の混雑状況の見える化	P.278
25	沖縄県 (首里杜地域)	令和8年の首里城正殿復元を契機とした、首里杜 地区を中心とした暮らしと観光が両立した住みやすく魅力的なまちづくり	◆ 駐車場混雑情報の発信、バス予約システム構築 ◆ 持続可能な観光ガイドラインに基づく関係者の体制構築	P.293
26	沖縄県竹富町 (西表島)	西表島における立入制限エリア導入を核とした持続可能な自然体験型観光推進計画	◆ エコツーリズム法に基づく観光客の入域管理システムの整備	P.305

01. 北海道倶知安町

1. 地域概要

計画名	倶知安・ニセコエリアにおける二次交通改善対策
対象エリア	ニセコエリア
実施主体	倶知安町
年間観光客数 (令和5年)	約290万人（うち外国人約49万人）
年間延べ宿泊客数 (令和5年)	約145万人泊（うち外国人約74万人泊）
主な観光資源	パウダースノー、羊蹄山、ニセコ連峰、尻別川、ニセコHANAZONOリゾート、ニセコ東急グラン・ヒラフ、ニセコビレッジスキースクール、ニセコアンヌプリ国際スキー場



パウダースノーを滑るスキーヤー
(提供：ニセコプロモーションボード)



ニセコひらふ地区
(提供：北海道開発局)

● 観光ビジョン

～ニセコで、人生の新たな彩りを～
既存の交通資源を効率的に運行させることによる
持続可能な「公共交通ネットワークの最適化」を目指す

- 既存の公共交通機関の持つポテンシャルを最大限に発揮させていかなければ、持続可能な地域の移動手段を確保していくことが困難な局面となっている
- バス、鉄道、コミュニティバス、タクシー等の公共交通機関の特性に基づいた役割分担を実施し、各交通資源を乗り継ぐことで目的地までたどり着ける仕組みづくりを行う

● 推進体制（協議の場）

課題解決における地域関係者

- 冬季のニセコエリアにおけるタクシーの確保に向けた協議会、ニセコ町地域公共交通活性化協議会、倶知安町地域公共交通活性化協議会
- 地域公共交通活性化協議会には、地域の公共交通利用者として町内会の代表者等の地域住民が参画

行政機関	事業者	住民関係者
ニセコ町	北海道ハイヤー協会	地域交通活性化協議会
倶知安町	GO株式会社	ニセコ観光圏協議会
	地元交通事業者	倶知安観光協会
		ニセコひらふ エリアマネジメント

2. 課題

● 主な課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 冬季タクシー不足	・ 冬季に観光客が集中し、圏内においてタクシー不足が発生 ・ 飲酒を伴う食事後に、宿泊施設・自宅への帰宅困難者が発生 ・ 地域住民の通院や買い物等に支障が出ている	観光客・住民
2. リゾートエリアの交通混雑	・ レンタカー・マイカー移動の比率が高く、リゾートエリア中心地においては、交通渋滞が発生 ・ 宿泊施設のキャパシティに対し飲食店が少なく、旅行者の訪問場所の集中や食事難民が発生。飲食店の多い市街地との連携が必要であるが、交通利便性が悪い	観光客・住民
3. マナー問題	・ 上記に起因し、バス・タクシー乗り場やキッチンカー周辺等に観光客が滞留 ・ 結果として、ごみのポイ捨てや落書き、観光客同士のトラブル等が発生	主に住民

1. 冬季タクシー不足



タクシー乗り場での行列

2. 交通渋滞やその影響による3. マナー問題



- ・ ニセコひらふ地区での交通渋滞
- ・ R5年度には約2kmの渋滞が発生



レストラン不足により
キッチンカー利用者が多い



ごみの散乱

3. 背景・要因

● 課題の背景・要因

主な背景・要因

1. 外国人観光客の急増

- ・ 特に冬季においては、**2000年代より外国人観光客が急増**
- ・ 広場や通りにごみ箱が設置されている**海外観光地との環境の違い**などから、ごみがポイ捨てされやすい状況が生じている

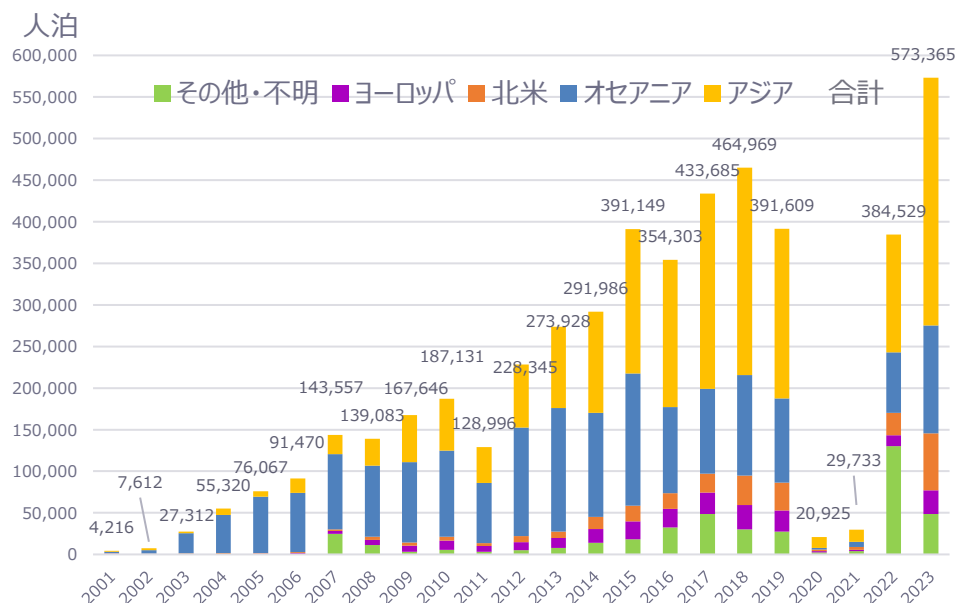
2. 季節繁閑差 (冬季への集中)

- ・ 冬季と夏季で観光客属性が異なり、**冬季は外国人観光客、夏季は国内観光客が中心**
参考：ニセコエリアでは、冬季宿泊者の8割が外国人観光客、夏季は7割が日本人観光客
- ・ 冬：夏の延べ宿泊者数は10：4程度となっており、**冬季の受入体制の強化が課題**となっている

3. 二次交通の脆弱性

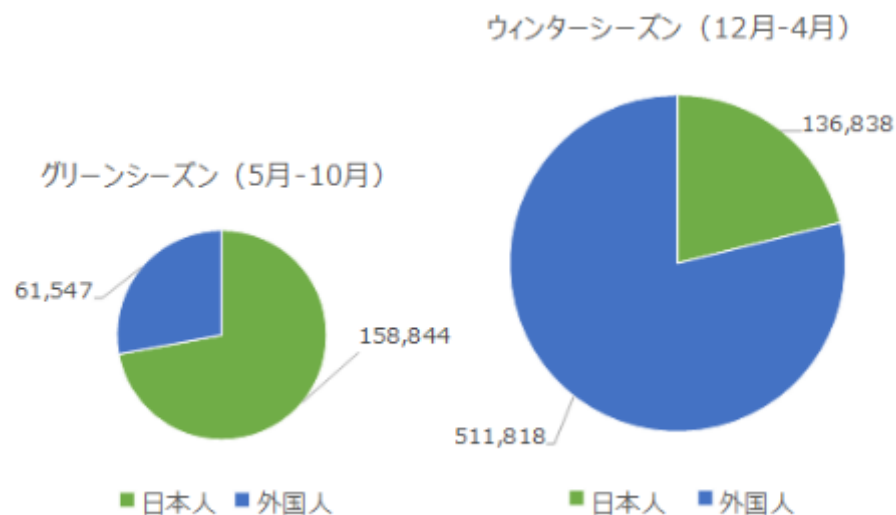
- ・ バス・タクシーは閑散期を基準として車両数・乗務員数を配置しており、**多客期の受入体制が不足**している状況
- ・ 特に、冬季に長期滞在する訪日客が飲食のため夜間に外出する際に、タクシーの不足が顕在化

1.外国人観光客の急激な増加



2001年から2023年にかけて、外国人観光客延べ宿泊数が約135倍に急増（出所：倶知安町観光資料）

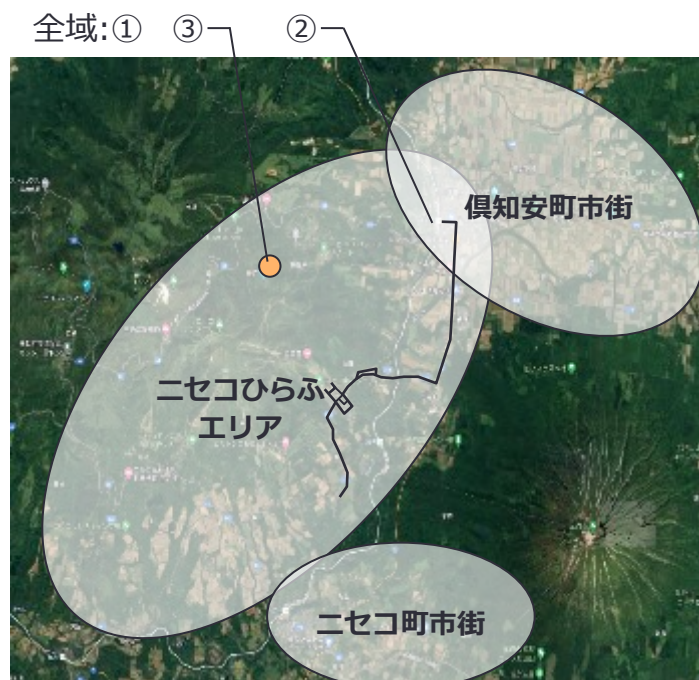
2.季節繁閑差（倶知安町）



- ・ 冬：夏の延べ宿泊者数は10：4程度
（出所：倶知安町観光資料より抜粋）

4. 対策の概要

- 当エリアでは二次交通不足の課題が顕在化しており、令和5年度より実施中のニセコモデル(域外タクシー事業者の協力を得た増強)と併せて、大型輸送力をもったバス事業の増強・再整理により、公共交通ネットワークの最適化を図る
- 外国人観光客が多いという地域特性から、タクシー事業については、アプリを使用して予約する形をとることで、対応を簡素化。また、バス事業については、海外のスキーリゾートにならい無料シャトルバス運行を目指し、運行経路ならびダイヤ等の最適化を図る
- 上記交通事業とあわせ、マナー違反対策にも着手し、観光地としての質の向上を目指す



受入環境の整備・増強

取組み

①冬季のタクシー不足解消（ニセコモデル）

背景

- 冬季に観光客が集中しニセコ圏内においてタクシー不足が生じ、観光客の利便性・満足度の低下や、住民が通院や買い物等の日常利用ができないといった社会問題が発生している

内容

- ニセコ観光圏協議会・倶知安町・ニセコ町・北海道ハイヤー協会・GO株式会社と連携し、2024年12月から2025年3月まで、札幌等の事業者から車両及びタクシー乗務員をニセコエリアへ派遣・運行する

取組み

②ひらふ無料シャトルバス運行（循環バス&ナイト号統合・再編・強化）

背景

- 観光客の移動において、ゲレンデ・宿泊施設・市街地が主たる動線となるが、二次交通不足からマイカー・レンタカー移動が集中し、交通渋滞が発生

内容

- 倶知安観光協会で運行しているニセコひらふ無料循環バス（4系統）とくっちゃんナイト号（1系統）を統合しワンブランドで5系統の運行とする。
- 統合に伴いダイヤを再編し、ニセコひらふ無料循環バスの一部系統での運行頻度増強とナイト号との接続強化、ナイト号の運行頻度増強と無料化により利便性向上を図る。特にナイト号は、無料化と本数増によりリゾートエリアであるニセコひらふ地区から倶知安町市街地のアクセスを強化し、マイカー利用低減による交通混雑抑制と市街地飲食店利用による夕食難民対策を行う

取組み

③スマートごみ箱設置事業

背景

- バスやタクシー停留所等、観光客が滞留する場所では、交通渋滞等から待ち時間が増加し、その間にゴミのポイ捨て等が発生し、町の景観を損ねており、住民からも不満の声が寄せられていた

内容

- かつてテロ対策でゴミ箱の撤去が進められていたが、リゾートとしての質を高めるため、スマートごみ箱を設置、広場や通りの美化、観光客の環境保全の意識啓発を図る

5. 主な取組み（詳細）

課題

冬季に観光客が集中することで、ニセコ圏内でタクシー不足が発生

取組み

冬季のタクシー不足解消（ニセコモデル）

- ・ 実施期間：令和6年12月～令和7年2月(3月迄運行)
- ・ 実施主体：一般社団法人北海道ハイヤー協会、倶知安町、ニセコ町、GO株式会社

事業内容

■ ニセコモデル

- ・ **冬季期間・繁忙期の、広域でのタクシーの需給調整事業**（札幌等の事業者から車両及びタクシー乗務員をニセコエリアへ派遣・運行）
 - 期間：2024年12月から2025年3月まで
 - 関係者：ニセコ観光圏協議会・倶知安町・ニセコ町・北海道ハイヤー協会・GO株式会社と連携
 - 規模：12社20台45名の応援隊協力、4社25台の地元事業者協力
- ・ **雪道運転での事前講習の実施**
 - 派遣された地域に不慣れなドライバーに対して雪道運転での事前講習等を実施。ドライバーの運転スキル向上について対応
- ・ **マッチングの仕組みの導入**
 - GOアプリでの予約を必須として、予約時点で観光客か地元住民か等利用者属性情報を習得し、それら情報をもとに、ドライバーをマッチングする仕組みを導入。例えば、訪日外国人旅行者（英語対応が必要）な場合は地元事業者等対応に慣れた事業者が対応を行う

事業周知



出発式



出発式テープカット



最終成果

令和6年度事業の目標

- ・ 来訪者満足度の向上
- ・ ニセコ観光圏協議会で冬期・夏期に実施している「来訪者満足度調査」における、「来訪者満足度」の項目数値の上昇を目指す

事業の成果／目標の検証結果

- ・ 来訪者満足度目標値：93%達成見込み
※本事業期間をカバーする満足度調査の結果は令和7年6月に集計予定。
- ・ 取組みに係る実績値：
「ニセコモデル」利用件数：2万件(令和6年度) → 5.5万件(5年度)
待ち時間：平均11.9分(令和6年度) → 平均8分(5年度)

成果詳細

ニセコモデルにおけるタクシーの稼働状況

ニセコモデル運行状況（概数：令和6年度数値3月16日時点）			
	令和6年度	5年度累計	備考
実車数	54,695件	20,000件	地元事業者を含む数
稼働台数/日	最大45台	最大11台 ※応援隊のみ	地元事業者を含む数
ニセコモデル運行体制（域内車輛含む：運行開始12/16～）			
	6年度総数	内応援隊	5年度総数
運行者数	16社	12社	8社
タクシー台数	45台	20台	11台
登録運転手数	105名	45名	25名

約2倍の運行体制を構築

- ・ 令和6年度より、道外からの応援車以外（域内タクシー）にもGOアプリを実装し運行することで、よりスムーズな配車や決済を実現
- ・ 通常運賃・アプリ手配料に加え、地域交通振興料1,180円を徴収し、一部を協力会社に拠出することで持続的な運行体制を構築

利用者満足度

【利用実績】

- ・ 開始1ヶ月時点で17,938件と、前年同期間比2.9倍のペースで乗車利用があった
- ・ 迎車～乗車時間が平均8分と、5年度に比べて平均3.9分短縮されたなど効率化が実現しており、結果的に大晦日には過去最高となる758件の乗車があった
- ・ 利用者の87%が訪日外国人旅行者となっており、5年度の1.2倍となる65の国と地域の利用が見られている

【2月9日までの利用者を対象とした乗車体験アンケート結果】

- ・ 「良い」約80% ・ 「悪い」約2% ・ 「評価無し」約18%
- ⇒全体的に良い評価をいただいている

- ・ 訪日客の利用が多いが、地元住民利用も見られる
- ・ 車輛数の増加により、迎車～乗車時間の短縮に繋がったことで、キャンセル数の減少も見られる
- ・ 利用者からの評価は高く、エリアの足として認知されはじめている

令和6年度取り組みから見えてきた課題

- ・ ニセコエリア全域の観光客は増加傾向。令和6年度タクシー台数・人員の増強を行ったが、配車の依頼数も増加しており、適切な運行を実施
- ・ 道外からの派遣ドライバー受入れのため、令和6年度は民間の宿泊施設を利用。5年度以上に快適な受入環境を整備を行った
- ・ 上記により、体制強化が図れた反面、新たな課題が可視化された

1 ドライバー不足への対応

- ・ 令和5年度実績から、観光客のタクシー利用ニーズは非常に高く、台数不足が発生していたため、5年度より約2倍の応援体制を実現したが、更なる運用体制の検討が必要ともいえる状況である

2 利用者満足度の向上

- ・ 域内事業者もGOアプリを使用し、ナビルートを用いることで、効率的な運行が実現できた
- ・ 一方で、交通事故等日々変動する要因におけるルート変更等に対し、利用者への丁寧な説明が求められる

3 派遣ドライバーへの施設利用方法周知

- ・ 今期、道外からの派遣ドライバーが長期滞在するための拠点として、民間の宿泊施設の利用を実施
- ・ 宿泊施設ごとに利用ルール等が異なることから、滞在者に対する利用方法の事前周知を丁寧にする必要がある

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- ・ 5年度に開始したニセコモデルを増強することで、高い利用率や高い満足度を得ることができた。そのためニセコモデルの持続性確保にむけて運行体制の強化に向けて、ハード・ソフト両面での運用体制強化を図る
- ・ 他方、タクシー増強は有効な施策でありながらも、台数を増やしすぎると、交通渋滞に繋がる可能性もあることから、台数上限等の見定め等を今後進めていく

1 域外事業者との継続的な協力体制の構築

- ・ 観光客数や利用者ニーズ等を踏まえ、今後も継続的なタクシーの運行体制の増強が必要であるが、当面は地元事業者だけでは台数・ドライバー共に不足することから、継続的な関係構築が不可欠。また台数の見極めも重要

2 タクシー運行にかかる教育プログラムの拡充

- ・ 渋滞発生時や事故発生時等に、乗客に対するルート変更やそれに伴う料金への影響等の説明方法の作成
- ・ 乗務員に対するニセコモデルの運用ルールの徹底

3 宿泊等協力事業者との継続的な協議の実施

- ・ 今後も継続的に域外からの事業者を受け入れる場合、それら関係者が快適に過ごせる体制構築が不可欠
- ・ 宿泊事業者と協議し、滞在者向けの利用案内やマニュアルなどを整備する

5. 主な取組み（詳細）

問題

- ・多くの観光客が自家用車（レンタカー）やタクシーで移動することにより、交通渋滞が発生
- ・長期滞在する訪日客が、夕方・夜間に飲食のため移動する際の交通手段が不足し、いわゆる「夕食難民」も発生

対策事業

ひらふ無料循環バス運行

- ・実施期間：令和6年12月～令和7年2月
- ・実施主体：（一社）倶知安観光協会

事業内容

■ ひらふ無料循環バス・くっちゃんナイト号の運行

- ・訪日外国人旅行者増加の現況を鑑み、バス事業について、ルート・ダイヤ変更・無料化により抜本的な再編を行う

【背景】

・くひらふ無料循環バス>

2021年度、スキー場まで徒歩移動が困難な宿泊施設とスキー場間をつなぎ、マイカーやレンタカーでの来場を抑制する目的で導入。導入以降利用者は増加し、**2023年度は当初の12倍の乗車人数となりニーズが非常に高まっており、増強が急務となっている。**

・くっちゃんナイト号>

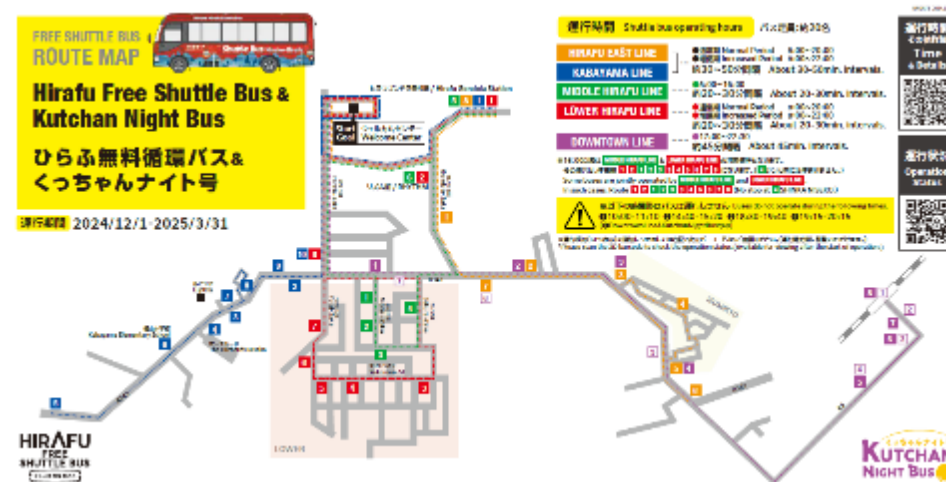
平成5年に日本人スキー客の市街地飲食店への誘客を目的に運行開始。有料運行であったが、近年では訪日外国人旅行者の利用が増加。**訪日客にとっては小銭での支払いが難しいことから、遅延やバス停での長時間滞留が生じ、むしろ道路混雑を悪化させかねない状況にある。**

- ・近年はニセコひらふ地区のベッド数が飲食店席数を大幅に超過する状況に至り、**夕食場所を見つけるのが難しい来訪者が多く発生。倶知安町市街地に所在する飲食店を活用するニーズも高まっている。**

【目的】

- ・先進的なスキーリゾートを目指すと共に、マイカー・レンタカー渋滞の緩和や市街地飲食店の活用拡大によるいわゆる夕食難民の減少を目指す。

2024-25運行マップ



ひらふ無料循環バス



令和6年度事業の目標

- A : バスの利用者の増加**
B : 来訪者満足度の向上
C : 来訪者満足度（食事・飲食店）

＜B、Cの評価方法＞

ニセコ観光圏協議会で冬期・夏期に実施している「来訪者満足度調査」における、「来訪者満足度」「食事・飲食店」の項目数値の上昇を目指す

事業の成果／目標の検証結果

- A : バス利用者の増加（目標達成）**
バス利用者： **76,528人→87,770人**
- B : 来訪者満足度：93%**
※本事業期間をカバーする満足度調査の結果は6月に集計予定。
- C : 食事・飲食店（大変満足スコア）：24.0Pt（達成見込み）**
食事・飲食店： **21.7Pt⇒24.0Pt**

成果詳細

無料シャトルバスの稼働状況

シャトルバス運行状況（令和6年度数値）

ルート	乗客数	備考
①HIRAFY EAST LINE	19,738名	
②KABAYAMA LINE	12,966名	
③MIDDLE LINE	29,676名	運行上の都合により一括して集計
④LOWER LINE		
⑤DOWNTOWN LINE	25,390名	

- ルート・ダイヤ再編、認知度向上における工夫点
- ⑤DOWNTOWN LINEは、くっちゃんナイト号をブランド統合・再編。
 - バス車両イメージも統一し認知度向上に寄与
 - 再編したDOWNTOWN LINEは、**無料化し市街地飲食店へ送客することで、夕食難民対策**としても貢献
 - ひらふ坂のデジタルサイネージも活用して認知度向上を図っている

- 特にDOWNTOWN LINEは、**利用ニーズが極めて高く、乗車定員を超えるような状況も発生したため、増車対応**をしている
- 無料化により気軽な利用を促すとともに、訪日客が不慣れな小銭支払に手間取ることでバス停で長時間停車することも防止し、**渋滞対策にも貢献**

利用者・事業者の反響

【利用者の声】

- リゾートの循環バスは無くてはならないインフラです。
- 運転手の休憩が必要なのは分かるが、切れ目ないダイヤで運行してほしい（利用のニーズが高いことを示す要望）

【地元事業者の声】

- 循環シャトルがあるので、個社で送迎をしなくてもよくなった。結果的にリゾート内を走る車両の低減に繋がっていると思います。
- DOWNTOWN LINEの利用が多く、満車になることが多いので、翌年度の車両大型化や頻度増などの運行強化を希望します。

- 2024-25シーズンは、倶知安町市街地の空き店舗を活用した飲食店の新規出店が相次いだ。利用が盛況な「DOWNTOWN LINE」が、新規出店にも後押し要因となっているとも言え、飲食店の供給も相まっていわゆる**夕食難民対策につながった**

令和6年度取り組みから見えてきた課題

- 従来の無料シャトルバスの増強・再編により、特に無料化したDOWN TOWN LINEで期待を上回るバス利用につながっている。
- 一方で、バス事業については、やむを得ない運転手の欠員等も発生し、体制の見直しが必要となる場面も生じている

1 ドライバー不足への対応

- ルートの統合・再編、一部増便を実施しても足りないほど利用ニーズが大きく、現状でも便数が不足している状況
- 今シーズンもやむを得ないドライバーの欠員により、一部ルートを統合する期間が生じてしまっている
- 一方で、運送業界全体でドライバー不足が顕著であり、運行体制増強には限界がある

2 市街地飲食店の増加に伴う移動ニーズへの対応

- 近年市街地の飲食店などが増加しており、その結果バスの利用者也増加するという相乗効果が生まれていると思われる。また、今後もその傾向が続くと想定される
- 日本では、空き店舗やシャッター街が課題になることが多いが、倶知安町では閉店した菓子店や本屋が飲食店として利活用され、観光客増加の効果が地域全体に波及

3 従業員の通勤による混雑への対応

- 交通混雑の大きな要因として従業員による市街地からの通勤が挙げられる
- 今シーズンは、従業員によるDOWN TOWN LINEの利用が確認され、結果的に観光客が乗れない事態も発生
- 一方で道内の路線バスは運転手不足から減少が続いており、通勤向けの路線バス増加を期待することは難しい

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- ドライバーの確保が事業継続に直結するため、ドライバーの雇用方法等から検討を進めていく必要がある
- 当事業の他にも、通勤者の対応等別の交通政策もあることから、多面的に事業を評価し、継続的に公共交通ネットワークの構築を図っていく

1 ドライバーの通年雇用

- ウィンターシーズンのみの季節労働では、ドライバー確保が難しいことから、夏に利用者が少なくとも、通年で運行を図る等してドライバーの確保が必要

2 定期的なルートやダイヤの見直し

- 今後も訪日客需要の高まりから、宿泊施設や飲食等観光関連施設の増加も見込まれる。そのため、町全体での受入体制を鑑み、ルート・ダイヤの見直しを行っていく

3 通勤向けバスなどの検討

- 通勤向けの路線バス増加が難しいことから、無料循環バス開始前の回送を活用した通勤向けバスやパーク＆バスライドの推進を検討する必要

02. 北海道美瑛町

1. 地域概要

計画名	美瑛町エリアにおける交通渋滞緩和事業計画
対象エリア	美瑛町
実施主体	北海道美瑛町 商工観光交流課
年間観光客入込数	約238万人（令和5年度）
年間延べ宿泊者数	15万泊・人（宿泊率約6%）
主な観光資源	波状丘陵地帯の農村景観 白金青い池 クリスマスツリーの木 セブンスターの木



波状丘陵地帯の農村景観



白金青い池

● 観光ビジョン

美瑛町観光マスタープラン2020

- 観光産業が大きく成長する一方で、近年は私有地への立ち入りや路上駐車、交通渋滞の問題が深刻化
- 「美瑛から変える。観光を変える。」をスローガンに、4つの基本方針を定めた（①地域資源の多様性拡大と持続性の担保②観光の成長マネジメントと質の向上③くらしと観光の融合によるまちづくり④美瑛版 DMO の確立）

● 推進体制（協議の場）

美瑛町オーバーツーリズム対策協議会

- 年2回を目途に開催（R7年度以降も継続開催）
- 各団体/組織から代表者最低1名必須参加の運用で、進捗報告や課題協議を行う

行政機関

美瑛町
商工観光交流課

有識者

北海道大学
石黒侑介準教授

事業者

一般社団法人 美
瑛町観光協会

びえい白金温泉観
光組合

美瑛町商工会

美瑛町農業
協同組合

住民関係者

特定非営利活動法人
美瑛町写真映像協会

ブラウマンの空庭。
（畑看板プロジェクト）

2. 課題

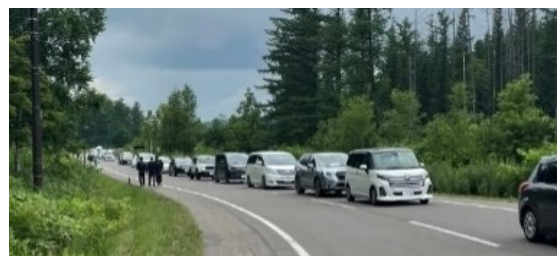
● 主な課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 特定観光スポットの混雑・交通渋滞	- 特定のエリアに観光客が集中し、町内で混雑や交通渋滞が発生するエリアとそうでないエリアの差が生じている - 混雑エリアでは、駐車場に入れない車両の滞留や、観光大型バスの路上駐車が横行し、観光客の満足度低下だけでなく、近隣農家の作業や地域住民の通行に支障をきたしている	観光客・地域住民
2. 観光客のマナー違反	私有地である農地に無断で立ち入る、道路の真ん中に立って写真を撮るなどの観光客のマナー違反行動により、住民迷惑や自然景観への悪影響が懸念される	地域住民・自然資源

1. 特定観光スポットの混雑・交通渋滞



白金青い池
トイレ待ちの列



白金青い池
駐車場に入れない車両の滞留



セブンスターの木
観光大型バスの路駐



クリスマスツリーの木
狭い道路に観光車両が集中し
地域住民の通行が妨げられる

2. 観光客のマナー違反



路上で写真を撮る観光客



農地への無断立ち入り

3. 背景・要因

● 課題の背景・要因

主な背景・要因

1. SNS等を背景とした観光客急増

- ・ 美瑛町の美しい自然景観が写真家やSNSで取り上げられたことで、近年、国内外からの観光客数が急増
- ・ そのため、**駐車場・トイレ等の受入環境整備が追い付いていない**

2. 貸切バスやレンタカー移動が主流の観光地

- ・ 主要な観光地間の距離が遠い一方で、**公共交通機関が発達していないため、貸切バスやレンタカーでの来訪者が多い**
- ・ 特に**外国人観光客**はツアー型の大型貸切バスでの来訪が多く、**特定の場所・時間に大勢の観光客が集中しやすい**

3. 観光エリアと生活エリアの重複

- ・ 観光地化している**クリスマスツリーの木・セブンスターの木**や**周辺の農地は私有地**であるものの、それ知らない観光客が無断で立ち入ってしまう
- ・ **観光地周辺の道路は生活道路であり、車両のすれ違いが難しいほど狭く、車両滞留**が起きやすい

3. 観光地周辺の狭い道路（生活道路）



地域住民が使う狭い生活道路に大量の観光客車両が集まり滞留が発生

○：観光エリアと生活エリアが重複

1. SNSによる観光客急増



2. レンタカーや観光バスでの移動

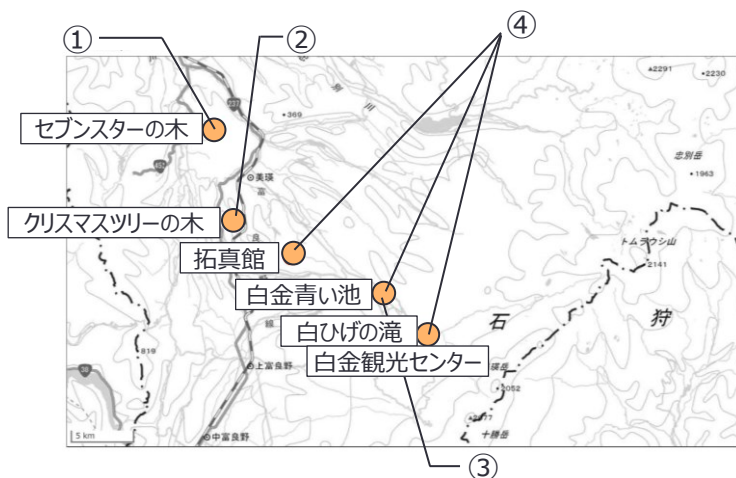


大型バスツアーで来訪する大勢の観光客

4. 対策の概要

- 地域住民・農家の生活エリアと観光エリアが重複しているため、観光客によるマナー違反行動や交通渋滞が、**住民の生活や交通に直接の影響**をもたらしている
- 地域住民からの要望**を受け、町を中心に「**美瑛町オーバーツーリズム対策協議会**」を発足
- 地域関係者や有識者との協議を踏まえ、**町内の交通渋滞緩和を目的としたハード整備やソフト面の取組み**（駐車場改修・トイレ増設・交通整理・混雑状況可視化カメラ増設のための調査）、また、**マナー啓発の取組み**（デジタルサイネージの設置）を行うことになった

美瑛町対策エリア



国土地理院ウェブサイトを基に美瑛町作成

受入環境の整備・増強

取組み

背景

①セブンスターの木駐車場の改修

- バスの駐車スペースが少なく、同一時間帯にバスが集中することで、6,7台のバスが路上駐車することなどにより、頻繁に道路が混雑。近隣農家の通行に支障をきたしている

内容

- 駐車場を改修し、バス駐車可能台数を増やすことで、特に大型観光バスの集中による路上駐車や交通渋滞の抑制、周辺エリアの混雑緩和を目指す

取組み

背景

②クリスマスツリーの木周辺への警備員配置

- 周辺道路はもともと生活道路であり非常に狭く、車両間の行き違いが難しい。加えて、特定の時期・時間帯に観光客の車両が集中することで道路の混雑が発生。近隣農家の作業や地域住民の通行に支障をきたしている

内容

- 冬季の繁忙期において、クリスマスツリーの木周辺に警備員を配置し、交通整理を実施することで、周辺道路の混雑解消を目指す

取組み

背景

③白金青い池のトイレ増設（増設工事中は仮トイレを設置）

- 来訪観光客数に対し極端にトイレの数が少なく、ピーク時には100人ほどの行列が発生。駐車場の車両滞留時間が長くなり満車状態が続くため、周辺道路に入場待ちの車両が列をなし、交通渋滞が生じている

内容

- トイレ待ちの滞留解消による駐車場の回転率向上と周辺の交通渋滞緩和を目指す

マナー啓発

取組み

④美瑛町における観光マナーを表示するデジタルサイネージを観光拠点3か所（拓真館、青い池、白金観光センター）に増設

背景

- 観光マナーが十分に浸透しておらず、農地に無断立ち入りをしたり、道路の真ん中で写真を撮影をする観光客が増加している

内容

- デジタルサイネージを増設し、観光客のマナー行動遵守を促進

調査・分析

取組み

背景

⑤混雑状況可視化カメラ増設検討のための調査

- 特定のスポットに観光客が集中する一方で、町内に点在する他観光スポットは混雑していない状況。観光客をこうしたエリアに誘導する情報発信を目的とし、増設が必要

内容

- 混雑状況を可視化できるカメラの適切な設置場所を特定するための調査を実施する

5. 主な取組み（詳細）

課題

- 白金青い池のトイレ不足により、駐車場における車両の滞留時間が長くなり周辺道路に交通渋滞が生じている

取組み

白金青い池のトイレ増設

実施期間：令和6年7月～令和7年2月

実施主体：北海道美瑛町

事業内容

■ トイレ増設

- 白金青い池の来訪者向けトイレを増設する

【背景】

- 白金青い池のトイレは来訪観光客数に対し極端に数が少なく、ピーク時には100人ほどの行列が発生。駐車場における車両の滞留時間が長くなり満車状態が続くため、周辺道路に入場待ちの車両が列をなし、交通渋滞が生じている

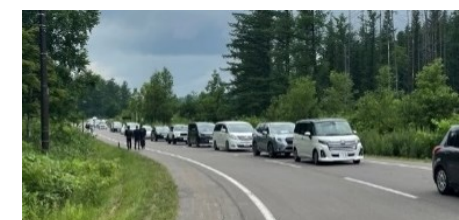
【目的】

- トイレを増設することで、観光客数に合った受入環境を整え、滞留解消による駐車場の回転率向上と周辺の交通渋滞緩和を目指す
なお、増設工事中は仮設トイレを設置
- 既存トイレ：男性個室小3大1、多目的1、女性3
- 新設トイレ：男性個室小3大1、多目的1、女性8

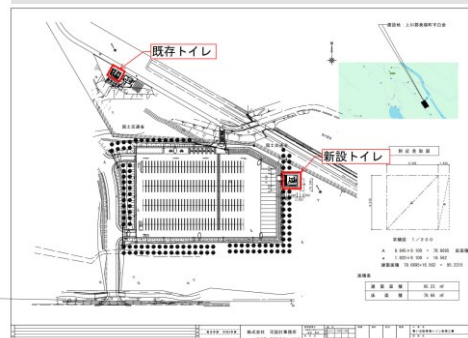
【その他取り組み】

- 北海道の協力のもと、従来の青い池駐車場入り口から約1km手前の道道に青い池への左折看板を設置し、青い池に向かう車両を町道へ誘導。その結果ほとんどの車両が左折し道道の渋滞は大幅に解消した（令和6年7月）
- 上記のとおり誘導しても従来の青い池駐車場入り口から左折し強引に右折入庫する車両がいたため、駐車場入口付近の町道のセンターラインに車線分離標を設置（観光ピーク時のみ）し右折入庫不可とした。その結果右折入庫待ち車両による道道の渋滞がほぼ解消した（令和6年8月）

整備前：トイレ待ちの列と、周辺道路における駐車場待ちの交通渋滞



整備後：新設したトイレ



青い池周辺の道路状況



令和6年度事業の目標

A : トイレ待ち滞留の解消

B : トイレ待ちの滞留解消が周辺交通渋滞の軽減に寄与するか特定

事業の成果／目標の検証結果

A : トイレ滞留は解消

- ▶ トイレ待ち平均人数 : **80人から10人以下**に減少

B : 他の対策(車両誘導方法の変更)も併せて実施したことにより、周辺交通渋滞は緩和。

- ▶ 青い池周辺の道路のバス平均遅延時間
12分（最大遅延時間54分）から5分（同19分）に減少

令和6年度取り組みから見えてきた課題

- ・ トイレ待ちの滞留解消により、新たなボトルネック（駐車場入出庫時の渋滞）も表出

1 駐車場入出庫をスムーズにする施策の検討

- ・ トイレの滞留が解消され駐車場内の回転率が向上したことにより、入口における駐車券受け取り、出口における精算に時間を要する車両が多いことが判明した
- ・ そのため、駐車場で出庫待ち渋滞と町道で入庫待ちの渋滞が発生
- ・ 入出庫をスムーズにする新たな施策の検討が必要

2 対策を上回る観光客の増加

- ・ トイレの混雑は減ったものの、観光客（特に訪日外国人旅行者）が急増していることから、駐車場にきた後の対策だけでは、周辺渋滞対策として不足することが分かった

令和7年以降に取り組むべきと考えること

- ・ 青い池やその駐車場にきた後だけでなく、来る前の対策を講じていく

1 出入口の増設

- ・ 普通自動車入口と出口各1ヶ所ずつ増設することを検討
- ・ 出入スムーズ化に向けた既存の取組：事前精算機の導入（出る前に清算可）、入出時のチケット受け取りの場所に、スタッフの配置

2a 周辺道路 渋滞情報の発信

- ・ 既に発信している青い池駐車場・ビューポイントだけでなく、青い池周辺の道路の渋滞情報も併せて、デジタルサイネージや町ウェブサイトで発信することを検討

2b 非混雑エリアへの誘客

- ・ 観光客の車両移動情報を分析し、観光地間をつなぐ2次交通の改善策や、青い池以外の非混雑エリアへの誘導動線を検討
- ・ 2aの渋滞情報の発信と併せて、青い池に集中する観光客を分散させ、青い池並びに周辺道路の混雑緩和を目指す

5. 主な取組み（詳細）

課題

- 大型観光バスの路上駐車が引き起こす道路混雑により、近隣農家の作業に支障をきたしている

取組み

セブンスターの木駐車場改修（バス駐車可能台数増）

- 実施期間：令和6年8月～11月
- 実施主体：北海道美瑛町

事業内容

■ 駐車場改修

- 駐車場を改修し、大型バススペースを4台から10台に増やす

【背景】

- セブンスターの木は、大型観光バスの駐車スペースが少なく、同一時間帯にバスが集中することで、駐車場に入りきれないバスが発生。そのため、バスが6～7台周辺道路に路上駐車することで、頻繁に道路が混雑し、近隣農家への作業に支障をきたしている（農業機械が通れなくなる等）

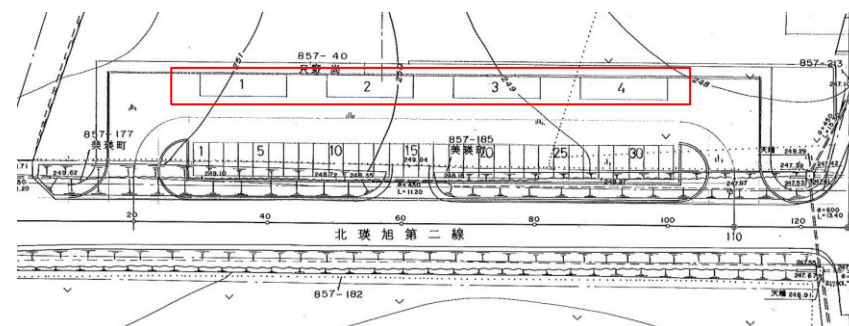
【目的】

- 駐車場を改修することで、限られたスペース内でバス駐車可能台数を増やし、観光大型バス集中による周辺道路の路上駐車や混雑の緩和を目指す

【その他取り組み】

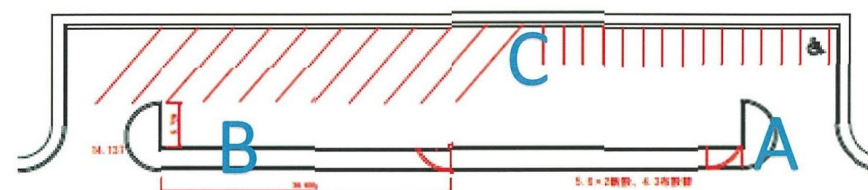
- 北海道警察と連携し、セブンスターの木周辺の町道を駐車禁止にする規制を実施。その結果、警察による定期巡回も実施され路上駐車はほぼなくなった（令和6年7～8月）
- 農繁期（6～8月）に観光協会において、セブンスターの木周辺道路に警備員を2名配置。その結果、交通整理により地域住民及び周辺農家の車両が安全に通行できた（令和6年6～8月）

実施前：大型バス4台駐車スペース（縦列）



◀ 大型バスの縦列駐車

実施後：大型バス10台駐車スペース（斜め駐車の線を作る）



A	舗装版撤去、路盤材転圧	2日	施工順番	2
B	舗装版撤去、路盤材転圧	3日	施工順番	1
C	路面標示	2日	施工順番	4
A+B	舗装敷設	2日	施工順番	3

令和6年度事業の目標

- A：大型観光バスの路上駐車を解消する
- B：近隣農家の生活環境を保全する

事業の成果／目標の検証結果

- A：大型観光バスの路上駐車は解消
大型観光バスの路上駐車台数：**6台から50台**に減少
- B：近隣農家の生活環境保全是、課題が残った
バスの路上駐車は無くなったが、バスから下車した**観光客のマナー違反は依然として発生**している

令和6年度取り組みから見えてきた課題

- 大型観光バス車両については規制の効果もあり改善がみられたが、観光客によるマナー違反行為は続いており、観光客を対象とした取り組みが必要

1

観光客の農地立ち入りへの対応

- セブンスターの木は農地に囲まれており、バスから降りた観光客が農地に立ち入ってしまう事象が引き続き起こった
- 車両だけでなく観光客を対象とした対策が必要

2

路上での写真撮影による滞留への対応

- 観光客が道路の真ん中で写真撮影を行い、約100人規模で滞留
- 周辺農家にとって生活道路であり、滞留が通行の妨げとなる。クラクションを鳴らしても無視され、対処が困難
- 道路での滞留がマナー違反であることの周知と、滞留解消のための具体的施策が必要

令和7年以降に取り組むべきと考えること

- マナー違反に対して、周知や啓発にとどまらず、現場でのアラート発信や違反行為を禁止事項として規則化するなど、直接的かつ強力な対策を検討していく

1

侵入検知カメラの設置

- 現在青い池・クリスマスツリーの木にあるカメラをセブンスターの木付近にも設置
- 人が侵入したときに、音声4か国語（英・中・韓）で警告音声を流し、その場でのマナー違反行動に直接アプローチ

2

路上での撮影を禁止にする規制の導入

- 現行のデジタルサイネージ等でのマナー周知では不足
- 美瑛は再訪する外国人観光客が少なく、ルールを知らないことによる違反ではなく、個人のモラルによるものが多い可能性
- 路上での撮影行為を禁止するなど、より強力な手段を検討

03. 青森県

1. 地域概要

計画名	オーバーツーリズムがない“未来の奥入瀬”実現事業
対象エリア	奥入瀬溪流
実施主体	青森県
年間観光客入込数	約147万人(令和4年度)
宿泊者数	約37万人 (令和4年年間観光入込客数より推計)
主な観光資源	奥入瀬溪流、十和田湖、鳶沼

● 申請エリアの特徴

- ・ 昭和42年に十和田八幡平国立公園**特別保護地区に指定**(環境省)
- ・ 昭和3年に**天然記念物**に、昭和27年に**特別名勝**に指定(文化庁)
- ・ 平成25年に**日本の貴重なコケの森**に指定(日本蘚苔類学会)



奥入瀬溪流



鳶沼



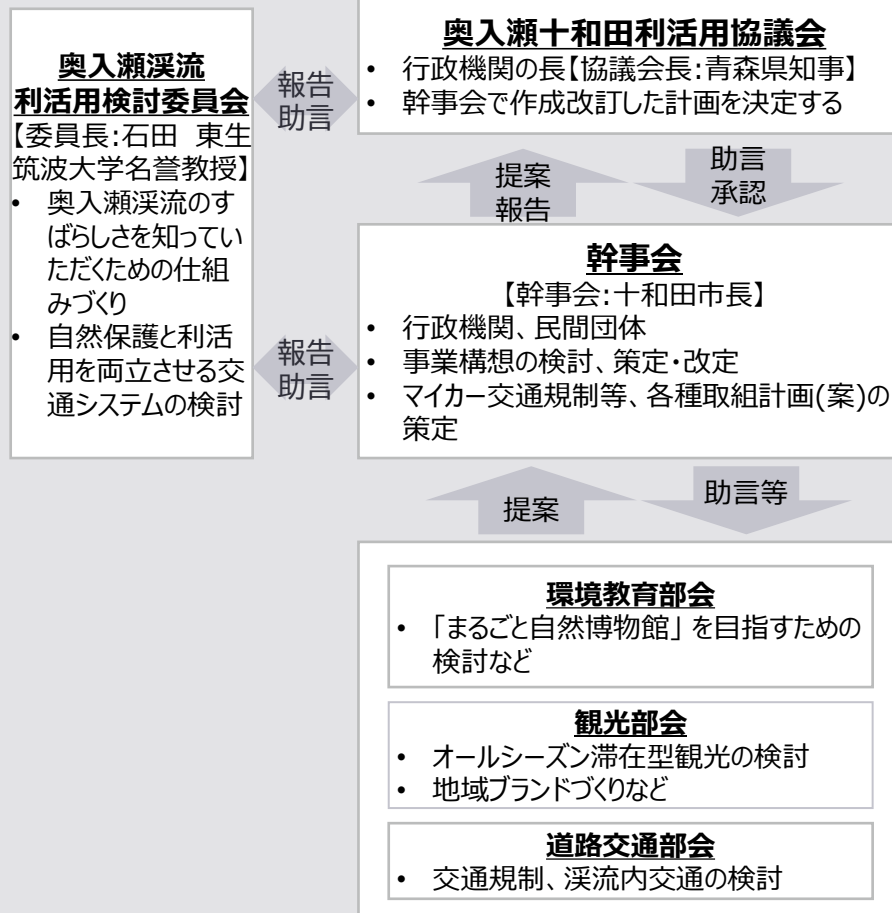
十和田湖

● 観光ビジョン（地域の目指す姿）

奥入瀬ビジョン（平成30年6月に策定）

- ・ 素晴らしい自然環境を有する奥入瀬・十和田湖地域を世界に誇れる地域として次世代に残していくためには、人と自然が共存・共生し、持続可能な地域であることが必要
- ・ そのために自然環境や歴史文化の保全と、環境を中心とする生業が両立した地域を目指す

● 推進体制（協議の場）



1. 地域概要

● 協議会の構成

- 協議会の構成員として、行政機関のほか、地域の事業者や住民関係者も参画

◆ 協議会員

	青森県知事(協議会長)
国	環境省 東北地方環境事務所長
	国土交通省 東北運輸局長
	国土交通省 東北地方整備局長
県	十和田市長
市	七戸町長
	青森県 環境エネルギー部長
	青森県 県土整備部長
	青森県 観光交流推進部長
	青森県 上北地域県民局長

◆ 幹事会員

- 幹事会は、十和田市長を会長とし、各部会から国・県・市・民間の代表5〜7者を選出し幹事会員とする。
- 上記の部会選抜者のほか、既存の利用適正化協議会からのメンバーであり地域を代表する関係町内会長も幹事会員とする。

国	環境省 東北地方環境事務所 十和田八幡平国立公園管理事務所	宇樽町町内会
	国土交通省 東北地方整備局 青森河川国道事務所	休平自治会
	国土交通省 東北運輸局 青森運輸支局	大川岱自治会
県	青森県 環境エネルギー部 自然保護課	(一社)十和田湖国立公園協会
	青森県 県土整備部 道路課	NPO法人 奥入瀬自然観光資源研究会
	青森県 観光交流推進部 観光政策課	NPO法人 十和田奥入瀬郷づくり大学
	青森県 上北地域県民局 地域整備部	(一財)十和田湖ふるさと活性化公社
	青森県 十和田警察署	十和田商会議所
	秋田県 鹿角振興局 総務企画部	星野リゾート 奥入瀬溪流ホテル
市	十和田市(幹事会長)	十和田観光電鉄(株)
	十和田市 農林商工部	ジェイアールバス東北(株)青森支店
	十和田市 教育委員会事務局	(株)エステックス
	七戸町 商工観光課	国土交通省 東北地方整備局 道路部 道路計画第一課
	小坂町 観光産業課	国土交通省 東北運輸局 交通政策部 交通企画課
民間	(一社)十和田奥入瀬観光機構	国土交通省 東北運輸局 観光部 観光地域振興課
	焼山町内会	青森県 県土整備部 河川砂防課
	奥入瀬溪流温泉町内会	東北電力(株) 青森発電技術センター
	休屋町内会	谷口 綾子

◆ 奥入瀬十和田利活用協議会事務局

十和田市農林商工部商工観光課
(一社)十和田奥入瀬観光機構
青森県道路課
青森県観光政策課
(オブザーバー)十和田八幡平国立公園管理事務所

● 観光ビジョン (地域の目指す姿)

行政機関	住民関係者	事業者
凡例:		

◆ 環境教育部会コアメンバー (参画する者の役職は限定しない)

国	環境省 東北地方環境事務所 十和田八幡平国立公園管理事務所	民	(一財)自然公園財団 十和田支部
	林野庁 東北森林管理局 三八上北森林管理署		(一社)十和田湖国立公園協会
県	青森県 環境エネルギー部 自然保護課		NPO法人 奥入瀬自然観光資源研究会
	青森県 教育委員会 教育庁 文化財保護課		NPO法人 十和田奥入瀬郷づくり大学
市	十和田市 教育委員会事務局 スポーツ・生涯学習課	コーディネーター 兼アドバイザー	辛丸 政明

◆ 観光部会コアメンバー (参画する者の役職は限定しない)

国	国土交通省 東北地方整備局 青森河川国道事務所	民間	(一社)十和田奥入瀬観光機構
	国土交通省 東北運輸局 青森運輸支局		(一社)しちのへ観光協会
県	青森県 観光交流推進部 観光政策課		NPO法人 青森県ウォーキング協会
	青森県 上北地域県民局 地域連携部		奥入瀬溪流温泉旅館組合
	秋田県 鹿角振興局 総務企画部 地域企画課		十和田商会議所
市	十和田市 農林商工部 商工観光課		(公社)十和田青年会議所
	七戸町 商工観光課		星野リゾート 奥入瀬溪流ホテル
	小坂町 観光産業課		MiK(株) 奥入瀬森のホテル
民間	「道の駅」奥入瀬		(合同)十和田湖ガイドハウス
	「道の駅」しちのへ		(株)ESARIO
	(公社)青森県観光国際交流機構		十和田湖・奥入瀬GUIDEの会
	(一財)十和田湖ふるさと活性化公社		十和田湖自然ガイドクラブ
		コーディネーター 兼アドバイザー	九戸 真樹

◆ 道路交通部会コアメンバー (参画する者の役職は限定しない)

国	国土交通省 東北地方整備局 青森河川国道事務所	民	(一社)青森県タクシー協会
	国土交通省 東北運輸局 青森運輸支局		(公社)青森県バス協会
県	青森県 交通地域社会部 地域交通・連携課		(公社)青森県トラック協会
	青森県 県土整備部 道路課		十和田地区交通安全協会
	青森県 上北地域県民局 地域整備部		十和田観光電鉄(株)
	青森県警察本部 交通部 交通規制課		ジェイアールバス東北(株)青森支店
	青森県 十和田警察署		(株)エステックス
市	十和田市 建設部 土木課	コーディネーター 兼アドバイザー	武山 泰

1. 地域概要

● 奥入瀬渓流区間の交通規制について

（国道102号奥入瀬渓流区間）

- 地域住民にとっての**生活道路**、県南地方と秋田県を結ぶ**広域物流ルート**、十和田八幡平国立公園の特別保護区域内に位置する**広域観光ルート**である。
- 紅葉シーズンなどある一定期間に来訪者が集中し、道路及び特定のスポットが混雑することで、住民、観光客、**自然環境自体に影響を与えている**。

（国道102号七曲区間）

- 曲線半径 $R < 100\text{m}$ の線形不良箇所が47箇所、最急勾配12%の**つづら折りの区間が約6kmも連続**。
- 七曲区間は奥入瀬渓流区間の迂回路として機能するが、**道路構造上大型車はすれ違いが困難**。

（奥入瀬渓流区間の交通規制）

- 自然環境や歴史文化の保全と、観光を中心とする生業が両立した地域を目指すことを目的に**、奥入瀬（青楓山）BP開通前は、**時期を限定した段階的なマイカー交通規制の実施**、奥入瀬（青楓山）BP開通後は、**将来奥入瀬渓流沿いの国道102号の一般車両を交通規制する方向性**が平成12年度に奥入瀬バイパス交通会議（議長：十和田湖町長）より県に提案され、**マイカー交通規制の社会実験を平成15年度より実施**。



▲国道102号七曲区間のつづら折り区間



▲将来の奥入瀬渓流内のイメージパース



▲奥入瀬渓流周辺の航空写真

2. 課題

● 主な課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 渓流内交通渋滞	- 紅葉期やGW、お盆時期に来訪者が集中し、交通渋滞が発生 - 上記の結果、交通渋滞発生（走行速度の低下）に伴う排気ガス増加による自然環境への影響、観光資源である音の喪失につながっている - また、公共交通機関の「到着遅れ」による生活道路・産業道路としての質の低下・生産性の低下、緊急車両への影響（患者への負担など）、渓流散策の妨げとなり観光客の安全性の低下など	住民・観光客・観光資源
2. 渓流内でのスポット混雑	- 車両は石ヶ戸休憩所や銚子大滝に集中し、歩行者は石ヶ戸休憩所～雲井の滝のゴールデンコースに集中 - 観光客が有名な観光スポットに集中するため、石ヶ戸休憩所では長時間のトイレ待ちの発生や有名観光スポットの銚子大滝や雲井の滝では路上駐車も発生し、車両の交通渋滞や散策している観光客の安全性にも影響する - 観光客が有名な観光スポット箇所に集中するため、遊歩道外への立入に伴う踏み荒らしによる自然環境破壊が発生	住民・観光客・観光資源

1. 渓流内交通渋滞



渓流内の交通渋滞および路上駐車

2. 渓流内でのスポット混雑



遊歩道外への立入に伴う踏み荒らし



石ヶ戸休憩所でのトイレ待ちの列

3. 背景・要因

● 課題の背景・要因

主な背景・要因

1. 特定時期の 渓流内の渋滞

- ・ 奥入瀬渓流沿いには国道102号が並走しており、容易にアプローチ及びエスケープが可能
- ・ 大半の観光客が自家用車もしくはレンタカーで来訪
- ・ 奥入瀬渓流沿いを走行する路線バスは運転手不足および、「2024年問題」による労働時間規制による大幅な減便が行われた。
- ・ 奥入瀬渓流内には駐車場がないため、路上駐車が発生する
- ・ 観光バスが多く来訪し、団体ツアーの観光バス駐車が同時刻・同じエリアで錯綜する

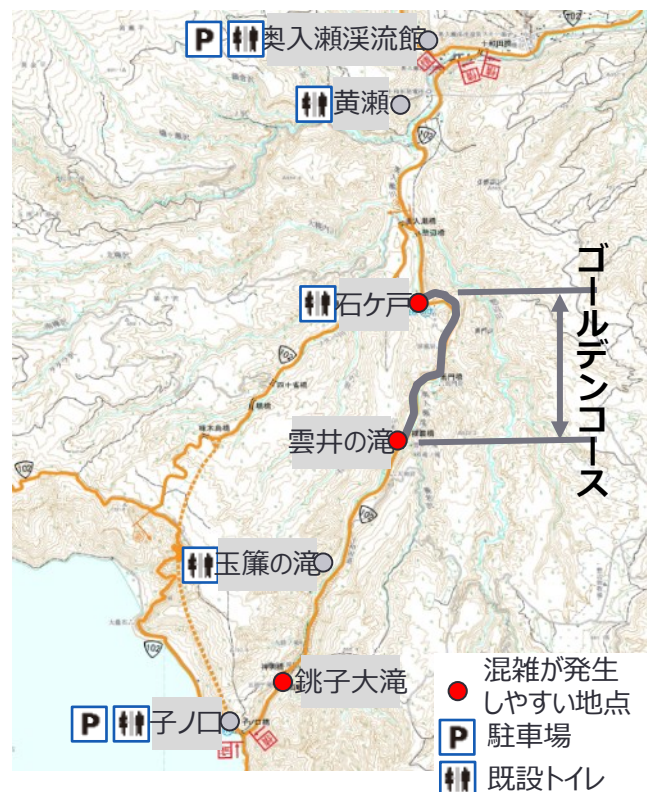
2. 局所的な観光 形態

- ・ 渓流区間にベンチやトイレなどの休憩箇所が少ないため石ヶ戸休憩所に集中
- ・ 渓流区間内に駐車場が無く、一部駐車できるスペースがある石ヶ戸休憩所及び銚子大滝で路上駐車が多数発生
- ・ 有名な滝や流れの景観を見る観光が主流のため、銚子大滝がある上流域、石ヶ戸の瀬や雲井の滝があるゴールデンコース（石ヶ戸休憩所～雲井の滝）が存在する中流域に集中
- ・ 冬季観光資源の不足/冬季のインタプリテーション不足により、グリーンシーズン・紅葉期に集中
- ・ 早朝・夜間コンテンツの不足/インタプリテーション不足により、日中に集中
- ・ 観光資源の知見（観るべき資源が、奥入瀬のどこに、どれくらいあるのか）の共有不足・ガイドの育成不足

1. 渓流、遊歩道、車道が隣接する奥入瀬渓流



1.2,マイカーの路上駐車による交通渋滞



1. 観光バスが同時刻、同エリアに集中



2.グリーンシーズン・紅葉期に来訪者が集中 (銚子大滝)



4. 対策の概要

- ・紅葉シーズンやゴールデンウィーク、お盆に来訪者が集中し、道路及び特定のスポットが混雑することで、住民、観光客、そして奥入瀬溪流自体に影響を与えている。
- ・自然環境や歴史文化の保全と、観光を中心とする生業が両立した地域を目指すために、マイカー交通規制の社会実験を平成15年度より実施しているところ。
- ・本事業では、多客期におけるマイカー規制時の局所的な観光形態の低減・解消による快適な観光の実現を目指し、受入れ環境整備や調査、分析を行う
- ・なお、平成25年度より「国道 103 号奥入瀬（青樺山）バイパス」を国直轄権限代行により整備中であり、同バイパス開通後は、現在のマイカー交通規制区間で一般車両の通行規制を実施することを予定している。



受入れ環境整備・強化

取組み 内容	①マイカー規制にあわせて、シャトルバスを運行 - ピーク時には深刻な交通渋滞が発生するため、マイカー規制を実施する - マイカー規制実施時は、溪流内の移動手段がないためシャトルバスを運行し、周遊を促進する
取組み 内容	②仮設トイレ、トイレカーの設置、仮設ベンチ・テーブル、臨時バス停の設置 観光客のトイレ利用等が石ヶ戸休憩所に集中する傾向の分散を図るため、仮設トイレや仮設ベンチ・テーブルを設置する。 ※国立公園内のため、仮設構造物で対応

調査・分析

取組み	③ 渓流内の通信環境調査
内容	・ 渓流内では通信環境が整備されておらず、ICTを活用した施策を打てない、かつ、来訪者がインターネットにて情報を取得しづらい ・ 樹木が繁茂した状態でも衛星通信を使用により通信環境を確保できるかを調査し、確保できる場合は、将来的にICTを活用した対策事業の実施につなげる
取組み	④ マイカー規制に係る調査、効果検証
内容	・ 複数の取組みを一体的に捉えより良い対策につなげるため、シャトルバス利用者数・駐車台数等の調査、また利用者向けアンケート調査・分析を行う ・ 今回の実証結果を踏まえ、令和7年以降の対策を検討する
取組み	⑤ 渓流内の人流調査
内容	・ 来訪者の行動パターンを定量的に把握することを目的に調査を実施し、令和7年度以降の対策に反映させる

マナー啓発

取組み	⑥チラシ等によるマナー啓発
内容	魅力と価値及びマナーを効果的に発信できていないことにより植生の踏み荒らし等が発生しているため、マナー啓発のチラシ作成等による注意喚起を行う

5. 主な取組み（詳細）

課題

溪流内エリアの国道102号における交通渋滞の発生

取組み

マイカー規制にあわせたシャトルバスの運行

- ・ 実施期間：令和6年10月21日(月)～10月27日(日)
- ・ 実施主体：青森県

事業内容

■ マイカー規制にあわせたシャトルバスの運行

- ・ マイカー規制実施期間中の溪流エリア内における交通手段として、**シャトルバス運行**を実施する
- ・ 奥入瀬溪流温泉スキー場前駐車場～休屋（右図赤線）の区間で、平日は9時～16時、土日は8時から16時の間で、**毎時間1～3便を運行**する

【背景・目的】

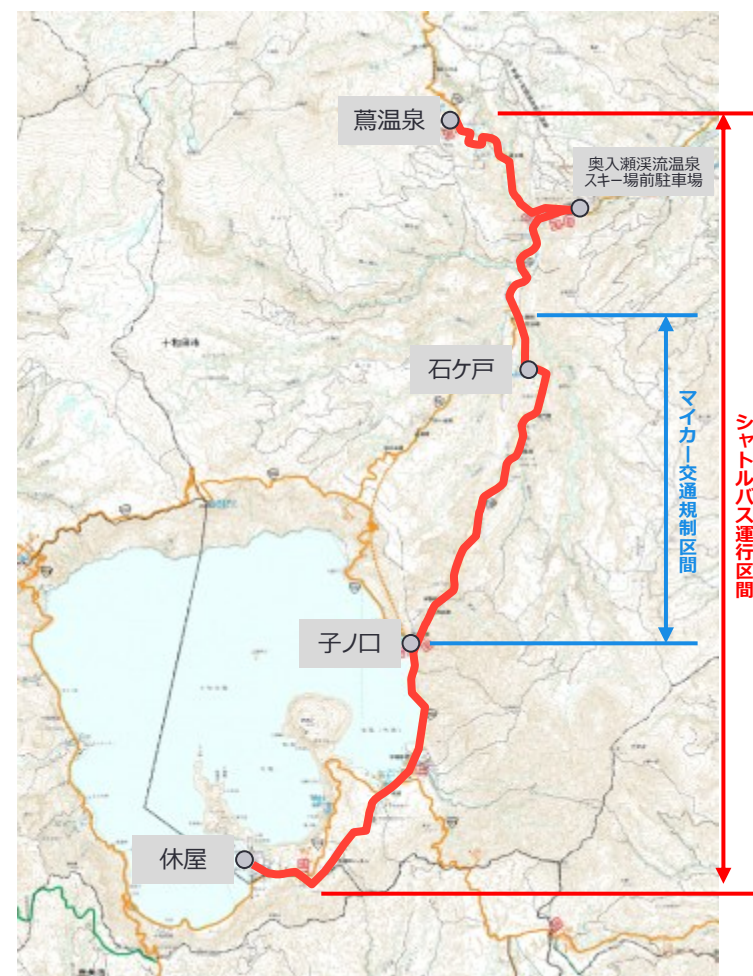
- ・ 奥入瀬溪流は、公共交通アクセス手段が少ないため、**自家用車やレンタカーを使用する来訪者が多い**
- ・ 秋の紅葉シーズンは人気であるため、多数の観光客が自家用車で来訪し、**路上駐車が発生している**
- ・ こうした多客期の交通渋滞対策としてマイカー規制を実施し、代替の移動手段としてシャトルバスを運行する



片側1車線の道路で交通渋滞と路上駐車が発生



マイカー規制と合わせてシャトルバスを運行



成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標/令和5年度実績

自家用車の路上駐車が原因となる交通渋滞の発生を大幅に削減する

事業の成果/目標の検証結果

規制期間中のシャトルバス利用者は増加。
大規模な渋滞は発生しなかった

- a. シャトルバス利用者数：3,830人→**5,211人(約1.4倍に増加)**
- b. シャトルバスの満足度：57%→**73.2%**
- c. CO2の排出量減少率：24%→**51%**
- d. NOXの排出量減少率：1%→**18%**

※ 令和5年10月調査 → 令和6年10月調査

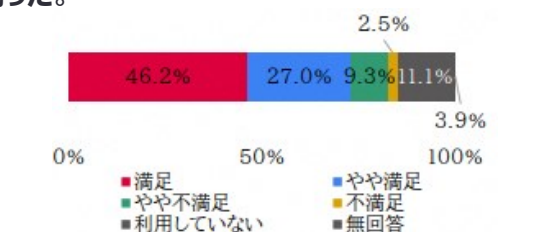
成果詳細

■ シャトルバス運行 結果

- ・ シャトルバス利用者数は5,211人（平日：2,989人/休日：2,222人）
- ・ マイカー規制前からのCO2の排出量減少率：51%、NOXの排出量減少率：17%

■ シャトルバス運行 アンケート調査

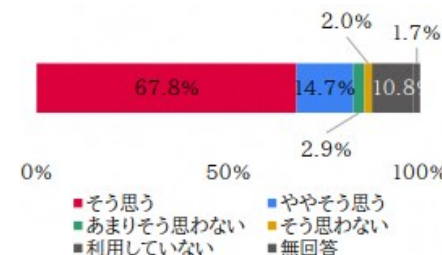
- ・ パークアンドライドを実施した結果、奥入瀬溪流内においてマイカーの路上駐車原因の渋滞が発生はなかった
- ・ 回答者の8割以上がシャトルバスが移動手段の確保に有効であったと回答しており、さらに、7割以上が利用したシャトルバスに満足している
- ・ マイカーでの訪問者の移動手段の確保にシャトルバス運行が有効であることが示されたが、運行本数や間隔、混雑などの運行内容については課題が残った。



シャトルバスに満足
約7割

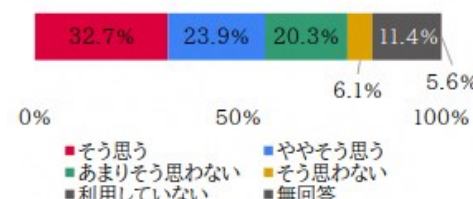


シャトルバス内の混雑状況は適切だったか (N=407)



シャトルバスは有効
約8割

シャトルバスの運行は有効だったか (N=407)



運行本数や
運転間隔への不満
約3割

シャトルバスの運行本数や間隔は適切だったか (N=407)

5. 主な事業（詳細）

問題

溪流内でのスポット混雑

対策事業

臨時バス停の設置

- ・ 実施期間：令和6年10月21日(月)～10月27日(日)
- ・ 実施主体：青森県

事業内容

■ シャトルバス運行にあわせた臨時バス停の設置

- ・ シャトルバスのバス停を新たに3か所（黄瀬、惣辺交差点、白糸の滝）設置し、合計10か所のバス停を設置することで、観光客の分散を図る

【背景・目的】

- ・ 溪流内には路線のバス停が7か所あり、例年シャトルバスを運行していた際も、路線バスのバス停と同じ7か所を乗降場所としていた
- ・ 最繁忙期である秋の紅葉シーズンは、石ヶ戸休憩所～雲井の滝（通称：ゴールデンコース）や、銚子大滝に観光客が集中するため、観光客の分散を図ることを目的として、臨時のバス停を設置する



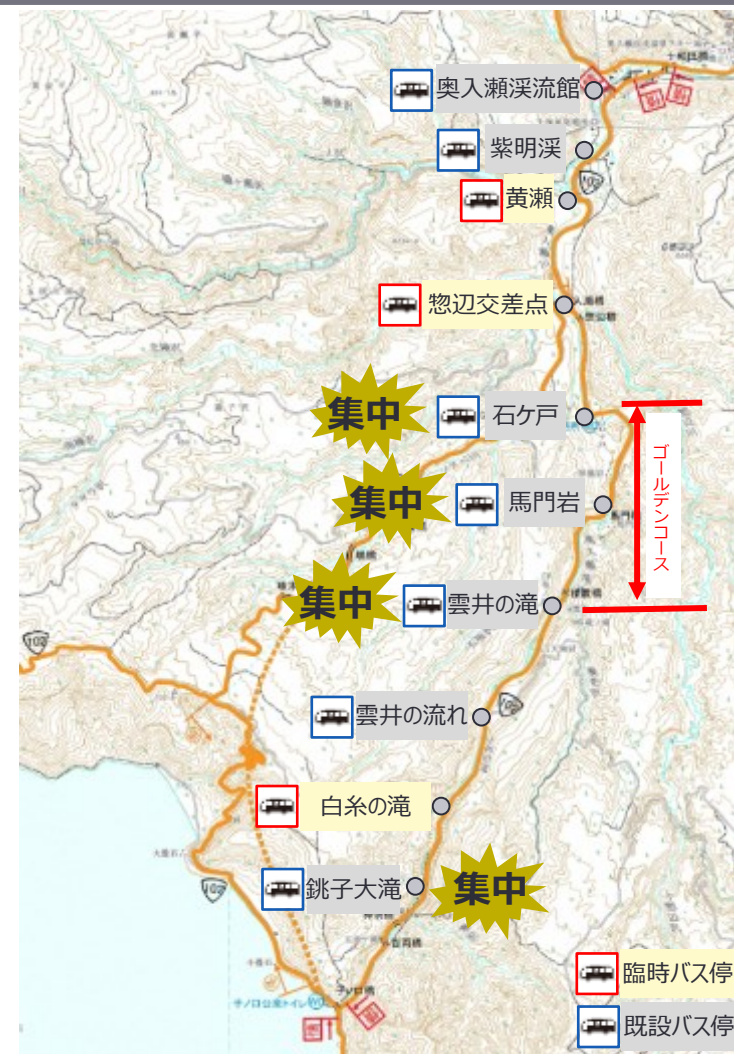
▲黄瀬バス停の利用状況



◀惣辺交差点バス停の利用状況



◀白糸の滝バス停の利用状況



令和6年度事業の目標/昨年度実績

特定のバス停への集中の抑制

事業の成果／目標の検証結果

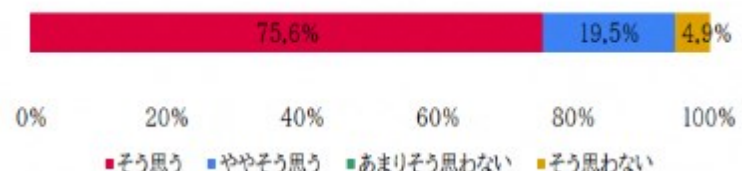
利用者は9割以上が有効と回答したが、実際の利用は少なく、特定のバス停への局所集中への効果は限定的

▶ 臨時バス停を有効と回答：来訪者：95.1% 住民：89.3%

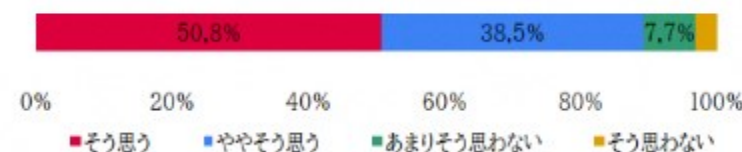
成果詳細

■ 臨時バス停設置

- 臨時バス停の設置では来訪者アンケート及び住民アンケートにおいていずれも9割以上の回答者が有効であると回答している
- 3つの臨時バス停の乗降者数は7日間で計1,341名にとどまっており、利用者の多い地点（石ヶ戸休憩所～雲井の滝：通称ゴールデンコース）及び銚子大滝への来訪者集中の課題が残る結果となった
- 臨時バス停個別で見ると、奥入瀬溪流下流域に設置した黄瀬駅や惣辺交差点は、上流域に設置した白糸の滝に比べ、利用者が伸び悩んだ

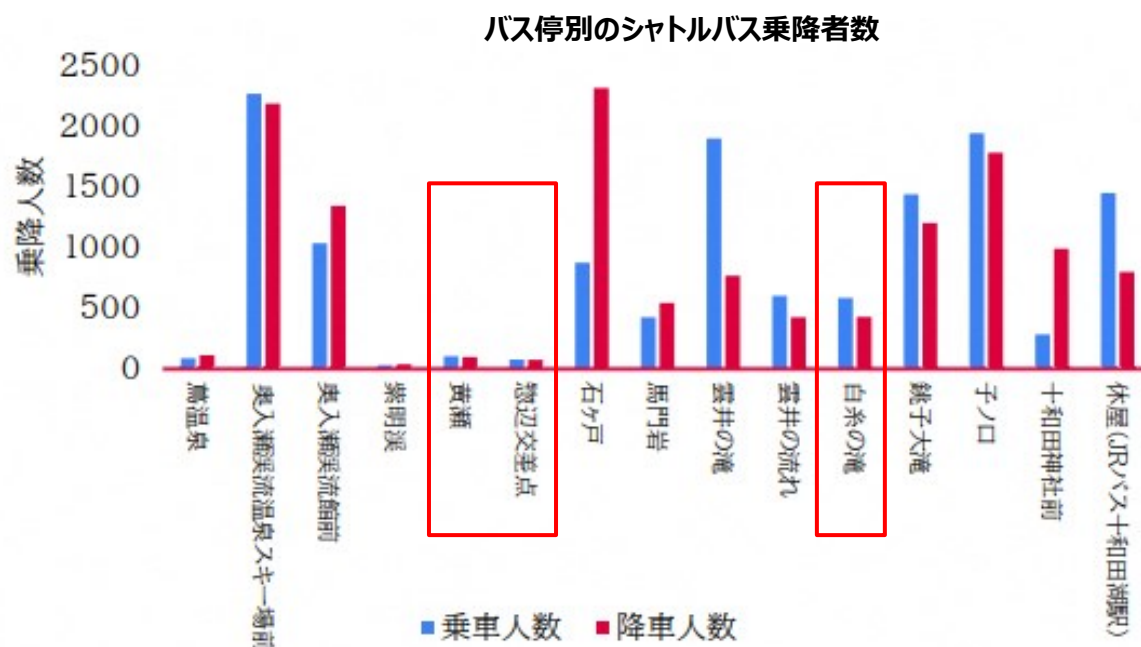


【来訪者アンケート】
臨時バス停の設置は有効であったか
(N=41)



【住民アンケート】
臨時バス停の設置は有効であったか
(N=65)

9割以上が臨時バス停を有効と回答

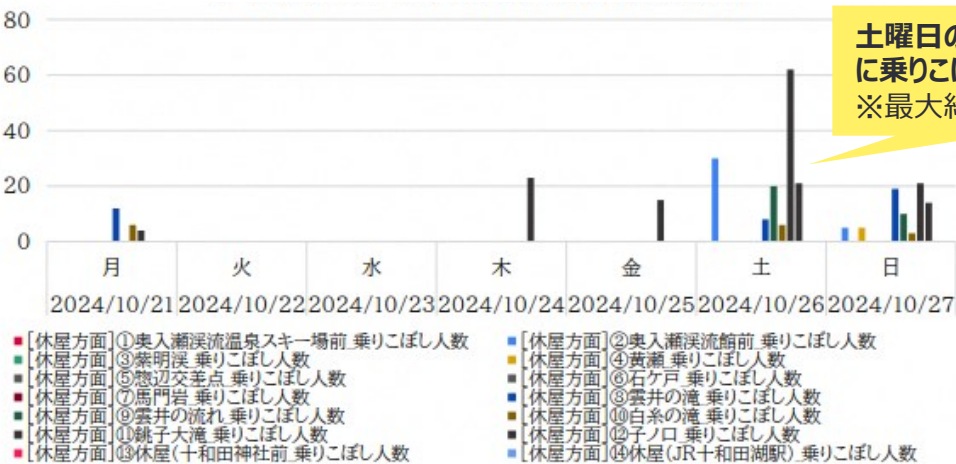


利用者は9割以上が有効と回答したが、実際の利用は少なかった

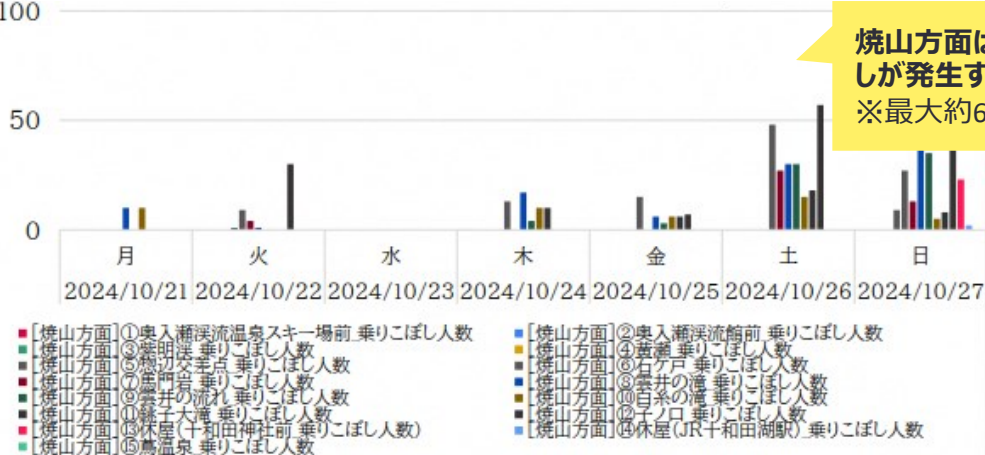
成果詳細

- シャトルバスの乗りこぼし状況（運行本数や間隔、混雑状況）
 - 一部時間帯における局所的な混雑・渋滞の発生により、特定のバス停で乗りこぼし・待ち人数の集中が発生していることが明らかとなった。

シャトルバスの乗りこぼし人数（休屋方面・シャトルバス利用実態調査）



シャトルバスの乗りこぼし人数（焼山方面・シャトルバス利用実態調査）



令和6年度取り組みから見てきた課題・ポイント

1 大型観光バスの路上駐車によるバスの遅延への対応

- 大型バスは奥入瀬（青樺山）バイパス開通までは迂回ができないため規制できず、大型観光バスの路上駐車によるシャトルバスの遅延が発生した
- 今後、観光バスを対象とした対策も必要である

2 場所別、季節別の平準化

- 臨時バス停の利用者の9割以上が臨時バス停の設置が有効であったとの回答したが、実際の利用は少なかった
- 利用が少ない場所や季節への観光客を誘客し、利用を増やしていく必要がある

令和7年以降取り組むべきと考えること

1 観光バスのモビリティマネジメントを実施したうえでのシャトルバス運行

- 渋滞の原因となる大型バスのモビリティマネジメントを実施を検討する
- モビリティマネジメントを実施したうえで、シャトルバス運行を継続して実施し、来訪者の奥入瀬溪流での体験価値をより高める
※将来的にはバイパスが開通し、大型バスも規制する方向性

2-a 上流域・下流域の魅力・価値向上

- 上流域・下流域の見どころについての周知不足が利用者数に大きく影響しているため、流域の魅力と価値の向上を図る
- また、冬季観光が落ち込むため冬季観光の魅力発信についても実施し、年間の平準化を図る

2-b 通年の溪流内の人流調査

- 令和6年度設置したAIカメラを使用して、年間を通した人流を調査し、次年度以降の施策効果の分析や的確なオーバーツーリズム対策を検討する
※令和6年度はマイカー交通規制期間内のみの人流の動きを調査・分析

04. 山形県山形市

1. 地域概要

計画名	エリア全体での観光客の適切な需要管理による、世界に誇れるスノーリゾート“世界の蔵王”の推進事業
対象エリア	蔵王温泉エリア
実施主体	山形市
年間観光客入込数	約225万人(R4年度)
年間延べ宿泊者数	約34万人(年) R4年度参考
主な観光資源	温泉 / 蔵王温泉スキー場 / 樹氷



近くから見る樹氷



蔵王温泉大露天風呂

● 観光ビジョン

- 人々の集中により発生している混雑解消や、蔵王温泉街での滞在環境・回遊性の向上を実現し蔵王に訪れるすべての「スキーヤー・スノーボーダー」「樹氷観光を目的とする観光客」が待ち時間等がなく、ストレスのない蔵王温泉街での滞在を楽しめる状態
- 今回の取組みをきっかけに、発展的な観光DX推進により地域のオーバーツーリズムの未然防止及び滞在価値、利便性の向上をめざしていく

● 推進体制（協議の場）

蔵王温泉エリアオーバーツーリズム対策協議会

- 混雑による、各関係者の影響、懸念の現状把握や現在実施している取組、及び実態の洗い出し
- 地域全体でのオーバーツーリズム対策事業のために取り組むべき事業の提案・協議
- 地域全体での事業計画の策定、協議

行政機関

山形市

住民関係者

蔵王温泉町内会

事業者

蔵王ロープウェイ株式会社

山交バス株式会社

有限会社しばスキー

蔵王索道協会

山交ハイヤー株式会社

有限会社ノエル

蔵王温泉観光協会

CKD株式会社

(株)蔵王サンライズ観光

(株)DMC蔵王温泉
ツーリズムコミッティ

株式会社Yuge

株式会社緑屋

株式会社ヤマコー

株式会社コネクテック

合同会社MとY

2. 課題

● 主な課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 蔵王ロープウェイの混雑	- 冬季期間に「樹氷鑑賞のみを目的に来訪する観光客」と「スキーヤー・スノーボーダー」が集中する - 最大2時間以上のロープウェイの待ち時間が発生し、満足度の低下が喫緊の課題として顕在化 - 観光地・スキー場としてのイメージや価値の低下、スキー場離れ、リピーターの減少などが懸念されている	観光客 スキーヤー・スノーボーダー
2. 観光関連産業への持続性への影響	- ロープウェイに集中する観光客を、周辺観光スポットに周遊させられていないため、観光消費額が増加しない - ロープウェイへの一極集中による地域の観光関連産業の持続性への影響が懸念されている	地域

1. 蔵王ロープウェイの混雑



ロープウェイ乗車の待機列



蔵王温泉スキー場のグレンデマップ（抜粋）

- 最大2時間の待ち時間は、降雪の時期もあり長ければ長いほど満足度の低下に直結する
- 旅程にも影響するため、昼食や夕食会場の飲食店の営業にも迷惑をかける可能性がある

- 樹氷観光客が樹氷原まで行くには二本のロープウェイを乗り継ぐ必要があり、山麓駅（最初の乗車駅）で乗車が遅れると下山までの見通しが立たなくなる

2. 観光関連産業への持続性への影響



人通りのない高湯通りの入り口付近の様子

- 高湯通りは、蔵王温泉街のメインストリートであり、共同浴場も点在する湯けむりに包まれた温泉街の雰囲気あふれる通り
- 既存のお店を含め、本対策事業で設置する新しいコンテンツにより温泉街の回遊を促進する

3. 背景・要因

● 課題の背景・要因

主な背景・要因

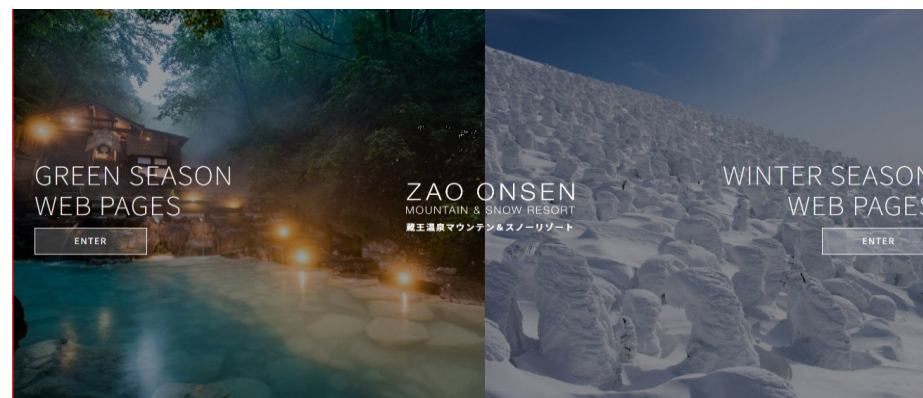
- | 主な背景・要因 | |
|--------------------------|---|
| 1. 需要のコントロール体制の未整備 | <ul style="list-style-type: none">・ 現状、事前に混雑しているかどうか分からない状況のため、同じような時期・時間帯（特に樹氷シーズンや団体バスが重なる午前中）に観光客が集中しやすい・ 事前周知や予約制などにより、観光客を平準化する仕組みが不足している |
| 2. 観光客・スキヤーの滞在・周遊コンテンツ不足 | <ul style="list-style-type: none">・ 飲食店や休憩スペースの不足、日帰り温泉等の受入のキャパシティの不足など、ロープウェイ以外の場所での滞在や周遊を促進するコンテンツが不足しているため、待ち時間への不満の発生や時間の分散化に繋がらないなどの問題が起きている |
| 3. 効率的な移動手段の不足 | <ul style="list-style-type: none">・ 待ち時間に他の観光スポットへ来訪するためには、効率的に移動する必要があるが、効率的にスポットを周遊する手段がなく、観光客の場所の分散化が進まない |
| 4. 滞在情報の発信不足 | <ul style="list-style-type: none">・ 蔵王ロープウェイ以外の滞在スポットや移動手段に関する情報を観光客に周知し、行動変容を促す必要があるが、発信が不足している・ 外国人観光客の増加に伴い多言語での案内も必要になっているが、外国人観光客への案内ツールも不足 |

2.観光客・スキヤーの滞在・利用コンテンツ不足



- ・ 主要な観光スポットは「蔵王ロープウェイ」
- ・ 他の滞在コンテンツが不足しており、ロープウェイへの一極集中が発生

4.滞在情報の発信不足



- ・ 蔵王温泉公式ホームページ
- ・ 地域全体での一体的な情報発信の一翼を担うため、今後は蔵王エリアのモデルルート紹介ページを作成予定

4. 対策の概要

- 蔵王ロープウェイの混雑を緩和するため、ダイナミックプライシング価格を設定した予約システムを導入し、需要の適切な管理を行うとともに混雑状況を発信する
- ロープウェイ極集中の要因として、蔵王エリアの滞在コンテンツの不足やロープウェイ以外の場所に関する情報発信不足が考えられるため、受け入れ環境を整備（コンテンツ造成や情報発信等）する

※エリアマップは紙面の都合上次頁

需要の適切な管理

取組み 内容

①蔵王ロープウェイの混雑緩和

- 時間あたりの輸送量に対する適切な需要コントロール体制の未整備が課題。価格変動制及び予約システムを導入し、需要を適切にコントロールする
- あわせて、優先搭乗環境を整備する
- 予約システムの導入に関する周知施策
- 予約状況や混雑状況の可視化とその周知（デジタルサイネージ/WEBサイト/現地でのQR表示を活用した周知）
- 事前予約者や乗車待ち観光客の待機スペースの創出

観光客の分散・平準化

取組み

②サイネージを活用した情報発信

③滞在情報をまとめたパンフレット製作等

内容

- 情報発信環境が整備されておらず、ロープウェイへの一極集中が加速している
- パンフレットやサイネージを活用した情報発信を行うことで、観光客の分散を図る

受入環境の整備・増強

取組み

④蔵王温泉エリアの道標整備

⑤蔵王温泉スキー場全山でのWi-Fi環境の整備

⑥キッチンカー運営事業

⑦遊休不動産の飲食店活用（高湯通り・上の台エリア）

⑨遊休不動産の複合施設活用（高湯通り）

⑩スキー・スノボレンタル環境の整備

⑪スキーヤー・スノーボーダーの利用環境整備

⑫飲食店の予約・受入環境整備

⑬日帰り温浴施設の受入環境整備

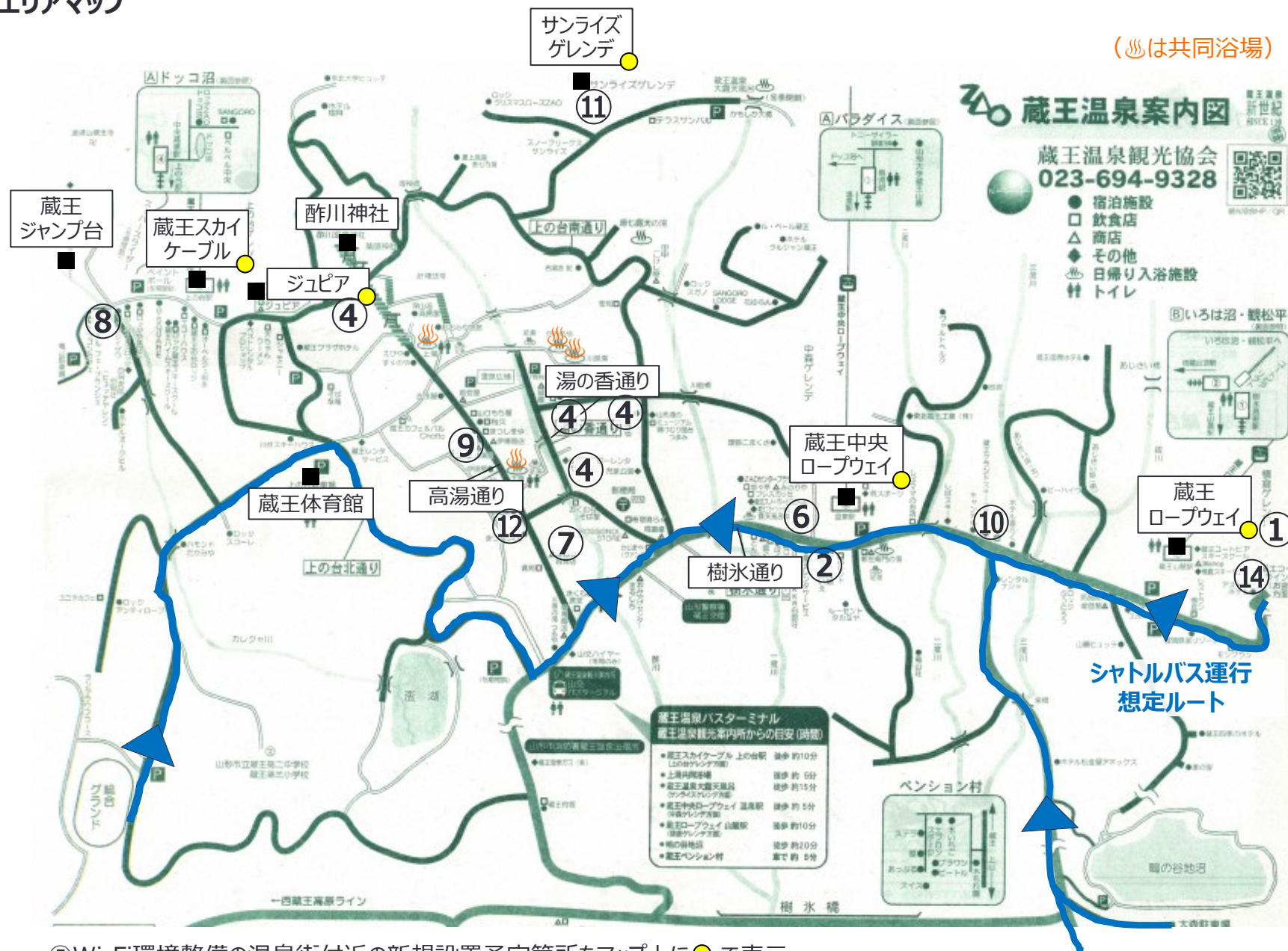
⑭無料シャトルバス・定額タクシーの運行

内容

- 滞在・利用コンテンツが整備されておらず、ロープウェイの予約システムが導入されても待ち時間を有効活用できない。また飲食店も不足しているため、蔵王温泉エリアに滞在してもらうための環境整備を行う
- エリア内の二次交通が不十分なため、無料シャトルバス（前年より運行日数拡大）と定額タクシーを運行し、エリア内の回遊性を高める

4. 対策の概要

エリアマップ



⑤ Wi-Fi環境整備の温泉街付近の新規設置予定箇所をマップ上に●で表示。
(温泉街のほか、各グレンデのリフト・ロープウェイ乗降場にも設置予定)

5. 主な取組み（詳細）

課題

蔵王ロープウェイの混雑・待ち時間発生による
観光客満足度の低下

取組み

蔵王ロープウェイの混雑緩和施策

- ・ 実施期間：令和6年12月～令和7年2月
- ・ 実施主体：蔵王ロープウェイ株式会社

事業内容

①：ロープウェイ乗車券の事前予約の導入

- ・ 時間ごとの乗車券の事前購入が可能なWEBチケットシステムと対応する発券機を導入。12月上旬から事前予約チケットを販売

②：ロープウェイ乗車券の変動価格制導入

③：優先乗車環境の整備（乗車レーンの整備）

④：予約状況・混雑状況の可視化（AIカメラによる分析）

- ・ 混雑情報はAIカメラで情報を取得し、混雑状況配信時は混雑具合を色分けして発信

⑤：乗車待機客向けのキッチンカーの設置

⑥：事前予約制の周知

- ・ サイネージによる情報発信、蔵王ロープウェイの混雑情報およびチケット購入サイトにアクセスできるQRコードを各所に設置予定

【背景・目的】

- ・ 蔵王ロープウェイに観光客が集中し、混雑が発生。一極集中により地域回遊性が低い状況
- ・ 事前予約制導入により、事前に乗車可能な時間帯がわかることで、時間を有効活用が可能となり、温泉街の回遊促進や観光消費額の増加に繋げる
- ・ 変動価格制の導入により、利用状況の差が縮小し観光客満足度向上につなげる
- ・ また需要傾向を正確に把握し、運行計画や価格設定の精度向上、運用方法の見直しに活かす

乗車券の事前予約・変動価格制イメージ



令和6年度事業の目標

- ロープウェイの事前予約システム及び優先乗車券を販売することで、観光客の分散を図り、**ロープウェイ乗車の待ち時間を短縮**する

事業の成果／目標の検証結果

- ロープウェイの待ち時間は約1時間短縮した
 - 待ち時間：**約2.5時間**（前年度）→**約1.5時間**

成果詳細

事前予約の導入

【結果】

- 12月よりWEBサイト上にて、事前チケットを予約販売開始
- 当初は曜日や時間帯ごとの変動価格設定を想定していたが、天候にも左右されるため、**令和6年度は“優先乗車券”として、通常価格よりも800円高い、5000円で定額販売、優先チケットのニーズと価格を検証した**
- ゴンドラの収容人数の問題で一日あたりの輸送人数には限りがあるため、全体の1/3に当たる人数分は当日販売とし、**残り2/3を優先チケットとしてWEB販売したところ、優先チケットは即日完売した**
- 昨年までは午前中に長蛇の列ができ、夕方はすいていることが多かったが、時間指定チケットを販売したことで、**時間ごとの乗車人数の平準化を図ることができた**
- ゴンドラの収容人数が限られており、効率的に輸送するために団体客と個人客の人数配分を検討。令和6年度は1時間当たり団体バスの受け入れを4台までとして対応した
- ロープウェイの待ち時間は前年度約2.5時間であったが令和6年度は約1.5時間へと短縮した。令和6年度は前年度と比較し来訪者数が多く、特に欧米圏からの訪日客が増加したため、事前予約制の効果は見られたものの、待機列の待ち時間の完全解消には至らなかった**

混雑情報の発信

【結果】

- 従来のライブカメラ映像に加え、**令和6年度は新たにAIカメラを設置し、その情報をもとに予約サイトやデジタルサイネージ（山形駅やバスターミナル）にて、混雑情報を発信した**
- 「混雑状況を見て、時間帯を変えた」という声もあり、分散化の効果は一定あったと考えられる



令和6年度取り組みから見てきた課題

1 ロープウェイの待ち時間発生への追加対応

- ・ 優先チケットが完売してしまい、当日チケット購入者によるロープウェイの待機列ができてしまった
- ・ 優先チケットの追加料金設定(800円)が安すぎた可能性がある。今後価格を上げる場合、価格設定の根拠が必要となるため、令和7年度に向けての方向性や数値の妥当性を検証できた点で令和6年度事業は有意義な検証となった
- ・ 事前予約制の導入により来客数が平準化されたため、5年度に比べて午後でも混雑が発生することとなった
- ・ 予約せずに来訪した団体バスもあり、待機列ができる要因となってしまった
- ・ ロープウェイの待ち時間を完全になくすことは難しいため、待機時間で楽しめる環境の整備が必要

2 飲食店ニーズへの対応

- ・ 従前から飲食店が少ないという意見があり、令和6年度は遊休不動産の活用や飲食店の改装、キッチンカーの配備を行った
- ・ キッチンカーではハラル認証に対応したお店を出すことで様々なニーズに対応できた。またワンハンドで食べられる食事（例：おにぎり、饅頭）のニーズが高いことが明らかとなった
- ・ 一方で、売り上げが想定よりも芳しくない飲食店もあり、今後は工夫が必要である

令和7年以降に取り組むべきと考えること

1 変動価格制の導入

- ・ 優先チケットのニーズがあることが明らかとなったため、次年度は曜日ごとや時間帯ごとの変動価格制チケット販売を視野に検討を進める
- ・ 予約せずに来訪した団体バスもあったため、周知活動にも力を入れるとともに、バス会社等とも連携していく

2 待機場所の整備など、さらなる受入環境の充実

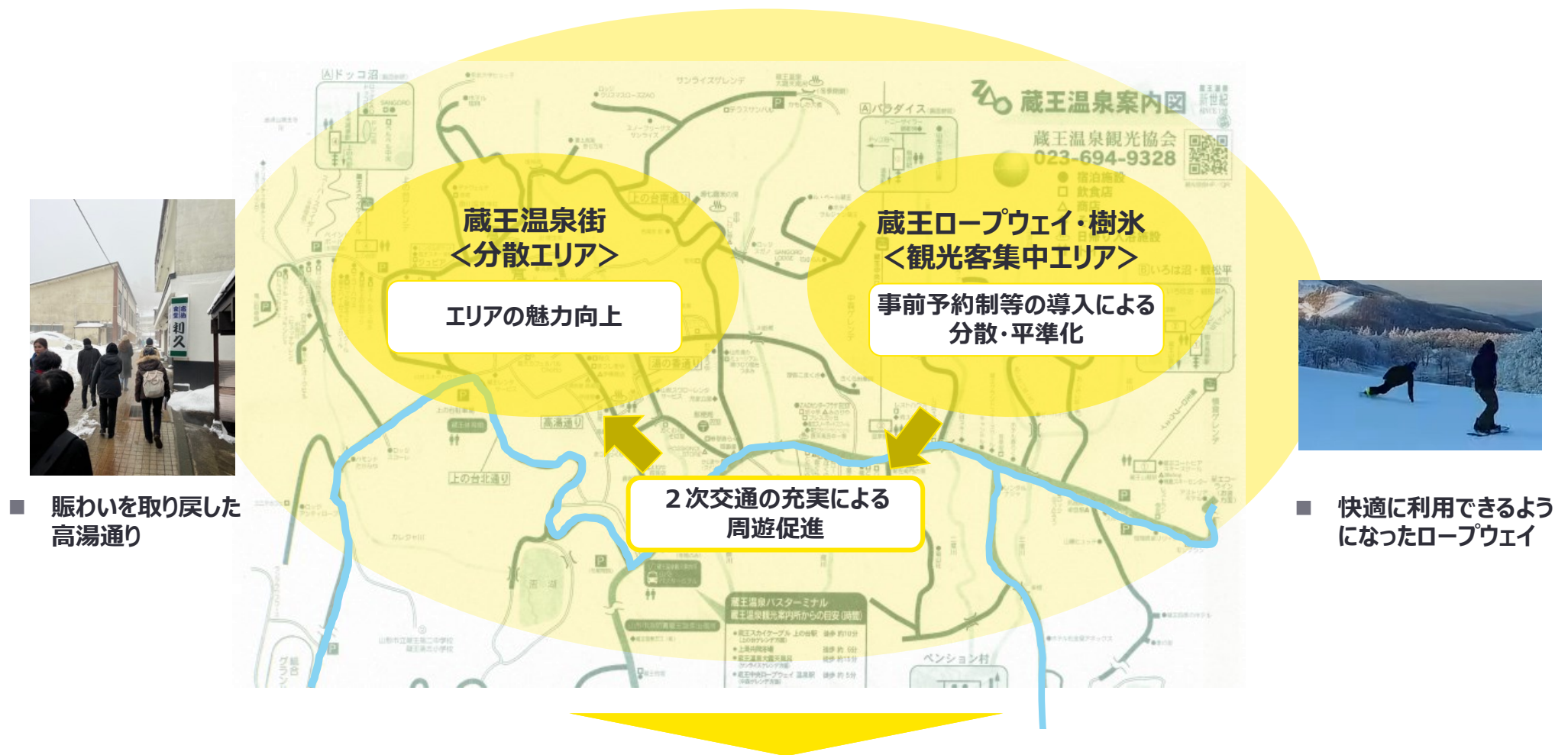
- ・ ゴンドラの輸送力の問題で、ロープウェイ待ちの時間をゼロにすることは難しいため、待機時間を楽しんでもらうための環境整備も考える必要
- ・ 来客数の平準化により、午後の上り線の利用者が増えたため、下り線の混雑が発生し、新たな対策が必要となった
- ・ 飲食店に対するニーズが鮮明になったため、次年度も継続してキッチンカー事業を行う他、樹氷高原駅付近に喫食提供のできる客溜り機能やテラス席を設けた施設の整備を検討中

3

地域一体となった観光地づくりの推進

- ・ モデルコースを作成し、より多くの人に樹氷鑑賞を楽しんでもらうだけでなく、樹氷以外の観光資源についても発信することで、山形全体を人気観光地にすることを目指す

(参考) 蔵王温泉エリアの目指す姿



蔵王ロープウェイエリアに集中する観光客を蔵王温泉エリアに分散化することで
スキーヤーや樹氷鑑賞客の快適・安全性向上を図りつつ、地域全体へ経済波及効果を拡大させる

05. 山形県尾花沢市

1. 地域概要

計画名	「GINZAN is an Art Museum」持続可能な観光地づくり事業
対象エリア	銀山温泉地区
実施主体	山形県尾花沢市
年間観光客入込数	約33万人（令和5年度）
年間延べ宿泊者数	約12万人（宿泊率約36%）
主な観光資源	- 大正末期から昭和初期の木造建築物が建ち並ぶ大正ロマンの街並み 400年前ににぎわった銀山の面影が残る「銀坑洞」



銀山温泉街

● 観光ビジョン

非日常をゆったり感じる、銀山温泉 ～ GINZAN is an Art Museum ～

- 100年前の面影を残す銀山温泉の空間を美術館に見立て、観光付加価値の創出と歴史的景観の保全を追求しつつ、今後100年先まで守り続ける
- 観光業に携わる方々の生業を守り、ひいては「市民が住み続けられるまち」の実現につなげていく

● 推進体制（協議の場）

尾花沢市持続可能な観光地づくり協議会

- 新たに協議会を発足。全体協議会の他、詳細な議論を行うための分科会を設置（交通チーム/観光チーム）
- 設立準備会（1回）、協議会総会（4回）、チームごとの検討会（6回） その他、個別のヒアリングを多数実施

行政機関

尾花沢市
商工観光課
東北運輸局

山形県

住民関係者

銀山地区民

事業者

銀山温泉組合

（株）明友

（一社）尾花沢市
観光物産協会

銀山温泉女将会

（有）はながさバス

尾花沢観光産業
連絡協議会

（株）銀山荘

（株）尾花沢タクシー

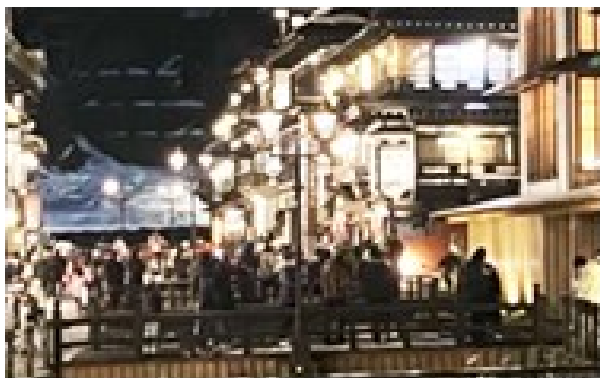
（株）尾花沢市
ふるさと振興公社

2. 課題

● 主な課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 観光客混雑による魅力低下	- コアゾーンである温泉街はすれ違いも困難なほどの混雑が発生 「景観の阻害」や「レトロ感の喪失」が発生し、旅行者の満足度低下が懸念	地域資源・観光客
2. 交通障害の発生	車と歩行者の接触事故の危険性が高く、緊急車両の通行にも支障が出ている ノーマルタイヤで来訪した車が立ち往生する事象が頻繁に発生しているほか、違法駐車が除排雪作業にも支障を与えるなど、豪雪地帯ならではの交通障害が多数発生	観光客・地域住民
3. マナー違反による環境悪化	不適切なトイレの利用やごみのポイ捨てなどが発生しており、衛生的なトイレの維持、景観や自然環境への影響が懸念	地域資源

1. 観光客混雑による魅力低下



銀山川に架かる橋の上に大勢の観光客

2. 交通障害の発生



道幅の狭い冬期間の道路

3. マナー違反



文化の違いによるマナー違反

3. 背景・要因

● 課題の背景・要因

主な背景・要因

1. 受入許容が限られる 山間の狭小エリア

- ・ 银山温泉街は、山あいの突き当たりにある狭小エリア（温泉街エリアのほとんどを占める木造の旅館も、宿泊許容が約160室と非常に狭い）
- ・ 温泉街まで至る道路も幅が狭く、特に除雪が必要な冬季は、車両のすれ違いが難しい

2. 特定時間に集中する 日帰り観光客

- ・ ガス灯が点灯する夕方以降の時間帯に、ガス灯に照らされる歴史ある温泉街のフォトジェニックな光景を求め日帰り観光客が集中する

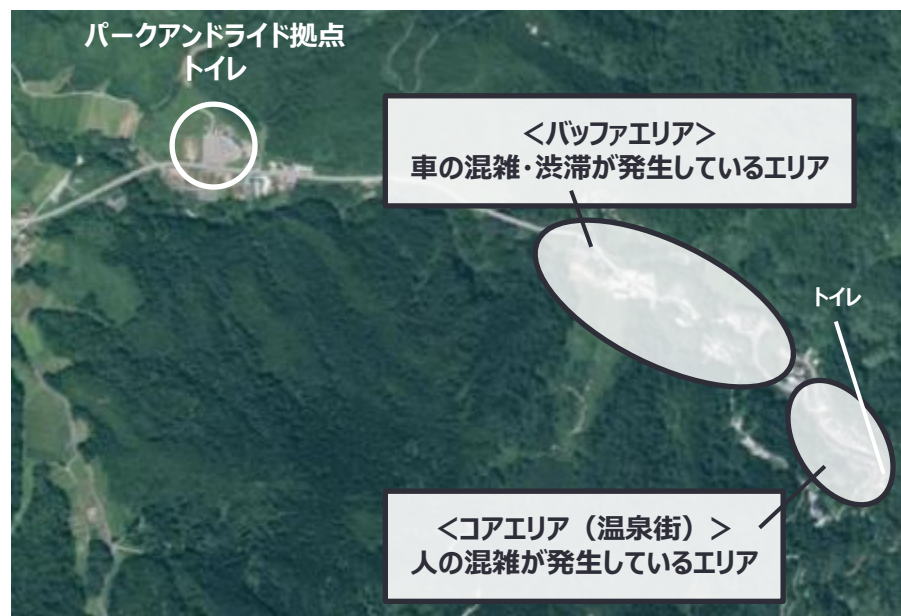
3. 外国人旅行者の急増

- ・ 外国人旅行者が急増している 令和4年0.3万人（1.1%）→ 令和5年2.0万人（6.2%）
- ・ 日本や温泉特有のルールやマナーを理解していない外国人旅行者が多い一方、多言語による対応ができていない

1. 狭小エリア

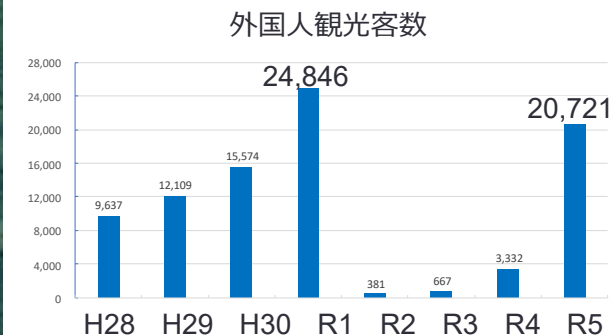


2. 夕刻に集中する日帰り客



国土地理院地図ウェブサイトをもとに尾花沢市作成

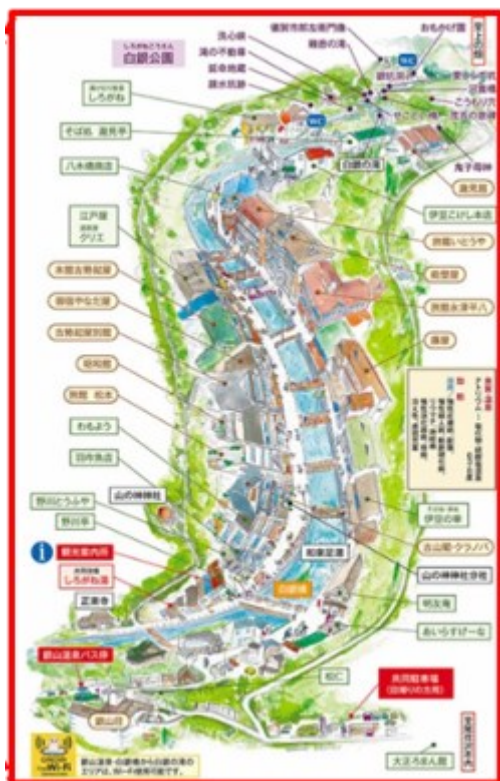
3. 訪日客人気の高まり



4. 対策の概要

- ・ 観光需要の回復により、問題事象が顕在化。
- ・ 市、組合はそれぞれ対処療法的に対応してきたが、行政、組合、旅行に関わる事業者などの協働により解決すべきフェーズであると確認。
- ・ 新たに協議会を立ち上げ、地域住民と観光客双方にとっての「何度でも訪れたい魅力的、かつ持続可能な観光地づくり」に向けて協議をスタート。
- ・ 協議会内に分科会（交通チーム/観光チーム）を設置し、事業内容を検討。

<コアエリア（温泉街）>



尾花沢市作成

調査・分析

取組み

①尾花沢市持続可能な観光計画の策定

内容

- ・ 尾花沢市における持続可能な観光地づくりの今後3年程度のビジョンを策定
- ・ 「需要の平準化による快適な来訪環境の確保（総量調整）」の検討等、市として今後取り組む各種施策の拠り所とする
- ・ ノスタルジックな景観の保全、観光客の満足度向上への効果を明らかにするとともに、持続可能な実施手法及びその財源について、実現可能性の高い取組の構築を目指す

需要の適切な管理

取組み

②「パークアンドライド方式」と「来訪者の総量調整」の実証

内容

- ・ 受入許容量を超える日帰り観光客が来訪している
- ・ 観光客がマイカーで温泉街に侵入することで交通支障も発生（特に冬期間）
- ・ それに対し、「P&R方式の実証」を実施し、マイカー規制の効果を検証する
- ・ 併せて、「シャトルバス内で観光案内」、駐車場またはシャトルバスの利用上限を設けることによる「流入客数調整の実証」を実施する
- ・ 車両数の減少に伴う交通支障の減少や、シャトルバス内の観光案内による観光客のワクワク感醸成、流入客数の調整による温泉街の混雑緩和を目指す
- ・ 本事業の実証結果を通して、将来的な総量調整に向けた上限数の精査を行う

マナー啓発

取組み

③多言語による情報提供、マナー啓発

内容

- ・ 日本のマナーやルールについて、外国人観光客へ十分な周知ができておらず、トイレマナーやごみのポイ捨てなどが問題となっている
- ・ それに対し、銀山地区のトイレ（大正ろまん館、白銀の滝付近）にデジタルサイネージを設置し、多言語による情報提供とマナー啓発を実施する
- ・ 外国人旅行者を中心としたマナー向上、ユニバーサルツーリズムの推進を目指す

5. 主な取組み（詳細）

課題

- ・ 受入許容量を超える日帰り観光客の来訪⇒景観、環境美化の阻害
- ・ 観光客がマイカーで温泉街に侵入⇒交通支障

取組み

「パークアンドライド方式」と「来訪者の総量調整」の実証

- ・ 実施期間：令和6年12月23日～令和7年1月6日
- ・ 実施主体：尾花沢市

事業内容

①：「パークアンドライド方式」

- ・ **マイカー規制**：日帰り、かつマイカー等での来訪者は大正ろまん館に駐車し、シャトルバスに乗り換える（パークアンドライド）（午前9時～午後9時まで）

②：「来訪者の総量調整」の実証

- ・ **来訪者の総量調整**：シャトルバスに乗車できる上限を設定し、夕刻以降は予約制とする。（予約制シャトルバスは午後4時～午後8時まで）

■ 同時実施の取組

- ・ 高齢者等への配慮のため、**シャトルタクシーも運行**
（予約制シャトルバスを運行する午後4時～午後8時までの時間帯に限り）
- ・ シャトルバス（タクシー）**車内での観光案内**を実施
（市内の周遊観光につながる仕掛け。銀山温泉目当ての観光客の滞在時間延長と市街地への経済波及効果をねらう。）



【背景・目的】

- ・ 銀山温泉について、特に冬季期間、受入許容量を超える日帰り観光客の来訪や、観光客のマイカー侵入による交通支障が問題となっている
- ・ 「P&R方式の実証」を実施し、マイカー規制の効果を検証する。併せて、「シャトルバス内で観光案内」、駐車場またはシャトルバスの利用上限を設けることによる「流入客数調整の実証」を実施する

5. 主な取組み（詳細）

観光客導線

《銀山温泉に行きたい！と思ったら...》

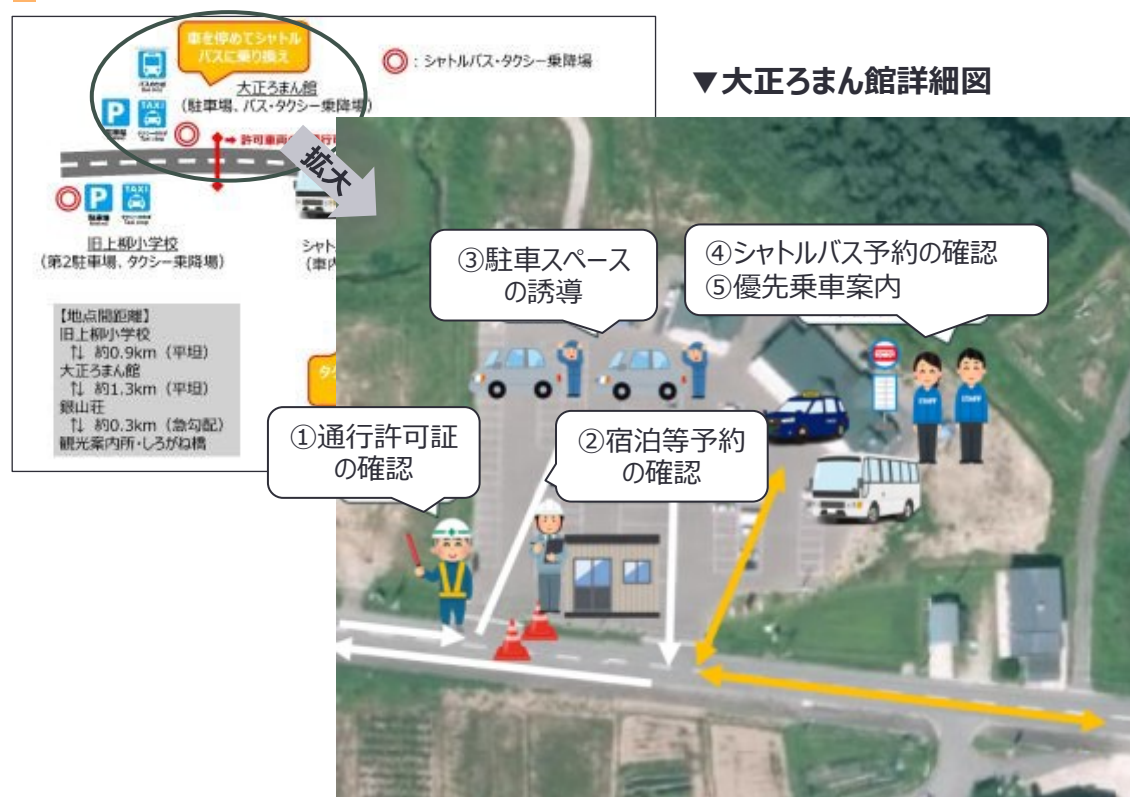
- ① 宿泊か日帰りかを考える。（日帰りはマイカー規制とシャトルバス予約の対象）
- ② 交通手段を考える。（自家用車はマイカー規制の対象）
- ③ 銀山温泉に何時ごろ到着予定か考える。（午後4時～午後8時までのシャトルバス乗車は予約制）
- ④ ①～③の結果、「日帰りで、自家用車で、午後5時頃に銀山温泉に行く！」と決まったら、【特設サイト】をチェック！！
- ⑤ シャトルバスに乗車するための予約をする。
- ⑥ お気を付けてお越しください。

銀山温泉マイカー規制特設サイト

- ・ 混乱を避けるため特設サイトを設置（問い合わせ窓口、シャトルバス予約の機能あり）
- ・ 問い合わせ窓口は、実証前～実証後（しばらくの間）開設し、メールと電話で受け付ける。（メールのみ英語可）



パークアンドライドの手順



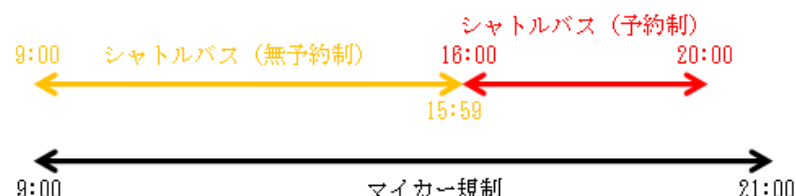
国土地理院地図ウェブサイト（<https://maps.gsi.go.jp/>）をもとに尾花沢市作成

5. 主な取組み（詳細）

P&R時間や規制車両の定義等

- 「日帰り観光客は夕方以降に集中している」という仮説のもと、午後4時～午後8時までのシャトルバス乗車を予約制に。
⇒来訪者の平準化を図る
- 路線バスは公共交通機関であり、地域住民の利用も想定されるためマイカー規制の対象外。（事業者への配慮）
- 県内のタクシー事業者は、協議会参画メンバーの協力により事前周知を行うことにより、混雑緩和や渋滞抑制が可能であるためマイカー規制の対象外。（事業者への配慮）
- 温泉街の飲食店等を予約している日帰り観光客は、マイカー規制の対象でシャトルバス予約は不要。（事業者への配慮）

P&Rの時間帯



マイカー規制の対象

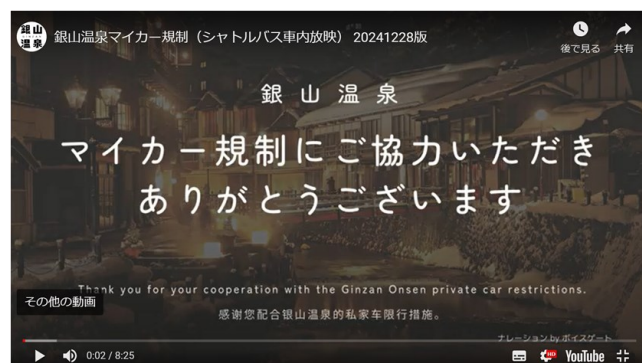
車両区分			マイカー規制	シャトルバス予約	通行許可証
自家用車 (レンタ カー含 む)	銀山温泉に居住または通勤		対象外	—	要
	宿泊客	宿泊予約あり	対象外	—	不要
	日帰り客	飲食店等の予約あり	対象	不要	—
		飲食店等の予約なし	対象	要	—
タクシー	宿泊客	県内外問わず（宿泊 予約ありの乗客が乗 車）	対象外	—	不要
	日帰り客	山形県内の事業者	対象外	—	不要
		山形県外の事業者	対象	要	—
		山形県外の事業者 （飲食店等の予約あ りの乗客が乗車）	対象	不要	—
貸切バス	宿泊客	宿泊予約あり	対象外	—	不要
	日帰り客	飲食店等の予約あり	対象	不要	—
		飲食店等の予約なし	対象	要	—
路線バス			対象外	—	不要
緊急車両（警察、消防、救急、ガスなど）			対象外	—	不要
取引業者車両（リネン、食材、備品など）			対象外	—	要
宅配・郵便車両			対象外	—	不要
除雪車両			対象外	—	不要
その他業務目的車両（打合せ、工事など）			対象外	—	要

5. 主な取組み（詳細）

P&R車内での観光案内／観光カード

- ・ 銀山温泉到着前のワクワク感の創出やおすすめ土産品の案内など消費拡大の契機となることを狙い、パークアンドライドによる旅行者の負担を付加価値に変えることを目的とする。
- ・ 加えて、銀山温泉だけではない本市の魅力を発信することにより市内の周遊観光を促進し、銀山温泉目当ての観光客の滞在時間延長と市街地全体への経済波及効果をねらう。（マネタイズポイントの創出）

観光案内映像イメージ ※シャトルバス車内で放映（10分弱）



観光カードイメージ ※両面印刷、夜と昼の2種類用意



観光情報リンク集
観光資訊連結集
Tourism Information Links Collection

令和6年度事業の目標

「パークアンドライド方式」と「来訪者の総量調整」の実証を通して、温泉街における観光管理の運用・体制を構築

事業の成果／目標の検証結果

- A：【運用】大きな混乱なく実証を完了。温泉街の混雑の平準化**につながるとともに、**利用者の満足度も高い結果**となった。
- 最も混雑する時間帯は変わらないものの、**来訪が少なかった時間帯の来訪が増加**
 - **パークアンドライド利用者満足度 69.1%**
- B：【体制】次年度以降の継続に向けた体制基盤が整った**
実証を通して、観光管理に関する地域関係者からの支持を得られた

成果詳細

実証の運用

取り組み成果

交通支障事案の減少

- パークアンドライドに伴うマイカー規制により、円滑な交通と安全性が確保された
- ・ 路上駐車：減少
 - ・ 一般車両の雪道スタック：減少

観光客の来訪時間平準化

- ・ 実証前と実証中で最も混雑する時間帯は「16:00～17:00」
- ・ **実証前は来訪が少なかった時間帯の「11:00～14:00」の来訪が増加した**（来訪者数が比較的多い時間帯が分散）

観光客理解

観光管理に対する観光客理解

- 取組に対する観光客理解が十分に得られた
- ・ 取組内容を来訪前に知らなかった場合も、P&R拠点での誘導で理解が得られた（強行突破や言い争いなどのトラブルなし）
 - ・ **P&R利用者の約7割が「スムーズで満足できた」、3割弱が「多少まったり、予約が面倒と感じたが許容できる」と回答**

地域関係者との体制づくり

地域関係者の観光管理に対する意識の変化

- ・ 本実証を機に、地域関係者が議論する場として協議会を発足。議論の場がなかった状態からのスタートで、当初は「観光客の排除」につながるのではという懸念から、関係者間で**意見が対立**した。
- ・ 実証後は「**有益だった**」「**次年度も継続したい**」との声が多く上がり、次年度継続に向けた前向きな連携基盤が整った

ポイント① 地域関係者との密なコミュニケーション

- ・ 協議会とは別に、市担当者が**関係者を個別訪問**し事業目的を説明
- ・ 協議会では、都度目的に立ち返り、共通認識のもと合意形成を促進（排除ではなく、温泉街の魅力向上と観光客満足に資する取組）

ポイント② メディアによるポジティブな世論形成

- ・ メディアが市の取組とその目的、成果を伝え**ポジティブな世論**を形成
- ・ 取組の目的が正しく伝わるよう報道内容の文言をメディアと密に調整（例：排除色が出ないよう「総量規制」ではなく「総量調整」と徹底）

令和6年度の取組みから見てきた課題

- ・ 銀山温泉街にとって初の試みであったが、現場スタッフ・観光客ともに大きな混乱なく実証を完了することができた
- ・ その中で、下記3点が主な課題として挙げた

1 温泉街混雑を直接管理できる施策の追加

- ・ パークアンドライドの予約制は往路のみ（かつ16:00以降）であるため、一度温泉街に入った後に長く滞在する観光客が多い場合混雑につながる事が分かった
- ・ 直接的な混雑管理の手法が必要

2 パークアンドライド発着地駐車場付近の渋滞対策

- ・ 駐車場には観光客の一般車両や大型バスが集中し、駐車場の許容量を超過した場面も発生した
- ・ 駐車場外の道路で一時渋滞が発生する事態となり、緩和策が必要

3 持続可能な財源確保の仕組み検討

- ・ パークアンドライドや総量調整の継続、観光客の受入体制強化、滞在価値の向上などに取り組んでいくためには、かなりのコストを要する
- ・ 個別具体的な取組実行と並行して、財源確保に向けた仕組みの検討が必要

令和7年以降に取り組むべきと考えること

- ・ パークアンドライド以外の対策も検討に入れながら、温泉街の混雑緩和や観光客の安全確保、そして対策を持続可能にするための財源確保の方法を模索していく

1 温泉街の「1時間当たりの許容人数」の設定

- ・ 1時間あたりの受入上限を設定し、混雑管理を実施
- ・ 実証中最も混雑する時間帯の16:00~17:00には、1時間当たり約300名が滞在（※）。今後300名を基準とすることが適切か否か、引き続き検討を進める
※温泉街内のセンサーにカウントされた通過人数

2 「大型バスの駐車予約制」導入の検討

- ・ 駐車場の許容量超過を防ぐため、大型バスの来訪時間帯分散を目的とした駐車予約制の導入を検討（一般車両に比べて輸送量が多いため、①の課題にも対応できる可能性あり）

3 「入域料」等のあり方検討

- ・ 持続可能な観光地域形成に必要な財源確保のため、地域の実情や特性（※）を踏まえて、様々な手法について検討する
※温泉街の道路は市道であること、温泉街は山あいの突き当たりに位置していることなど

06. 埼玉県川越市

1. 地域概要

計画名	川越市におけるオーバーツーリズム対策事業
対象エリア	川越市観光資源集中エリア
実施主体	川越市（事務局：産業観光部 観光課）
年間観光客入込数	約719万人（令和5年）
年間延べ宿泊者数	約58万人（宿泊率：8.1%）
主な観光資源	蔵造りの町並み、時の鐘、菓子屋横丁、川越城本丸御殿、川越氷川神社、喜多院、伊佐沼



時の鐘



喜多院

● 観光ビジョン

「住んでよし・訪れてよし」の持続可能な観光都市の実現

- 観光振興による経済的・社会文化的効果と住民生活の維持向上の両立を目指す

● 推進体制（協議の場）

川越市オーバーツーリズム対策懇談会

- 本市におけるオーバーツーリズム対策事業の推進について意見を聴くため、川越市オーバーツーリズム対策懇談会を実施

行政機関	事業者	住民関係者
国土交通省 関東運輸局	東日本旅客鉄道 株式会社	川越町並み委員会
埼玉県観光課	東武鉄道株式会社	川越一番街商業 協同組合
	西武鉄道株式会社	川越菓子屋横丁会
	東武バスウエスト 株式会社	川越名店街
	西武バス株式会社	仲町商店街
	イーグルバス株式会社	元町一丁目商和会
	（公社）小江戸 川越観光協会	大正浪漫夢通り 商店街振興組合
	（一社）DMO川越	
	川越商工会議所	
	株式会社まちづくり川越	

2. 課題

● 主な課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 一番街周辺への観光客の一極集中	- 蔵造りの町並みが広がる一番街は、主要な観光資源が集中し、多くの観光客が訪れる一方、複数のバス路線が通る幹線道路かつ生活道路となっている - 限られたエリアと時間に観光客が集中することで、歩行空間の混雑や車両との錯綜による危険等が生じ、観光客から不満が挙がっているほか、住民の通行やバスの運行等に支障が生じている	住民 観光客 公共交通事業者
2. 観光客のマナー違反	- 一番街を含む北部市街地は、人口集中地域として住民生活の場ともなっている - 観光客による私有地への侵入やごみのポイ捨て等のマナー問題が生じ、地域住民から不満が挙がっている - 歩き食べによるごみのポイ捨て行為等により、道路汚損の景観悪化が発生	住民 観光資源

1. 人と車の錯綜



- 限られたエリアと時間に観光客が集中することで、歩行者の車道へのはみ出しが発生するなど、人と車が錯綜する危険な状況となっている

2. ごみのポイ捨て等の迷惑行為



- ごみのポイ捨て等、一部の観光客の迷惑行為によって、観光地周辺に住んでいる住民の生活に悪影響が出ている

3. 背景・要因

● 主な課題

主な背景・要因

- | | |
|-------------------------|--|
| 1. 首都圏からのアクセスの良さ | ・ 首都圏からのアクセスが良く、日帰り観光客が多いため、限られたエリアと時間に観光客が集中している |
| 2. 観光地と住民生活エリアの近接性 | ・ 主要観光エリアである一番街周辺は、複数のバス路線が通る幹線道路かつ生活道路であり、一番街を含む北部市街地は、人口集中地域として住民生活の場ともなっている
・ 江戸時代からの狭隘な道路構造が概ね維持される中、歴史的建造物が多く、道路拡幅や交差点改良が困難である |
| 3. 一番街周辺以外の観光スポットの認知度不足 | ・ 一番街周辺は多くの観光客が訪れる一方、「喜多院」「川越城本丸御殿」「川越氷川神社」や「昭和の街」など、周辺の徒歩圏内にある観光スポットは、認知度不足や歩行環境が悪いなどの要因により、観光客の回遊が図られていない |
| 4. マナーの周知徹底不足 | ・ 歩行者の車道へのはみ出しや乱横断、ごみのポイ捨て等がみられ、マナーの周知徹底がなされていない |

1. 川越市の位置

- ・ 都心から約30kmに位置し、鉄道が3路線乗り入れて交通便利性が高い
- ・ 日帰り客は気軽に訪れて帰りやすく、他都市（東京等）への移動も容易な点が宿泊を妨げる要因にもなっている



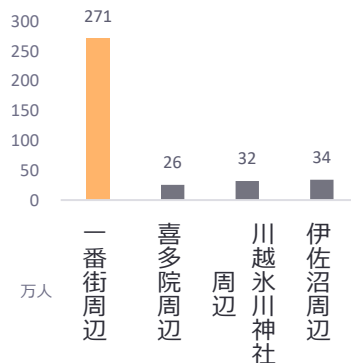
2. 幹線道路かつ生活道路としての機能を有する一番街

- ・ 川越駅・本川越駅から一番街を通過する路線バスの1日の便数は往復300本以上
- ・ 幹線道路かつ住民の重要な生活道路としての機能を有している



3. 主要エリア別の観光客数

- ・ 一番街（蔵造りの町並み）周辺とその他の主要エリアの観光客数は10倍近くの差が生じている
- ・ 喜多院周辺及び川越氷川神社周辺は蔵造りの町並みから徒歩圏内であるにも関わらず、偏りが顕著となっている



4. 道路を乱横断する観光客

- ・ 蔵造りの町並みは西側、東側それぞれに観光客向けの店舗が立地し、信号及び横断歩道の数が限られている
- ・ 逆側の店舗へ移動するために乱横断する様子がたびたび見受けられる



4. 対策の概要

一番街周辺への観光客の一極集中、交通渋滞の発生、観光客のマナー違反等を改善するため計11個の対策事業を実施

- 観光客の一極集中を抑制するため、多様な観光拠点への誘客促進や混雑解消を図る取組みを実施
- 交通円滑化を図るため、調査分析（交通規制やパークアンドライドの検討、無電柱化等）やバス停・駐車場など受入環境の整備を実施
- マナー違反対策として、ごみのポイ捨て禁止を図る取組みやマナー啓発動画の作成を実施



調査分析

- | | |
|--------------|--|
| 取組み内容 | ①適切な交通規制等のあり方の検討 |
| | ・安全安心な歩行環境の確保と生活環境・生活交通の保全を目指し、交通量調査とそれに基づく交通シミュレーションの実施、地域住民等へのアンケート調査を行い、データや地域の意向を踏まえた適切な交通規制等のあり方を検討する |
| 取組み内容 | ②パークアンドライド事業の拡張性等に関する調査検討 |
| | ・北部市街地内の駐車場の立地・利用状況を調査するとともに、ナンバープレート調査により観光車両の主な流入経路や台数を把握した上で、既存駐車場やバス路線を活用したパーク＆ライドの導入可能性について調査・検討する |
| 取組み内容 | ③無電柱化に関する調査 |
| | ・歩行環境の改善による観光客の分散化を目指し、中央通り線の仲町交差点から連雀町交差点（昭和の街）の無電柱化のための調査を実施し、無電柱化推進に係る計画案を作成する |

受入環境の整備・増強

- | | |
|--------------|---|
| 取組み内容 | ④公共交通の利用促進(スマートバス停設置支援) |
| | ・北部市街地周辺の観光客が利用する主要なバス停において、バス事業者が、バスロケーション機能や多言語表示機能を搭載するスマートバス停を設置することに対し、事業費の一部を補助する |
| 取組み内容 | ⑤駐車場の混雑・満空状況の情報環境整備 |
| | ・観光客の利用率が高い市庁舎北側・南側駐車場及び郊外型駐車場において、混雑や満空状況を発信、収集するシステムを整備する。デジタルマップ等でリアルタイムな情報として観光客へ提供する |
| 取組み内容 | ⑥滞留スペースの確保(伝建調査) |
| | ・伝建地区内における広場や中庭、通り抜けルート等を活用した観光客の滞留空間の確保に向けた調査と効果検証及び実証実験を行う |

マナー啓発

- | | |
|--------------|---|
| 取組み内容 | ⑦マナー啓発動画・掲出物等の作成及び周知 |
| | ・観光客のマナー改善を図るため、市内観光施設、北部市街地周辺部の商店街組合加盟店、市内3観光案内所と連携し、マナー啓発の掲出物等を掲示する |
| 取組み内容 | ⑧ごみポイ捨て対策の支援によるまちの環境美化 |
| | ・ごみポイ捨て防止対策に関連する事業（広告付きごみ箱の設置等）を実施する際の費用を一部補助し、まちの環境美化を図る |

4. 対策の概要

一番街周辺への観光客の一極集中、交通渋滞の発生、観光客のマナー違反等を改善するため計11個の対策事業を実施

- 観光客の一極集中を抑制するため、多様な観光拠点への誘客促進や混雑解消を図る取組みを実施
- 交通円滑化を図るため、調査分析（交通規制やパークアンドライドの検討、無電柱化等）やバス停・駐車場など受入環境の整備を実施
- マナー違反对策として、ごみのポイ捨て禁止を図る取組みやマナー啓発動画の作成を実施

観光客の分散・平準化

取組み
内容

⑨多様な観光拠点への誘客促進

- 日中の観光客を分散するため、喜多院周辺地域、川越城周辺地域、その他郊外地域でARのデジタル技術を活用したスタンプラリーやイベントを実施し、地域一体となった誘客促進を図る

取組み
内容

⑩混雑緩和、マナー向上に向けた観光情報の一元的な発信

- 小江戸川越WEBにおける交通情報（駐車場満空情報等）やマナー啓発等に係る掲載コンテンツを充実させ、観光客向けに一元的な情報発信を実施することで混雑緩和、マナー向上を目指す

受入環境の整備・増強

取組み
内容

⑪行列・混雑の解消支援(整理券システム等)

- テイクアウト品の購入または店内飲食待ちの行列が歩道上に頻繁に発生する飲食店舗に対し、交通の安全性の観点から、整理券システムを導入する際の費用を一部補助し、道路上の混雑緩和を図る



5. 主な取組み（詳細）

課題

一番街周辺に観光客が集中し、人と車の錯綜が発生

取組み

適切な交通規制等のあり方の検討

- ・ 実施期間：令和6年9月～令和7年2月
- ・ 実施主体：川越市

事業内容

■ 適切な交通規制等のあり方の検討

➤ 交通量調査及び交通シミュレーションの実施

- ・ 交通量調査を実施し、当該結果に基づく交通シミュレーションにより、交通規制時の周辺交通への影響や車両流入抑制対策等による効果を算出
- ・ 交通シミュレーションは東京大学の本間准教授に依頼

➤ アンケート調査の実施

- ・ 交通対策等に係る住民や関係者に対するアンケートを実施することで、客観的データや地域の意向を踏まえた北部市街地における適切な交通のあり方（交通規制及び交通円滑化策）を協議・検討

交通量調査

主要交差点22箇所の自動車交通量及び3路線の歩行者交通量を調査

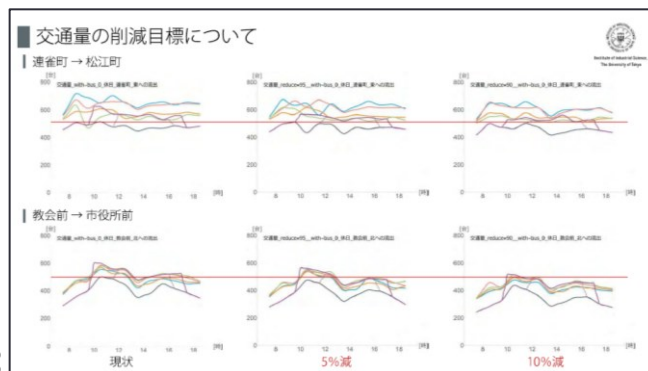


⑩ ⑪は、一方通行出口の交通量のみ計測

交通シミュレーション

調査結果をもとに交通シミュレーションを実施。交通規制時の影響や車両流入抑制の効果等を分析（以下分析結果の主なポイント）

- ・ どの交通規制案でも特定個所に相応の混雑が発生
- ・ バスの迂回は交通量の観点から効果は限定的
- ・ 歩行者天国を実施する場合、10%程度交通量を削減することで規制前と同水準を維持可能



アンケート調査

- ・ 北部市街地内にお住まいの全世帯（約7,300件）や商店街、駐車場関係者等（約130件）に対し、交通対策等に関するアンケート調査を実施
- ・ 北部市街地周辺の住民に対して、現在の交通環境への所感や検討中である一方通行や歩行者天国等の交通規制案とそれに伴う路線バス迂回運行に対する意見を確認

【アンケート内容（一部抜粋）】

- ・ 一番街は、歩行者や車両にとって安全な交通環境だと思うか
- ・ 安全対策として、交通規制を実施することをどう思うか
- ・ 安全な好通環境を実現するには、どの案が望ましいか
- ・ 歩行者天国を実施する場合は、春・夏のまつりや川越まつり、小江戸マラソン（合計6日間）を含め、年間どのぐらいの日数であれば受け入れやすいか
- ・ 歩行者天国を実施する場合はどの時間帯が受け入れやすいか

令和6年度事業の目標

- 交通規制等の交通対策実施に向けた手法、範囲、時期等を検討し、次年度以降の交通対策へ繋げる

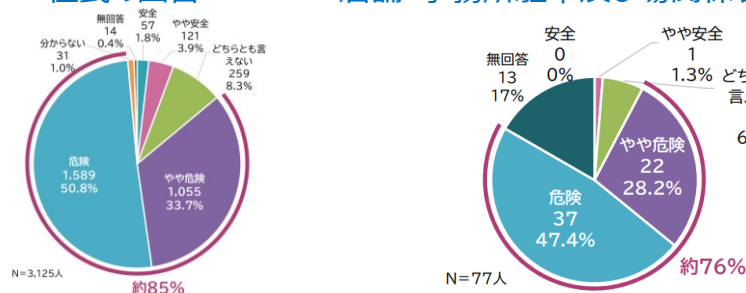
事業の成果／目標の検証結果

- 客観的データや地域の意向を踏まえた北部市街地における適切な交通のあり方を検討することが出来た
 - 主要交差点22箇所の交通量調査を実施し、結果に基づく交通シミュレーションにより交通規制時の周辺交通への影響や効果等を算出
 - 交通対策等に係る住民や関係者に対するアンケートを実施

成果詳細

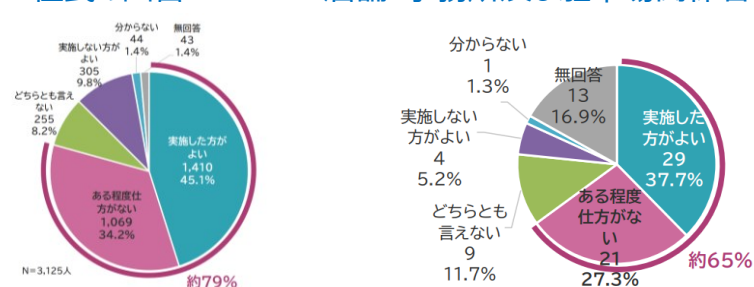
【アンケート結果（一部抜粋）】

Q.1 現在の一番街は、歩行者や車両にとって安全な交通環境だと思うか
 住民の回答 店舗・事務所駐車及び場関係者の回答



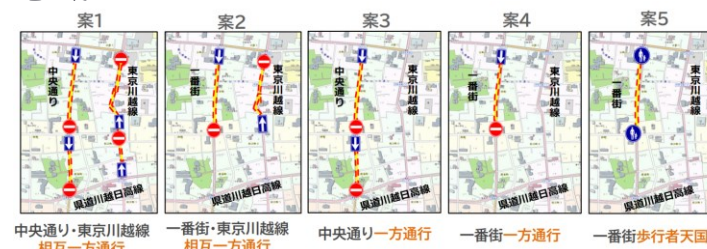
多くの人が一番街の交通環境に対する危険性を感じている状況

Q.2 安全対策として、交通規制を実施することについてどう思うか
 住民の回答 店舗・事務所及び駐車場関係者の回答

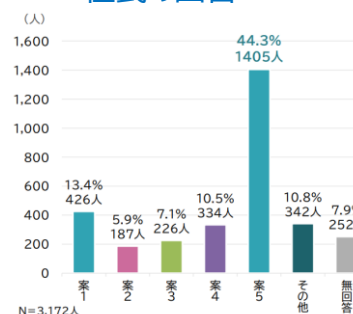


交通規制については比較的肯定的な傾向

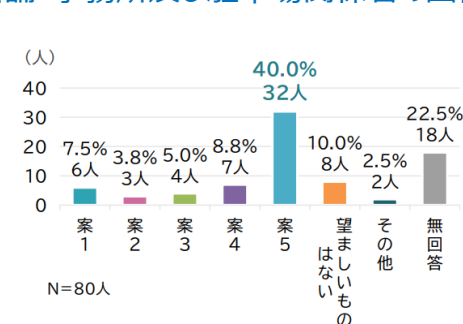
Q.3 交通対策案について、安全な交通環境を実現するためには、どの案が望ましいと思うか



住民の回答



店舗・事務所及び駐車場関係者の回答



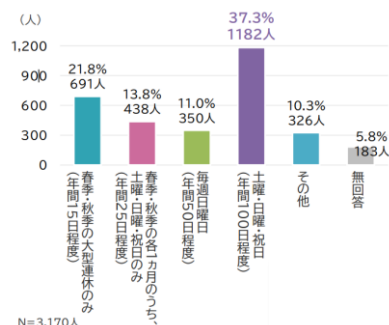
案5（仲町交差点～札の辻交差点を歩行者天国にする案）が最も多く選択

成果詳細

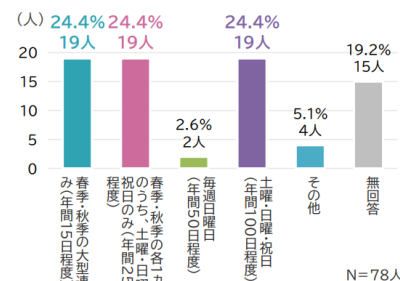
【アンケート結果（一部抜粋）】

Q.4 歩行者天国を実施する場合は、春・夏のまつりや川越まつり等（合計6日間）を含め、年間どのぐらいの日数であれば受け入れやすいか

住民の回答

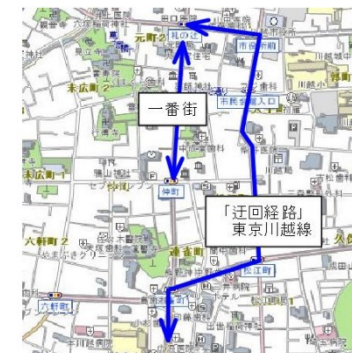
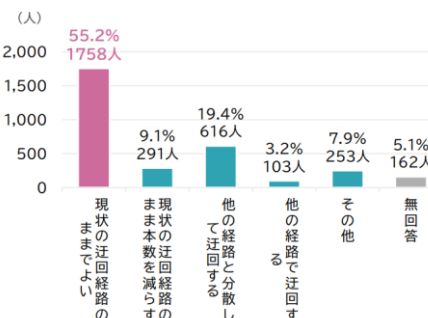


店舗・事務所及び駐車場関係者の回答



住民向けアンケートでは、「土曜・日曜・祝日（年間100日程度）」が最も多く選択されたが、店舗・事務所及び駐車場関係者向けアンケートでは、年間15日程度・年間25日程度・年間100日程度の回答が同程度

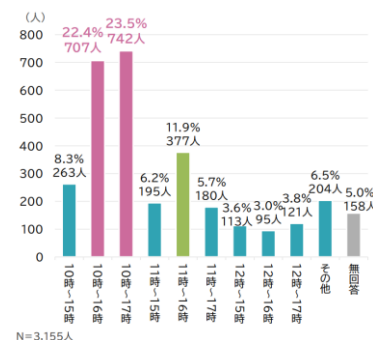
Q.6交通対策案による交通規制を実施した場合、路線バスの迂回運行を行う必要があるが、路線バスの迂回運行については、次のうちどれが重要だと思うか（住民アンケート）



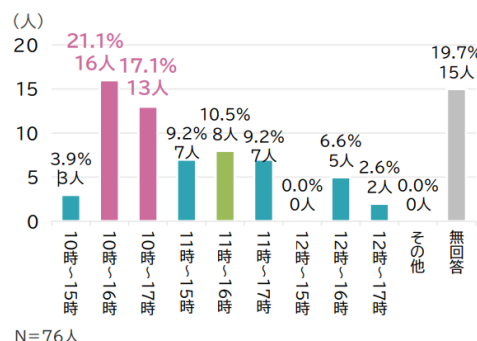
半数強が「現状の迂回経路のままでよい」と回答

Q.5 歩行者天国を実施する場合は、どの時間帯が受け入れやすいか

住民の回答

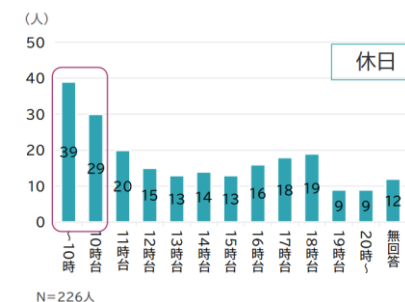
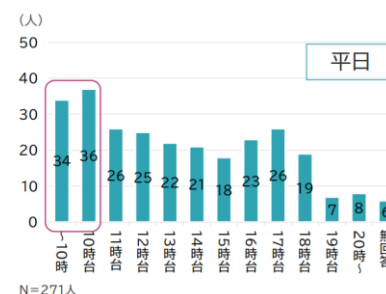


店舗・事務所及び駐車場関係者の回答



最も多く選択された時間帯は、「10時～17時」または「10時～16時」、次いで「11時～16時」

Q.7 駐車場や搬入・搬出に伴う車両の出入りの主な時間帯はいつか（店舗・事務所及び駐車場関係者アンケート）



平日、休日ともに～11時が車両の出入りが多い結果

成果詳細

交通検討の在り方検討の結果

【アンケート】

- 一番街の交通状況について、約85%が危険な状況と認識
- **交通規制については比較的肯定的な傾向**
- 交通対策案としては**約44%が歩行者天国案を選択**
- 歩行者天国の**実施日は約37%が年間度通じて土・日・祝を選択**
- 規制の影響を直接受けるエリアの方はより短い日数を選ぶ傾向

【シュミレーション】

- どの交通規制案でも特定個所に相応の混雑が発生
- バスの迂回は交通量の観点から効果は限定的
- 歩行者天国を実施する場合、**10%程度交通量を削減することで規制前と同水準を維持可能**



次年度以降の取り組み：歩行者天国の実施

- 調査結果を踏まえ、令和7年5月及び11月の連休時（計6日間）に、一番街において歩行者天国を試行的に実施することで、交通規制による影響や効果を把握する

5. 主な取組み（詳細）

課題

観光客によるごみのポイ捨て

取組み

ごみポイ捨て防止対策の支援によるまちの環境美化

- ・ 実施期間：令和6年9月～令和7年2月
- ・ 実施主体：川越市

事業内容

■ ごみのポイ捨て防止対策の支援によるまちの環境美化

- ごみポイ捨て防止対策に関連する事業（広告付きごみ箱の設置等）を実施する際の費用を一部補助し、まちの環境美化を図る

■ ごみに関するアンケート調査

- 観光客に対して川越市のごみに関するアンケート調査を実施
- 調査項目：
 - ・ 観光をしていて、まちなかにポイ捨てごみが多いと感じたか
 - ・ 観光をしていて、ごみ（になるもの）が発生したか
 - ・ 観光をしていて、まちなかにごみ箱があってほしいと感じたか

スマートごみ箱設置
＜鍛冶町広場＞



スマートごみ箱設置
＜川越市産業観光館 小江戸蔵里＞



商店街等の自主的な取組みの例
＜清掃用具の購入＞



成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

- 商店街等が実施するごみポイ捨て防止対策に関連する事業（広告付きごみ箱の設置等）を実施する際、費用の一部補助し、まちの環境美化を図る

事業の成果／目標の検証結果

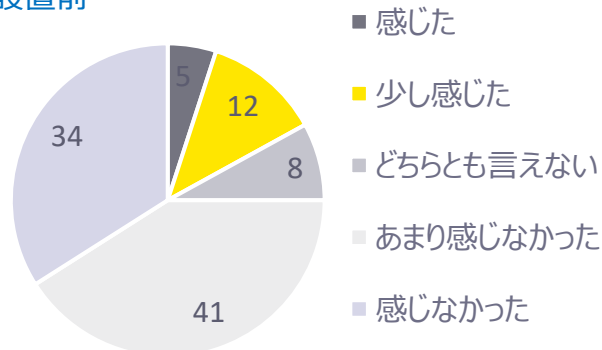
- まちの環境美化に関して一定程度改善が見られた
- まちの美化に関する観光客向けアンケート調査
「観光をしていて、まちなかにごみ箱があってほしいと感じましたか」：
69%⇒**30%に減少**（設置したことによる設置希望回答者の減少と推測）
※「感じた」「少し感じた」と回答した割合

成果詳細

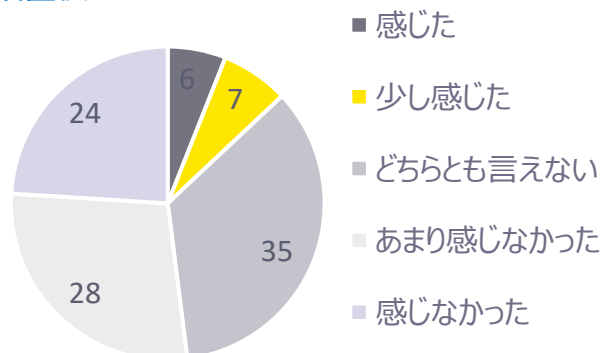
【アンケート結果】

Q.1 観光をしていて、まちなかにポイ捨てごみが多いと感じたか

設置前

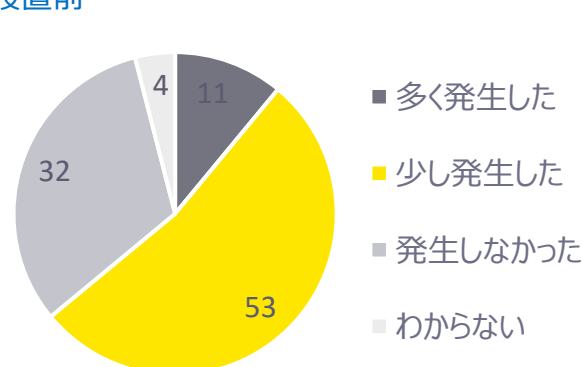


設置後

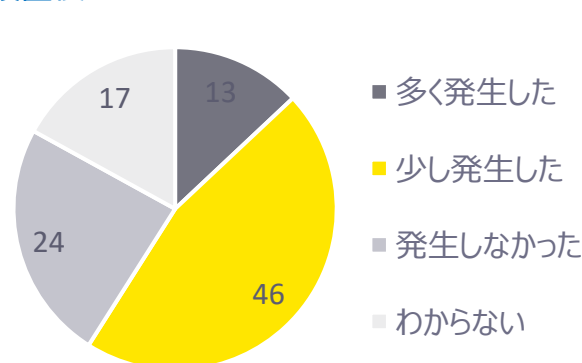


Q.2 観光をしていて、ごみ（になるもの）が発生したか

設置前

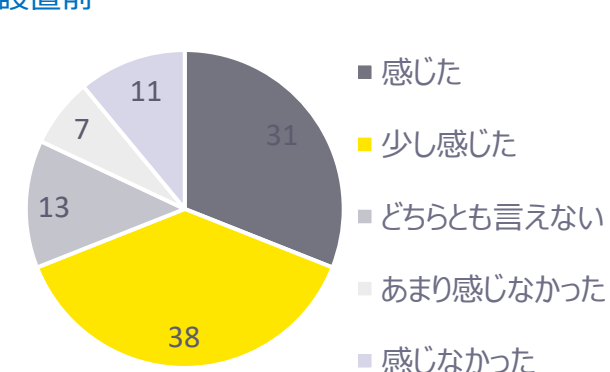


設置後

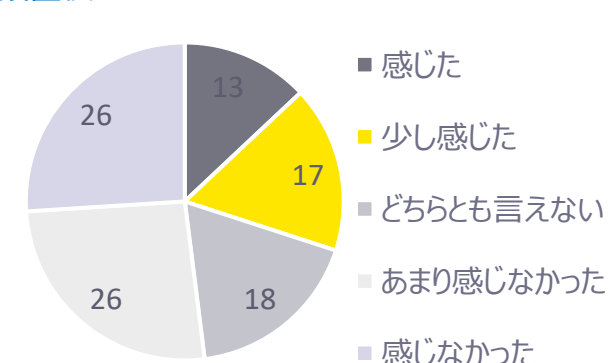


Q.3 観光をしていて、まちなかにごみ箱があってほしいと感じたか

設置前



設置後



令和6年度取り組みから見えてきた課題

1

地域全体での考え方の共有

- ・ 地域の住民・事業者等との協議や観光関連団体との連携が十分でなく、地域のあり方や対策の方向性など、全体的な考え方が共有されていない

2

中長期の対策の必要性

- ・ 対策の実施から日が浅いこともあり、効果がわかりにくかった
- ・ ハード対策など具体的な取組実施には更なる時間を要するため、中長期での取り組みが必要

3

計画策定の必要性

- ・ 現在の観光振興計画はオーバーツーリズム対策に係る内容が不足しており、新たな計画を策定する必要性がある

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

1

地域一体での継続的な取り組み

- ・ 住民・商店街など、関係者が共通認識の下、地域一体で取り組んでいく
- ・ 令和6年度の実施結果を踏まえ改善を図りつつ、地域での意見も聞きながら、取り組みを継続する。
- ・ オーバーツーリズム対策の方向性を包含した観光振興計画を策定する

2

交通円滑化の推進

- ・ アンケート調査の結果を踏まえ、令和7年5月及び11月の連休時（計6日間）に、一番街において歩行者天国を試行的に実施することで、交通規制による影響や効果を把握する

3

観光環境の改善

- ・ 広告付きごみ箱の設置、マナー啓発、観光客の分散化施策など、継続して効果が発現されるよう注視していく必要がある
- ・ 効果検証により、次善策の検討を進める

07. 埼玉県秩父市

1. 地域概要

計画名	地域住民と観光客が共存した持続可能な山間地域を目指す “三峰駐車場の混雑分散化事業”
対象エリア	秩父地域、秩父市大滝（三峰地区）
実施主体	秩父市
年間観光客入込数	約856万人 ※令和5年度1市4町全体
年間延べ宿泊者数	約39万8,400人 ※令和5年度1市4町全体
主な観光資源	寺社仏閣、祭、自然、鉱泉、酒、アニメツーリズム、秩父多摩甲斐国立公園



三峯神社



秩父夜祭



芝桜の丘



秩父雲海

● 観光ビジョン

国内外観光客に優しい観光地をつくり、地域住民と観光客が共存した持続可能な山間地域を目指す

- デジタル活用により観光と交通の利便性を向上
- 観光客に公共交通機関の利用を促すことで社会インフラを維持し、地域住民の移動手段や通信手段を確保
- 誘客力のある観光コンテンツを強みに活かしながら、極度な需要集中を抑制
- 回遊を促し、秩父エリア全体に分散化を図ることで、広域的な観光誘客を推進

● 推進体制（協議の場）

秩父オーバーツーリズム対策協議会

行政機関	事業者	住民関係者
秩父市	(一社) 秩父地域おもてなし観光公社	大滝町会理事会
	秩父商工会議所	
	秩父鉄道(株)	
	西武鉄道(株)	
	秩父タクシー協会	
	(一社) 秩父観光協会	
	オフィスプラス(株)	

2. 課題

● 主な課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 交通渋滞	- 三峯神社最寄りの市営三峰駐車場（246台）の混雑により、入庫待ちが発生し、渋滞が発生している（5km、5時間待ち以上の渋滞となることもある） - 渋滞が原因で、折り返しのバスが到着せず、大幅遅延やトイレに行けないなどの問題が発生している - 救急車両や物流トラックの通行に支障をきたし、地域住民にも影響が出ている	観光客・地域住民
2. 上記に伴うマナー違反	三峯神社周辺は秩父多摩甲斐国立公園の特別地域であるが、渋滞に伴い、路上や空き地等へのマナー違反駐車が見られている	地域住民・観光資源

1. 三峯神社への渋滞の様子



2. 路上駐車などのマナー違反



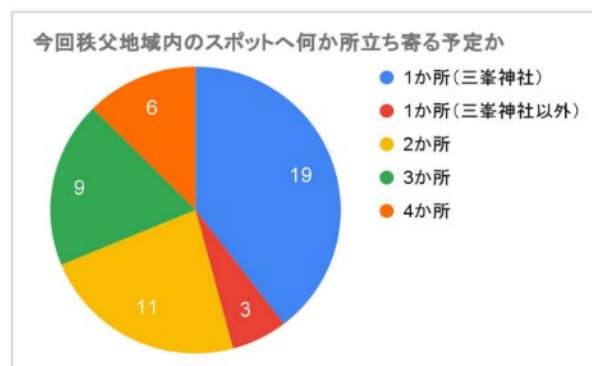
3. 背景・要因

● 課題の背景・要因

主な背景・要因

- | | |
|-----------------|--|
| 1. 特定スポットの集中 | <ul style="list-style-type: none">秩父地域には多くの観光スポットがあるが、三峯神社を目当てに来訪する観光客が多い街中の秩父神社、番場通り、秩父まつり会館などは、公共交通機関で来訪する場合は立ち寄り可能性が高いが、マイカーで来訪する場合は中心市街地をバイパスで迂回してしまうため街中観光に繋がりにくく、三峯神社混雑時における分散先・代替観光地として活かしていない |
| 2. 特定時間の集中 | <ul style="list-style-type: none">三峯神社への訪問は10時から14時までに集中するため、駐車場が混雑し渋滞が発生する |
| 3. 狭い道への車の集中 | <ul style="list-style-type: none">三峰駐車場（三峯神社）へのアクセス路は片側1車線となっており、交通容量に限りがある |
| 4. 公共交通機関の利便性不足 | <ul style="list-style-type: none">三峯神社は急峻な山間地に位置しているため、アクセス方法は最寄りの市営三峰駐車場（246台）からの徒歩のみ駐車場へのアクセスは車（マイカー、レンタカー、観光バスなど）及び路線バスに限られており、さらに中心市街地から車で1時間以上かかる迂回路がない片側一車線の道となっている大きな荷物を預ける場所が足りておらず、公共交通機関を利用しての回遊がしにくいいため、車で来訪が観光の快適性や利便性において優位となってしまう、マイカー集中に繋がってしまう |

1. 特定スポットの混雑



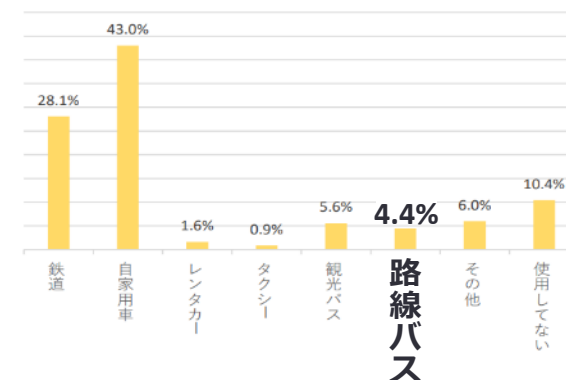
- 三峯神社の1か所のみ立ち寄る割合は5割近く、三峯神社に匹敵する観光コンテンツは少ない
※令和6年2月実施のアンケート参照

3. 狭い道



- 片側1車線となっており、交通容量に限りがある

4. 公共交通機関利用者の利便性



- 秩父地域内での交通手段は自家用車での移動がほとんどであり、三峯神社への公共交通機関を含む路線バスの利用者は全体の4.4%のみとなっている

4. 対策の概要

- 秩父市では三峯神社（三峰駐車場）への一極集中に伴い、深刻な交通渋滞が発生している
- 本事業では、主に①車での来訪者②車での来訪予定者③公共交通機関での来訪者に対し行動変容を促す施策を行う
 - ① 車での来訪者に対しては混雑情報と代替観光の情報を発信し訪問時間の変更等の行動変容を促す
 - ② 車での来訪予定者には、混雑予測を発信することで公共交通機関での訪問や時期、時間をずらし訪問するなどの行動変容を促す
 - ③ 公共交通機関での来訪者（公共交通機関への訪問を促した来訪者も含む）には、三峯神社での混雑時に代替観光を選択することができるよう、情報を発信する
- 上記にあわせて、コインロッカーの整備などの受入れ環境整備も実施する



観光客の分散・平準化

取組み

- ①-a.AIカメラによる混雑予測機能の構築
- ①-b.道の駅等ヘデジタルサイネージの整備

内容

- 訪問前段階から行動変容を促すには、混雑状況の配信のみでは不十分であるため、渋滞予測機能を構築・発信する(①-a.)
- 旅行中の行動変容を強化するために、混雑状況、混雑予測、混雑時の代替観光スポット、マナー啓発に関する発信を行う(①-b.)

取組み

- ②西武秩父駅へのサイネージ設置

内容

- ①で発信する情報を、玄関口である西武秩父駅でも確認できるよう、駅構内にサイネージを設置する

取組み

- ③-a.西武秩父駅前観光案内所のレンタサイクルに予約機能を導入
- ③-b.タクシー定額プランの新規造成

内容

- マイカー以外のアクセス手段の周知や秩父来訪後の移動手段の予約の利便性を向上させ、自動車から公共交通機関利用への行動変容を促す(③-a.)
- 公共交通機関での来訪者に対して、混雑時の代替手段を提供する(③-a.)

取組み

- ④まちなか夜間イベントの実施と観光行動のデータ分析

背景

- 三峯神社への自動車での来訪者は10～14時に来訪する観光客が多く、来訪時間帯の集中が駐車場の混雑や渋滞の原因となっている

内容

- 夜間イベントを実施し、10～14時から夕方へと来訪時間の分散を促す。併せて、アンケート実施により行動パターン及び行動変容への影響を調査・分析する

受入環境整備

取組み

- ⑤-a.コインロッカーの更新・増設
- ⑤-b.Wi-Fi環境整備
- ⑤-c.SL客車の高付加価値化

内容

- バスに大きな荷物が持ち込まれることによる混雑や危険を回避するとともに、快適な観光を提供するために、コインロッカーを増設する(⑤-a.)
- ①で発信する情報を主にインバウンド客が閲覧できるよう、主要駅にWi-Fi環境を整備する(⑤-b.)
- SL客車の魅力を向上し、公共交通機関の利用を促進する(⑤-c.)

取組み

- ⑥手荷物一時預かりサービス及び荷物回送サービス

内容

- 主に公共交通機関を利用する来訪者が快適に観光できるよう、手ぶら観光を促進する

5. 主な取組み（詳細）

課題

市営三峰駐車場の長時間渋滞・需要集中、マナー違反

取組み

AIカメラによる混雑予測機能の構築
道の駅等へデジタルサイネージの整備

- ・ 実施期間：令和6年11月～令和7年2月
- ・ 実施主体：秩父市

事業内容

①：混雑予測機能の構築

- ・ 混雑状況のリアルタイム配信に、混雑予測機能を構築する
- ・ リアルタイム混雑状況に加え、日・時間ごとの混雑予測をグラフで表示予定。予測には、過去の統計や天気予報などを組み合わせたアルゴリズムを設計

②：道の駅等へデジタルサイネージの整備

- ・ 混雑予測機能に加え、既存の混雑状況、混雑時の代替観光先、マナー啓発に関する情報を発信するサイネージを設置する

【背景・目的】

- ・ 来訪者の行動変容を促すため、令和5年度より三峰駐車場、三峰駐車場300m手前及び2.2km手前にAIカメラを設置し、混雑状況のリアルタイム配信を行っている
- ・ 設置したAIカメラを用いてどこから来た来訪者かの分析を行った結果、8割以上が関東圏内であることが分かった
- ・ これらの来訪者を主なターゲットとして旅行前段階からの行動変容を促すために混雑予測機能を構築する

混雑状況/予測配信サイト

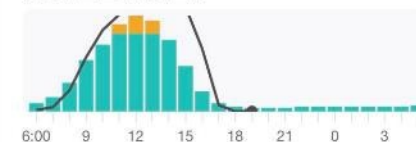
今の混雑状況

混雑予測

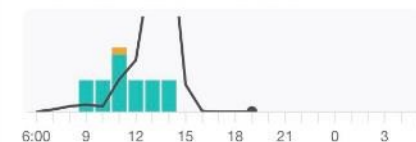
過去に基づいた混雑予測 → 今日の混雑



秩父市営三峰駐車場



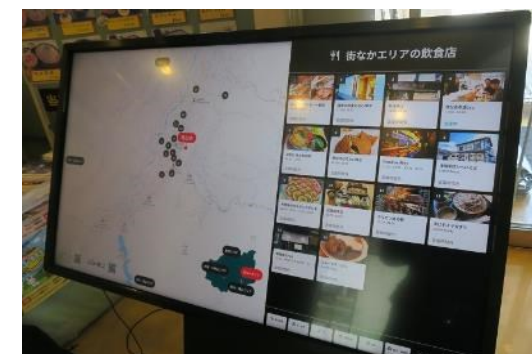
市営三峰駐車場約300m手前道路



サイネージ



道の駅 大滝温泉

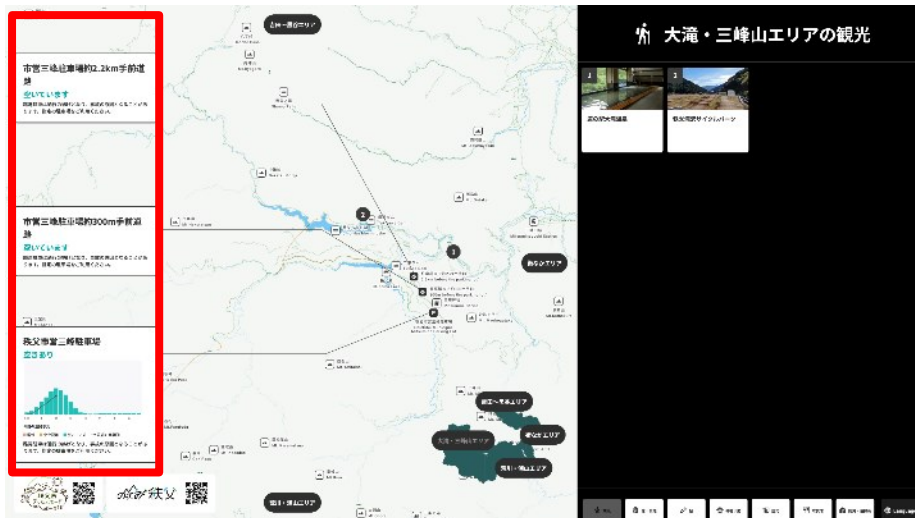


道の駅 ちちぶ

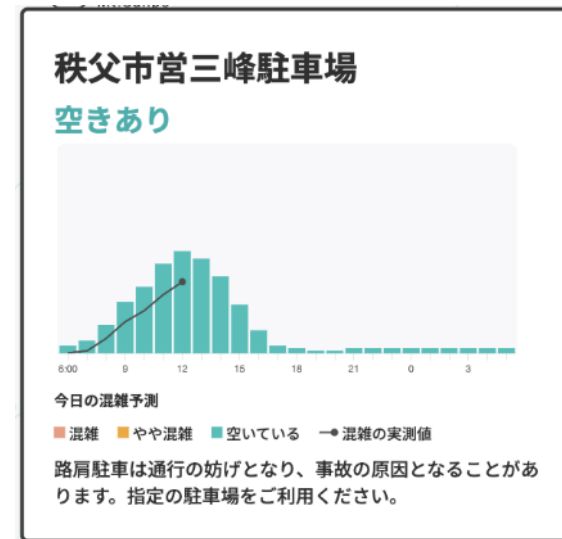
5. 主な取組み（詳細）

事業内容

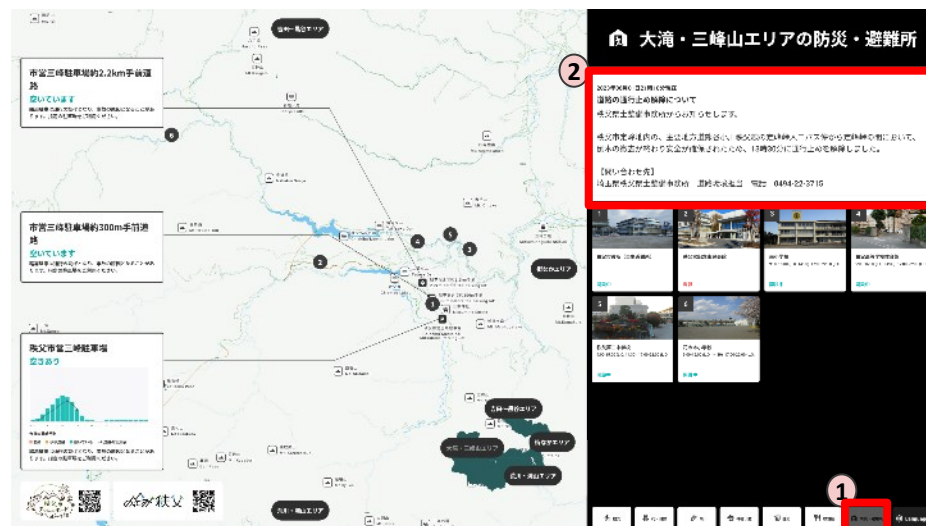
2か所に設置したタッチ式デジタルサイネージの設計・UIデザイン



- 「秩父市営三峰駐車場」、「駐車場まで約300m地点」及び「駐車場まで約2.2m地点」の3箇所における混雑状況と混雑予測をマップ上に表示



- 「秩父市営三峰駐車場」、「駐車場まで約300m地点」及び「駐車場まで約2.2m地点」の3箇所について、路肩駐車を防止するため、「路肩駐車は通行の妨げとなり、事故の原因となることがあります。指定の駐車場をご利用ください。」という文言を表示



- ジャンルボタンから防災・避難所を選択すると、エリアごとの防災・避難所情報を表示（①）
- 右側では各施設の詳細を表すカードを配置し、タッチすることで各々の施設の詳細画面へ遷移
- ちちぶ安心・安全メールから受け取った災害情報を当日分スクロールする形で表示（②）

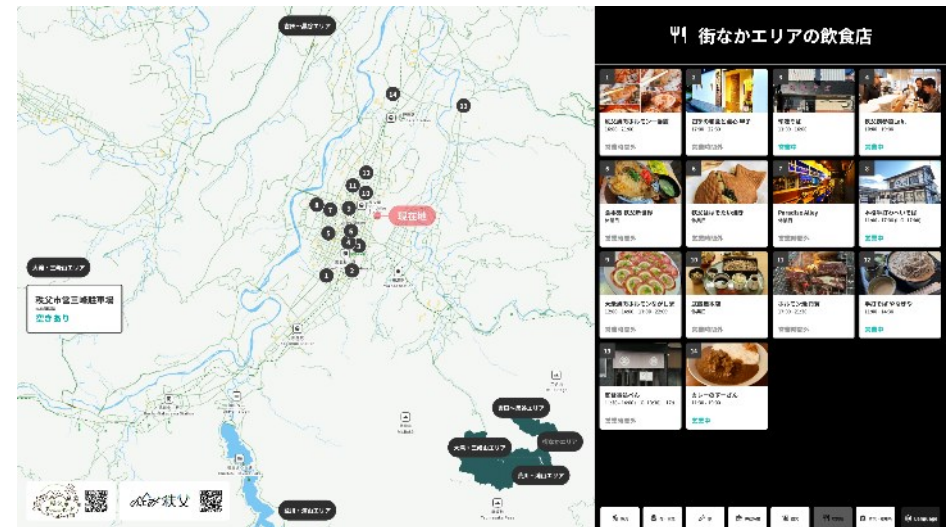
5. 主な取組み（詳細）

事業内容

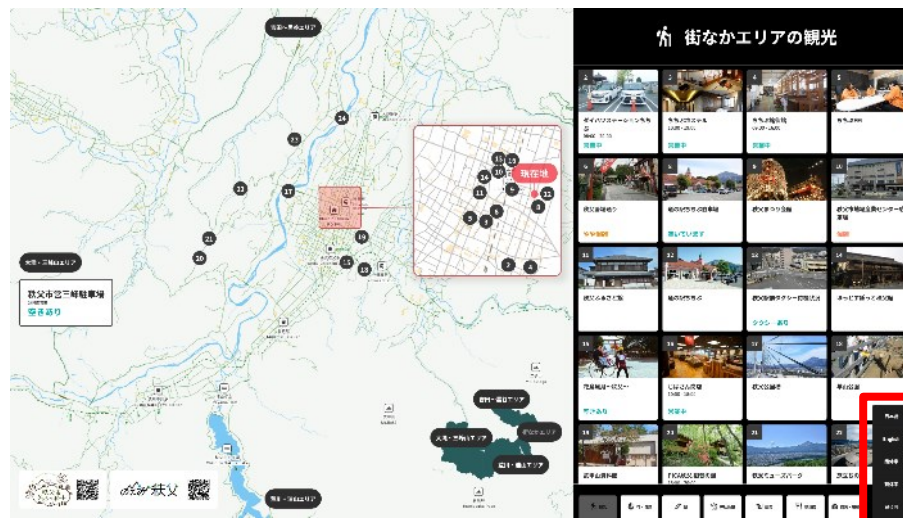
2か所に設置したタッチ式デジタルサイネージの設計・UIデザイン



- サイネージがタッチ操作できることを明示し、ユーザーの興味を喚起
- 画面上のいずれかをタッチすると「観光スポット」の画面を表示
- 画面から300秒間操作が行われない場合には、この画面へ戻る



- ジャンルボタンからジャンルを選択すると、該当ジャンルのエリアごとの情報を表示
- 左側にマップを配置し、登録施設の場所にピンを配置し現在地からの位置関係を表示
- 右側では各施設の詳細を表すカードを配置し、タッチすることで各々の施設の詳細画面へ遷移



- 「Language」ボタンを選択することで多言語への表示切替が可能

成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

A：三峰駐車場の混雑が要因の苦情防止

B：三峰駐車場の混雑緩和

- ▶ 三峰駐車場における待ち車両数の抑制
- ▶ 混雑状況+混雑予測サイトのPV数：**24,000回**

事業の成果／目標の検証結果

A：三峰駐車場の混雑を要因とした苦情については、目標としていたゼロ件を達成

- ▶ 苦情（路上トイレや駐車に関する）の件数：**0件**（2月、3月）

B：混雑予測機能の混雑緩和への効果

- ▶ 三峰駐車場における車両
- ▶ 混雑状況+混雑予測サイトのPV数：**16,178回**（達成率67.4%）

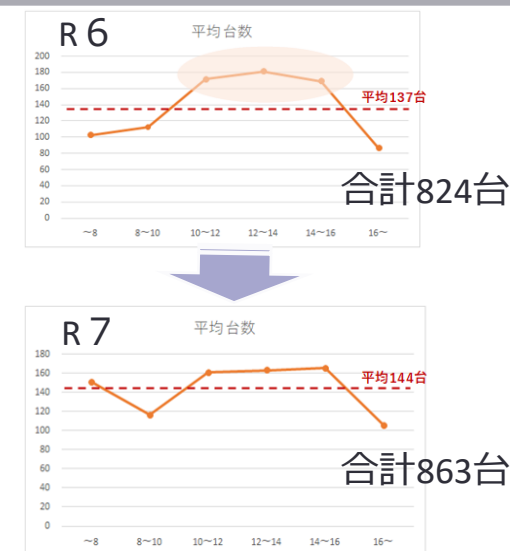
成果詳細

■ 混雑状況・混雑予測サイト

- 苦情の件数については、**0件で達成**
- 混雑予測は2/1から配信開始しており、3月31日の時点でPV数は16,178回と、目標の約67.4%の達成状況
混雑予測開始前の令和6年4月1日から令和7年1月31日までの総PV数は141,139回であり、月あたりの平均は約14,114回
- 渋滞予測と実際の混雑がほとんど一致しており、予測の精度は高い
※ライトアップイベント時は、予測よりも実際の混雑が後ろ倒しになった様子も確認できた
- 導入前のGW（繁忙期）は10時～16時の入庫台数が平均より、かなり上振れているが、令和7年のGWでは平均との差が小さくなり、三峯神社訪問の時間帯の分散に成功したと言える（右図）
- 一方で、合計台数に変化はなく、自動車への依存状況は変わらない

■ デジタルサイネージ

- デジタルサイネージは2/20（木）に道の駅大滝温泉及び道の駅ちちぶに設置し、2/21（金）から供用開始



令和6年度取り組みから見てきた課題

■ 判読性の課題

- 文字情報だけでは、混雑状況は伝わりづらい場合があった

令和7年以降に取り組むべきと考えること

■ 混雑状況の画像や動画配信

- 文字情報とあわせて、画像や映像の配信を検討する

5. 主な取組み（詳細）

課題

市営三峰駐車場の長時間渋滞・時間帯の集中

取組み

まちなか夜間イベントの実施と観光行動のデータ分析

- ・ 実施期間：令和6年12月～令和7年2月
- ・ 実施主体：（一社）秩父地域おもてなし観光公社

事業内容

■ まちなか夜間イベントの実施

- ・ 秩父駅周辺にてライトアップイベントを実施。混雑する三峰神社からイベントの誘導の仕掛け、旅行前段階からの周知も併せて実施する

Point 1

■ 昼以外の時間帯への誘導／秩父市街地エリアとの連携の仕掛けを追加

・ 夕方移動へのインセンティブ

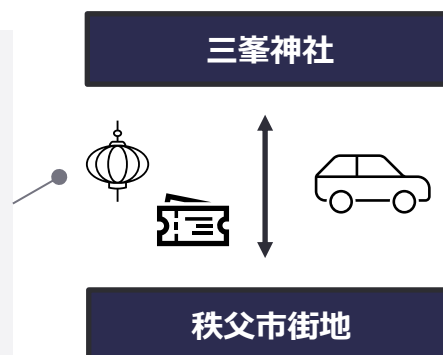
14時以降に駐車場に入った方は夜バルチケットがもらえる

- 令和6年度、夜間のライトアップイベントとの導線を確立できるか検証

Point 2

■ マイカー抑制・分散化に資する「徒歩周遊」を促す仕掛けを追加

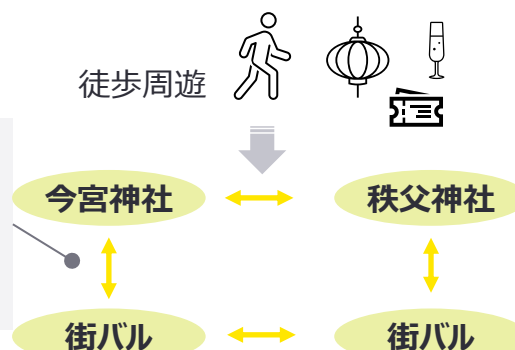
提灯持ちながらの夜の街歩き、街バルでのほしご酒の開催



Point 3

■ 夕方～夜間観光へ誘導するための周知

秩父は夕方～夜が面白い、夕方以降が空いていると認知してもらえるよう、駐車場HP、混雑情報サイト、ライトアップイベントHPなど、多様なチャネルにて三峰神社＋ライトアップイベントをセットにして旅行前段階からの周知を実施



スポット間もライトアップすることで、車ではなく徒歩での周遊を促すとともに、街歩きによる分散を図ることで、特定スポットの混雑を緩和



5. 主な取組み（詳細）

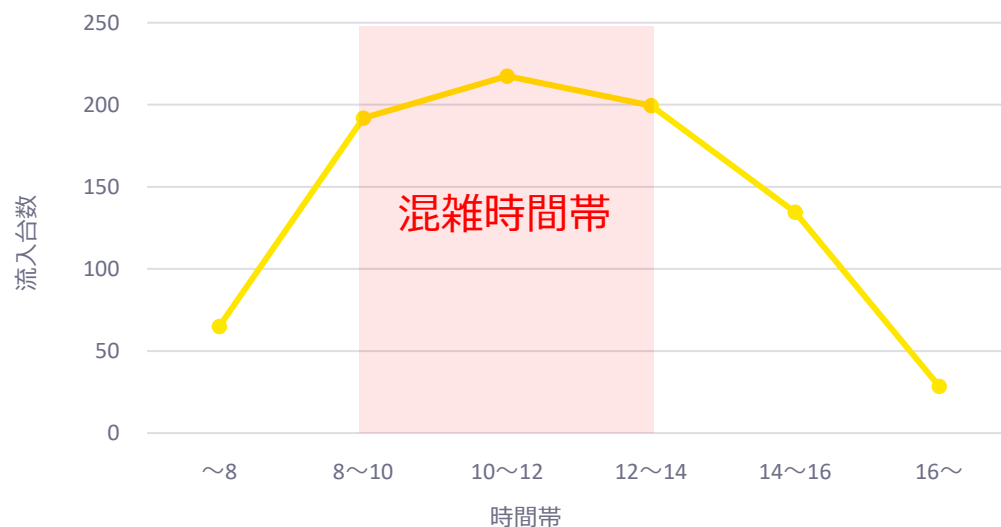
事業内容

【背景・目的】

- 三峯神社への自動車での来訪者は**10時から14時に来訪する観光客が多く、来訪時間帯の集中が駐車場満車及び渋滞の原因の一つ**となっている
- 三峯神社へは秩父中心市街地からも車で約1時間かかる。**日帰りで観光しようとする、10時から14時の間で三峯神社に訪問する旅程になりやすい**
- そのため、夜間にイベントを実施することで、夜間観光との導線を確立し、**訪問時間が後ろ倒しになるよう行動変容を目指す**
- あわせて、アンケートを実施することで行動パターン及び行動変容への影響を調査分析する

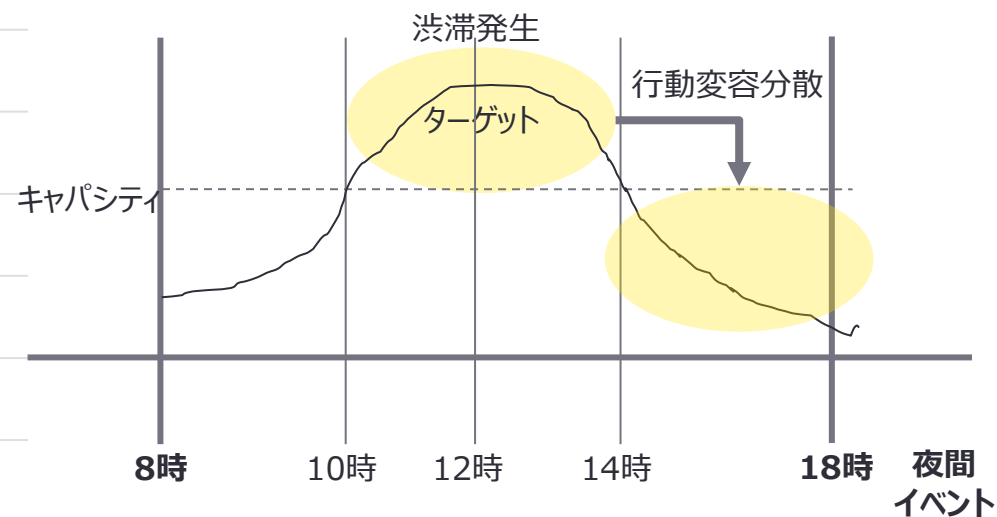
現状分析

連休における車の平均流入台数（三峰駐車場）＊



（＊令和6年9月実績集計）

時間帯の分散による渋滞緩和のイメージ



令和6年度事業の目標

三峰駐車場の混雑時間帯における入庫割合減少

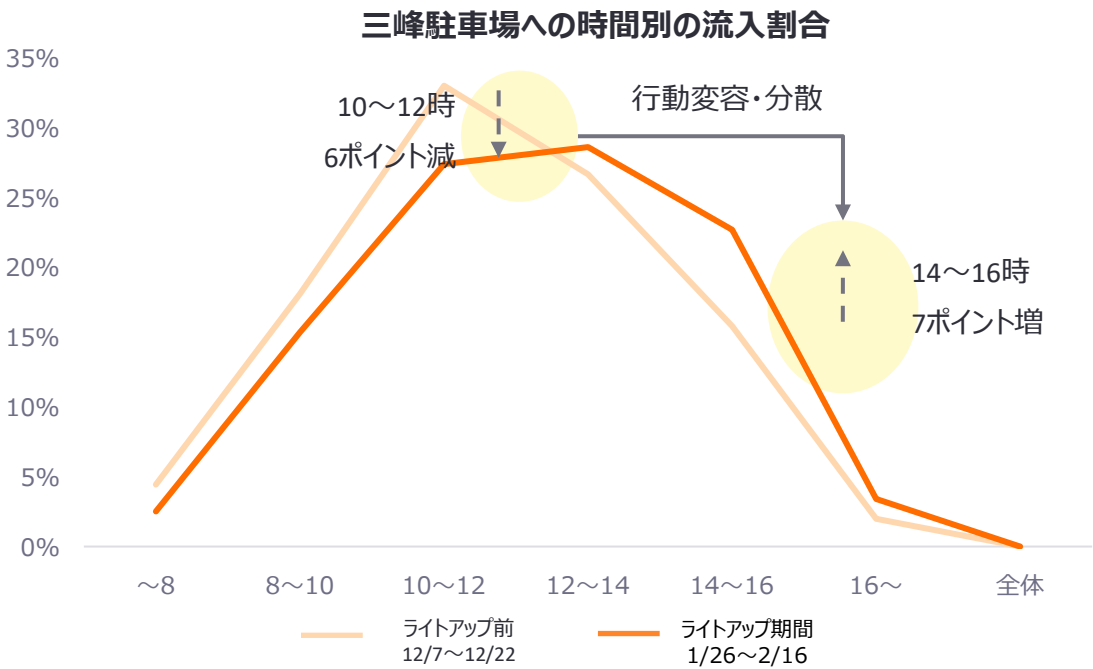
事業の成果／目標の検証結果

三峰駐車場の混雑時間帯の入庫割合減少を達成

- ▶ 夜間イベント実施により訪問時間帯が変化した割合：**11%**（目標10%）
- ▶ 14時以降の入庫数の割合：**9%増**（目標10%）
- ▶ 2月の三峰駐車場の渋滞発生有無：**4日**（目標6日以内）
- ▶ 2月の300m手前の渋滞発生有無：**3日**（目標4日以内）
- ▶ 2月の2.2km手前の渋滞発生有無：**0日**（目標0日）

成果詳細

- 市営三峰駐車場での実施アンケートにおける「夜間イベントが三峯神社への到着時間に関係したか教えてください。」の設問に対する答え：**到着時間を遅くしたとの回答は5件/全45件（約11%）**
- AIカメラデータを検証すると、夜間イベント実施期間は**14時以降の流入が9%増加、普段のピーク時である10時から12時の間が6%減少**



●三峰駐車場への時間帯別流入台数（1日平均）

時間帯	ライトアップ前 12/7～12/22		ライトアップ期間 1/26～2/16	
	台数	割合	台数	割合
～ 8	17	4%	9	2%
8～10	69	18%	54	15%
10～12	126	33%	97	27%
12～14	102	27%	102	29%
14～16	60	16%	81	23%
16～	8	2%	13	4%
全体	383	—	356	—

→7%増
→2%増
計9%増

令和6年度取り組みから見てきた課題

- 混雑情報の発信や受入環境の整備については進捗したが、混雑回避に関する観光客の行動変容については、顕著な成果を得るには至らなかった

1 行動変容まで繋げる取組の実施

- 混雑している、または混雑しそうという情報だけでは、混雑を避けて効率よく観光するという観光客の行動変容にまではつなげていない
- 周遊プランの提示や、望ましい行動を盛り込んだパッケージを提示するなど、実際の行動変容につなげる取組をより強く実施していく必要がある

2 混雑時間帯の車両利用のさらなる抑制

- 移動手段がマイカーやレンタカーへの依存状況は大きく変わらなかった
- 要因として、観光客にとって、なじみの薄い土地で公共交通機関を使いこなすのはハードルが高いことがあると考えられる

3 公共交通機関の混雑への対応

- 公共交通機関の利用を勧めても、三峯神社線等利用者の多い路線は慢性的に混雑している
- 片道1時間以上かけて満員のバスで山道を揺られることを好まない観光客も多く、状況は大きく変わらなかった

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- 混雑日やピーク時間帯を避けることで、快適性や特別な体験が得られるという口コミを広めるためのプランやパッケージを構築

1 観光バス車両での予約指定席シャトルバスの運行

- 三峯神社までの予約指定席シャトルバスを実証運行
- 持続可能なビジネスモデルや運営体制を検証

2 三峰駐車場にダイナミックプライシング導入を検討

- 土日祝日は基本駐車料金を値上げ
- 14時以降はクーポン券を配布（回遊施策へつなげる）等を検討

3 ライドシェアの導入検討

- ライドシェアの導入に向けて協議を開始

08. 東京都台東区

1. 地域概要

計画名	台東区浅草地区における持続可能な観光地づくり事業
対象エリア	浅草エリア
実施主体	東京都台東区
年間観光客入込数	3,862万人（R5年、台東区全体）
年間延べ宿泊者数	487 万人（R5年、台東区全体）
主な観光資源	浅草寺をはじめとした江戸時代から築いてきた浅草地域の歴史と文化



浅草寺



雷門

● 観光ビジョン

江戸時代から継承される美学「粋」で「いなせ」で「乙」な
情緒的価値を体験できる、世界が憧れる観光地へ

● 推進体制（協議の場）

浅草地区における持続可能な観光地づくり協議会

- 浅草地域における現状分析及び課題の抽出、解決に向けた対策における事業実施のための協議を実施
- 協議会においては、各団体/組織から複数名参加してもらい、協議の活発化を図る
- 事業の進捗報告や振り返り会を行い、翌年度に向けた方向性への材料とする

行政機関

台東区

事業者

一般社団法人
浅草観光連盟

協同組合
浅草商店連合会

住民関係者

雷門地区町会
連合会

浅草小学校
PTA

2. 課題

● 主な課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. ポイ捨て等の迷惑行為	- 観光客のごみやたばこのポイ捨てによるマナー違反が更に深刻化することで、景観や住民感情の悪化に繋がる恐れがある - 浅草の街の美観が損なわれ、観光地としての魅力が軽減する懸念がある	住民
2. 喫煙場所などのわかりにくさによるマナーの低下	- トイレや喫煙場所のわかりにくさは観光客満足度の低下だけでなく、禁止されている場所での喫煙や吸い殻のポイ捨てなどの問題にもつながる懸念がある - 場所を尋ねられる店舗側の負担にもつながっている	住民・観光客・事業者
3. 店舗等の過度な混雑	- 店舗の行列は、快適な観光の阻害に繋がり、観光満足度の低下を招く恐れがある - また、リピート観光への期待も損なわれる可能性がある - 行列による街路混雑は、住民の生活利便性や安全性へ影響を及ぼす懸念がある	住民・観光客

1. ポイ捨て



- 浅草エリアは、買い物や飲食できる店舗が多く、ポイ捨てにつながる懸念

2. 場所のわかりにくさ



- トイレ・喫煙場所がどこにあるかわかりにくく、禁止されている場所で喫煙してしまうなどの問題につながる懸念

3. 店舗混雑



- 店舗の多い浅草は、買い物やグルメ目的の観光客が多く集まり、人気店舗は常に行列ができています

3. 背景・要因

● 課題の背景・要因

主な背景・要因

1. 観光と住民の生活圏の重複

2. 規模が大きく、人や情報が溢れやすい都市型観光地

- 観光地と住民の生活圏が重複しているため、ごみやたばこのポイ捨て、行列による道の混雑などについて、住民からの不満が出やすい
- 規模の大きい都市型観光地であるため、常に大量の観光客が流入。一部のエリアについては、観光客の満足度低下が懸念される状況
- 様々な観光情報が発信され、混在しているため、喫煙場所やトイレなどの台東区が伝えたい情報が観光客に届きにくい

1. 観光と住民生活圏の重複



- 観光客が集まる場所に住宅があるなど、生活と観光客の動線が重複



2. 観光客や情報量が溢れている



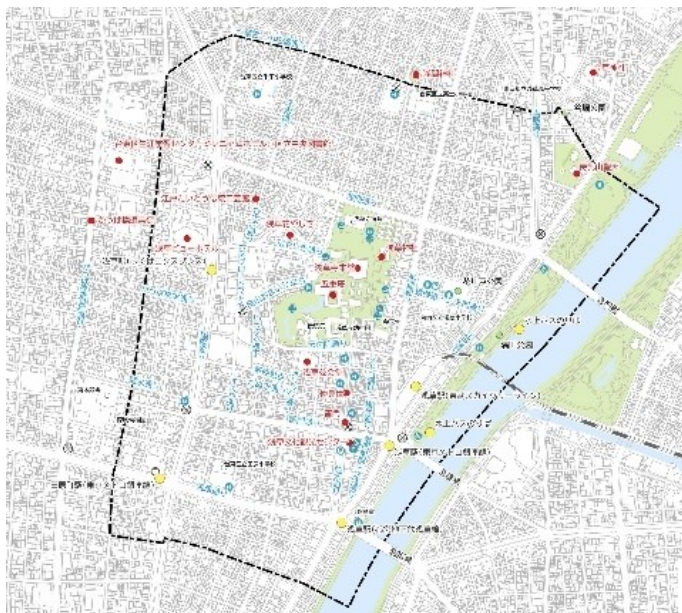
- | | |
|----------|-------|
| 観光案内所 | 観光案内板 |
| 身障者対応トイレ | トイレ |
| 駐車場 | 喫煙所 |
| 警察署・交番 | 両替所 |
| 病院 | 学校 |
| 消防署 | 郵便局 |
| | 寺院 |
| | 神社 |

- 都内中心部の観光地であり、国内外から多くの観光客が来訪
- 流入のコントロールは難しいため、大勢の観光客を受け入れつつ、住民生活との共存を図っていくことが必要

4. 対策の概要

- 協議会での協議の結果、主な課題として以下を抽出
- 居住地と観光地が重複しており、住民へのインパクトの強いエリアであることから、住民の不满につながりやすい、ごみやマナー対策などを中心に事業を実施する
 - ①ごみのポイ捨て
 - ②喫煙マナー、喫煙所についての周知不足
 - ③トイレ場所の周知不足

エリアマップ



調査・分析

取組み 内容

①浅草地区ごみ目視・組成調査

- ポイ捨て問題は、ごみを拾うなどの施策だけでなく、ごみの発生源に対する根本的な対策も必要である
- ごみ組成調査により、排出場所及び製造者を特定することで、製造者も巻き込んだより効果的なポイ捨て削減を検討する

マナー啓発

取組み 内容

②ごみのポイ捨て禁止啓発活動（移動式ごみ箱活用実験）及びイベント開催

- ごみ捨てのルールについて理解していない、意識していない観光客が多い可能性
- 啓発活動や観光客や子どもが参加するごみ拾いイベントの実施により、ポイ捨てへの意識向上を図る

取組み

内容

③共通デザイン・ロゴの作成、全体的なデザインを採用したマナー啓発リーフレット及び持ち帰り用ごみ袋の作成・配布

- マナー啓発について個別事業を実施するのみでは、大勢の観光客に訴求できない
- 共通デザイン・ロゴを用いたPRやごみ袋の配布などにより、台東区のマナー啓発についてより強力に発信し、観光客の意識向上を図る

受入環境の整備・増強

取組み 内容

④デジタル便利マップ及び二次元コードスタンド等配布

- トイレ・公衆喫煙所等の場所がわかりにくく、店舗側の負担につながりやすい
- 情報をまとめたデジタルマップを作成し、観光客へわかりやすい周知を行う

住民と協業した観光振興

取組み

内容

⑤協議会開催

- 各種課題の未然防止を目的とした、住民や地域の団体等と意見交換や協議を行う機会の充実

5. 主な取組み（詳細）

課題

ごみのポイ捨て問題について、捨てられているごみの種類や発生源が不明なため、根本的な対策を実施できていない

取組み

浅草地区ごみ目視・組成調査

- ・ 実施期間：令和6年10月～令和7年2月
- ・ 実施主体：台東区

事業内容

■ 浅草地区ごみ目視・組成調査

1. 目視調査

- ・ 令和6年11月1日（金）、11月5日（火）に目視調査を実施
- ・ 目視にて、ごみの種類や量を把握し、分類項目を決定、ポイ捨ての傾向を把握

2. 組成調査

- ・ 11月30日実施
- ・ 目視調査の結果を元に、ごみの多い以下の地点を選定し、投棄量、種類等を調査

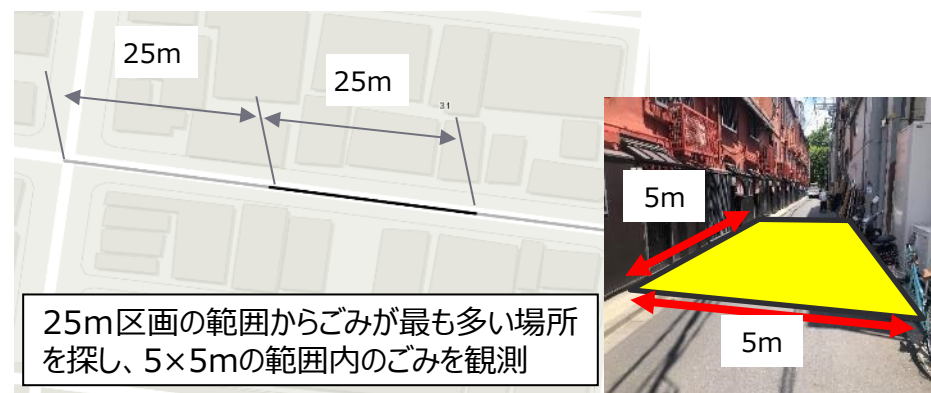
【背景・目的】

- ・ ごみのポイ捨て問題は、どのようなごみが捨てられており、どこが発生元であるかなど、発生の根源が明らかになっていないため、一歩踏み込んだ対策を検討していく
- ・ 浅草地区の道路等に投棄されたごみの状況を調べ、排出量や排出場所、排出に関係する事業者等を明瞭化し、より効果的な対策の基礎資料を得て、投棄ごみの削減を図る

調査範囲



調査方法



令和6年度事業の目標

- ごみの調査を通じ、ポイ捨てが多い場所や製造元の情報の明瞭化及びデータ整理を実施し、分析結果を基にした今後の取組案の検討を行う。

事業の成果／目標の検証結果

- 浅草エリアでポイ捨てされているごみについて、
 - コンビニ前・駐車場といった場所毎の特性
 - 特に多い地点の把握
 といった基礎的な実態を可視化できた。
- 基礎情報に基づき、関係者で今後の取組案を協議する

成果詳細

1. 目視調査の結果

- 目視調査を踏まえ、調査地点の特定、ごみの分類を設定した上で、ごみの組成調査を実施

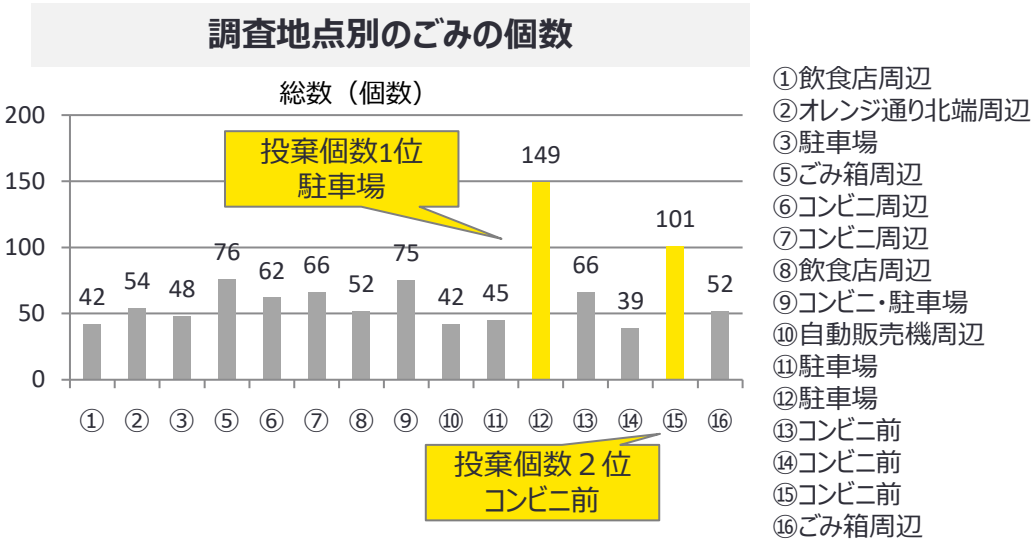
ごみの分類

大分類	中分類	細分類	詳細分類	グラフの区分	項目
焼却不適物	プラスチック類	ペットボトル		ボトル	飲料用ペットボトル、ボトルのキャップ、その他のボトルなど
焼却不適物	プラスチック類	その他のプラスチック製容器包装	パック類、カップ類、包装フィルム・ラップ・袋	プラスチック製品	プラスチック製コップ・カップ、プラスチック製容器、パッケージ、容器包装など
焼却不適物	プラスチック類	その他のプラスチック製容器包装	発泡スチロール・発泡トレイ	その他のプラスチック	ストロー、レジ袋、発泡スチロール製品など
不燃物				金属製品（缶、瓶）	アルミ缶、スチール缶、飲料用瓶、瓶のフタなど
可燃物		紙製品類（木含む）		紙製品	紙製コップ・カップ、飲料用パック、紙製包装材、チラシ、割り箸、マスクなど
たばこ				たばこ	たばこの吸殻、たばこのパッケージなど
焼却不適物 不燃物	ゴム・皮革 その他の不燃物			その他	ゴム製品、保冷剤など

成果詳細

2. 組成調査

- 15か所の調査地点について、ポイ捨ての個数、ごみの内容を調査し、ポイ捨て行動の特徴を分析



調査場所のポイ捨ての特徴		
場所	他調査場所より割合の大きいごみ	推測されるポイ捨て行動
コンビニ前	プラスチック製品	コンビニで買った商品をその場で投棄
駐車場	たばこ	車で待機中または夜間に人が集まり、たばこを投棄
道路	紙製品	歩行者が食べた後の容器や包装紙の投棄
その他	ボトルや金属製品	自動販売機やごみ箱の裏に、ボトル、缶、瓶などを投棄

3. 調査結果の見える化・対策の検討

- 今後のごみポイ捨て施策検討の基礎データとして調査結果を整理
- ポイ捨ての場所や種類、傾向等のデータを踏まえ、関係者で具体的な対策を検討する

対策素案の検討	場所	推測されるポイ捨て行動	対策の方向性（案）
	コンビニ周辺	コンビニで買った商品をその場で投棄	ポイ捨ての多かったコンビニ事業者との連携 外国人観光客にも分別方法などがわかりやすいよう、ごみ箱には多言語対応またはピクトグラムを表示
	駐車場周辺	車で待機中または夜間に人が集まってたばこを投棄	駐車場事業者と連携し、ポイ捨て禁止のポスター掲示による啓発活動や、駐車場の清掃活動の頻度の増加検討を依頼
	道路脇	歩行者が食べた後の容器や包装紙を投棄	外国人観光客は、家庭・事業ごみ置き場を観光客も捨てていいと勘違いしやすいため、多言語対応ポスターやピクトグラムなどでポイ捨て禁止を啓発 事業者によるごみ回収の徹底、ネット活用による散乱防止

令和6年度取り組みから見てきた課題

- これまで可視化されていなかった浅草エリアのごみポイ捨ての実態が明らかとなった

1

対策検討に向けた関係者の巻き込み

- 各地点のごみの量、ごみの種類、ポイ捨てが多い場所やポイ捨ての多い商品など、**今まで見えなかったポイ捨ての実態を可視化**
- ポイ捨ての傾向、ポイ捨ての多いごみやその販売事業者など、**ポイ捨てに関係のある具体的な関係者を明らかにすることができた**
- 詳細の情報を把握することができたが、**民間事業者等**にどのようにアプローチし、どのような方法でポイ捨て対策に協力いただくかが、今後の課題

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- 可視化したデータを基に、まずは関係者で協議を実施
- 民間事業者には、ポイ捨て対策への参画メリットを訴求しつつ、連携策を検討する

1

可視化したデータを踏まえた協議の実施

- 具体的なデータをもって関係者で協議することで、より実態に沿った対策の検討が期待できる

2

ポイ捨て対策への参画メリットの訴求

- 民間事業者等の巻き込みにあたっては、企業イメージの向上など、民間事業者等がポイ捨て対策へ参画するメリットを感じられるようにすることがポイントとなる

5. 主な取組み（詳細）

課題

ごみのポイ捨て問題に対する観光客の関心や意識が低い

取組み

ごみ拾いイベント及びポイ捨て禁止啓発等活動

- ・ 実施期間：令和6年12月～令和7年1月
- ・ 実施主体：台東区

事業内容

■ ごみ拾いイベントの開催

- ・ 浅草らしいキャラクターなどを活用し、観光客や子ども等を巻き込んだ、ごみ拾いイベントを開催
イベント開催日時：12月14日（土）（ファミリー向け）
1月18日（土）（大人向け）
- ・ ごみ拾いイベントは、拾うごみにポイントを付与し、各チームで競うゲーム形式。アプリで配信されるミッションをクリアしながら、ごみ拾いを楽しく体験することができる

【目的】

- ・ 訪日外国人観光客を含む、浅草を訪れる人々のごみのポイ捨てに関する意識を向上させることで、ポイ捨ての減少、街の美化、来訪者満足度及び住民快適性の向上を図る

ごみ拾いイベントの実施



	ペットボトル1本	▶	300 Gommy
	ビン・カン1本	▶	200 Gommy
	タバコ1本(1g)	▶	10 Gommy
	その他のゴミ1g	▶	1 Gommy

拾ったごみにはポイントが付与され、ゲーム感覚で楽しくごみ拾いができる

ポイ捨て禁止啓発活動の実施



浅草らしいコスチュームで啓発とごみ拾いを実施

成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

- 浅草を楽しみながらのごみ拾いイベントや啓発活動について、観光客に満足いただける内容であるか検証し、今後の取組の継続を検討する

事業の成果／目標の検証結果

- イベントの満足度は**約9割**となり、今後の継続見通しが立った
- メディアにも好意的に取り上げられ、多くのPR機会が得られた
 - イベントの満足度：**約9割**
 - 環境への関心が高まった：**8割以上**
 - イベント参加者：**162名**
 - 巡回回数：**124回**

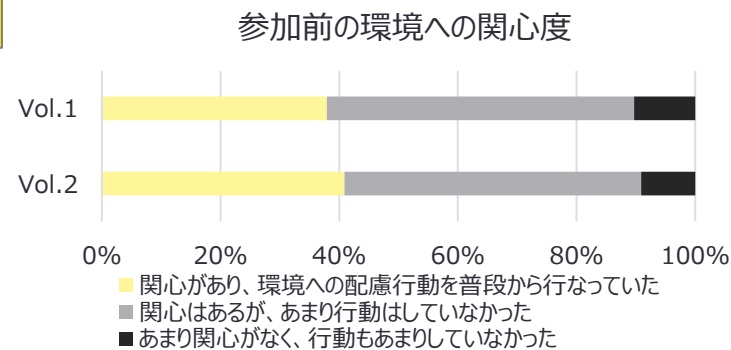
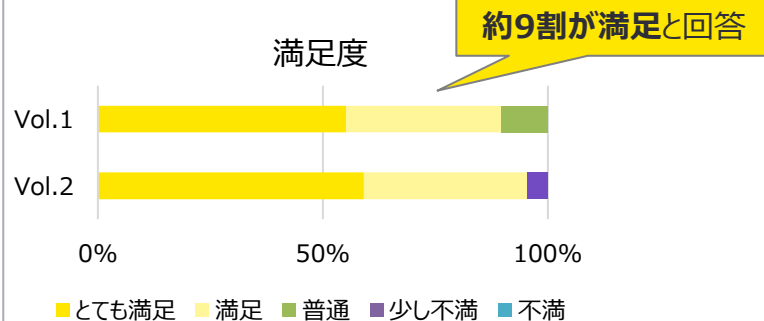
成果詳細

■ ごみ拾いイベントの開催

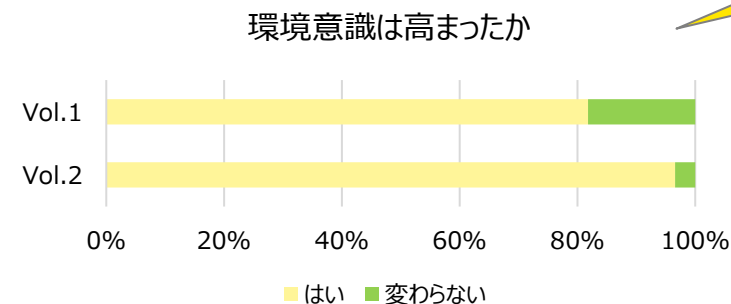
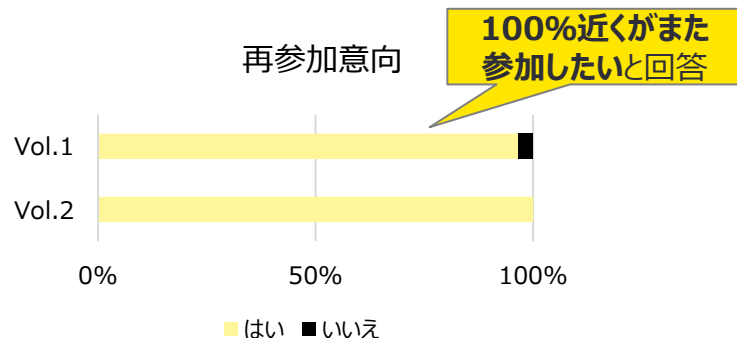
- 約9割がイベントに満足と回答し、8割以上が環境への意識が高まったと回答
- 100%近くがまた参加したいと回答し、継続開催の見通しが立った

拾ったごみの総量

ペットボトル：247本 タバコ：4.8 kg
 ビン・カン：349本 その他：30.28 kg



イベント参加前は、約4割が環境への関心がない、約9割が環境配慮行動を普段から行っていないだったが、イベント後は8割以上が環境への関心が高まったと回答



成果詳細

■ 啓発活動の実施

- ・ コスチュームが観光客の関心を引き、特に外国人観光客と小学生以下の子どもからの声掛けやコミュニケーションが多かった
- ・ 訪日外国人観光客が進んで清掃活動に協力する場面もあった



ごみ袋・リーフレット入れ



回収したごみ

項目	タバコ(本)	紙(枚)	缶(本)	ペットボトル(本)	ビン(本)
合計	19123	9443	3926	2743	106
一日平均	308	152	63	44	1.7



ユニークな取組で、外国人観光客とのコミュニケーションを創出

令和6年度取組みから見てきた課題

■ イベントの開催時期の設定

- ・ 繁忙期ではないこともあり、ごみが比較的少なく、参加者からは浅草の街は意外にも綺麗だったとの声が聞かれた
- ・ 冬の開催は体調不良によるキャンセルなどのリスクが高い

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

■ 観光客が多い時期と連携した開催

- ・ ごみが比較的多い時期、気候の安定している時期での開催
- ・ ごみ拾いイベント後に浅草の街を楽しんでもらうなど、ナイトタイムエコノミーとの連携も検討

09. 神奈川県鎌倉市・藤沢市

1. 地域概要

計画名	鎌倉市・藤沢市エリアにおけるオーバーツーリズムの未然防止・抑制による持続可能な観光推進事業
対象エリア	鎌倉市・藤沢市エリア
実施主体	鎌倉市・藤沢市
年間観光客入込数	鎌倉市 延べ約1,196万人（R4年度） 藤沢市 延べ約1,700万人（R4年度）
宿泊者数	鎌倉市 約34.4万人（R4年度） 藤沢市 約49万人（R4年度）
主な観光資源	- 社寺等の歴史的遺産 - 別荘建築物等の文化的遺産 - 海(海水浴場)や山(ハイキングコース)等の自然景観

歴史的遺産や海、山などの豊かな自然環境に恵まれたまち



自然



歴史



まち並み

● 観光ビジョン

**【鎌倉市】住んでよかった、訪れてよかった
【藤沢市】共創し選ばれ続ける観光都市へ**

- 【鎌倉市】中核となる歴史的・文化的遺産のほか、住環境、自然環境、地域の賑わいといった多様な魅力や価値を備えた「成熟した観光都市」の実現を目指す
- 【藤沢市】「共創」を主眼に置くことで、観光振興を享受する地域拡張や産業発展に対するより一層の効率的かつ効果的な促進を図り、持続可能な観光推進や観光客満足度向上を目指す

● 推進体制（協議の場）

鎌倉市・藤沢市エリアにおけるオーバーツーリズム 未然防止・抑制に向けた協議会

行政機関	事業者	住民関係者
鎌倉市	(公社)神奈川県観光協会	鎌倉小町商店会
藤沢市	(公社)鎌倉市観光協会	鎌倉表参道商店会
神奈川県	(公社)藤沢市観光協会	湘南藤沢活性化コンソーシアム
関東地方整備局	江ノ島電鉄(株)	
関東運輸局	湘南モノレール(株)	
	東日本旅客鉄道(株)横浜支社	
	京浜急行バス(株)	

2. 課題

● 主な課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 慢性的な交通混雑・渋滞	- 列車混雑や交通渋滞によりスムーズな観光ができず、鎌倉は混雑しているというイメージが生まれている - 列車の混雑や道路渋滞により、市民の日常の移動に影響	観光客・住民
2. 観光地の過度な混雑	- 大型連休や桜、紫陽花などの時期に、特定の社寺や鎌倉高校前踏切など認知度が高い場所に観光客が集中し、スムーズな観光や市民生活に影響 - 混雑が災害時の対応に影響するのではないかなど、市民から不安も聞かれる	観光客・住民
3. ごみのポイ捨て等の迷惑行為	観光客がポイ捨てしたごみ等が、まちの美観や住環境に影響	住民

1. 交通渋滞



2022年1月9日の渋滞状況

市内各所で車両通過速度が10km/h以下に

2. 観光地混雑



八幡宮前交差点の混雑

大型連休などの時期に、鎌倉駅周辺、特定の社寺、鎌倉高校前踏切など、認知度が高い場所に観光客が集中

3. ポイ捨て等の迷惑行為



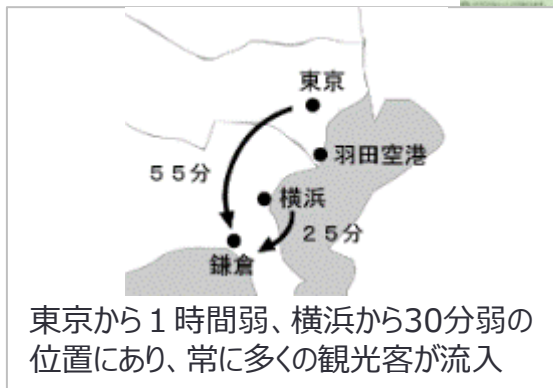
ごみのポイ捨て等の迷惑行為も発生

3. 背景・要因

主な背景・要因

1. 首都圏からのアクセスの良さ
 - ・ 首都圏からのアクセスが良く、多くの観光客が日帰りで来訪しやすい
2. 時期・場所の集中
 - ・ 大型連休や桜・紫陽花・紅葉などの時期、特定の社寺など認知度の高い場所に観光客が集中する
3. 狭い道路
 - ・ 鎌倉時代以来の旧地形が保たれているため、狭隘な道路が多い。渋滞を抜本的に解消するには道路整備や交差点の改良が必須であるが、歴史的遺産や自然環境の保全等に配慮する必要があるため難しい
4. 観光と市民の生活圏の重複
 - ・ 観光地と市民の生活圏が重複しているため、交通渋滞やごみのポイ捨てなどで、市民の不満につながりやすい

1. 首都圏からのアクセス



2. 時期・季節の集中



大型連休、桜・紫陽花・紅葉のシーズンに観光客が集中

4. 観光と市民生活圏の重複



観光客が集まる場所に住宅があるなど、観光と市民生活圏が重複

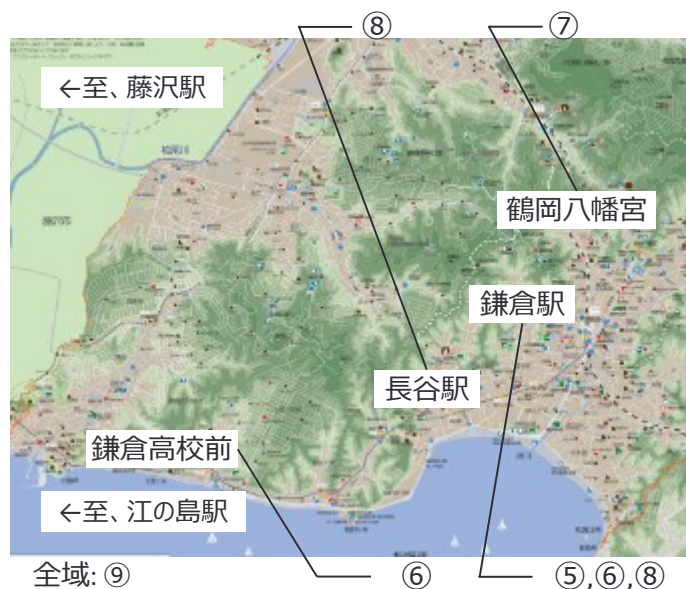
丘陵部と相模湾に囲まれた場所に市街地が広がり、道が狭い

3. 狭い道路



4. 対策の概要

- 道が狭く混雑しやすい上、特定スポットに観光客が集中。そのため、時間や場所の分散化が対策のポイントであり、混雑予測や非混雑エリアの周知を実施する
- 観光と市民の生活圏が重複するエリアが大半であることから市民の生活環境を守ることも大きな課題。そのため観光客に向けたマナー啓発や災害発生時の避難情報の事前周知を実施する
- また、大多数を占める首都圏からの観光客の行動変容も重要であり、首都圏への広告展開を実施する



分散・平準化

取組み内容

①公式ホームページ「鎌倉観光公式ガイド」の改修

- 訪日客や教育旅行向けに、定番スポット以外の魅力を旅行前段階から周知する内容を拡充し、時間・場所の分散を図る。また、災害時の避難方法などを周知するページも新設し、災害発生時における集中の回避につなげる

取組み内容

②鎌倉観光混雑マップの改修

- 従前は、2時間前までの混雑傾向を表示していたが、今回の取組みで、天気別の混雑予測機能の付加や表示箇所の追加を行い、混雑期における行動変容を促す。また、混雑データを収集し、今後の施策に活用する

取組み内容

③混雑駅における誘導員の配置による滞留解消と安全確保

- 江ノ島電鉄鎌倉駅等のホーム上に警備員を配置し、おける適切な誘導等を行うことで、電車の遅延防止やマナー向上を図る

取組み内容

④公共交通での来訪を促す広告展開（※一般型事業として実施）

- 首都圏に所在する駅等において、公共交通機関での来訪を促進する周知広告を展開することで、自動車由来の観光客による渋滞の抑制を目指す

マナー啓発

取組み内容

⑤ポイ捨て防止のマナー啓発

- 訴求力の高いデザイン・メッセージを掲載したプラスチック不使用のエコナティッシュを用いた啓発活動を行い、ポイ捨て防止のマナー向上やプラスチックごみ削減につなげる

取組み内容

⑥街頭防犯カメラ設置

- JR鎌倉駅東口付近及び江ノ島電鉄鎌倉高校前駅付近に街頭防犯カメラを設置し、存在を認知させることで、迷惑行為の防止・抑制を図る

取組み内容

⑦八幡宮交差点における交通誘導員の配置

- 歩行者信号の現示に応じ適切に歩行者を誘導することで、青信号にて進行しようとする自動車の円滑な交通を確保する

受入環境の整備

取組み内容

⑧ボランティアガイドによる滞留解消

- 混雑する紅葉時期を中心に、観光客向け案内を行うことで滞留の解消を図る

取組み内容

⑨初詣交通規制に伴う交通誘導員の配置

- 地域に流入する車両を制限することで、歩行空間の確保や交通渋滞の発生を抑制する

5. 主な取組み（詳細）

課題

- 特定の観光スポット、特定の時期や時間に観光客が集中
- 従前の「鎌倉観光混雑マップ」は、表示時点の2時間前の混雑傾向しか表示されず、観光客の行動変容を促すには充分でなかった

取組み

鎌倉観光混雑マップの改修

- 実施期間：令和6年8月～令和7年2月
- 実施主体：鎌倉市

事業内容

■ 鎌倉観光混雑マップの改修

- 混雑予測機能を追加し、天気別（晴・くもり・雨）に1週間後までの予測を表示する
- 混雑表示スポットを3カ所追加し、計10カ所（小町通り、若宮大路、長谷周辺、鎌倉駅東口周辺、鎌倉駅西口周辺、北鎌倉周辺、由比ヶ浜、浄明寺エリア、極楽寺エリア、建長寺周辺エリア）とする

【目的】

- 予測機能を天気別に表示することで、混雑を避けた来訪や分散化を促す
- スポットごとに推計した混雑データを収集・蓄積できるように改修し、いつ・どこで混雑しやすくなっているかを数値で分析できるようにすることで、データに基づいたより効果的な対策につなげる

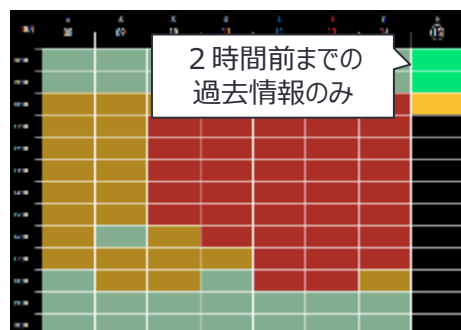
【背景】

- 観光客が集中する時期（大型連休、1月、3月～6月、11月等）・時間（休日の日中）・場所（鎌倉駅周辺、長谷エリア等）に集中しており、分散を図る必要があるが、現マップには以下の課題がある

＜現観光混雑マップの課題＞

- 1週間から2時間前までの混雑傾向（「賑わっている」、「通常の混み具合」、「ゆっくり観光できる」の三段階）を確認できるが、過去の情報のみでは行動変容を促すには不十分
- 表示箇所7カ所では観光客が求める表示スポットが充分とはいえない
- 拡大推計人数の算出データを収集、蓄積することができておらず、混雑状況の詳細分析ができていない

改修前の「鎌倉観光混雑MAP」



改修後



更に効果的な取組みとするために…

- ✓ 訪日客向けに英語表記を一部追加
- ✓ 旅行前段階からの閲覧を促すため、SNS発信や旅行代理店との連携などにより、鎌倉混雑マップの認知向上を図る

令和6年度事業の目標

A : リニューアル後の混雑マップ閲覧数の増加

B : スポットごとの拡大推計人数の算出データの収集、蓄積の構築
(本スポット以外10～15地点の人流データ等)

成果／目標の検証結果

A : 混雑マップのPV数

43,509回 (令和6年2月1日～3月10日)

→ **33,355回** (令和7年2月1日～3月10日)

B : スポットごとの拡大推計人数の実績値となる算出データを収集
(本スポット以外10～15地点の人流データ等)

成果詳細

■ 鎌倉観光混雑マップ

リニューアルのポイント

- ✓ 1週間後までの混雑予測機能の追加
- ✓ 天気別の混雑予測機能の追加
- ✓ 混雑表示スポットを10か所に増加

期待される効果

- ✓ 混雑する日時を避けた来訪
- ✓ 観光客が減少する雨の日の誘客促進
- ✓ 比較的ゆっくりと観光できる観光地への誘導・分散

比較的ゆっくりと
観光できる観光
情報発信

比較的ゆっくりと観光できるスポット



混雑表示スポットを10か所
に増加



多くの観光客で賑わっているスポット



晴れ



雨



5. 主な取組み（詳細）

課題

- ・ 外国人観光客や教育旅行者が特定スポットや時間に集中し混雑が発生
- ・ 外国人観光客へのマナー啓発不足
- ・ 災害時の観光客の混雑・混乱発生への住民の不安

取組み

鎌倉観光公式ガイドの改修

（多言語マナー啓発ウェブサイト、教育旅行向けウェブサイト、防災情報ウェブサイトの新設）

- ・ 実施期間：令和6年8月～令和7年2月
- ・ 実施主体：鎌倉市

取組み内容

■ 鎌倉観光公式ガイドの改修

- ・ 多言語ウェブサイト「VISIT KAMAKURA」を大幅リニューアルし、観光マナーの周知、啓発を目的とした「Respect Kamakura Guidelines」を掲載
- ・ 教育旅行向けウェブサイト「『いざ、鎌倉』旅のしおり」を新規掲載
- ・ 防災情報「いざという時の鎌倉」を掲載

【目的】

- ・ 外国人観光客や教育旅行者へのマナー周知、啓発強化
- ・ 比較的ゆっくりと観光できるスポットを含めたモデルコースや体験コンテンツ、日本遺産など、多様な見どころの周知による混雑緩和・分散化
- ・ 防災の心得を旅行前に周知

【背景】

- ・ 鎌倉には多くの外国人観光客や小・中・高校生を中心とした教育旅行者が来訪するが、鎌倉観光のマナーや比較的ゆっくりと観光できるスポットの周知・浸透が不足している
- ・ さらに、住民からは災害発生時の際の混雑や混乱について不安の声が上がっており、観光客にも災害リスクや避難場所等を周知することが必要
- ・ このような状況から、外国人観光客・教育旅行者向け及び防災に特化したサイトを構築し、周知・発信を強化する

鎌倉観光公式ガイド



多言語の
マナー啓発ウェブサイト



教育旅行向け
ウェブサイト



防災情報
ウェブサイト

令和6年度事業の目標

- 新規掲載したウェブサイトの閲覧者の増加により、旅行前段階からの行動変容を促す

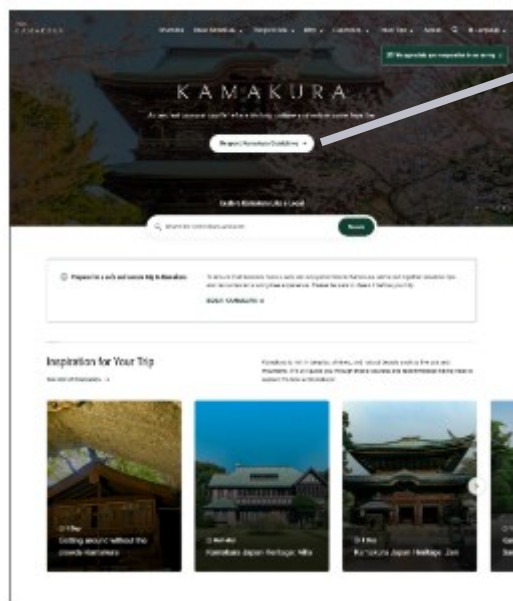
事業の成果／目標の検証結果

- VISIT KAMAKURA **1日平均132PV**（R5年度）
→多言語ウェブサイト **1日平均約272PV**（令和7年2月15日～3月14日）

成果詳細

■ 多言語サイト「VISIT KAMAKURA」

- 日本遺産や混雑緩和を意識したモデルコース、宿泊施設、各種体験、季節ごとの見どころなどの情報を集約
- マナー啓発ページは必ず見てもらえるようページトップに設定し、イラストなどで外国人旅行者にも分かりやすく伝える
- 混雑状況や観光客の思考に応じて柔軟にコンテンツを紹介できるよう、カスタマイズしやすいWEBサイトに設計（教育・災害サイトも同）



マナー周知・啓発を目的とした Respect Kamakura Guidelines



Do not take photos in dangerous locations.

混雑を避けた1日観光ルート

Example
A route to enjoy Kamakura with a mix of sightseeing and relaxation.

See more →



Recommended for winter



Things to See - Shrine & Temples
Hasedera Temple



Things to See - Shrine & Temples
Egara Tenjinsha Shrine



Things to See - Nature
Shichirigahama Beach

- マナー啓発サイトへのリンク先をトップに設定
- 外国人旅行者にも分かりやすいイラストの活用

- 混雑を避けた1日コース・半日コースなど、多様なルート紹介による分散を図る

- 季節ごとの見どころ紹介による季節の分散化を図る

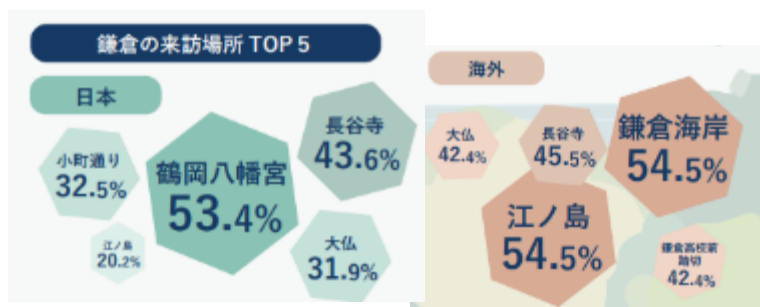
成果詳細

【鎌倉地域共創アンケートの活用】

- 多言語サイト開発にあたっては、旅行中にリアルタイムに「観光客の声」を集める鎌倉地域共創アンケート結果を活用

アンケート活用例

人気の来訪場所分析



- 外国人観光客には江の島や鎌倉海岸など海エリアの人気の高い
- 十分に認知されていないエリア（北鎌倉、二階堂、浄明寺、大町等）にもより焦点を当て、定番ルート以外のエリアのモデルコース紹介や体験アクティビティなどを取り入れながら、地域の特性や魅力を発信



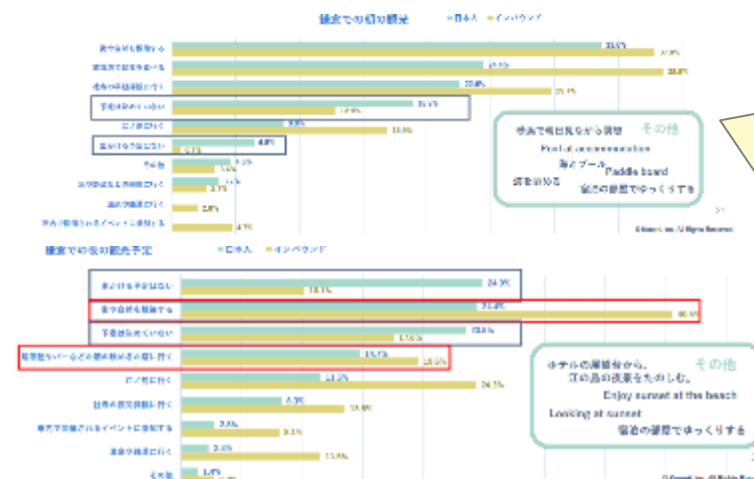
Shrine & Temples
Kaizoji Temple
Kita-Kamakura Area



Shrine & Temples
Engakuji Temple
Kita-Kamakura Area

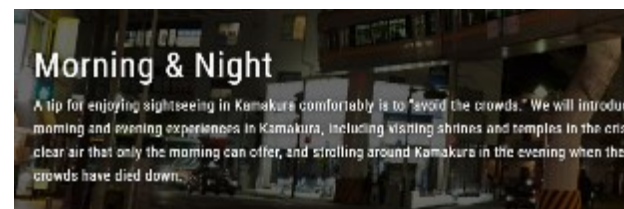
北鎌倉のコンテンツ紹介

朝夜の観光分析



外国人は「散策、早朝拝観、飲食店に行く」との回答が日本人より多い
日本人は「予定はない」との回答が多い

- 多くの観光客が「夜の飲食店」「早朝の神社巡り」などを希望
- 朝と夜の観光について、まず「情報が欲しい」との回答が最も多かった



朝と夜の観光スポット情報

成果詳細

■ 教育サイトの「『いざ、鎌倉』旅のしおり」

- 鎌倉の歴史や観光についての基礎情報、日本遺産など含めたモデルコース、神社仏閣・街中を巡る際のマナーなど、鎌倉を学びながら観光する教育旅行者に必要な情報を集約
- 定番スポットからの分散やマナー周知を図る



比較的ゆっくりと観光できるスポットを含めたモデルコース

お役立ち情報

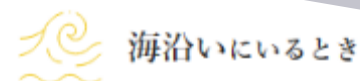
ダウンロード資料やガイド団体紹介など教育旅行に必要な情報



神社仏閣・街中巡りなどの際のマナー

■ 防災サイトの「いざという時の鎌倉」

- 鎌倉観光の際に災害が起きた場合、どのような心掛けをしておくべきか、ハザードマップ、避難所、緊急時の連絡先、鎌倉の地形の特性と起こりうる災害の情報などを旅行前に周知し、災害発生時の際の混雑や混乱を回避する



観光中に災害が発生した時にいる場所別に対応策を周知



鎌倉観光の際、持っていくべきものを周知



ハザードマップの周知

災害に役立つリンク集追加
Safety tips などを紹介

令和6年度取り組みから見てきた課題

- 令和6年度、観光混雑マップ、ホームページ（3つのサイトの新設）の2つの情報発信ツールを改修
- 今後、閲覧者を増やしていくことで、比較的ゆつくりと観光できる日時・場所への誘導及び同エリアへの分散化、マナー改善などを図る

1 観光混雑マップへの流入の仕組みの強化

- 現在、ホームページと観光混雑マップが別のサイトとなっているため、ホームページを見た観光客が観光混雑マップに流入しにくかった
- ホームページ（スマホ版）が見にくく、使いにくい状況

2 マップ・サイトの周知・浸透

- 観光混雑マップ、多言語サイト、教育サイト、災害サイトともに改修・新設したばかりであるため、周知浸透を強化し、観光客の行動変容に繋げることが必要

3 観光消費額の向上

- 鎌倉は日帰りが多く、観光消費額が少ないことが課題
- 宿泊客アンケートでは、観光の予定を決めていない、出かける予定はないという回答が多く、宿泊と周遊の少なさが観光消費額が上がらない要因の1つと考えられる

4 情報発信の即時性

- 観光客向けに周知したい情報（イベント情報や注意喚起など）について即時に多言語翻訳することが難しい状況

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- 鎌倉観光公式ガイド本体を改修し、観光混雑マップと連携させるとともに、宿泊観光に繋がるコンテンツの増加など、観光客の動向やニーズにあわせ、柔軟にサイトを更新していく

1 鎌倉観光公式ガイドの改修・マップとの連携

- 鎌倉観光公式ガイドを全面的に改修し、観光混雑マップを連動させる
- スマホ版のUX・UIを高めることでホームページ及び混雑マップの閲覧者を増加させる

2 事業者等を巻き込んだ周知

- 修学旅行関係の旅行会社、観光協会の会員事業者を通じた発信などを実施
- サイト構築はオーストラリア大使館に紹介し、注目いただくなど、大使館を通じた海外発信なども検討

3 宿泊観光に繋がるコンテンツの充実

- 多言語サイトでは、宿泊情報を集約したページを設置
- 今後、朝・夜の鎌倉の観光コンテンツ、着地型コンテンツなど、宿泊滞在の促進、観光消費額の繋がるコンテンツを充実させ、ホームページ等により発信する

4 多言語でのリアルタイム発信の仕組み導入

- 観光客向けに多言語でリアルタイム発信できる仕組みの導入を検討

5. 主な取組み（詳細）

課題

マイカーでの来訪者等による慢性的な交通渋滞が発生

取組み

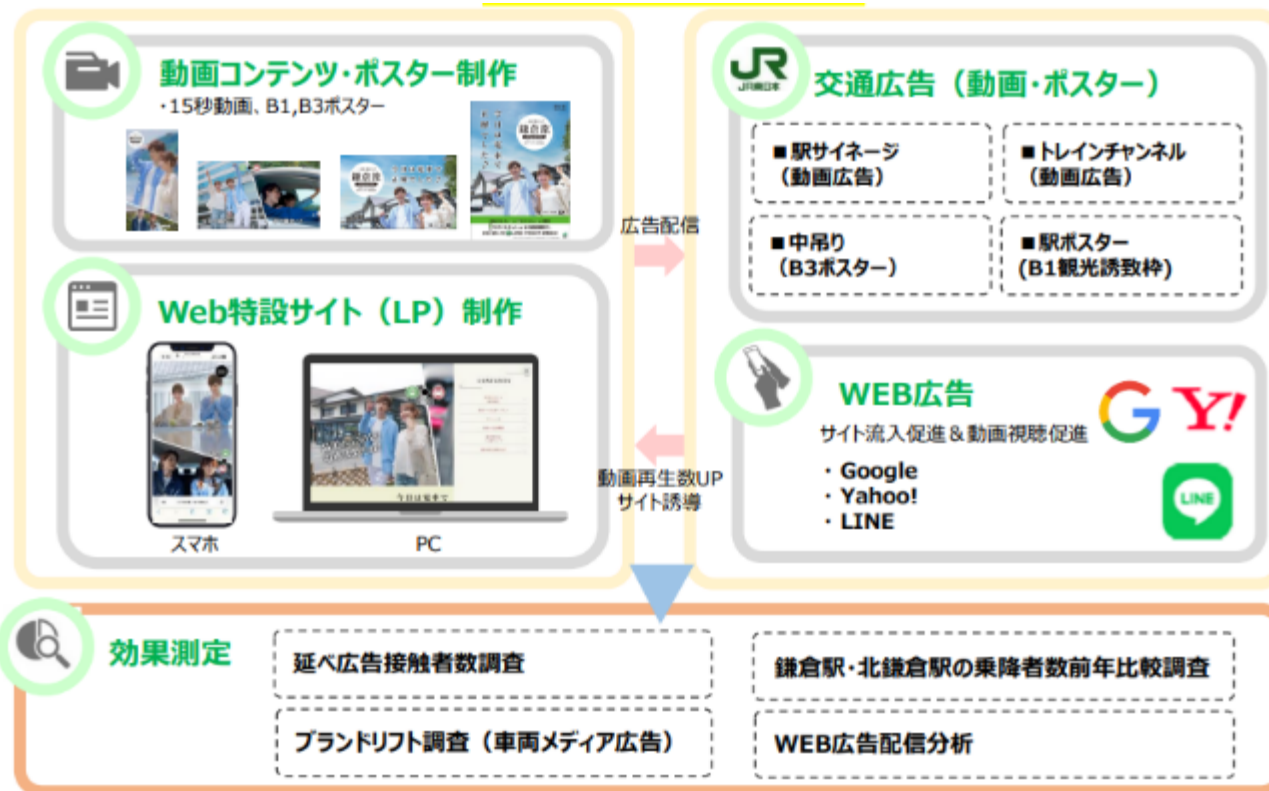
首都圏に所在する駅等への広告展開〈一般型〉

- ・ 実施期間：令和6年10月～令和7年1月
- ・ 実施主体：鎌倉市

事業内容

■ 広告展開事業の概要

- ・ 首都圏の観光客に公共交通機関利用を旅行前に周知することで、マイカー利用を抑制する
1. **交通広告**：駅及び電車内サインージ掲出／駅及び電車にポスター掲出（東京、品川、横浜、吉祥寺等）
 2. **WEB広告**：Google・Yahoo！リスティング広告、LINE広告
 3. **特設サイト**：キャンペーン特設サイトのを期間限定で設け、フリー切符などお得な情報を掲載



令和6年度事業の目標

- 広告を活用した公共交通機関での来訪促進策の有効性を検証する

事業の成果／目標の検証結果

- 広告を活用した来訪促進について一定の効果が得られた
＜アンケート結果＞
 - ▶ 広告接触後、**約8割**に行動変容が生じたと回答
 - ▶ **約34%**が鎌倉観光に電車で行ったと回答

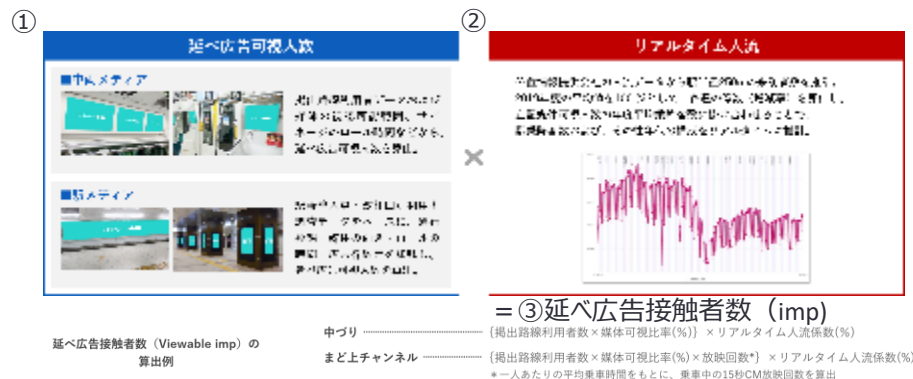
成果詳細

1. 交通広告

- 広告接触後、**78.4%の人の意識・行動に変化がみられる**など、主要駅への広告掲出は、公共交通機関利用への効果が一定あったと考えられる

広告実施期間中の延べ広告接触者数の可視化

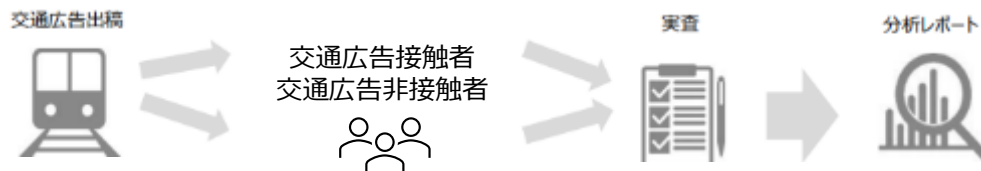
- ①2019年度掲出路線の利用者データ、媒体の視認可能な範囲、サイネージロール時間等から、延べ広告可視人数を算出、②スマホアプリの位置情報をもとに算定した人流係数を掛け合わせリアルタイム化、③延べ広告接触者数（imp）として広告効果を計測



JR品川駅、埼京線・横須賀線・総武線快速車内広告
約465万インプレッション

ブランドリフト調査

広告に「接触した方」と「接触していない方」にアンケート調査を実施し、「認知」「興味関心」「広告喚起」「行動変容」などの効果を分析



広告接触後、行動変容に繋がった人は**78.4%**※1

- ・ 鎌倉観光に電車で行った：34.2%
- ・ 鎌倉観光に電車で行こうと思った：29.7%
- ・ インターネットで検索した：30.6%

※1 全体から「特に行動していない」の回答者21.6%を引いた割合

※2 複数回答のため各回答者割合を合計すると100%以上となる

成果詳細

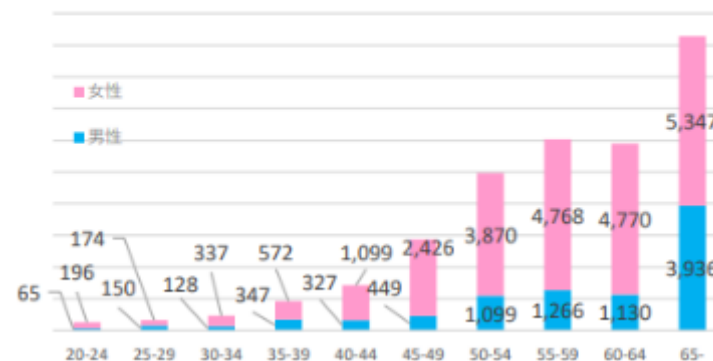
2. 3. WEB広告・WEBサイト

- Googleリスティング広告はクリック率ベースでは「群馬県」「栃木県」「茨城県」「千葉県」「埼玉県」「愛知県」の反応が高く、LINE広告では65歳以上のクリック数が多いなど、広告によって地域・属性の反応差が見られた

エリア別	表示回数	クリック数	クリック率
合計	23,524	2,140	9.10%
東京都	8,208	661	8.05%
神奈川県	7,373	638	8.65%
埼玉県	2,152	229	10.64%
千葉県	2,039	229	11.23%
愛知県	1,032	107	10.37%
静岡県	904	80	8.85%
茨城県	890	90	10.11%
栃木県	494	51	10.32%
群馬県	432	55	12.73%

群馬県、栃木県、茨城県、千葉県、埼玉県、愛知県など遠方のマイカー利用層のクリック率が比較的高い

年齢別クリック数（男女比）



65歳以上のLINE広告のクリック数が多い

令和6年度の取組みから見てきた課題

■ 女性など一部の層には効果が低い

- 女性は、広告接触者の方が電車利用促進の認知度が低い、電車で行きたいという意向が低いなど、今回の広告の効果が表れなかった
- 鎌倉への電車来訪メリットを打ち出せていなかったことなどが考えられる

※ブランドリフト調査結果から

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

■ ターゲットにあわせた広告の展開

- 女性の関心を引くお得な切符情報を交えた広告など、属性に応じた広告の展開を検討
- 広告への反応が良かった地域や年齢層によって、広告表現を分ける等の工夫をすることにより、より精度の高い情報発信を実施する

5. 主な取組み（詳細）

課題	混雑による改札外へ乗車列の発生・近隣への影響 列車の乗降時間を要することによる遅延の発生	取組み	混雑駅における誘導員の配置による滞留解消と安全確保 ・ 実施期間：令和6年7月～令和7年2月 ・ 実施主体：江ノ島電鉄株式会社
----	---	-----	---

事業内容		
■ 混雑駅への警備員配置		
・ 繁忙期における、藤沢、長谷、鎌倉の主要各駅およびイベント開催時における混雑駅に警備員を配置		
【目的】		
・ 乗車列整備、電車との触車防止案内、改札利用のご案内及び交通マナー啓発やホーム上における適切な誘導を実施する		
【背景】		
・ 駅構内が混雑し改札外へ乗車列が出来ることによる近隣への影響、および列車の乗降時間を要することによる遅延が発生。混雑が集中する狭い場所ではスムーズな案内・誘導が不可欠であることから、スポット的に警備員を配置する		
イベント	配置駅	事業概要
鎌倉花火大会 2024年7月17日	藤沢駅、鎌倉高校前駅、稲村ヶ崎駅、長谷駅、由比ヶ浜駅、和田塚駅、鎌倉駅	合計31名
夏季休暇期間	由比ヶ浜駅	13日間各日1名、計13名配置
江の島花火大会 2024年7～8月	鎌倉高校前駅	4日間各日1名、計4名配置
3連休 2024年8月～ 2025年2月	長谷駅	21日間各日1名、計21名配置
年末年始 2025年1月	鎌倉高校前駅、長谷駅、鎌倉駅	5日間各日2名、計22名配置

<参考> 由比ヶ浜駅警備員配置状況

夏季休暇期間中に警備員を配置し、乗車列整備、電車との触車防止案内、改札利用のご案内を実施



令和6年度事業の目標	事業の成果／目標の検証結果
混雑駅における警備員の配置による滞留解消と安全確保	- 多客による遅延発生日数が減少し、滞留解消と安全確保に一定の効果が得られた - 多客による遅延発生日数：133日（2018年度） →11日（2025年1月末時点）92%減

成果詳細		
各イベントについて、ダイヤ調整などとも組み合わせて警備員を配置。運転休止や遅延はほぼ発生せず、スポット的に配置する有効性を確認できた		
イベント	対策実施前（2019年）	対策実施後（2024年）
鎌倉花火大会 2024年7月17日	混雑により大幅な列車遅延が発生し、 上下各5本の列車が運転休止	列車遅延は発生したものの 運転休止の実施はなかった
夏季休暇期間	列車遅延22日	列車遅延0日
江の島花火大会 2024年7～8月	列車遅延なし	列車遅延なし
3連休 2024年8月～ 2025年2月	3連休27日（9回） 列車遅延21日 運転休止17日	3連休12日（4回） 列車遅延3日 運転休止0日
年末年始 2025年1月	列車遅延3日 運転休止3日	列車遅延1日 運転休止0日

令和6年度 of 取組みから見てきた課題	令和7年度以降にに取り組むべきと考えること
- 外国人観光客急増への対応 - 鎌倉高校前駅で、春節の時期に混雑し、利用客からホームが歩けないとのご意見が発生	- 警備員を配置増・キャッシュレス化 - インバウンド増により、警備員の配置を再考 - QRコード決済の導入を検討し、磁気券を減らすことで改札付近、狭い券売機前の混雑改善を図る

10. 神奈川県箱根町

1. 地域概要

計画名	箱根エリアにおける混雑平準化および道路渋滞緩和推進事業
対象エリア	神奈川県箱根町
実施主体	神奈川県足柄下郡箱根町
年間観光客入込数	約2,000万人
宿泊者数	600万泊・人
主な観光資源	- 大涌谷、芦ノ湖 - 箱根十七湯 - 箱根寄木細工 - 豊富な観光施設（300を超える宿泊施設、美術館等）



箱根十七湯

● 観光ビジョン

交流から発見が生まれる国際文化観光地 箱根

- 豊かな自然と伝統を継承しながら、暮らす人・働く人と訪れる人にとっていつも新鮮な発見がある観光地の形成を目指す

箱根DMO（一般財団法人箱根町観光協会） 基本ビジョン

- 「観光地そのものを経営する」という視点のもと、地域観光消費の拡大・発展を目的とし、2018年に設立。
- 「箱根町HOT21観光プラン基本計画」に基づき、「官民一体 ALL箱根」で地域課題に取り組んでいる

● 推進体制（協議の場）

箱根町観光交通総合対策協議会

- 既存の会議体を活用

行政機関	事業者	住民関係者
箱根町	箱根DMO	太田氏 (箱根吟遊)
関東運輸局	小田急箱根	
	箱根登山バス	
	伊豆箱根バス	
	箱根 モビリティサービス	

2. 課題

● 主な課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 慢性的な交通渋滞	・ 深刻な道路渋滞により路線バスの定時性が著しく損なわれ、ピーク時には一部迂回運行をせざるを得ない状況である ・ 加えて、渋滞による長時間のアイドリングによりほぼ全体が富士箱根伊豆国立公園に含まれている箱根の生態系への影響も懸念される	観光客・住民・観光資源
2. 観光地の過度な混雑	・ 土日祝日や大型連休、3大ピーク（年末年始、GW、お盆）に加えて箱根のピークである11月の紅葉シーズンに観光客が集中している ・ 特に、大涌谷や箱根神社などの人気スポットに観光客が集中し、スムーズな観光や住環境に影響	観光客・住民

1.交通渋滞



大涌谷行の道路渋滞の様子

両スポットともにアクセル路は片側一車線かつ駐車場が限られているため過度な渋滞が起こりやすい状況となっている

2.観光地混雑



大涌谷行のロープウェイの混雑



箱根湯本駅前の混雑

土日祝日や大型連休、年末年始、GW、お盆に加え、11月の紅葉シーズンは主要観光スポットや交通の要所にて過度な混雑が発生している

3. 背景・要因

● 課題の背景・要因

主な背景・要因

1. 狭い道路

- 箱根は国立公園であり、道路も広くなくほとんどの道路が片側一車線、国道1号においてはバスを追い越せない構造であるため、**さばける交通容量が需要に対し小さい**。さらに、これを迂回するルートも無い。
- 箱根湯本近辺においては、横断歩道や国道1号に通じる路地からの車と歩行者の集中も、夕方時間帯を中心とした渋滞の要因となっている。

2. 首都圏からの流入

- 首都圏からの**アクセスが良く**、大勢の観光客が来訪する
- 神奈川・東京・埼玉で**全体の8割近く**を占め、リピーターも多い

3. 時期・場所の集中

- 大型連休や紅葉シーズンなどの時期に、大涌谷など**認知度の高い場所に観光客が偏っている**
- ゴールデンルートが形成されており、**観光客の動線が画一的である**

1. 片側1車線の道路



山間部のため道路が一本かつ片側一車線であり混雑しやすい

2. 首都圏からの流入



東京から90～120分、横浜から約40分ほどの位置にあり、常に大勢の観光客が流入



3. 箱根ゴールデンコースへの集中



- メイン観光ルートとして箱根ゴールデンコース（登山鉄道→ケーブルカー→ロープウェイ→海賊船→バス）が形成され、観光客が集中する傾向にある

1. 箱根湯本駅を起点とする交通渋滞の発生



- 国道1号線は箱根新道分岐後は迂回ルートがなく、箱根湯本駅付近の横断歩道での歩行者の横断や、路地からの車の集中により、上下線ともに渋滞が発生している

4. 対策の概要

- 国内外からの来訪者増加により、特定の期間・時間に道路、交通機関、観光スポット、飲食店などで混雑が発生し、観光客の不満要素の不動の第1位となっており、満足度向上が課題
- 上記を踏まえ、既存会議体である箱根町観光交通総合対策協議会にて対策を検討
- 交通渋滞に関しては、公共交通機関の利用促進や駐車場の分散化などを図る。交通機関においては、主に事業者側の受入環境整備（①～④）を実施
- 時期・場所の集中に関しては、観光客の分散・平準化を図る取組み（⑤～⑪）やロープウェイの事前予約システム導入（⑫）など、複数の取組みを実施する



受入環境の整備・増強

取組み 背景

①キャリーケース配送簡易伝票システムの導入

- 大きなキャリーケースを持ったまま観光する外国人が多く、周遊性の低下、バス車内の乗車スペース圧迫や運行への影響、ひいては道路渋滞などの要因となっている

内容

- 東京と京都間の観光地であるため、県外も含めた宿泊施設間の配送による手ぶら観光を実現し、車内混雑・渋滞の緩和、フロントスタッフの負担軽減を図る

取組み 背景

②路線バス車内のラゲージスペースの整備

- キャリーケースを置かれてしまい座席を利用できない、通路をキャリーケースが塞ぎ乗降に時間がかかる、カーブや急勾配の多い道路を運行中にキャリーケースが動いてしまい車内事故につながるといった事象が発生

内容

- バス車内にラゲージスペースを設置し、乗車効率の低下防止や車内事故の回避を図る

取組み 背景

③タクシー乗り場における外国人旅行者向け情報案内ポーター配置

- 訪日客がタクシー乗り場で行先に迷い、配車効率下がっている
- 案内ポーターを設置することで、タクシー乗り場付近での立ち止まりによる混雑を防ぐ

取組み 背景

④タクシーへの携帯型翻訳機導入によるコミュニケーション円滑化

- 乗務員と訪日客とのコミュニケーションがうまくとれず、発車までに時間がかかる。また、混雑時の代替訪問先の提案等をにも支障
- 携帯型翻訳機を導入、コミュニケーションの円滑化を図る

内容

観光客の分散・平準化

取組み

⑤, ⑥日本政府観光局(JNTO)、OTA等を活用した閑散期宿泊の情報発信

背景

- 平日と土休日の繁閑差が大きく、繁忙期はスポットや公共交通機関の混雑、道路渋滞が発生する一方、閑散期はキャパシティに余裕がある

内容

- 日本政府観光局（JNTO）やオンライン・トラベル・エージェンシー（OTA）と連携し、平日限定プラン等を作り、旅行前段階からの発信を図る

取組み

⑦「箱根観光デジタルマップ」の活用促進プロモーション

背景

- 旅客の行動パターンが単一的で、旅客が集中し混雑するスポットや道路がある

内容

- 混雑のリアルタイム情報を取得できるデジタルマップ利用を促進、行動変容を促す

4. 対策の概要

- 国内外からの来訪者増加により、特定の期間・時間に道路、交通機関、観光スポット、飲食店などで混雑が発生し、観光客の不満要素の不動の第1位となっており、満足度向上が課題
- 上記を踏まえ、既存会議体である箱根町観光交通総合対策協議会にて対策を検討
- 交通渋滞に関しては、公共交通機関の利用促進や駐車場の分散化などを図る。交通機関においては、主に事業者側の受入環境整備（①～④）を実施
- 時期・場所の集中に関しては、観光客の分散・平準化を図る取組み（⑤～⑪）やロープウェイの事前予約システム導入（⑫）など、複数の取組みを実施する



観光客の分散・平準化

取組み	⑧, ⑨大涌谷渋滞情報看板の更新、大涌谷三叉路誘導員配置実施
背景	・マイカー客が一本道に入ってしまう、身動きがとれなくなることで、渋滞を生じている
内容	・渋滞情報や空き駐車場等への案内を行うことで、渋滞緩和を図る
取組み	⑩「はこねカーシェア」利用促進プロモーション及び移動情報分析
背景	・車で訪れる来訪者が多く、昼前後には箱根湯本商店街周辺を起点に下り線が渋滞し、夕方上り線が渋滞する
内容	・域内へは公共交通機関、域内移動はカーシェアを利用するモーダルシフトの利用を促進することで域内流入車両を減らし、渋滞の緩和を図る ・「はこねカーシェア」利用者のGPSデータを収集し、利用者の行動パターンを分析することでステーションの拡大や次の渋滞対策の打ち手を検討する
取組み	⑪箱根神社周辺渋滞解消のためのパーク＆シッフの推進
背景	・マイカー来訪者向けの情報が不足しており、年末年始には参拝客の駐車場待ち渋滞が顕著になる
内容	・渋滞情報の看板設置や空き駐車場等への案内を行うことで、渋滞緩和を図る

需要の適切な管理

取組み	⑫箱根登山鉄道（ロープウェイ）における事前予約システムの構築
背景	・箱根ロープウェイおよび箱根登山ケーブルカーの結節駅にて待ち時間が発生
内容	・混雑の緩和のため、事前予約システムを導入、かつ予約可能件数に上限を設定

マナー啓発

取組み	⑬, ⑭パンフレット及びWEBによるバスの乗り方や箱根の周遊方法の周知
背景	・訪日客がバスの乗り方や箱根の周遊の仕方を理解できておらず、滞留することで混雑が発生したり、文化の違いにより地域住民の不満が募っている
内容	・訪日客向けにバスの乗り方や周遊方法、マナー啓発を行う

地域住民と協業した観光振興

取組み	⑮地域の小学生と協働したEVタクシーラッピング施工
背景	・地域の子供たちに基幹産業である観光を理解してもらう取組みが不十分であるため、就職を期に町外へ住まいを移すことで人口減少が顕著になっている
内容	・地域の子供たちが観光事業へ親しみを持つ機会を創出する ・子供たちの絵でラッピングしたEVタクシーの走行により、マナー啓発の効果を高める

5. 主な取組み（詳細）

課題

- 主に訪日客が大きなキャリーケースを持ったまま移動することで周遊性が低下しているほか、公共交通機関や歩道で他者の快適な観光を妨げている

取組み

キャリーケース配送サービス体制整備

（宿泊施設→次の宿泊施設/空港など）

- 実施期間：令和6年11月～令和7年1月
- 実施主体：箱根DMO

事業内容

■ キャリーケース配送サービス体制整備

- 宿泊施設から次の宿泊施設（箱根外も含む）や空港などへのキャリーケースを配送する際のデジタル伝票システムを整備する

【背景・目的】

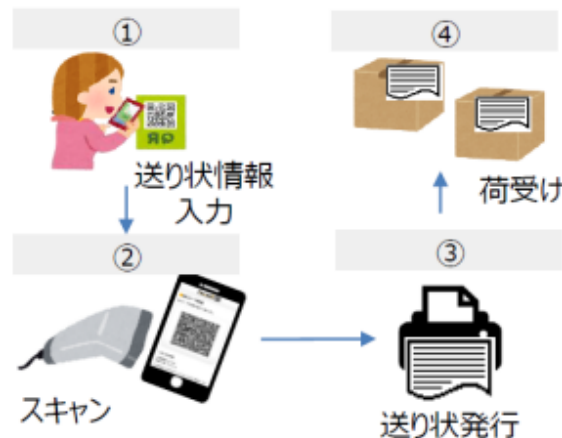
- 箱根町では主に訪日客が移動時に大きなキャリーケースを持っていることで、①周遊性の低下②公共交通機関の乗車スペースが圧迫され乗車効率が悪化③路線バスでは乗降に時間を要し、定時運行への影響や停車時間の長期化により交通渋滞などが起きている
- この状況に対し、箱根登山バス(株)が実施している駅⇄宿間の配送サービスに加え、箱根町内の宿から宿への当日配送サービスを実施してきた。過年度事業では、1つの宿泊施設だけでなく複数の宿泊施設へ宿泊する旅行者や次の目的地へ行く旅行者がサービス対象外となり効果が限定的となった
- 本事業の追加により、母国語での伝票入力をシステムで完結することによって配送サービスの利用を促進し、旅行者の快適な観光を支援するとともに公共交通機関や歩道で発生する問題の緩和を図る

現状



- バスや登山電車、ロープウェイ等にキャリーケースを持ったまま乗車し、周遊している

事業イメージ



- 箱根エリアの参画施設において、訪日外国人旅行者が簡単に利用できるデジタル送り状発行システム（スマート Cat日本語英語対応）の導入
- フロントの従業員の工数も削減
- 手ぶらでの観光により、本人及び周囲の人がストレスを軽減させ周遊させる

令和6年度事業の目標

A：手ぶら観光の推進

B：従業員業務負担の低減

事業の成果／目標の検証結果

A：都市間利用を含む手ぶら観光サービスの利用が一定程度進んだ

- ▶ 参画施設：**23施設**
- ▶ サービス利用者：**206名**、うち**8割が訪日客**
- ▶ サービス利用数：**260個**（令和5年度11月～令和6年1月）
→ **456個**（令和6年11月～令和7年1月）

B：従業員業務負担を低減

- ▶ 従業員アンケートで業務負担低減したという回答：**33.3%**

成果詳細

<手ぶら観光の推進>

- ・ 令和6年11月8日～令和7年1月31日の間に、**利用者206名、発送荷物456個の利用あり**。利用者のうち**訪日外国人旅行者の比率は80%**
- ・ **箱根→京都が42%、箱根→東京が32%**を占め、町内だけではなく次の目的地までの新幹線等におけるキャリーケース持ち運び削減にも寄与している
- ・ **訪日客の次の目的地を宿泊施設等が把握できる**など副次的な効果がある

<従業員の業務負担の低減>

- ・ 宿泊施設の従業員向けアンケートで、**業務負担が低減した**との回答は**33.3%**に留まった
- ・ 要因としては、大部分はシステム化されたものの、依然として**施設側で帳票を手書きしなければならない部分が残っている**ことが挙げられる

令和6年度取り組みから見えてきた課題

- ・ 配送サービスにおけるサービス体制の構築により取扱い件数が増加するなど一定の成果が出ているが、訪問者数比ではまだ低い割合に留まっており、さらなる促進が必要
- ・ 従業員の業務負担軽減

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

【訪日客向け】

- ・ 本サービスに関する訪日客の認知度は上がってきているため、取り組みを計測し、オペレーションの中で浮上する課題を解決していく
- ・ 日本政府観光局(JNTO)やJR等との連携により、本サービスについての広報をより充実させることを構想中

【箱根町内向け】

- ・ 地域内の施設における本システムの導入促進に取り組む

5. 主な取組み（詳細）

課題

- 通路をキャリーケースがふさいでしまい乗降に時間を要する
- 座席に荷物が置かれ、着座できない
- キャリーケースが動いてしまい車内事故につながる

取組み

路線バスのラゲージスペースの整備

- 実施期間：令和6年8月～令和7年2月
- 実施主体：箱根登山バス株式会社

事業内容

■ 路線バスのラゲージスペースの整備

- ラゲージスペースをバスに整備

【目的】

- ①運転士がキャリーケースに対応する時間の削減による定時運行率の向上②乗車率の向上③車内事故の未然防止を図る

整備前



ラゲージスペース整備後



令和6年度事業の目標

A：バスの定時運行率の向上

事業の成果／目標の検証結果

A:運行所要時間の短縮が一定程度確認された

- ▶ 訪日外国人旅行者の乗降が多い「大芝」から「元箱根港」バス停
通過時間：**2分弱の短縮（7分21秒→5分38秒）**

成果詳細

- ・ バス車内にキャリーケースなどを置く荷物スペース整備することで乗車率の向上と車内事故の未然防止に寄与
- ・ 運転士がキャリーケースに対応する時間の削減による定時運行率の向上
- ・ 「大芝」から「元箱根港」バス停通過時間 荷物置き場なしの車両と比較して、2分近い短縮に寄与した

訪日外国人旅行者の乗降が多い「大芝」から「元箱根港」バス停の通過時間

●荷物置き場なし

大芝ー箱根神社入口	3 : 0 0
箱根神社入口ー元箱根港	4 : 2 1
合計	7 : 2 1

●荷物置き場あり

大芝ー箱根神社入口	2 : 5 0
箱根神社入口ー元箱根港	2 : 4 8
合計	5 : 3 8

令和6年度取り組みから見てきた課題

- ・ ラゲージ置き場整備の効果が一定程度確認できたため、同路線や同様に訪日外国人旅行者の利用が多い路線での導入を進めることが必要。

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- ・ 箱根登山バス及び他のバス会社（伊豆箱根バス）に今回の成果を基に投資検討を協議

5. 主な取組み（詳細）

課題

- 箱根ロープウェイ駅で長時間の待ち時間が発生

取組み

箱根登山鉄道（ロープウェイ）における事前予約システムの改修

- 実施期間：令和6年11月
- 実施主体：株式会社小田急箱根

事業内容

■ 箱根登山鉄道（ロープウェイ）における事前予約システムの改修

- 事前予約システムの導入（時間指定の仕様を追加）
- 時間単位での予約可能件数の上限設定

【背景・目的】

- 繁忙期には箱根ロープウェイ駅にて長時間の待ち時間が発生、待ち列に並んでいる旅客は満足度が低下するほか、経済消費につなげていない
- 事前予約制を導入し、予約可能件数の上限を設けることにより、分散化を図る。また、乗車までの待ち時間を周辺観光等に活用してもらうことで、域内消費活動を促進させる

従前：利用日のみ指定し予約可能

デジタル箱根ロープウェイ 往復乗車券

利用開始日 2024.05.17 ~ 利用終了日 2024.05.18

往復乗車券

事前予約システム導入後：利用日及び時間（15分枠）を指定し予約可能

時間選択

日付 2024/11/09 予約可能時間 10:00~15:00

※予約可能時間は早雲山駅からの乗車のみです。
当日は、混雑が予想されますのでご予約いただく際には時間に余裕をもってお願いいたします。
※ご乗車には、別途乗車券が必要です。

予約枠	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
00~15分	-	-	○ 110	○ 120	○ 118	○ 113	○ 110	-	-	-
15~30分	-	-	○ 116	○ 113	○ 120	○ 120	○ 117	-	-	-
30~45分	-	-	○ 117	○ 117	○ 120	○ 120	○ 118	-	-	-
45~60分	-	-	○ 120	○ 117	○ 120	○ 109	○ 118	-	-	-

○...予約空きあり △...予約空きわずか ×...予約空きなし

戻る 予約開始

※予約システムは多言語（日・英・仏・韓・簡体字・繁体字）対応

成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

- ・ ロープウェイ待ち時間の短縮

事業の成果／目標の検証結果

- ・ ロープウェイ待ち時間の10分短縮
 - ▶ 繁忙期の同曜日平均待ち時間（13時－14時）：
40分（令和5年11月） → 30分（令和6年11月）

成果詳細

- ・ 利用旅客がピーク時を避け、オフピーク時間帯に分散化されたことにより、**最大待ち時間が25%低減され、最大30分程**になった。
- ・ また、乗車待機列が短縮されたことにより待合スペースでの過密状態が緩和され、旅客のストレスや不満が減少された。
- ・ 予約時間までの空いた時間で、箱根ケーブルカーや箱根ロープウェイでの消費行動が促進された。

【参考：2024年11月実施データ】

早雲山駅 予約率12% 乗車率*32%

桃源台駅 予約率8% 乗車率*39%

*乗車率は事前予約をした方のうち、実際に予約した時間に乗車した方の割合

令和6年度取り組みから見てきた課題

- ・ 事前予約システムの導入により、繁忙期の乗車待ち時間が短縮するなど一定の効果が確認できた一方で、予約率や予約者の乗車率は低い割合に留まった。
- ・ 事前予約の乗客とそれ以外の乗客が乗り場で混在するなど、オペレーション面での課題も明らかになったため、少ない現業係員のみでスムーズな対応ができるよう対応が必要。

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- ・ **予約率の向上**
 - ▶ 事前予約の周知（箱根ナビ掲出方法、其他媒体での発信）
- ・ 予約した乗客への円滑な対応
 - ▶ 優先改札ゲート設置の検討、フットサインの導入など
- ・ **団体旅客対応の検討**
 - ▶ 大涌谷駅での事前予約または整理券、実証実験実施

5. 主な取組み（詳細）

課題

- 大涌谷周辺の道路渋滞

取組み

大涌谷三叉路案内員配置/大涌谷渋滞情報看板の更新

- 実施期間：令和6年11月16日（土）、17日（日）、23日（土）、24日（日）
- 実施主体：箱根DMO

事業内容

大涌谷三叉路案内員配置

- 11月の繁忙期（16日（土）、17日（日）、23日（土）、24日（日））をターゲットに、大涌谷三叉路周辺に案内員を配置。案内員は、車両のナンバー等を把握しつつ周辺駐車場のスタッフと連携し、どれだけ行動変容が起こったかの検証ができるよう情報収集も行う
- 大涌谷三叉路案内スタッフ：
 - ✓ 大涌谷園地までの所要時間案内（渋滞情報案内）
 - ✓ 周辺駐車場（ロープウェイアクセス含む）案内
 - ✓ 案内車両のナンバー（どこから来たか）チェック
- 各駅駐車場案内スタッフ：
 - ✓ 大涌谷三叉路案内時に配布したリーフレットの回収

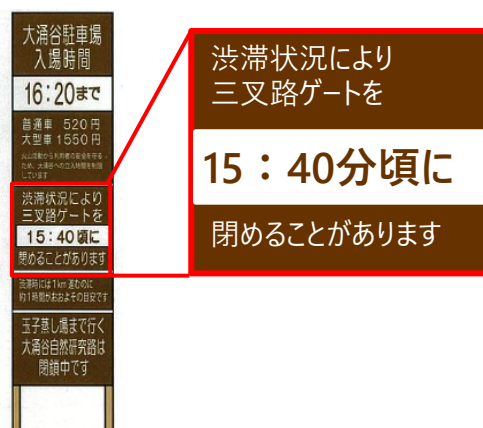
実績：大涌谷三叉路誘導員配置



大涌谷渋滞情報看板の更新

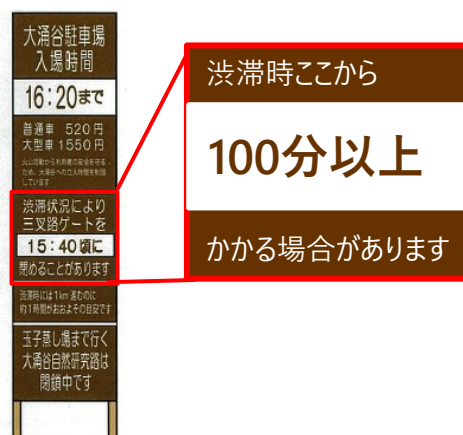
- 下記のとおり、渋滞情報の看板を更新

Before：ゲートの閉鎖時間を周知



渋滞状況により
三叉路ゲートを
15:40分頃に
閉めることがあります

After（実績）：駐車場への所要時間を注意喚起



渋滞時ここから
100分以上
かかる場合があります

看板設置位置図（全体図） ●設置場所：9ヶ所



2023年実績

- A : 大涌谷駐車場待ち時間短縮
- B : バスの運行所要時間減

事業の成果／目標の検証結果

- A : 大涌谷駐車場待ち時間短縮に寄与
- ▶ 11月16日(土) : 65分 *11:30~12:30 前年比▲55分
 - ▶ 11月17日(日) : 70分 *11:30~12:30 同 ▲30分
 - ▶ 11月23日(土) : 60分 *10:30~11:30 同 ▲20分
 - ▶ 11月24日(日) : 70分 *10:30~11:30 同 ▲10分
- B : バスの運行所要時間の短縮 4分15秒短縮
- ▶ 伊豆箱根バス「上湯」-「固有林前」所要時間 : 6:49 →2:34

成果詳細

- 伊豆箱根バス「上湯」から「固有林前」のバス通過時間についても4分と大幅に減少した（通常時の通過時間は1分）。
- 大涌谷駐車場待ち時間も前年度と比較して減少傾向にある
- パンフレットの配布枚数は前年比減少したものの、パンフレットの回収数は増加した。この結果は大涌谷三叉路周辺を通行した観光客の行動変容を促すことができたことを示すものであり、本事業が大涌谷三叉路の渋滞緩和に一定数寄与したといえる。

●配布リーフレット



●リーフレット配布・回収実績

日付	天候		配布数		回収数			回収率	
					本年		前年		
	本年	前年	本年	前年	場所毎	合計	合計	本年	前年
11月16日	曇	晴 (強風)	103	341	姥子：14 湖尻： 0	14	0	13.6%	0.0%
11月17日	霧/晴	晴	173	451	姥子：36 湖尻：20	56	45	32.4%	10.0%
11月23日	雲	晴	270	391	姥子：87 湖尻： 1	88	51	32.6%	13.0%
11月24日	晴	曇	418	169	姥子：108 湖尻： 12	120	48	28.7%	28.4%

令和6年度の取組みから見えてきた課題

- 前年に比べ、大涌谷駐車場の待ち時間は短縮傾向を示している。
 - しかしながら、この効果は駐車料金の変更や観光客数の減少といった複数の要因が複合的に作用した結果と考えられるため、今後の変化を継続的にモニタリングしていくことが必要である
- ※月間箱根町入込観光客数（11月）箱根DMO 観光診断書データより
2023年 : 1,534,270 / 2024年 : 1,364,226 (▲11.1%)

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

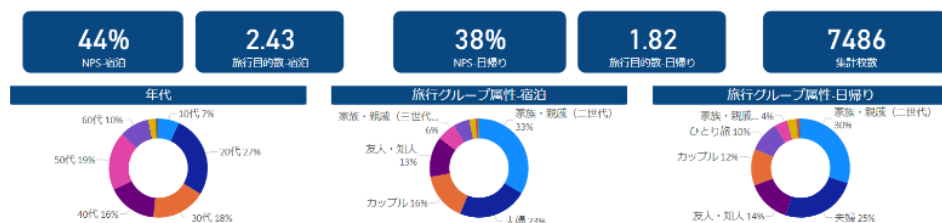
- 継続的にモニタリング

箱根DMOの取組み（推進体制）

- 箱根町では、即時アンケートの結果を基に事業を検討、実施しており、今回のオーバーツーリズム対策事業も同様である
- 同時多発的に事業を実施するために、箱根町内でプロジェクトチームを作り、日々進捗管理を行っている

2018年度より実施している即時アンケート（抜粋）

箱根DMO観光診断書 国内版



県別満足度・旅行目的数の平均	箱根	箱根	箱根	箱根	箱根	箱根	箱根	箱根
満足度	箱根	箱根	箱根	箱根	箱根	箱根	箱根	箱根
神奈川県	44.2%	21,767	4,437	1,837	7,776	2,741	2,461	3,110
東京都	37.8%	23,539	12,240	2,739	11,381	4,602	2,511	2,226
埼玉県	17.0%	22,304	6,192	3,543	12,178	6,125	2,453	2,440
千葉県	6.53%	22,702	8,756	3,414	13,850	1,922,588	2,415	2,413
静岡県	3.61%	21,117	1,636,505	12,884				2,402
愛知県	2.86%	25,307	8,093	3,882				2,413
大阪府	1.91%	22,225	8,776	5,369				2,411
茨城県	1.42%	20,462	6,308	3,540				2,411
回答しない	0.91%	20,606	5,636	4,802				2,377
鳥取県	0.69%	2,041	8,213	4,907				2,366
群馬県	0.66%	19,776	6,790	3,667				2,116
北海道	0.66%	26,042	7,167	6,966				2,116
栃木県	0.57%	20,454	5,596	3,056				2,112

改善を求める点

- 道路渋滞
- 公共交通の混雑

利用した交通機関

- 車51%

情報収集もと

- SNS
- 旅行サイト

利用した交通機関	箱根	日帰り
車	51%	63%
電車	15%	30%
バス	3%	2%
その他	1%	4%

箱根への山数	箱根	日帰り
1回	22%	12%
2回	13%	8%
3回	12%	7%
4回	6%	6%
5回以上	19%	17%
未回答	28%	31%

箱根の宿泊回数	箱根	日帰り
箱根観光情報ポータルサイト	3%	1%
箱根観光情報ポータルサイト	3%	2%

箱根の旅行における情報収集	箱根	日帰り
SNS	31%	39%
旅行サイト	21%	8%
家族・友人・知人	17%	17%
時にしていない	32%	22%
その他情報ポータルページ	15%	15%
ガイドブック	11%	6%
箱根観光情報ポータルサイト	7%	5%
パンフレット	7%	6%
テレビ番組	4%	6%
新聞・雑誌	3%	2%
観光案内所	3%	3%
箱根観光情報ポータルサイト	3%	2%
「箱根山」	3%	1%
箱根観光情報ポータルサイト	3%	2%

箱根の旅行で改善を求める点	箱根	日帰り
道路渋滞	36%	36%
公共交通の混雑	21%	16%
公共交通の混雑	10%	19%
クレジットカードが使えない	11%	9%
気候・天候	10%	6%
景観整備が不足している	5%	6%
食べ物・飲み物	5%	5%
観光ガイド（案内）が不足している	4%	3%
ショッピング	4%	3%
サイン・案内表示が不足している	4%	3%
天気	3%	3%
ペットと泊まれる家・観光スポットが少ない	3%	4%

訪れた観光地	箱根	日帰り
箱根	0%	0%
箱根駅	0%	0%
Hakone Shrine	0%	17%
これからの	0%	22%
なし	0%	15%
小田原・元箱根	0%	6%
小田原駅	0%	5%
大森山	0%	0%
彫刻の森美術館	0%	0%
湖の花道ホテル	0%	0%

箱根町の推進体制

- 箱根DMOが事務局となり、官民一体となって7つのプロジェクトに取り組んでおり、プロジェクト毎に週1～月1の頻度で定例会、全体で月1回の戦略推進委員会により進捗などを共有している

プロジェクト	内容
混雑対策（交通インフラ）	観光DXでの取組にも立脚し、データによる効果検証を含めた需要の分散・平準化対策を、箱根エリア全体を対象に実施する
人材不足	コロナ禍を経て人材の質・量両面での不足が深刻化している中、短期的・長期的両軸で箱根エリアの人材を活性化させる
ユニバーサルツーリズム	高齢者や子連れ、障がいを持つ方など、誰でも気兼ねなく安心して過ごせる観光地を目指す
サステナブルツーリズム	持続可能な観光地「箱根」の実現にむけ、パートナー企業と連携し自然環境の保全と観光資源を活用した取り組みを推進する
観光DX	店舗運営のDX化で効率的なリソース活用を支援するとともに、ICT技術を活用し旅行者の周遊利便性向上を目指す
防災対策	地域一体となって自然災害時や感染症発生時等の対応を行い、観光客・地域住民・従業員の安全を確保する
ゼロエミッション	パートナー企業と連携し、箱根町内の食品残渣を飼料化／バイオガス化する資源循環システムや食品リサイクル・ループを構築

11. 新潟県佐渡市

1. 地域概要

計画名	持続可能な佐渡観光の推進に向けた受入環境整備事業
対象エリア	佐渡島
実施主体	佐渡市
年間観光客入込数	約44万人(R5年)
年間延べ宿泊者数	約32万人(R5年)
主な観光資源	史跡佐渡金山、きらりうむ佐渡、鶴子银山、西三川砂金山、西三川ゴールドパーク、トキの森公園、たらい舟



佐渡金山 道遊の割戸



矢島経島 たらい舟

● 観光ビジョン

地域コミュニティの活性化
～持続可能な地域創生～
～観光と暮らしの連動～

- ・ 自然・文化と調和した観光スタイルの形成
- ・ 地域内外が連携した高付加価値観光の推進
- ・ 国内外に適用する「佐渡（SADO）」のブランディング
- ・ データに基づいたマーケティングに立脚した観光政策の立案

● 推進体制（協議の場）

佐渡市地域公共交通活性化協議会

まちづくりとの連携・一体性を確保しながら交通ネットワークの構築やサービス向上を図り、多様な主体が支える持続可能な公共交通の実現に向けた佐渡市地域公共交通計画策定に向けて検討を進める

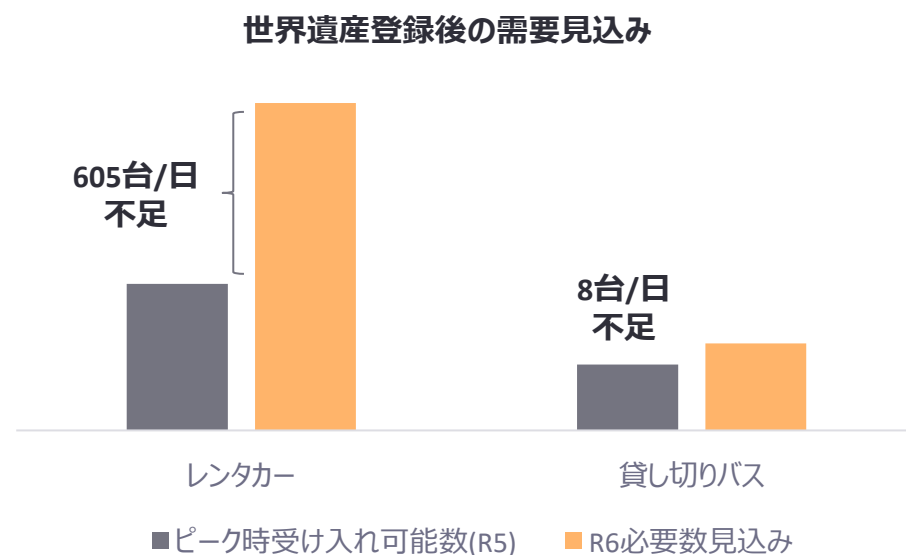
行政機関	事業者	住民関係者
北陸信越運輸局	新潟交通佐渡(株)	佐渡市民生委員協議会
新潟県交通政策局	佐渡地区ハイヤー協会	佐渡市社会福祉協議会
佐渡地域振興局	佐渡汽船(株)	佐渡市女性団体連結協議会
佐渡警察署	一般社団法人佐渡観光交流機構	

2. 課題

● 主な課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 二次交通不足による観光客の満足度低下	- バスやタクシーの台数や運転手が不足しており、二次交通が十分でない - 特に世界遺産登録により観光客数が増加しており、繁忙期はレンタカーも足りていない - 二次交通不足は、観光客の佐渡観光に対する満足度低下に繋がる可能性がある	観光客
2. 渋滞や混雑の発生	- 今回世界遺産に登録された鶴子銀山や西三川砂金山周辺は、片側一車線道路であるため、マイカー利用が増えると渋滞等が発生する可能性がある - 島の店舗は限られているため、急増する観光客に効率的に対応していかなければ、混雑や行列が発生する可能性がある	住民・観光客
3. 住民や地域資源への影響	- 世界遺産登録を機に観光スポットとして注目される笹川集落等は、観光客急増による渋滞発生などにより、住民生活に影響が出る可能性がある - 観光客が急増すると、世界文化遺産の保全に影響が出る可能性がある	住民・地域資源

1. 二次交通が不十分



2. 渋滞や混雑の発生



世界文化遺産の構成文化財
鶴子銀山にある唯一の駐車場

3. 背景・要因

● 課題の背景・要因

主な背景・要因

- | | |
|-------------------|--|
| 1. 世界遺産登録による観光客急増 | <ul style="list-style-type: none">世界遺産登録により、観光客が増加しているが受け入れ環境の整備が追いついていないバスやタクシーの運転手や車両、飲食店の人手も不足しているため、急増する観光客を受け入れられない多くの飲食店がキャッシュレスに対応できていなかったり、解説がないと理解が難しい観光スポットが存在する |
| 2. マイカー移動が主流の観光地 | <ul style="list-style-type: none">公共交通機関が脆弱であり、多くの観光スポットへの移動手段がマイカーに限定されやすいマイカー利用が多いため交通渋滞が発生しやすい |
| 3. 生活エリアと観光資源の重複 | <ul style="list-style-type: none">佐渡は住民が作り上げてきた文化が観光資源になっているため、生活環境と観光客の動線が重複しやすい笹川集落など住民の居住地近くへの来訪機会が増えており、渋滞や地域の大切にしてきた資源への影響の問題が起きやすい |

1. 世界遺産登録による観光客急増



- 世界遺産登録後、9月の観光入込客数は昨年と比較し1割増加
- 10月以降は団体旅行の予約が好調（10月は37.1%増、11月は49.5%増）

3. 生活エリアと観光資源の重複



世界文化遺産の構成資産「西三川砂金山」

- 西三川砂金山で財を成した笹川集落は、現在も住民が住んでおり、観光資源（集落内にもある）と密接している

4. 対策の概要

- 世界文化遺産登録により増加が見込まれる来訪者に対応するため、二次交通の充実を図る(取組み①～③)
- 域内事業者(特に飲食店)においてキャッシュレス決済システムを導入する(取組み④)
- 島内の貸切バスが不足しているため、島外からの団体バス輸送に対して補助金による支援を行う



受入環境の整備・増強

取組み

①パークアンドライドの推進

内容

- 世界文化遺産登録により来訪者の増加が見込まれ、島内二次交通の不足と入場施設の駐車場満車による待機渋滞が懸念される。また時期限定で春から初夏に集中しているトレッキングや花鑑賞に関しては、公共交通が整備されておらず、駐車場の収容能力が十分ではない
- 港直行のライナーバスを走らせることで、二次交通の充実を図る
- 世界遺産ライナーバス：両津港とガイダンス施設きらりうむ佐渡間のバス運行
- ネイチャーライナーバス：両津港とドンデン高原、金北山、大野亀を結ぶバス運行

取組み

②相川地区内への人流増加対策（相川周遊バス）

内容

- 世界文化遺産登録された場合、来訪者の増加が見込まれ、島内二次交通の不足と入場施設の駐車場満車による待機渋滞が懸念される
- 相川地区において周遊バスを運行する

取組み

③世界文化遺産構成資産への乗用車の流入抑制(ガイドツアー)

内容

- 西川砂金山や鶴子銀山への道路が片側一車線であり、渋滞等が発生する可能性があるため乗用車に限らない周遊観光のアクセス手段を造成する

取組み

④域内事業者におけるキャッシュレス導入

内容

- 世界遺産登録による来訪者増加に対応するため、域内事業者（特に飲食店）においてキャッシュレス決済システムを導入する

需要の適切な管理

取組み

⑤貸切バス利用団体需要の維持（貸切バス不足支援）

内容

- 島内の貸切バスが不足しており、佐渡観光の機会を損失しているため、貸切バス航送料1/2支援、バス乗務員経費支援を行う

5. 主な取組み（詳細）

課題

- ・ 世界遺産登録による観光客の急増に対応
- ・ 二次交通不足による観光客の満足度低下

取組み

相川地区内への人流増加対策（相川周遊バス）

- ・ 実施期間：令和6年4月～令和7年2月
- ・ 実施主体：佐渡市

事業内容

■ 周遊バスの概要

- ・ ガイダンス施設「きらりうむ佐渡」⇔佐渡金山を周遊するバスを運行
- ・ 運行車両：中型バスもしくはジャンボタクシー
- ・ 料金：無料
- ・ 運航本数：1日5便
- ・ 運行期間：令和6年4月26日(金)～10月31日(木)の189日間

【背景・目的】

- ・ 佐渡金山がある場所は、居住エリアが近く、道路は狭小となっている。また、佐渡金山の駐車場は台数に限られるため、世界文化遺産登録効果により満車となる可能性がある。
- ・ 人流増加対策として、佐渡金山への自家用車、レンタカーの乗り入れを制限し、交通渋滞を未然に防止するため、周遊バスを運行する

バスルート



相川周遊バス
専用バス停



リーフレット

時刻表 Schedule

佐渡金山 行					
きらりうむ佐渡	10:00	11:00	12:30	13:30	14:30
相川 (教養館前バス停)	10:05	11:05	12:35	13:35	14:35
相川博物館前 (佐渡市立図書館前)	10:07	11:07	12:37	13:37	14:37
佐渡金山行バス	10:08	11:08	12:38	13:38	14:38
佐渡金山	10:10	11:10	12:40	13:40	14:40
きらりうむ佐渡 行					
佐渡金山	10:20	11:20	12:50	13:50	14:50
佐渡金山行バス	10:22	11:22	12:52	13:52	14:52
相川博物館前 (佐渡市立図書館前)	10:24	11:24	12:54	13:54	14:54
相川 (教養館前バス停)	10:30	11:30	13:00	14:00	15:00
きらりうむ佐渡	10:32	11:32	13:02	14:02	15:02

運行時刻表

成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

- 周遊バスを実証運行し、相川地区内への人流増加対策への有効性を検証。
- 指標として、利用人数（時期、時間帯別）、満足度を測定
- アンケートを実施し、次年度以降の運行に活かす

事業の成果／目標の検証結果

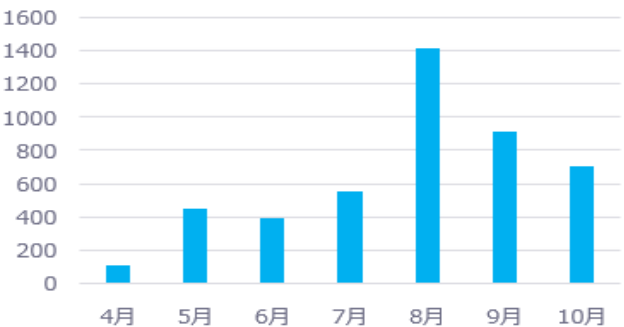
- 利用実績及び利用者の声から、一定の有効性あり
- 一方で、時期や時間帯により利用に偏りがあるなど、効率化などを検討していく必要があることが明らかとなった
(利用実績)
 - 周遊バスの利用者数 計**4,537名**
 - 特に8月の夏休み期間の需要が多い
 - 時間帯により利用が少ない便も存在

成果詳細

周遊バス実証運行の結果

- 周遊バスの利用者は計4,537名が
- 全利用者のうち、約30%が8月に集中しており、夏休み期間の需要が多い
- 中型バス（定員30名弱）とジャンボタクシー（定員8名）を併用していたが、**繁忙期以外はジャンボタクシーで対応可能な**利用人数であることが明らかとなった
- 利用が少ない時間帯が存在した**（10:20佐渡金山発、13:30及び14:30きらりうむ発）

『相川周遊バス』月別乗車実績（人）



30%が8月に集中

アンケート結果

- ①バス運行本数：「1便の増便希望」との回答が過半数を占めた
- ②利用者の声
 - バスの本数が少なくて困っていたので、助かった
 - 時間通りにきて、無料で素晴らしかった
 - レンタカーなしで佐渡金山の観光を楽しめて、助かった
 - 他の観光施設へ向かうバスが少ないので、設定して欲しい

月	合計	1便(往)		1便(復)		2便(往)		2便(復)		3便(往)		3便(復)		4便(往)		4便(復)		5便(往)		5便(復)	
		きらりうむ 発 10:00	佐渡金山 発 10:20	きらりうむ 発 11:00	佐渡金山 発 11:20	きらりうむ 発 12:30	佐渡金山 発 12:50	きらりうむ 発 13:30	佐渡金山 発 13:50	きらりうむ 発 14:30	佐渡金山 発 14:50	きらりうむ 発 10:00	佐渡金山 発 10:20	きらりうむ 発 11:00	佐渡金山 発 11:20	きらりうむ 発 12:30	佐渡金山 発 12:50	きらりうむ 発 13:30	佐渡金山 発 13:50	きらりうむ 発 14:30	佐渡金山 発 14:50
4月	109	29	18	7	9	13	7	0	9	4	13	29	18	7	9	13	7	0	9	4	13
5月	450	75	25	17	70	29	83	20	54	21	56	75	25	17	70	29	83	20	54	21	56
6月	391	55	14	18	79	36	44	24	37	17	67	55	14	18	79	36	44	24	37	17	67
7月	558	82	18	33	98	54	87	34	43	25	84	82	18	33	98	54	87	34	43	25	84
8月	1,417	220	36	106	194	133	272	51	115	90	200	220	36	106	194	133	272	51	115	90	200
9月	910	132	37	55	150	88	135	42	95	53	123	132	37	55	150	88	135	42	95	53	123
10月	702	141	24	38	140	70	103	35	54	24	73	141	24	38	140	70	103	35	54	24	73
	4,537	734	172	274	740	423	731	206	407	234	616	734	172	274	740	423	731	206	407	234	616

一部の時間帯の需要が少ない

5. 主な取組み（詳細）

課題

- ・ 世界遺産登録による観光客の急増に対応
- ・ 二次交通不足による観光客の満足度低下

取組み

パークアンドライドの推進（ライナーバス）

- ・ 実施期間：令和6年4月～令和7年2月
- ・ 実施主体：佐渡市

事業内容

A：世界遺産ライナーバス

- ・ 料金（片道）1,000円
- ・ 両津港とガイダンス施設「きらりうむ佐渡」を結ぶ
- ・ 運行期間：7/26～8/31
- ・ 運行本数：3便/日（両津港発2便、きらりうむ佐渡発1便）

B：ネイチャーライナー（3路線）

- ・ 料金
 - ・ ドンデン高原（料金:2,000円）
 - ・ 金北山（料金:1,700円）
 - ・ 大野亀（料金:1,500円）
- ・ 路線
 - ・ 両津港とドンデン高原、金北山、大野亀を結ぶ3路線
- ・ 運行期間
 - ・ 4/27～5/31（ドンデン高原、金北山）
 - ・ 5/25～6/9「土・日のみ」（大野亀）
- ・ 運行本数
 - ・ ドンデン高原 4便/日（両津港発2便、ドンデン高原発2便）
 - ・ 金北山 1便/日
 - ・ 大野亀 2便/日（両津港発1便、大野亀発1便）

【背景・目的】

- ・ 世界文化遺産登録を機に、マイカー来訪による渋滞などが懸念される
- ・ 島内二次交通対策及び入場施設の駐車場待機渋滞を緩和するため、観光地までの直行バスを運行する（パーク＆ライドの推進）



バスルート



令和6年度事業の目標

A：世界遺産ライナーバス

- ・ 両津港とガイド施設「きらりうむ佐渡」を結ぶ「世界遺産ライナーバス」を実証運行し、ニーズや利便性を確認する

B：ネイチャーライナーバス

- ・ 従前から実施していた「ネイチャーライナーバス」のさらなる利用拡大を図るため、関係者および利用者にヒアリング調査を実施する

事業の成果／目標の検証結果

A：世界遺産ライナーバス

- ・ **利用者数は計154名と想定（3,330名）よりも少ない結果**となった。今後、観光客ニーズを踏まえルートなどを再検証する

B：ネイチャーライナーバス

- ・ **利用者数は計1,998名と花鑑賞やトレッキングを目的**に来島される方に対して、**利便性を確保**することができた

成果詳細

世界遺産ライナーバスの結果

【実証運行の結果】

- ・ 利用者数は計154名で、想定ほど需要が無かった
- ・ 要因としては、**路線バスとライナーバスで所要時間があまり変わらなかったこと**、また「きらりうむ佐渡」の認知度が低く、**直接、佐渡金山に向かうことのできる路線バスを選択する人が多かった**ためと考えられる

【アンケート結果】

- ① 乗車料金：1,000円までなら利用と過半数が回答
- ② 運行本数：1本以上増便希望と過半数が回答
- ③ 利用者の声：
 - ・ 路線バスより快適
 - ・ 事前に旅行計画が立てやすい
 - ・ 復路が少なく、船とのアクセスが悪い
 - ・ 路線バス、観光バス、周遊バスと混在しており、港についてから乗り場や時間が分かりにくい
 - ・ 路線バスは金山に直通で行けるが、このバスは行けないので安くするか金山直通にしてほしい
 - ・ 現金が足りず乗れなかったので、事前決済やキャッシュレスを導入して欲しい

ネイチャーライナーバスの結果

【実証運行の結果】

- ・ 利用者数は計1,998名で、花鑑賞やトレッキングを目的に来島される方に対して、**利便性を確保**することができた

【ヒアリング結果】

- ① 利用者の声
 - ・ 一部のバス停においてランドマークから数100m離れており、バス停が見つけづらい
 - ・ 運行の事前周知の開始時期を早めてほしい
- ② 関係者ヒアリング結果
 - ・ 一部の利用者において、バス停の位置がわからず出発時間に間に合わないという事例があった
 - ・ 乗車料金値上げに対しては、利用者にも一定程度の理解が見られ、否定的な意見は聞かれなかった

令和6年度取り組みから見えてきた課題

1 周遊バスの運用の効率化

- 10:20佐渡金山発、13:30及び14:30きらりうむ発等、利用人数の少ない時間帯が存在した
- 繁忙期である8月の夏休みシーズン以外はジャンボタクシーで問題ないことが明らかになった

2 観光客ニーズを踏まえた世界遺産ライナーバスの運用見直し

- 「きらりうむ佐渡」発着にしたが、両津港から直接、「史跡佐渡金山」に向かう需要の方が高かった
- 「きらりうむ佐渡」の認知度が低く、直接、佐渡金山に向かうことのできる路線バスを選択する人が多かった
- 路線バスと比べ、10分の時間短縮にしかならず、差別化に繋がりにくかった

3 周遊バス及びライナーバスの利用促進

- 周遊バスやライナーバスの存在を知らない方も存在した
- 8月の繁忙期は駐車場が満車になる日もあり、レンタカーではなく公共交通バスの利用を促していく必要がある

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

1 ダイアの再考及びジャンボタクシーの活用

- 最終便の往路（佐渡金山発）を1便増やす
- ハイシーズンのみ中型バスを利用し、その他はジャンボタクシーを活用することで効率化を図り、無料運行を継続できるようにする
- 令和7年度の運行期間については、検討中

2 観光需要の高い場所を含めた定期観光バスの運行

- 「きらりうむ佐渡」に立ち寄り、理解を深めてから金山を訪問できるよう、「史跡 佐渡金山」等の観光需要の高い場所を含めた定期観光バスの運行を検討
- ネイチャーライナーバスについては、路線バスがないため継続して実施予定だが、花鑑賞やトレッキングの利用者を伸ばすことや乗車賃の値上げを検討

3 旅行前段階からの周知

- 旅行前段階からの周知を積極的に行い利用者数を増やす
- 佐渡観光交流機構が運用しているSNSで早めの情報発信を行う（特にGW前や夏休みシーズン前に重点的に周知）
- 佐渡汽船内や新潟港での効果的な発信を検討

12. 山梨県

1. 地域概要

計画名	富士山吉田口における安全登山環境確保に関する事業計画
対象エリア	富士山吉田口
実施主体	山梨県
登山者数 (開山期間中)	約14万人
主な観光資源	富士山（富士山吉田口登山道、下山道、御中道）



● 観光ビジョン

集中する登山者に対し、数量規制を行うことで、登山者の混雑緩和、弾丸登山、軽装登山や迷惑行為等の防止、地域一体のオーバーツーリズム解消を目指す

● 推進体制（協議の場）

富士山における適正利用推進協議会

- 富士山の適正利用に係る関係者で情報を共有し、必要な事業について協議を行うことで連携した施策の推進を図ることにより、富士山における安全かつ快適な利用の推進及び自然環境等の普及啓発に資するとともに、富士山における自然環境の保全、良好な風致景観の確保及び形成に寄与することを目的としている

行政機関		事業者 住民関係者
山梨県	環境省	富士山吉田口 旅館組合
静岡県	防衛省	富士山五合目 観光協会
文化庁	関係市町村	
林野庁	国土交通省	

2. 課題

● 主な課題

主な現状・問題点		影響を受けている主な対象
1. 過度な混雑	• 特定の日・時間帯・箇所に著しい混雑が発生	地域
2. 危険な登山	• 弾丸登山（五合目を夜間に出発し、山小屋に泊まらず夜通しで一気に富士山頂を目指す0泊2日の登山形態）を行う登山者が存在 • 軽装登山（登山に必要な装備を持たない登山）、強行登山（準備不足、悪天候でも登山を強行する等）を行う登山者が存在	地域
3. マナー・ルール違反	• 登山道：ごみの投棄、登山道以外への立ち入り、落書き、屋外排せつ等が発生 • 山小屋：予約せずに当日飛び込みで山小屋に来る、予約したにも関わらず当日連絡せずに来ない、騒音の発生等 • トイレ：異物の投棄やごみの放置、協力金の不払い等 • その他：夜間・荒天時に山小屋施設やトイレを占有する、その他指導員のマナー・ルール指導や注意に従わない等	地域、他の登山者

過度な混雑



危険な登山



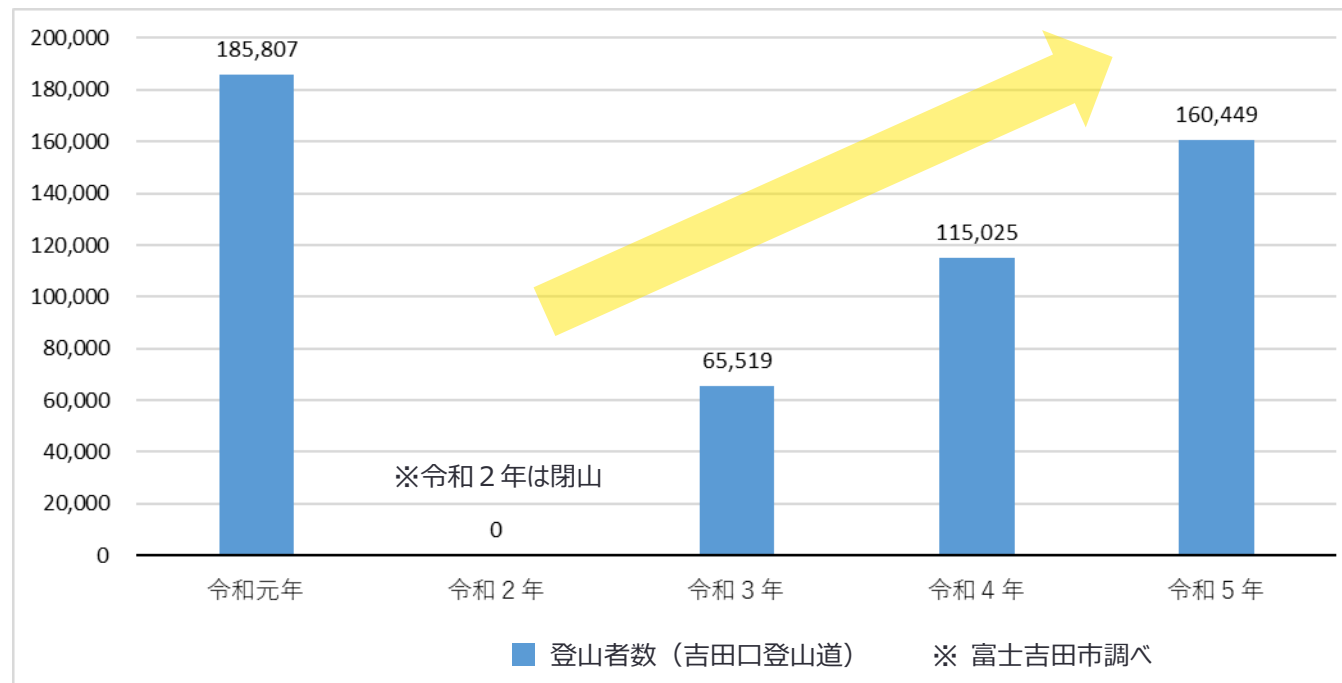
マナー・ルール違反



3. 背景・要因

主な背景・要因

1. コロナ禍明け後の登山者の急増
 - ・ 富士山が世界文化遺産に登録されてから10周年の節目を迎えるとともに、コロナ禍による制限が緩和されたことから、特に令和5年度より富士登山者が増加
 - ・ 登山道は1本道で狭く、ご来光の時間帯等、特定の時間帯に多くの登山者が頂上を目指すため、頂上付近で過度な混雑が発生
2. 登山者のマナーの悪化
 - ・ 夜間に休息を取らずに一気に山頂を目指す弾丸登山者が増加
 - ・ 登山道での仮眠や寒さから逃れるためにトイレにこもるなど、登山者のマナーが悪化
3. 登山規制についての要望書
 - ・ 地元市町村や富士山の関係団体から登山規制についての要望書が提出



4. 対策の概要

① 登山者が1日あたり4,000人を超える場合、通行を規制

② 夜間（午後4時～翌日午前3時）の吉田口五合目からの通行を規制

③ 山梨県側の通行料（施設使用料）の支払いを義務化

※ただし、①・②については、山小屋宿泊者は規制の対象外

受入環境の整備・増強

取組み① 富士山登山規制事業

目的 登山道の混雑緩和と弾丸登山防止のための取り組みを実施

取組み② 富士山登山安全誘導事業

目的 登山者のスムーズな流れを作り出し、事故や道迷いを防止するため、安全誘導員を配置

取組み③ 富士山登山巡回指導事業

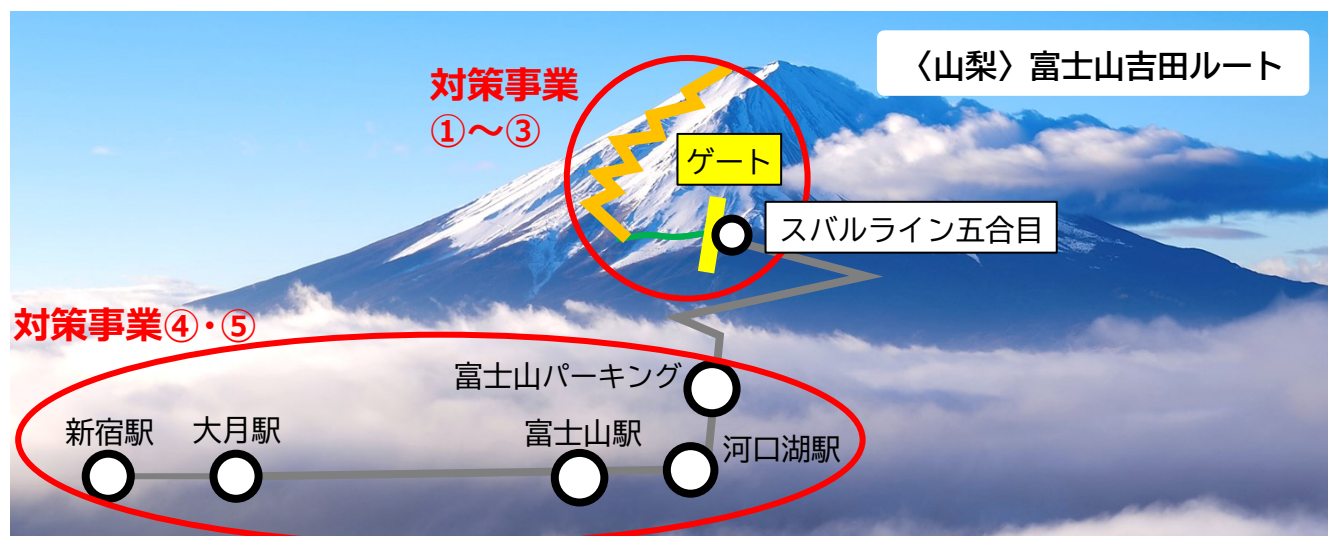
目的 登山者の迷惑行為等を防止し、富士山の環境保全を図るため、巡回指導員を配置

取組み④ 登山規制広報事業

目的 富士山の登山規制について国内外に周知するため、広報活動を実施

取組み⑤ 県有登下山道規制周知業務

目的 規制に関する周知を行うため、交通結節点（富士山駅、河口湖駅、富士山パーキング）に周知スタッフを配備



5. 主な取組み（詳細）

課題

特定の日・時間帯・箇所に著しい混雑が発生
危険な登山など、マナー・ルール違反の発生

取組み

A：登山規制の導入（対策事業①～③）
B：広報・周知の実施（対策事業④～⑤）

事業内容

①：富士山登山規制事業

- 五合目登山口にゲートを設置、ゲート前に24時間警備員を配置

②：富士山登山安全誘導事業

- 登下山道上に誘導員を配置（登山道4箇所、下山道4箇所、分岐1箇所、延べ376人）

③：富士山登山巡回指導事業

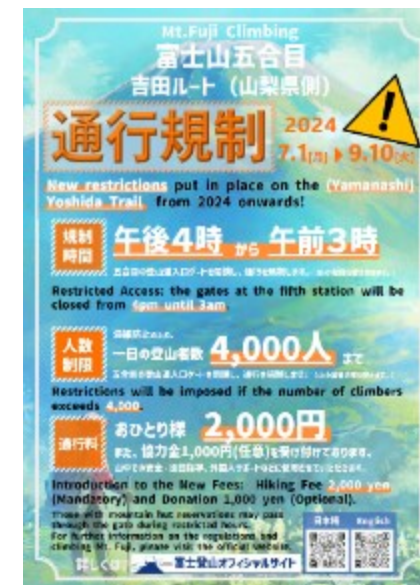
- 五合目と山頂間を毎日指導員が巡回（延べ196人）

④：登山規制広報事業

- 特急車内、バスタ新宿、登山用品店等において掲示するポスターを作成

⑤：県有登下山道規制周知業務

- 富士山駅、河口湖駅、富士山パーキングにおいて規制内容を周知（延べ430人）



成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

A : ゲート設置・指導員配置

- ゲートを設置し、人数規制・時間規制を行う取り組みが、特定時間の混雑緩和、弾丸登山などの解決に効果があるか検証する

B : 広報

- 観光客へ規制内容などが浸透しているか検証する

事業の成果／目標の検証結果

A : ゲート設置・指導員配置

弾丸登山の解決に効果がみられた

- 登山者数が1日4,000人を超過した日数 **R5:5日→R6:0日**
- 弾丸登山者数は前年比95%減少

B : 広報

規制内容は概ね浸透していることが明らかとなった

- 登山者における規制の認知率 **約9割**

成果詳細

■ 登山者数

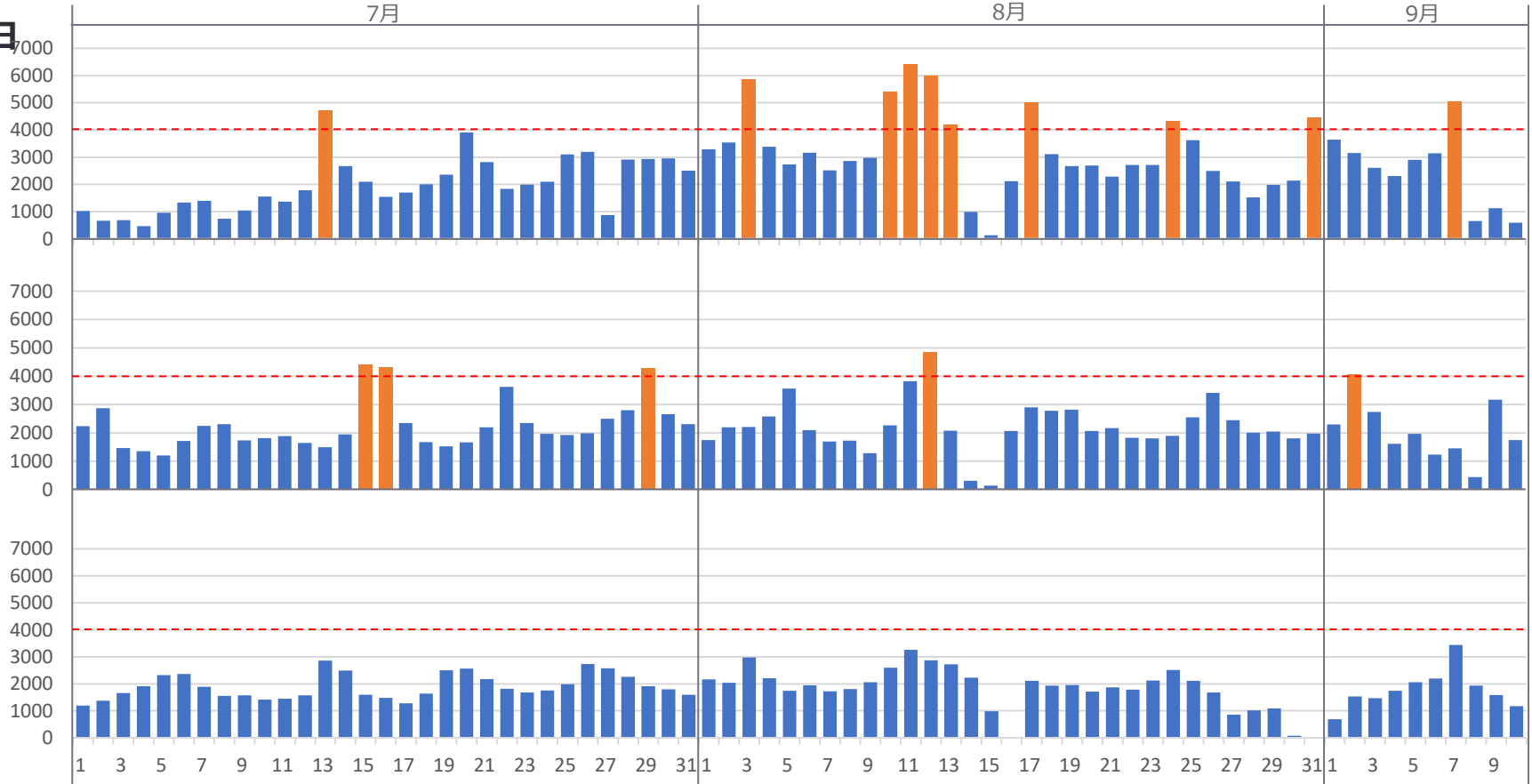
登山者数(吉田口登山道) ※富士吉田市調べ

4,000人超過日

・ R1年 10日

・ R5年 5日

・ R6年 0日



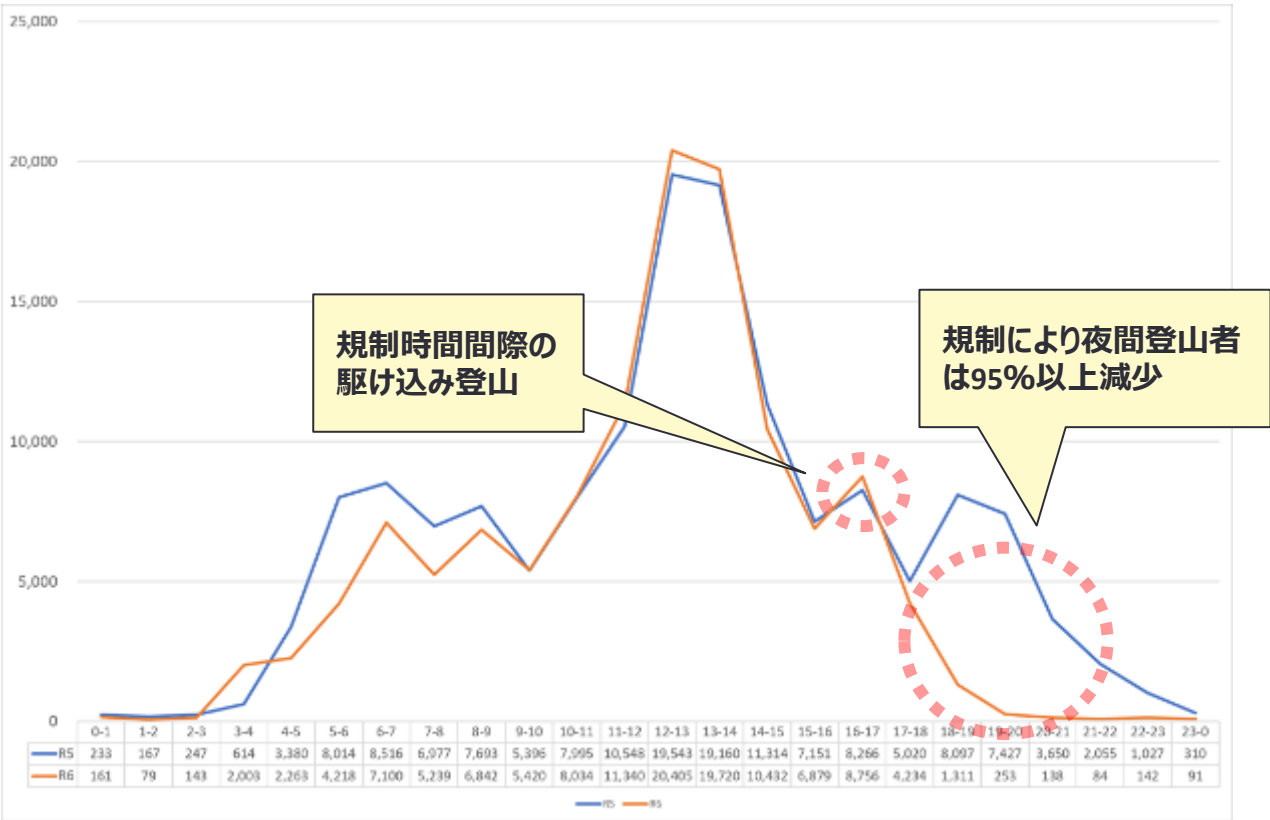
成果詳細

■ 弾丸登山者数の減少

- 弾丸登山者数は前年度比**95%減少**
- しかしながら、規制時間の間際（15～16時）にゲートを通り、山小屋に宿泊せず山頂を目指す「駆け込み登山」が見られた



六合目安全指導センター前 時間別通過者数



※六合目安全指導センター前通過者（富士吉田市調べ）

累計	R 5	R 6	増減	前年比
登山者数	152,800	125,287	▲27,513	▲18.0%
夜間登山者数 (19時-24時)	14,469	708	▲13,761	▲95.1%

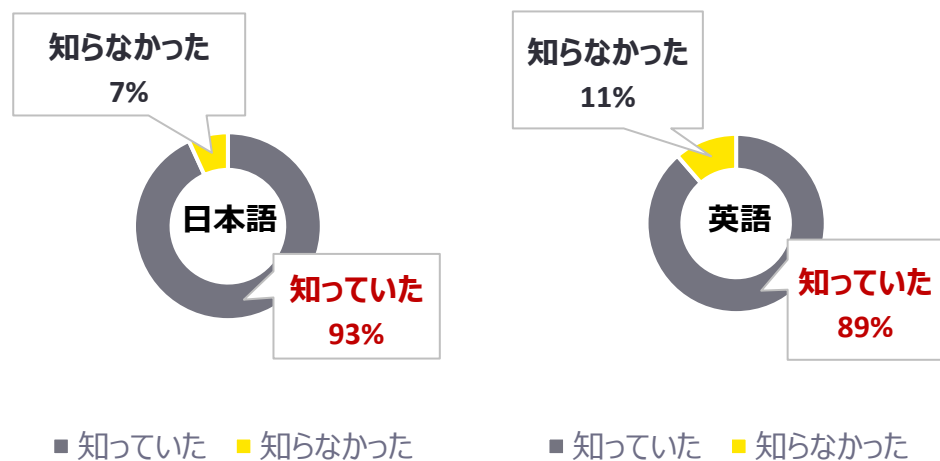
成果詳細

■ 登山規制の浸透

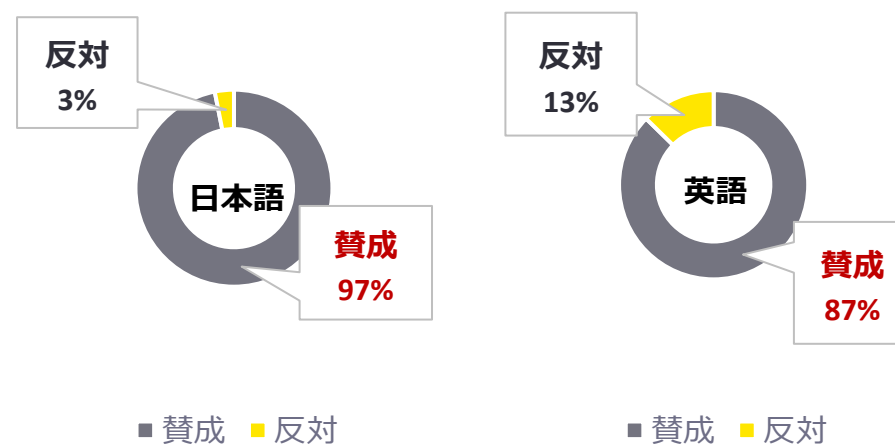
- ・ 登山規制の認知率は、**日本人 93%、外国人 89%**
- ・ 登山規制については**日本人の 97%、外国人の 87%が賛成**
- ・ 大半の登山者が規制を認知していたことから、一定の事業効果が認められた
- ・ 富士登山者の多くは一回限りの登山である（リピーターではない）ため、次年度以降も国内外で広報を継続していく必要がある

五合目アンケート（日本語：1054 英語：545）

登山規制の認知率



登山規制の賛否



成果詳細

- 通行料および協力金
- 令和6年度は2.97億円の通行料を徴収した
 - 一方で協力金に関しては協力率が53.1%と前年度に比べ大幅に低下した

山梨県富士山吉田口県有登下山道使用料（通行料）

許可者数	149,701人
使用料徴収額	297,826,000円

※免除者を除く許可者数 148,913人

山梨県富士山保全協力金

	R5	R6
協力者数	103,809人	60,957人
協力金受入額	103,672,726円	60,920,790円
協力率	75.6%	53.1%

【参考】

許可者数合計（人）		149,701
通行予約システムによる事前許可者	山小屋宿泊者	64,443
	日帰り登山者	30,405
		34,038
当日許可者	山小屋宿泊者	72,143
	日帰り登山者	58,511
		13,632
一合目からの登山者及び静岡県側からの下山者		12,327
減免対象者		788



令和6年度取り組みから見えてきた課題

- ✓ 取り組みを継続していく上で、以下の課題が明らかになった

1

ゲート閉鎖直前の「駆け込み登山」への対応

- 規制時間の間際（15～16時）にゲートを通過し、山小屋に宿泊せず山頂を目指す「駆け込み登山」が見られた

2

軽装登山者への対策

- 短パン半袖といった軽装登山者が目立った
- 外国人の軽装登山者が多く見られた

3

静岡側と一定程度調和のとれた規制

- 山梨側はゲート設置や規制の効果がみられた一方、静岡側では規制はなく、対策の調和がとれていない状況
- 令和6年度の登山者数は全体では減少しているが、静岡側の登山者数は6%増えており、山梨側でのみ規制を行ったことが影響していると考えられる

4

必要な財源の確保

- 使用料と協力金が併存することなどにより、協力率の低下を招いたことから、確実に利用者から負担をいただき、予定した財源を確保する仕組みを検討する必要

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- ✓ 令和6年度事業から見えてきた課題をもとに、効果的な規制内容を検討し、安全安心な富士登山を目指す

1

ゲートの通行規制時間を変更

- 駆け込み登山を防止するために、閉門時間を16時から**14時に前倒し**する

2

予約システムの改良と富士山レンジャーの権限強化

- 通行予約システムに登山に必要な装備の確認と遵守事項を誓約させる機能を追加
- 山梨県富士山レンジャーに関する規則を改正し、レンジャーの指導についての法的権限を明示することで、五合目での**登山指導体制を強化**

3

効果的な規制内容の検討

- 静岡側と**規制時間、料金を統一**
規制時間：14時～翌3時
料 金：一人一回4,000円

4

協力金を廃止し、通行料を引き上げ

- 協力金を廃止し、通行料と一本化することにより、登山者にとってわかりやすい制度に見直し
- 通行料を2,000円から4,000円に変更

13. 山梨県大月市

1. 地域概要

計画名	大月市における富士山観光に係るオーバーツーリズムの未然防止・分散・抑制による持続可能な観光推進事業対策計画
対象エリア	大月市
実施主体	大月市
年間観光客数 (令和5年)	約27万人（うち外国人未集計）
年間延べ宿泊客数 (令和5年)	約7万人（うち外国人未集計）
主な観光資源	・ 名勝猿橋 ・ 矢立の杉 ・ 笹一酒造 ・ 追分の人形芝居 ・ 秀麗富嶽十二景（市内山々）



● 観光ビジョン

Otsuki Gateway City to Mt.Fuji Day Trip from Tokyo

- ・ 富士山周辺観光に訪れる訪日外国人旅行者の多くは、大月駅を経由して目的地まで行き来している。地域としては、市内滞在の促進により分散化を図りたい反面、訪日客を受け入れることに対して抵抗があったり、取組みがイメージできていない状況。
- ・ それらの障壁を一つずつ解消し、既存の観光資源を磨き上げながら、オーバーツーリズムを未然に抑制・分散させる事業に取り組む。同時に、事業者のみが対策を講じるのではなく、地域に住む人たちとの協働により持続的な取組みを開始したい

● 推進体制（協議の場）

課題解決における地域関係者

- ・ 地域採択以降、当該関係者が参加する地域協議会を3回開催（8月～9月）
- ・ 地域の声は、地域に根差した団体が協議会に参加する他、個別にヒアリング等を実施

行政機関		住民関係者	
大月市	大月区	大月商店街 協同組合	
	御太刀区		
事業者			
大月市観光協会	富士山麓電気鉄道	富士急バス	
笹一酒造	大月タクシー	山梨中央銀行大月支店	
東横イン富士山大月駅	富士急ハイヤー	かんだし	
J R東日本 大月営業統括センター			

2. 課題

● 主な課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 大月駅構内の混雑	- 首都圏～富士山間を行き来する際、JRと富士山麓電気鉄道の乗り換え客が駅構内に滞留 - 春から秋にかけて週末の混雑度は増し、地域住民が人込みをかきわけて乗車するような状況が発生している	住民・観光客
2. 市内観光資源への波及効果が限定的	- 観光客の大半は駅構内に滞留しており、市内での観光消費が少ない - 駅前の一部商店や笹一酒造等一部スポットに来訪者はいるものの、市内周遊に繋がられていない	地域経済・住民
3. 外国人観光客の受入環境が整っていない	- 各種案内板や掲示板、飲食店のメニュー等の多言語表記が進んでいない - 観光資源に関する説明等について付加価値のある取組みが見いだせていない	観光客

1.大月駅構内の混雑



JR大月駅構内で滞留する観光客



JRから富士急行線へ乗り換える観光客

2.限定的な波及効果



駅の混雑とは、対照的に駅周辺観光客は少ない

3. 背景・要因

● 課題の背景・要因

主な背景・要因

- | 課題 | 主な背景・要因 |
|--------------------------|---|
| 1. 大月駅構外へ出る、動機付けができていない | <ul style="list-style-type: none">駅構内の待合所やコンコースに掲示物等を設置し、富士山や大月市内観光資源に対する情報提供を行っているが、具体的な誘導につながっていない滞在時間に応じた過ごし方や体験内容を提示できておらず、また、駅周辺の店舗営業状況も分かりにくいいため観光客が外に出る後押しができていない |
| 2. 大月市内観光の認知およびコンテンツが未整備 | <ul style="list-style-type: none">富士山観光の出発前に、富士山エリアの玄関口である大月の魅力を周知できていないWebコンテンツ等は、単なる情報掲載にとどまり、誘客力を高めるための情報の整理や大月に関する情報へ正確にたどり着ける導線づくりが十分ではない |
| 3. 観光客受入に向けた機運を醸成できていない | <ul style="list-style-type: none">外国人旅行者を誘客したいという事業者ニーズはあるものの、具体的な取組イメージが湧いていない住民組織より観光ガイドやりたいといった声もあるが、地域ガイドを育成するプログラムがない |

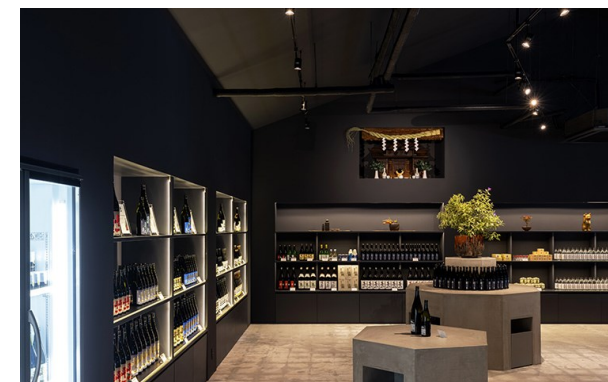
1. 駅構外への動機づけの必要性

時刻	河口湖行 for Kawaguchiko
6	32
7	03 24 55 (ホームスタンディング)
8	19 40 (特急 富士回遊) 50
9	16 42 (特急 富士回遊)
10	00 20 42 (特急 富士回遊)
11	01 (ホームスタンディング) 36 (特急 富士回遊) 54
12	18 41 (フジサン特急)
13	00 45 (富士山ビュー特急) 55 (ホームスタンディング)
14	22 44
15	26 50
16	29 (ホームスタンディング) 52 (フジサン特急)
17	07 37 (富士山ビュー特急) 46
18	30
19	09 41
20	09 49
21	11 43



- 電車の運行本数は確保されており、乗り継ぎ待ち時間を地域滞在に活用できる
- 出所：富士急行線HPより抜粋
- 過去、大月駅前で実施した阿波踊りの様子
- 大月駅前で、外国人観光客が関心を持ちやすいイベントを開催することで、一定の効果があつた

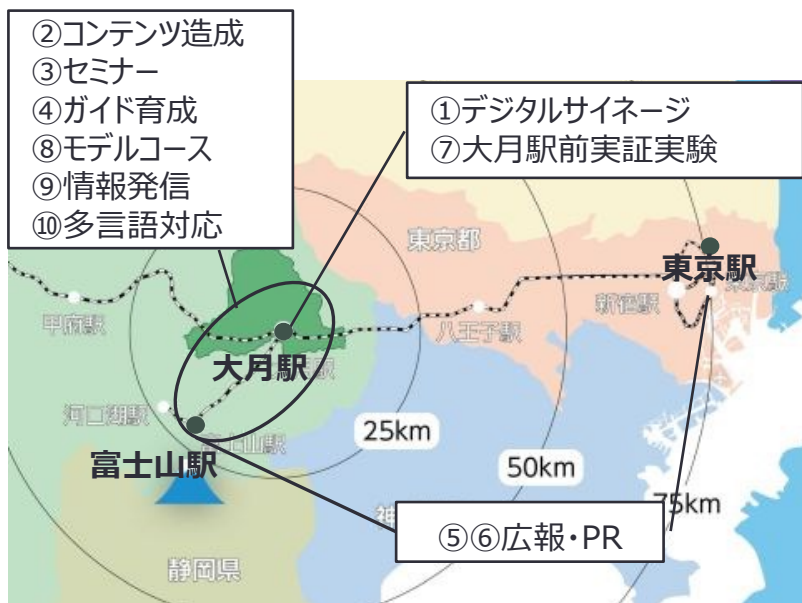
2. コンテンツ整備



- 市内においても、観光ポテンシャルの高いスポットは多数存在している
- 笹一酒造の酒遊館は、広い試飲スペースがあり、観光客からの人気も高い
- 出典：笹一酒造公式HPより抜粋

4. 対策の概要

- ・ 顕在化しているオーバーツーリズム問題として、首都圏から富士山観光を目指す外国人観光客が大月を経由することにより、大月駅構内で局所的な混雑が発生
- ・ そのため本事業では、大月駅構内の混雑解消を図ると同時に、富士山広域でのオーバーツーリズムの未然防止・分散・抑制に資する取組を目指す
- ・ 具体的には、駅構内で滞留する観光客に対して、富士山観光関連の適切な情報提供や大月市内で過ごせる新たな時間・体験を整備することで、現在富士山に集中する観光客の分散や抑制を図る。
実施においては、各取り組みに際して、地域住民や事業者との協業を重視し、市内での受入環境整備や観光ガイド育成等も同時並行で進めていく



受入環境の整備・増強

- | | |
|------------|---|
| 取組み | ①デジタルサイネージの設置 |
| 内容 | ・ 駅構内にデジタルサイネージを設置し、富士山観光の適切な情報提供と市内への誘導な円滑を図る |
| 取組み | ②大月市における新たな観光コンテンツの造成 |
| 内容 | ・ そもそも外国人観光客が町にでてきていない状況であるため、観光コンテンツと絡めたスタンプラリーやカプセルトイを実施し、滞在動機を提供 |
| 取組み | ③地域事業者向けセミナー |
| 内容 | ・ 外国人観光客の誘客ニーズのある事業者を集め、心構えや案内方法やトラブル対応といった必要な情報のインプットを図る |
| 取組み | ④地域観光ガイドの育成 |
| 内容 | ・ 地域住民が主体となった取組の開始と観光客の満足度向上 |

観光客の分散・平準化

- | | |
|------------|---|
| 取組み | ⑤首都圏エリア⑥富士山エリアでの情報発信 |
| 内容 | ・ 富士山観光に訪れる観光客に対して、富士山観光の玄関口である大月で得られる価値を発信し、大月へ立ち寄る動機付けを図る |
| 取組み | ⑦大月駅周辺の実証実験 |
| 内容 | ・ 大月駅周辺地域の観光資源体験できる取組を企画し、大月を通過予定であった観光客を駅周辺地域へ誘導する施策を実施する |
| 取組み | ⑧モデルコースの整備 |
| 内容 | ・ 市内誘導を目的とし、滞在時間別のモデルコースを作成する |
| 取組み | ⑨大月市の観光に係る情報発信に関する環境整備 |
| 内容 | ・ WEBコンテンツの改修および新設と、情報発信のためのルール作り |
| 取組み | ⑩多言語化対応支援 |
| 内容 | ・ 地元事業者の店頭案内やメニュー等の多言語化対応支援 |

5. 主な取組み（詳細）

課題

大月駅周辺で時間を過ごす可能性がある外国人観光客に対して、滞在時間の有効活用を促すための施策を打ち出せていない

取組み

外国人観光客の大月市内への誘導を目的としたモデルコースの整備

- ・ 実施期間：令和6年11月～令和7年2月
- ・ 実施主体：大月市

事業内容

■ 外国人観光客の大月市内への誘導を目的としたモデルコースの整備

- ・ 対象エリアは大きく4つに設定（猿橋エリア／大月エリア／笹子エリア／富士山広域エリア）する
- ・ モデルコースの整備にあたっては、対象エリアのほか、目的・時間・予算を検討の軸とする

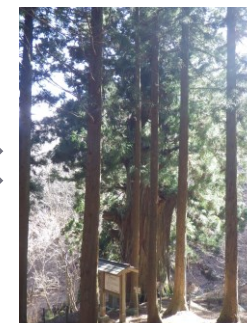
モデルコースイメージ



名勝猿橋



既存の観光資源に付加される価値



矢立の杉

モニターツアーでの様子



笹一酒造の試飲体験



寺院での座禅体験



寺院でのお茶体験

令和6年度事業の目標

- A：モデルコースを計4パターン作成する**
 (→時間的制約から、**2ルートに絞り実施**)
- B：モデルコースのモニターツアーにてアンケートを実施し、満足度60%以上を目標として事業実施期間内にモデルコースの磨き上げを行う**
 (→サンプル数が限定的であることから、満足度計測ではなく、**旅程全体及び訪問先について参加者の声を収集した**)

事業の成果／目標の検証結果

A・B：

- 訪日外国人旅行者の目線から、交通手段や多言語表記といった受入環境や、魅力を感じたスポット、ツアーの内容・行程の時間配分などについて率直な意見を受けた
- 取組みの成果を定量的に把握するまでには今回の取組みでは至らなかった。

成果詳細

モデルコース2ルートによるモニターツアー内容

A: 笹子ルート

令和7年1月23日開催
 所要時間：120分 移動手段：タクシー

大月駅 → 矢立の杉 → 笹一酒造 → 大月駅

- 樹齢千年超といわれる「矢立の杉」の見学
- 近接する「笹一酒造」にて、日本酒造りの説明・試飲体験

1/23 【参加者】：3名（県内在住：2名 都内在住：1名）
 【国籍】：ブラジル・中国・イギリス

B: 猿橋ルート

令和7年1月24日・30日開催
 所要時間：90分 移動手段：タクシー

大月駅 → 妙楽寺 → 猿橋 → 大月駅

- 「妙楽寺」の見学および座禅体験・お茶体験
- 「猿橋」の見学を実施

1/24 【参加者】：3名（県内在住：1名 都内在住：2名）
 【国籍】：ブラジル・イギリス・ベトナム

1/30 【参加者】：2名（県内在住：2名）
 【国籍】：インドネシア・イギリス

利用者・運営側の声

【参加者の声】

- 交通の不便さを感じた。工夫できるとよい
- 「矢立の杉」をみるだけでなく、軽食等をとりたい
- タクシー料金を含めてツアー料金を算出すべき

【地域側の振り返り】

- 移動時間が長く、ガイド等で移動にも価値提供が必要
- 「矢立の杉」と組み合わせる体験コンテンツが必要
- 事業者側の受け入れのメリットの設計が必要

【参加者の声】

- 座禅含めた初めての体験や、地域情報が得られよかった
- もう少し時間的猶予や、お土産を購入できる場がほしい
- 英語表記の案内が欲しい

【地域側の振り返り】

- 寺院での体験への反響がよく、見学のみならず住職とのコミュニケーションを含め、もう少し時間が必要
- 受入施設側の多言語化対応や、消費意欲を高めるルートの見直しが必要
- 発電施設の水路橋等思わぬところで価値を感じる場面があり、こういった風景が喜ばれるか精査が必要

令和6年度取り組みから見えてきた課題

- 市内の観光スポットが広域となるため、移動にかかる時間的制約や料金設定における課題感がみえた
- 体験価値には、訪日外国人旅行者を引き付けるポテンシャルのある観光スポットであることは間違いないが、多言語対応や、訪問時に提供できる「食」や「土産」といった消費行動につなげる設計の継続検討が必要

1 二次交通の利便性向上

- タクシー移動が前提であるが、移動時間が長く、移動中の価値提供に課題
- 現状のコンテンツでは、5,000円ならという意見があったが、交通費のみで往復5,000円を超える懸念がある

2 体験コンテンツの充実化

- 寺院での体験は反響がよく時間が足りなかった
- 今回提供したコンテンツにおいて、「食」「土産」といった要素が欠けていた

3 顧客属性による嗜好の相違への対応

- 欧米・南米地域の方は、体験重視。中国の方は、写真映えを重視している傾向にあった。
- 中には、思わぬポイントで価値を感じていたこともあり、価値提供スポットの探索が必要

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- 令和6年度は初の試みであったが、取り組むべき優先課題の可視化ができた
- 現状のモデルルートにおいても、ガイドの育成等各種追加コンテンツの検討が必要不可欠であり、地域事業者との継続的な協議の場を持ち、と大月市ならではの体験ツアーとして、昇華していきたい

1 移動そのものへの付加価値提供

- 移動時間が長期化することは物理的にやむを得ないため、移動中のガイド提供等を検討したい
- 移動時間に価値を付与することで、タクシー料金に納得感を持たせる工夫が必要

2 大月市ならではのコンテンツ設計

- 別事業で実施した人形劇等も反響がよかったため、モデルルートに組み込む等、追加の価値提供が必要
- 既存観光スポットにおいても、多言語化対応や、別コンテンツとの連携を検討する

3 来訪者属性の調査・分析

- 今回の事業では幅広くモニターツアーに参加いただき、初期的な声を収集できた
- 今後、駅設置のデジタルサイネージなどで来訪者属性にかかる情報も追加取得予定であり、継続的に検討を行う

14. 岐阜県高山市

1. 地域概要

計画名	「住んでよし、訪れてよし」の持続可能な地域の実現に向けた観光課題対策事業
対象エリア	高山市
実施主体	岐阜県高山市
年間観光客入込数	約407万人（令和5年）
年間宿泊者総数	1,918千人（令和5年） （内外国人観光客数452千人）
主な観光資源	伝統的町並、高山祭（ユネスコ無形文化遺産）、乗鞍山麓五色ヶ原の森（第16回エコツーリズム大賞）等



古い町並



乗鞍山麓五色ヶ原の森

● 観光ビジョン

国際観光都市 飛騨高山

- 飛騨高山特有の風土と飛騨人（先人）が生み出し、先人たちが守り、築き上げてきた自然や歴史・伝統が後世に引き継がれるとともに、それらを活かした地域経済の発展が図られ、心豊かな暮らしが営まれている、国内外から選ばれ続ける「国際観光都市 飛騨高山」の実現を目指す

※現在、（一社）飛騨・高山観光コンベンション協会において「飛騨高山 観光ビジョン2025～2029」を作成中

● 推進体制（協議の場）

観光課題対策事業 実務者懇話会

- 全体会を令和6年度中に2回、各部会を2～6回開催予定。
※懇話会開催前には「持続可能な観光に関する勉強会」を2回開催し、当該分野の内容や高山市の状況について関係者と共有

行政機関

高山市

事業者

JR東海 高山駅

濃飛乗合自動車株式会社

住民関係者

（一社）飛騨・高山観光
コンベンション協会

（一社）奥飛騨温泉郷
観光協会

飛騨高山旅館ホテル協同
組合 等

1. 地域概要 推進体制

実務者懇話会で幅広い関係者から意見を聴取、事業詳細については各部会において検討を図る

観光課題対策事業 実務者懇話会（事業実施主体：高山市（観光課））

【役割】

- ・ 持続可能な観光にかかる課題の共有
- ・ 本事業の**実施内容**にかかる意見聴取
- ・ 次年度以降の取組や会議体のあり方に係る意見聴取
- ・ 本事業の**実施結果**についての共有

【構成員】

● 公共交通

- ・ 東海旅客鉄道（株） 高山駅
- ・ 濃飛乗合自動車（株）
- ・ 岐阜県タクシー協会飛騨支部

● 観光関連団体

- ・ （一社）飛騨・高山観光コンベンション協会
- ・ （一社）奥飛騨温泉郷観光協会
- ・ 高山市旅館ホテル連絡協議会

● 高山市

- ・ 副市長
- ・ 関係各課
（危機管理課、医療政策課、都市計画課、環境政策課 等）

【実施日】

第1回：2024/11/18

第2回：2025/02/04

● メディア

- ・ 飛騨高山ケーブルネットワーク（株）
- ・ （株）飛騨高山テレ・エフエム

● 医療機関

- ・ 高山赤十字病院
- ・ 久美愛厚生病院

● 官公庁

- ・ 高山警察署
- ・ 中部運輸局（オブザーバー）



11月18日
懇話会開催時の様子

各部会について、検討課題に応じ適宜関係事業者・団体より意見聴取を実施

マネジメント指標検討部会

【構成員】

- ・ 高山市観光課
- ・ （一社）飛騨・高山観光コンベンション協会
- ※ アドバイザー 東洋大学国際観光学部
教授 古屋 秀樹 氏

【開催頻度】

11月～2月に計6回開催

TAKAYAMA STYLE(仮称) 検討部会 マナー啓発部会

【構成員】

- ・ 高山市観光課
- ・ （一社）飛騨・高山観光コンベンション協会

【開催頻度】

11月～2月までに計4回開催

災害時旅行者対応検討部会

【構成員】

- ・ 高山市観光課、危機管理課、高山市消防本部
- ・ 東海旅客鉄道（株）高山駅
- ・ 濃飛乗合自動車（株）

【開催頻度】

11月～2月までに計2回開催

2. 課題

● 主な課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 観光マネジメント指標における内容の不足	- 観光客に関する指標（入込客数、宿泊客数等）は存在するが、住民や観光関連従事者等に係る指標がない。 - 結果、「住んでよし、訪れてよし」の観光地といえるか定量的に測れない状況にある。	地域住民・事業者
2. 市民生活と観光振興の調和	市中心部への観光客の集中。 - 観光客のごみや交通ルール違反など特に外国人観光客増加に起因する課題が存在。 ※観光客来訪が生活環境に与える影響に関して、「交通渋滞や混雑」「観光客のマナー違反」といったマイナスの影響を感じている市民も一定数存在。	地域住民
3. 災害発生時における情報伝達の確立	発災時における観光客に対する情報発信の具体行動が明確化されていない。 ※能登半島地震発災時には、公共交通機関の運休等により観光客が行き場を失い、市職員がJR高山駅周辺にて対応に当たった。	観光客

1. 観光マネジメント指標の不足

	H31・R1	R2	R3	R4	R5	R5/R1
アジア	340,143	85,808	1,341	20,492	171,475	836.79%
中東	14,286	99	2	1,925	9,291	482.65%
ヨーロッパ	142,190	6,081	100	5,302	107,584	2029.12%
北米	43,600	2,540	159	4,296	38,461	895.27%
中南米	8,076	736	45	441	5,780	1310.66%
オセアニア	30,064	3,587	11	2,359	23,885	1012.51%
アフリカ	1,347	27	3	24	526	2191.67%
在日	-	585	1,034	152	721	474.34%
不詳	32,198	9,257	256	5,502	94,777	1722.59%
計	612,204	108,720	2,993	40,493	452,500	1117.48%

「観光統計」において国・地域別の年間宿泊者数を公開

V)高山の観光の満足度について

エリア	東アジア	東南アジア	欧州
1)高山の観光の満足度とその理由	非常に満足：62% (食べ物美味しい、景色(人が少なくて良い)、町並み、温泉、人が優しい) 概ね満足：47% (開店時間が早い、雪が降らなかった、宿泊施設に不満)	非常に満足：69% (食べ物・酒が美味しい、景色、雪、町並み、温泉、人が優しい) 概ね満足：31% (ホスピタリティ、英語が通じる、開店時間が早い)	非常に満足：75% (景色、町並み、祭、温泉、料理・酒、歴史、人が優しい、徒歩圏内で観光できる、英語が通じる) 概ね満足：19% (ナイトライフを楽しめない)

「外国人旅行者ヒアリング調査」の分析結果（滞在満足度等）を公開

2. 市民生活と観光振興の調和

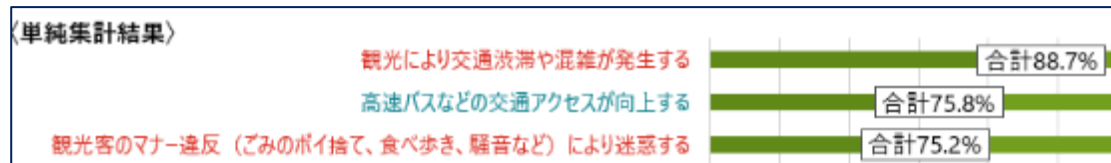


観光客の増加により、飲食店前に出来る行列

3. 災害発生時における情報伝達の確立



- 能登半島地震発災直後のJR高山駅の様子
- 多数の外国人観光客が滞留、市職員が紙資料にて案内



交通渋滞や混雑、マナー違反に対するネガティブな意見が多い
(令和5年「高山市の観光に関する意識調査」結果抜粋)

3. 背景・要因

● 課題の背景・要因

主な背景・要因

1. 観光地と住民生活の近接性、特定エリア（古い町並）への集中
 - ・ 主な観光スポットである「古い町並」は市中心部に位置しているため、観光スポット内及び周辺は市民の居住エリアであることから、観光スポット周辺の道路の混雑、観光客によるマナー問題等が、住環境に直接的な影響を与える
 - ・ 「古い町並」に観光客が集中しており、現状では場所の分散化が図れていない
2. 旅行者と共有すべき「地域として守るべき価値」が言語化できていない
 - ・ 高山に訪れる観光客を対象としたマナー啓発に留まらず、より広範な意味を持つ高山が大切にしているものについて、定義の上で、観光客だけでなく住民にも認識していただく必要がある

三町・下二之町大新町伝統的建造物群保存地区



高山駅から徒歩約15分 面積：約11ヘクタール
※当地区内及び周辺エリアは、市民の居住エリアである

高山市内6施設間の立ち寄り状況 (日本人,2024年1-9月)

	飛騨の里	三町 伝建地区	宮川朝市	飛騨高山ま ちの博物館	墨台会館	新穂高 ロープウェイ
施設別来訪者数	31,602	368,597	178,689	54,384	21,494	130,955
1地点のみ	53%	63%	40%	35%	26%	84%
2施設	29%	31%	48%	44%	45%	12%
三町伝建	21%		39%	34%	16%	8%
まちの博物館		4%	5%	8%	14%	
朝市	3%	22%				2%
3施設以上	18%	6%	11%	20%	29%	4%

2施設の上位
2位を抽出

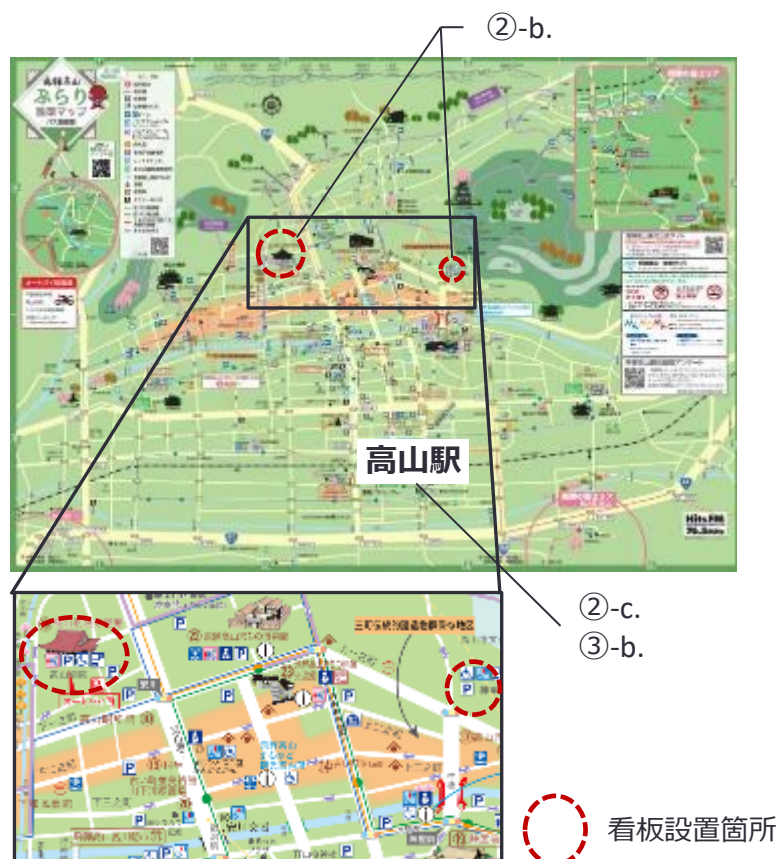
1地点のみが半数以下、
他地点とのセットで滞在



(分析：東洋大学国際観光学部 教授 古屋 秀樹 氏)

4. 対策の概要

- 外国人旅行者数の急回復に伴い、ごみ・交通違反などマナー問題等により住民の生活の快適性に影響を及ぼしていることが、令和5年度に実施した「高山市の観光に関する意識調査」の結果からも明らかになった
- また、地震、豪雨等の災害時における旅行者に対する情報発信・対応等、受入面での課題も表面化している
- こうしたことから観光に係る諸課題に対して対策を講じ、「住んでよし、訪れてよし」の持続可能な地域の実現を目指す



受入環境整備	調査・分析
取組み	① 指標設定および指標に基づいたマネジメント体制の構築
内容	a. マネジメント指標の設定 b. 指標の基となるデータ収集及び分析手法の検討 c. 「観光課題対策事業 実務者懇話会」の開催 ・ オーバーツーリズムの未然防止等を図っていくためには、マネジメント指標及びマネジメント体制を構築することが必要であるため、当該指標を設定する
取組み	② 市民生活と観光振興の調和を図るための施策の具体化と実行
内容	a. 観光客に提唱する旅行スタイル（TAKAYAMA STYLE（仮称））の方針及び具体案を作成 b. 看板設置やバス車内動画等により旅行者に求めるマナーの周知 c. 混雑の緩和を目的とした、支所地域の観光スポット及び二次交通情報の発信強化 d. 市民を対象とした、市の広報媒体等を用いた観光に係る経済効果等の周知 ・ 市民の観光振興に対する理解を高めるために、マナー・渋滞対策を行っていくと同時に市民に対してわかりやすく観光振興の意義や効果を伝える必要がある
取組み	③ 災害時の体制構築事業
内容	a. 既存計画等の課題整理・分析・見直し・方針作成 b. 災害時の最適な情報発信の仕組み等の検討 c. 非常時における体系的な情報伝達経路・手段（デジタルサイネージやWEB媒体）の確立 ・ 令和6年1月1日能登半島地震発災時、公共交通機関の運休等により多数の観光客が行き場を失い、市関係職員がJR高山駅周辺において対応に当たった ・ 外国人観光客がV字回復する中、災害発生時には、関係機関が連携し効率的・効果的にひとりでも多くの観光客に対して必要とする情報を伝達するために、災害時の体制や手段の見直し、確立を目指す

5. 主な取組み（詳細）

課題

市民生活と観光振興の調和を図ることができていない
可能性がある

取組み

市民生活と観光振興の調和を図るための施策の具体化と実行
マナー啓発多言語周知ツール等を作成し、市内駐車場等に看板を設置

- ・ 実施期間：令和6年10月～令和7年2月
- ・ 実施主体：高山市

事業内容

■ 市民生活と観光振興の調和を図るための施策の具体化と実行

- ・ 旅行者の来訪が市民の生活・住環境の悪化などを引き起こすことが無いよう、市内滞在時のマナー・ルールの順守について市内駐車場への啓発看板を設置
- ・ 11月～2月にマナー啓発部会にて計4回開催の協議を行い作成
- ・ 「with Respect」を軸として据え、マナー啓発看板として、令和5年度実施した市民アンケートの結果から、以下3点を盛り込んだ。
 - ① 歩道でのルールを守ること
 - ② ごみのポイ捨てをしないこと
 - ③ 人々が暮らす場所であること

with Respect

「敬意を持って」

Care for Locals, Environment, and Tradition

「地元の人（の生活）、環境、伝統を大切に」

Walk Mindfully

「周りに配慮して、譲り合って歩く」

Carry Your Trash

「ごみを持ち帰ることでまちをきれいに保つことに協力する」

Stay Quiet

「日が暮れたら、近所のためにも静かに過ごす」

実際の啓発看板



令和6年度事業の目標

- ・ マナー啓発看板の作成
- ・ 看板掲示による旅行者への市内滞在時のマナー・ルール周知

事業の成果／目標の検証結果

- ・ マナー啓発看板の作成、掲示を実施
- ・ メディアでも取り上げられたほか、訪日外国人旅行者・外国人モニターに加え、住民からも好反応が得られた

成果詳細

- ・ 1月28日からの中国の大型連休「春節」にあわせて、別院駐車場（男女トイレの入り口）、神明駐車場（トイレ横）に看板を設置
- ・ 当日は市長が観光客に直接チラシを手渡しし、注意喚起を行った

【外国人旅行者の反応】

- ・ 高山には初めて来たが、素晴らしいところ。呼び掛けは清潔な環境を守るために良い取組み（シンガポールからの旅行者）

【住民の反応】

- ・ 行政やDMOが、旅行者に対して住民への配慮を求めているという姿勢がいい。住民へのリスペクトは非常に重要。

【外国人モニターによる評価】

- ・ 看板サイズについて十分目につく。
- ・ デザインについて街になじんでおり違和感がない。
- ・ ごみに関するメッセージは有用



モニター調査の様子

▼神明駐車場（屋内トイレ前）



▼別院駐車場（女子トイレ前）



▼神明駐車場（トイレ横）



成果及び今後に向けて

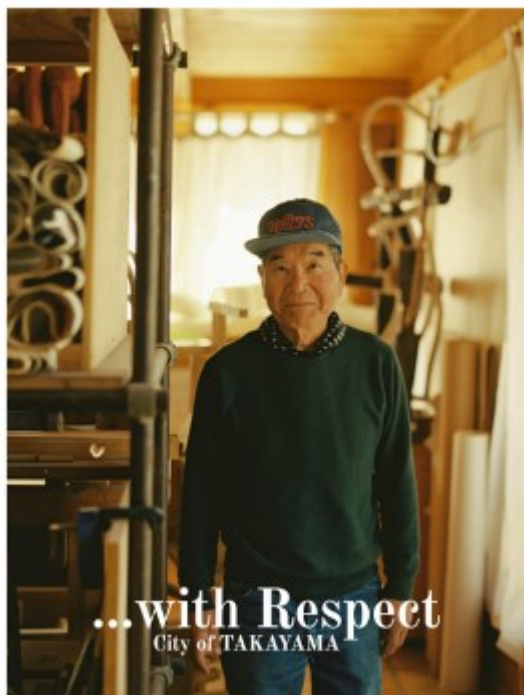
令和6年度の取組みから見えてきた課題

- 今回の取組みでは「with Respect」を軸としたメッセージの取りまとめや看板作成を中心に実施。
- 実際の啓発活動は春節期間（令和7年1月下旬）に開始。初期としては良い反応が得られているが、今後、このメッセージの浸透度合いや、実際にマナー違反行為等が少なく抑えられるかといった実効性について引き続きモニターし、取組みを続けていく必要。

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

継続的なキャンペーンの実施

「with Respect」を合言葉に、看板だけではなく、ポスターやフリーWi-Fi利用時のトップ画面等、様々なチャネルを用いて、旅行者に対して適切なメッセージを発信する必要がある。



キャンペーンイメージ



市広報誌において「with Respect」を含む観光の取り組みを紹介
(令和7年3月20日発行)

5. 主な取組み（詳細）

課題

災害発生時における観光客対応に関する情報伝達の流れが確立されていない

取組み

災害時の体制構築事業

- ・ 実施期間：令和6年10月～令和7年2月
- ・ 実施主体：高山市

事業内容

■ 災害時の体制構築事業

観光分野における災害時の体制構築に向けて、高山市役所内部（行政として）の課題と観光事業者や警察、医療機関、マスコミなどの関係者（地域として）の課題の洗い出しの大きく二つのアプローチに分けて、検討を行う

・ 高山市役所としての課題整理

- ✓ 既存計画を分析、課題整理を実施

・ 地域としての課題整理

- ✓ 11月～2月の間に災害時旅行者対応検討部会を2度実施し、以下の論点から、ケースワークを行い課題整理を実施
 - ① 観光客に対する観光関連事業者等の災害時の役割分担
 - ② 観光関連事業者等における「高山市の情報提供窓口と情報の流れ」
 - ③ 帰宅困難者対策としての情報発信のあり方（デジタルサイネージで情報提供すべき内容）

部会の様子



成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

能登半島地震発生時における対応の反省も踏まえ、
 ・市防災部署・関連部署における計画や対応
 ・関連事業者等も含めた観光客向け対応
 における課題を洗い出す

事業の成果／目標の検証結果

市内部における業務分担の円滑・適正化を図るとともに、実際に災害が発生した場合における市役所、観光案内所、観光関連事業者における観光客対応に関する改善案を作成した

成果詳細

- 以下のとおり、行政計画等に関する課題を整理

	高山市地域防災計画 (一般対策編)	災害時等の旅行者対応計画	災害時初動対応マニュアル
作成主体 担当課	高山市防災会議 高山市 市長公室危機管理課	高山市 飛騨高山プロモーション戦略部 観光課	高山市 飛騨高山プロモーション戦略部 観光課
目的	災害対策基本法の規定に基づき高山市の災害の対策に関する防災計画を定めるもの。	地域防災計画及び業務継続計画に基づく、災害時等における旅行者の安全確保に関する業務を記載。	「市及び宿泊施設や観光施設等の観光関連事業者」向けの取るべき行動を規定
概要	- 市及び関係団体、自主防災組織、その他重要な施設の管理者が処理すべき事項を定めるもの。 - 防災に係る事前調査、予防、災害応急対策に関する計画を定めるもの。 - 各班の行動内容を示している。(ただし、具体行動手順までは示していない。)	市の災害発生時の非常時優先業務を記載。	市、観光、宿泊施設等の管理者がとるべき旅行者への手動対応内容を規定。 - 旅行者が求める情報コンテンツとその情報提供方法が整理されている。
課題	① 地域防災計画の「避難計画」には、旅行者への避難対応の具体的な記載はない。 (市と各観光施設との連絡体制を整えるのみ) ② 「要配慮者への配慮」の記載には、旅行者への避難誘導に関する記載はない。 避難所等の避難者に対する配慮のみ。 ③ 旅行者等が求める「避難所開設情報」などは、災害広報の情報内容には、具体明記が見られない。	① 市による旅行者への情報提供や避難誘導、帰宅困難者への対応内容について記載しているが、具体的な行動手順までは示していない。 ② 市の担当(要配慮者支援班・飛騨高山プロモーション推進部観光課)が具体行動が実施できる保証がなく、実効性が担保されていない。	① 「施設管理者」は、事前に避難誘導先を選定しておく設定で、発災後の具体手順が示されていない。 ② 「観光課」に照会しても、観光課は広報担当に最新の情報を随時確認を取らなければ回答できない。 ③ 避難誘導先は、市役所・避難所・協定先宿泊施設等と規定されているが、適切な誘導先なのか懸念される。 ④ 観光庁災害時情報提供ポータルサイト「Safety tips for travelers」は提供される情報内容に限界がある(地域ローカル情報の欠落) ⑤ 高山市から各施設に報告される情報提供を施設にて多言語変換できるか懸念される

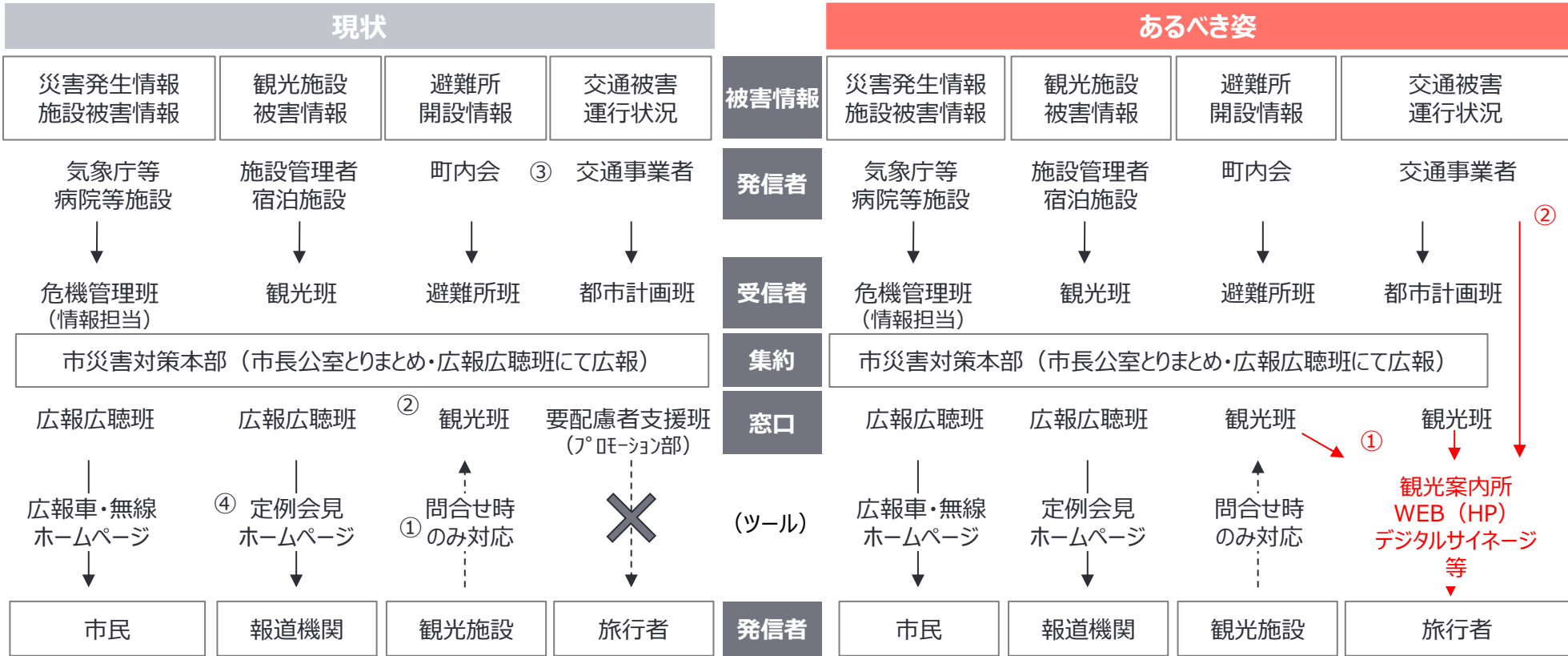
成果詳細

- 以下のとおり、課題を整理し、対応の方向性を認識合わせ

論点	観光客に対する観光関連事業者等の災害時の役割分担	観光関連事業者等における「高山市の情報提供窓口と情報の流れ」	帰宅困難者対策としての情報発信のあり方
課題	① 高山市の災害時等の旅行者対応計画（マニュアル）には、フェーズ別での役割分担について明確に規定されていない ② 特に「避難誘導における役割分担」と「旅行者への情報提供」の2つの視点に着目した連携方法と手順（フロー）の整理が必要 ③ 旅行者の避難場所が定まっていない	① 高山市役所との連携体制、情報フローなどは定められていない（高山市⇒観光事業者/観光事業者⇒高山市も同様）	① 国等により「Safety tips と NHK WORLD」での情報提供の仕組みがあるが、「地域ローカル情報」の提供が上記でなされていない。 ② 市マニュアルでは、地域ローカル情報として、「市の防災情報のページ」等の閲覧を推奨しているが、防災情報ページには情報量、スピードの限界がある。
対応の方向性	- 旅行者対応計画（マニュアル）を改訂し、観光関係者の役割分担について整理 - 旅行者の避難場所の選定と連携方法	- 旅行者対応計画（マニュアル）を改訂し、観光関係者の役割分担について整理（左記同様） - 交通の運行状況、道路の通行状況、避難所開設情報など、一度に見ることができる媒体を作成（右記同様）	交通の運行状況、道路の通行状況、避難所開設情報など、一度に見ることができる媒体を作成

成果詳細

・ 災害時の情報発信の問題点を以下のとおり洗い出し



問題点

- ①観光施設・旅行者（要支援者）への情報提供の仕組みがない
（現状は、照会があった時に、窓口担当が対応する形）
- ②観光班（観光案内所含む）が災害情報発信に対応していない
- ③交通事業者の情報は、各事業者に委ねられている
（旅行者・観光施設等は独自に収集するしかない）
- ④避難所情報は災害対策本部に集約されているが、広報を通じて
対外発信されとは限らない。

改善案

- ① 観光班が、旅行者向けに必要な情報を集約し、旅行者向けサイ
ト・デジタルサイネージ等を活用して情報提供を行う仕組みを構築
し、提供する。
- ② 交通事業者の運行情報は、リンクする形で提供する仕組みを作る。

令和6年度取り組みから見えてきた課題

1 役割分担の整理

- ・ 高山市の災害時等の旅行者対応計画（マニュアル）には、フェーズ別での役割分担が明確に規定されていない
- ・ 特に「避難誘導における役割分担」と「旅行者への情報提供」の2つの視点に着目した連携方法と手順（フロー）の整理が重要

2 情報発信までのフローの改善

- ・ 観光施設・旅行者（要支援者）への情報提供の仕組みがない
- ・ 観光班（観光案内所含む）が災害関連の情報発信対応していない
- ・ 交通事業者の情報は、各事業者委ねられている
- ・ 避難所情報は災害対策本部に集約されているが、広報を通じて对外発信されるとは限らない

3 旅行者向けの避難誘導先の確保

- ・ 「安心できる避難場所の確保」にむけ、旅行者のための「指定避難所」を決めておく必要がある
- ・ あわせて、上記を旅行者へ伝える体制の整備も必要

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

1 「災害時等の旅行者対応計画」の見直し

- ・ 市内の観光班と関係部門（危機管理班・避難所班・都市計画班（交通）・物資供給班等）との役割分担・連携方法を明確化し、計画、マニュアル等に反映
- ・ 観光関連事業者、公共交通事業者及び市との役割分担、情報連携方法を計画、マニュアル等に反映
- ・ 発災時における観光班市職員の具体行動・手順の明確化した「市観光部門アクションカード」の作成

2 旅行者向けの情報発信を観光班で集約、発信する体制の構築

- ・ 観光班が、旅行者向けに必要な情報を集約し、観光案内所を経由して、旅行者向けサイト・デジタルサイネージを活用して情報提供を行う仕組みを構築し、提供する（旅行者向けサイト・デジタルサイネージでは、政府が発信する全国情報と、高山市災害対策本部にて提供する地域情報の2本立てにより構成）
- ・ 交通事業者の運行情報は、上記にリンクする形で提供する仕組みを作る

3 旅行者向け避難場所の指定と受入対応方法の確認

- ・ 現在の避難想定施設のキャパシティも踏まえた適切な避難場所の検討
- ・ 民間宿泊施設や県施設の活用等、具体施設の選定と連携方法（協定締結）の検討

15. 岐阜県白川村

1. 地域概要

計画名	白川郷観光最適化デザイン計画
対象エリア	白川郷合掌造り集落 (荻町世界遺産集落)
実施主体	岐阜県白川村
年間観光客入込数	172万人(2023年) ※1月~12月
年間宿泊者総数	約9万人
主な観光資源	白川郷・五箇山の合掌造り集落(UNESCO世界文化遺産)



白川郷・五箇山の合掌造り集落(UNESCO世界文化遺産)

● 観光ビジョン

観光と生活の両立

- ・ 荻町世界遺産集落は今もなお住民が実際に生活をしているエリアである。観光の商業化一辺倒でなく、住民生活との両立を図っており、様々な切り口から持続可能な観光地づくりを行ってきた。
- ・ 現在、第2次総合戦略において「人口は維持以上を目指し、持続可能な村をつくる」を目標に、観光分野では観光の量から質への転換を模索している。

● 推進体制(協議の場)

荻町交通対策委員会

- ・ すでに地域住民の代表者によって組織されており、地域住民からの信頼が厚い組織

行政機関

白川村
鳩谷駐在所警部補
教育委員会事務局

事業者

(一財)世界遺産白川郷合掌造り保存財団	(一社)白川郷観光協会
---------------------	-------------

住民関係者

荻町区区長	守る会会長	村議会議員代表
荻町区副区長	荻町発展会会長	荻町女性会会長

2. 課題

● 主な課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 交通渋滞	- 駐車場の収容台数以上の来訪により、駐車場待ちで渋滞が発生している - 渋滞を避けようとした観光客が生活道路に侵入し、生活道路においても渋滞が発生し、ひとたび渋滞が発生すると住民の地域内移動にも影響が出てしまう	観光客、地域住民
2. マナー違反	- 観光客が白川郷合掌造り集落をテーマパークと誤解し、集落内は何処に入っても良いとの誤解が生じている - 田畑・住宅敷地・住宅内への侵入、個人宅の駐車場への駐車、ごみのポイ捨てなどにより、観光客の行動をめぐる住民とのトラブルが頻発している - 住民の生活とプライバシーを守るため夜の観光を受け入れていない（駐車場の受け入れを8時から17時までとしている）が、それを知らずに観光客が来村したことによるトラブルが起きている	地域住民、観光資源

1. 交通渋滞



白川郷へ行く道の渋滞
(駐車場まで2.1km、渋滞約120分)



繁忙期の駐車場の様子
(駐車容量：普通車188台、大型38台)
※他に普通車120台、臨時600台あり

2. マナー違反



ポイ捨て
※白川郷では、防火や景観、コストの観点から
ごみ箱を設置していない

3. 背景・要因

● 課題の背景・要因

主な背景・要因

1. 地理的制約

- ・ 山間部に位置しており、自家用車（レンタカーも含む）もしくはバスでの訪問に限られる
- ・ 駐車場の収容台数が限られており、かつ駐車場を増やすことができない状況
- ・ 迂回ルートなどがないため混雑が起きやすい

2. エリアの集中

- ・ 観光エリアが南北約1,500m×東西約350mにまとまっており、すべての観光客がこのエリアに集中する
- ・ 周辺地域に白川郷に匹敵する観光スポットはなく場所の分散は難しい
- ・ 17時以降の観光客受け入れを行っておらず、需要を時間で分散することも難しい

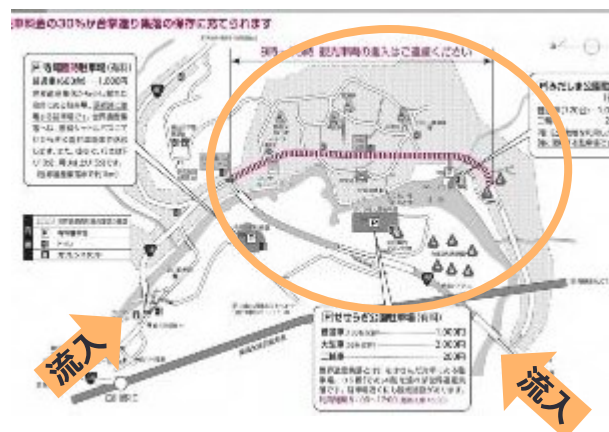
3. 受入容量を超える観光客の来訪

- ・ 人口1,500人余りの白川村に年間215万人、村民の1,400倍以上の観光客が訪れており、観光の労働力が不足している（白川村の完全失業率は0.3%と働くことのできる住民は皆働いている。シルバー人材センターすら労働力不足となっている）
- ・ 海外からの観光客が多いため（※）、英語以外の言語にも配慮しなければいけないが、対策費用や労力が追い付かない
※コロナ禍以前の2019年は国内観光客1.1百万人、外国人観光客1百万人とほぼ同数
- ・ また、外国人観光客の急激な回復により、混雑状況がより顕著になってきている

4. 世界文化遺産による制約

- ・ 地域における集落の保全活動が厳格、新たに恒久的な構造物を設置することが困難など事業に制約がある

1. 地理的・制約/エリアの集中



- ・ 道路が一本、一車線であり混雑しやすい

3. 受入容量を超える観光客の来訪



- ・ 限られたエリアに多数が流入するため恒常的に混雑

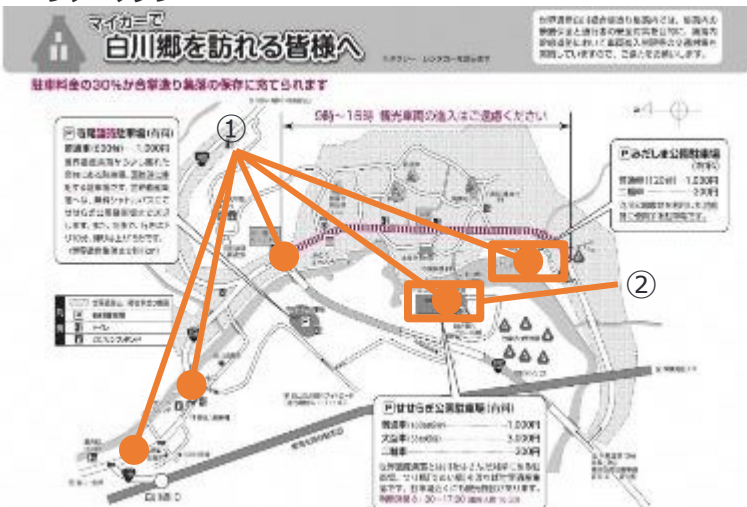


- ・ 唯一の公共交通機関であるバス待合所での混雑状況

4. 対策の概要

- 山間地かつ公共交通機関が発達していないことから道路の渋滞が起きやすく、観光スポットが集中していることからエリアに人・車が集中しやすい構造となっている
- 世界遺産であることから、地域における集落の保全活動が厳格、新たに恒久的な構造物を設置することが困難等の対策に制限がある
- そのため、事前の周知による来訪者の行動変容と既存設備の更新による受入環境整備を行う。
- 大きくは以下の3点である
 - 交通対策：混雑情報をリアルタイムに発信するウェブサイトの開設とマルチ決済に対応した全自動料金精算機の導入
 - マナー対策：広告やメディアへの情報発信を通じた観光客への啓発
 - イベント対策：白川郷ライトアップイベントの混雑対策、ルール違反対策

エリアマップ



全域：③、④、⑤

観光客の分散・平準化

取組み

- ① 駐車場及び動線となる主要交差点等5か所の混雑情報をリアルタイムで発信するウェブサイトの開設

内容

- 繁忙期に観光車両の収容台数を超え、駐車場待ちの車で渋滞する
- 「混雑状況」を事前に知らせることで、ずらし観光などの行動変容を促し、現地にきてしまったからでは手遅れとなる渋滞問題の緩和を図る

受入環境の整備・増強

取組み

- ② 指定駐車場にマルチ決済に対応した全自動料金精算機を導入

内容

- 来訪者の約半数を占める外国人観光客の中に、現金を使用する文化がない、もしくは見慣れない硬貨での支払い等により、駐車場出口で立ち往生してしまい、新たな車が入場できない事象が発生している
- 駐車場の退出を円滑にすることを通じて駐車場内における混雑解消を図るとともに、駐車場利用待ちの車両による道路の交通渋滞を緩和する

マナー啓発

取組み

- ③ 白川村のマナーを知らない観光客への啓発（レスポンスブル・ツーリズムサイトの海外発信強化、白川郷ライトアップの申込ルール周知、メディアリリース）

内容

- 路上喫煙・タバコのポイ捨てなど集落の存続が危ぶまれる行動（茅葺屋根、木造建築のため火元にはより注意が必要）や住宅敷地等への侵入など住民との摩擦が発生している
- 上記はマナー自体を認知していない、もしくは理解できないことが理由であると考えられるため、分かりやすい内容に変更する

調査・分析

取組み

- ④ モバイル空間統計のデータを活用した統計データ分析ツールの開発

内容

- 白川村への来訪者は、観光客の多様化（国・地域）で対策ターゲットの絞り込みが難しい
- 来訪者データ等をストックしているが、分析までは行えていないため、RAWデータを分析できるツールを作成し、施策検討の材料とする

取組み

- ⑤ 事業間調整、コーディネート業務

内容

- オーバーツーリズム対策に係る人材の量及び質が不足している
- 各事業の連携を図るとともにOT対策の体制をえ持続的な取組みを狙う

5. 主な取組み（詳細）

課題

- ・ 繁忙期に観光車両の収容台数を超え、駐車場待ちの車で渋滞する

取組み

混雑情報の配信サイトの開設

- ・ 実施期間：令和6年6月～
- ・ 実施主体：白川村役場

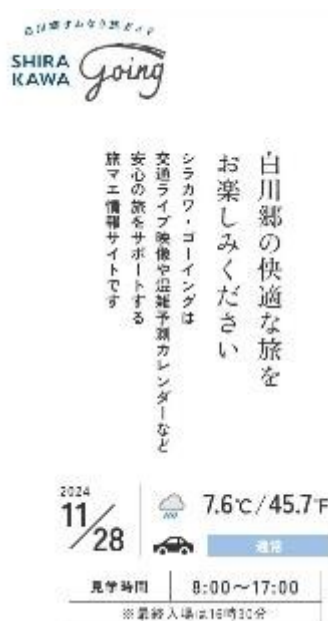
事業内容

■ 混雑情報の配信サイトの開設

- ・ 混雑状況とマナーの双方を効果的に発信する「混雑情報サイト」を開設
- ・ 主に次の6つの項目を設けている。
①追従ボタンによる白川郷レスポンスブル・ツーリズム特設サイトへの誘導、②混雑状況の写真の公開、③混雑予想カレンダー（週間、3か月）※週間のみ天候・気温を表示、④交通ライブカメラ、⑤各道路の交通規制状況、⑥お役立ち情報

【目的】

- ・ 事前に「混雑状況を発信」、「マナーの周知」を行うことで観光客の行動変容を促し、交通渋滞とマナー問題の緩和を図る



5. 主な取り組み（詳細）

事業内容

追従ボタンによる白川郷レスポンシブル・ツーリズム特設サイトへの誘導



5. 主な取り組み（詳細）

事業内容

混雑状況の写真の公開



駐車場に入るための渋滞。2時間以上待つ場合もあります。



駐車場に入るための渋滞。2時間以上待つ場合もあります。



駐車場に入るための渋滞。2時間以上待つ場合もあります。



駐車場に入るための渋滞。2時間以上待つ場合もあります。



5. 主な取組み（詳細）

事業内容

混雑予想カレンダー（週間、3か月）

混雑予想カレンダー

過去の駐車場の利用データをもとに3か月分の混雑予想をお伝えします。
非常に混雑マークは、駐車場入り口まで2時間以上の渋滞となる可能性が高い日です。

週間混雑予想

通常

やや混雑

混雑

非常に混雑

11月28日（木）	11月29日（金）	11月30日（土）	12月1日（日）	12月2日（月）	12月3日（火）	12月4日（水）
8.3℃/46.9℃	8.2℃/46.7℃	9℃/48.3℃	8.9℃/48℃	11℃/51.8℃	9.9℃/49.8℃	9.7℃/49.4℃

月間混雑予想

通常

やや混雑

混雑

非常に混雑

2024年 11月

2024年 12月

2025年 1月

直近の1週間のみ天候・気温とあわせて混雑状況を表示

5. 主な取り組み（詳細）

事業内容

交通ライブカメラ



① せせらぎ公園駐車場

映像を更新

指定駐車場

※満車時は次の駐車場をご案内します。



② みだしま公園駐車場

映像を更新

※指定駐車場が満車時にご案内します。



③ 萩町交差点

映像を更新

せせらぎ公園駐車場まで1.0km
※入口ゲートからの距離です。



Google マップで位置を確認



④ デイリー交差点

映像を更新

せせらぎ公園駐車場まで1.6km
※入口ゲートからの距離です。



⑤ 国道156号

映像を更新

せせらぎ公園駐車場まで2.7km
※入口ゲートからの距離です。

5ヶ所のライブ映像を配信

5. 主な取り組み（詳細）

事業内容

各道路の交通規制状況

各道路の交通規制状況

白川村内の雨量規制及び冬期閉鎖のある道路の規制状況をお知らせします。

国道360号	県道451号 (白山公園線)	白山白川郷 ホワイトロード
×	×	×
2024.11.6から冬季閉鎖中	2024.11.11から冬季閉鎖中	2024.11.11から冬季閉鎖中

こちらから詳しい道路規制状況を確認できます

[道路規制情報（岐阜県）](#)

[白山白川郷ホワイトロード](#)

The map shows the Shirogane area with various roads and landmarks. Key features include: 国道156号線 (National Route 156), 国道360号線 (National Route 360), 白山白川郷 ホワイトロード (Shirogane White Road), 県道451号 (白山公園線) (Prefectural Route 451 (Shirayama Koen Line)), 白川郷IC (Shirayama Koen IC), 東海北陸自動車道 (Tohoku-Hokuriku Expressway), 世界遺産 荻町合掌造り集落 (World Heritage Daimachi Gassho-zukuri Village), 白水湖 (Shirakawa Lake), 御母衣湖 (Omoyori Lake), and 庄川 (Shirakawa River).

令和6年度事業の目標

- 白川郷ICから本線への渋滞発生減少

事業の成果／目標の検証結果

- 白川郷ICから本線への渋滞発生減少
 - 白川郷ICから本線への渋滞発生日：2日間→0日間
※村営せせらぎ駐車場から約5.3kmの地点
※令和7年2月14日現在

成果詳細

■ 渋滞発生について

- 白川郷ICから本線への渋滞発生日2日間→0日間 ※村営せせらぎ駐車場から約5.3kmの地点

■ 本サイトについて

- 11/28に日本語版、12/20に英語版、中国語版（簡体字及び繁体字）、フランス語版を公開
- 各サイトのPV数は右表のとおり
- サイト分析によるとPCからの閲覧率が高く、個人観光客ではなくメディアおよび観光業界、訪日客関連のマーケティングや研究機関などの閲覧が推測される

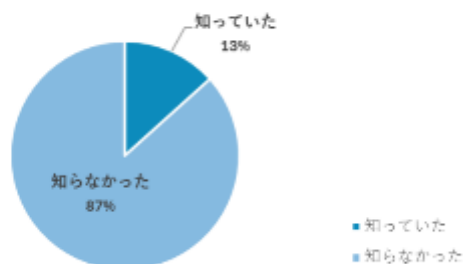
■ アンケート調査結果（N=412 対面188・Web224）

- 白川郷に来るときに本サイトを参考にしたいと回答した人は全体の92%と関心が高く、混雑予測が「非常に混雑」であった場合に、回答者の9割弱（88%）が来訪する日にちや時間をずらすなど、混雑を避けて訪問する意向を示した。本サイトが、白川郷における観光客の集中の緩和に貢献することが期待される
- 一方で、本サイトの認知度は13%に留まり、さらなる周知が必要と思われる

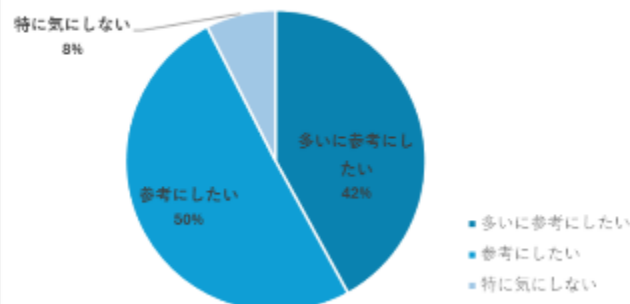
● 各サイトのPV数（2/14時点）

言語	PV数
日本語版	126,045
英語版	3,616
中国語版（簡体字）	4,936
中国語版（繁体字）	1,446
フランス語版	736

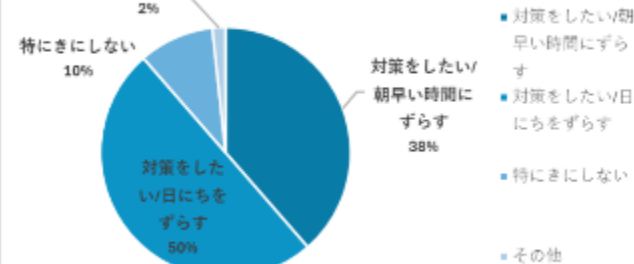
混雑予測カレンダーが見れるWebサイト「Shirakawa-Going すんなり旅ガイド」をご存知でしたか？



白川郷に来る時に、本サイトを参考にしたいですか？



混雑予測カレンダーが「非常に混雑」だったら、どのようにしますか？



令和6年度取り組みから見てきた課題

1 訪日外国人観光客の行動変容

- 訪日客は出発前に行程を固めているため、日本に来てからの行動を変えづらい
- 本事業で制作した情報サイト「シラカワ・ゴーイング」は中国本土のアクセスに課題があることが判明した

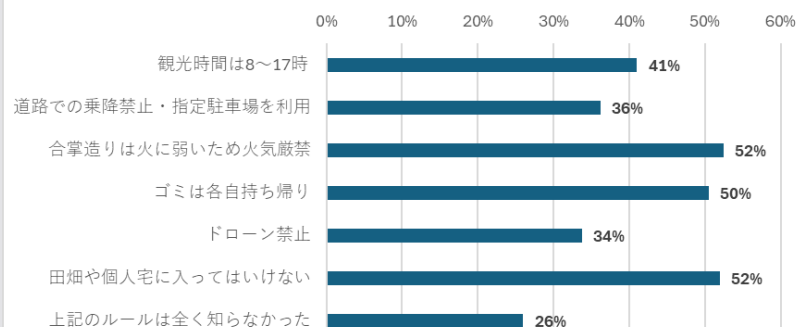
2 重要情報の掲示

- 現在の設計では重要情報はサイトを開いた際のポップアップのみで、かつデザインの関係で1項目の掲載となってしまう、複数掲示が難しいことが判明した

3 交通以外のマナー啓発

- 白川郷では世界遺産集落と村民の暮らしを守るために独自の「白川郷ルール」を設けているが、今回の調査では訪問前に何らかのルールを認知していたのは約半数にとどまり、多くの旅行者が現地で初めて知るという課題が浮き彫りになった

Q4 「白川郷ルール」の認知度（複数回答可）



令和7年度以降に取り組むべきと考えること

1 「白川郷レスポンシブル・ツーリズム」の発信強化

- 混雑情報の配信サイトからレスポンシブル・ツーリズムサイトへの連携を強化する
- 特に訪日外国人観光客に対する周知活動の継続・強化を行うことで更なるマナー向上を目指す

2 駐車場の予約システムとダイナミックプライシングの導入検討

- 一般的にオーバーツーリズム対策で有効な手段は、「分散、規制、課金」の3つと言われており、村営駐車場の予約システムとダイナミックプライシングの導入を検討することで、個人及び団体旅行者の「総量規制」の検討を実施する
- 令和6年度に実施した駐車場精算機の改修を活用し、ダイナミックプライシングの導入検討を実施する
- ただし、過度な規制をかけると観光客の満足度を下げ、観光客の減少を招く恐れがあるため、住民や観光客の声を聞きながら慎重に対応していく

3 旅行前段階からの情報発信サイトの機能強化

- 今後に残る課題に取り組み、「シラカワ・ゴーイング」を通じて混雑回避に役立つリアルタイム情報の充実、白川郷ルールの周知強化、レスポンシブル・ツーリズムのさらなる浸透を進め、観光と地域住民の暮らしの調和を図る
- サイト閲覧者が重要情報を見逃さないために、重要事項を複数掲示できる設計に変更する

16. 静岡県

1. 地域概要

計画名	富士山（富士宮口、御殿場口、須走口）における安全登山環境確保に関する事業計画
対象エリア	富士山（富士宮口、御殿場口、須走口）
実施主体	静岡県
登山者数	約8.9万人（令和6年）
主な観光資源	富士山各登山道（富士宮口、御殿場口、須走口）
計画名	富士山（富士宮口、御殿場口、須走口）における安全登山環境確保に関する事業計画



富士山頂



登山道

● 観光ビジョン

- 効率的・効果的な対策を推進することにより早期に登山者の混雑の偏り、弾丸登山や軽装登山、マナー違反などの課題を解決し、富士山の風致景観の保全と登山者の満足度向上を図る

● 推進体制（協議の場）

富士山における適正利用推進協議会

- 富士山の適正利用に係る関係者で情報を共有し、必要な事業について協議を行うことで連携した施策の推進を図ることにより、富士山における安全かつ快適な利用の推進及び自然環境等の普及啓発に資するとともに、富士山における自然環境の保全、良好な風致景観の確保及び形成に寄与することを目的としている

行政機関		事業者・住民関係者
山梨県	環境省	観光協会
静岡県	防衛省	登山組合・山岳連盟
文化庁	関係市町村	道路公社
林野庁	国土交通省	富士急行(株)

2. 課題

● 主な課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 混雑の偏り	・ 特定の日・時間帯・箇所にのみ著しい混雑 ・ 御来光を目指し、夜間登山や弾丸登山などの危険な登山も増加しており、ご来光前の時間帯は山頂付近が混雑 ・ 渋滞を避けるため登山道から外れて登山する者が引き起こす落石の危険や渋滞による将棋倒し等の危険を生じている ・ 渋滞は観光客の満足度を低下させ、観光体験の質に悪影響を与えている	観光客
2. マナー・ルール違反とそれに伴う環境悪・景観悪化	・ 弾丸登山（5合目を夜間に出発し、山小屋に泊らず夜通しで富士山頂を目指す登山）や軽装登山（登山に必要な装備を持たない登山）を行う登山者の存在 ・ トイレや登山道におけるマナー違反（異物の投棄やごみの放置、協力金の不払い等） ・ ごみのポイ捨てや野外排泄等のルール・マナー違反による環境悪化や景観悪化 ・ 山小屋におけるマナー違反（事前予約なしの当日飛び込み、当日無断キャンセル） ・ 指導員のマナー・ルール指導に従わない登山者 ・ 外国人登山者への情報提供不足 ・ 富士宮ルート of 登山者の緊急避難やルール指導等の安全対策及び入域管理拠点となる施設がない	地域

1. 混雑の偏り



御来光目的の夜間における混雑状況

2. マナー・ルール違反



荷物を放置した登山

3. 背景・要因

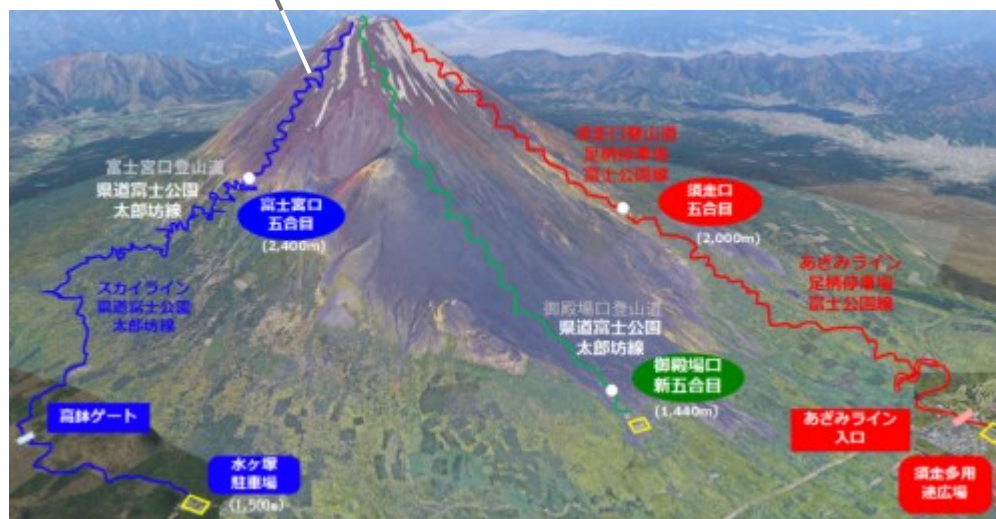
● 課題の背景・要因

主な背景・要因

- | | |
|----------------------|---|
| 1. 狭い登山道 | <ul style="list-style-type: none">登山道が1本道で狭い御来光の時間帯等、特定の時間帯に登山者が集中することにより、頂上付近で混雑が発生 |
| 2. マナーに関する情報が浸透していない | <ul style="list-style-type: none">従前からマナー啓発を実施しているが、特に外国人登山者等には情報が浸透していない |
| 3. 外国人登山者の増加 | <ul style="list-style-type: none">富士登山・御来光登山人気が高まっており、外国人を含めた観光客の増加が見込まれる外国人観光客など、ルールや知識不足の観光客が増加し、事故や遭難のリスクが発生しやすい |
| 4. 登山者や登山形態の多様化 | <ul style="list-style-type: none">富士山人気の高まりにより、御来光を目指した弾丸登山や夜間登山等の危険な登山が増加登山者も多様化している（国内外の観光、登山、ガイドツアー、団体旅行、個人旅行、トレイルラン、等） |

1. 狭い一本道

静岡県側登山道（富士宮・御殿場・須走ルート）



静岡県側の3つの各登山道は、狭い一本道で混雑が発生することもあり



マナー啓発によるルールが必ずしも浸透していない

4. 対策の概要

- ・ 静岡県は安全な富士登山を目指し、受入環境整備、マナー啓発、調査分析の計4事業を実施
- ・ 「静岡県富士登山事前登録システム」を導入し、ルールの事前周知を行うことで、安全快適な富士登山の実現を目指す
- ・ 将来的な入域管理の拠点となる施設の設置に向け、基礎調査事業を実施する



受入環境の整備・増強

取組み	①「静岡県富士登山事前登録システム」の導入と試行
背景	・ 富士登山ルール・マナー違反や夜間弾丸登山が課題となっている
内容	・ 本システム導入、事前周知・広報により、夜間弾丸登山の抑制、ルール・マナーの事前学習を徹底し安全快適な富士登山の実現を目指す

マナー啓発

取組み	②山頂付近への安全誘導員の配置
背景	・ 8合目～山頂付近の混雑、マナー違反が課題となっている。また、文化の違いや知識不足等による主に外国人登山者のマナー・ルール違反を解決する必要がある
内容	・ マナー違反を指導する安全誘導員を配置する

調査・分析

取組み	③登山者の実態調査
背景	・ 登山者に関するデータは、八合目地点での情報しかないことが課題である
内容	・ 本事業では、五合目地点でデータを収集する
取組み	④富士宮口における入山管理及び安全対策の拠点となる、来訪者施設整備に関する計画策定基礎調査
背景	・ 来訪者の安全確保及び将来的な入域管理の拠点となる施設がないことが課題
目的	・ 施設設置に向けた基礎調査事業を行う

5. 主な取組み（詳細）

課題

登山ルール・マナーの違反
夜間弾丸登山・軽装登山を起因とした遭難救助の増加
山頂付近の混雑

取組み

「静岡県富士登山事前登録システム」の導入と試行
実施期間：令和6年7月10日～9月10日（開山期）
実施主体：静岡県

事業内容

■「静岡県富士登山事前登録システム」の概要

- 安全で快適な富士登山のため、静岡県側からの登山者に、システムへの登山計画（登山時間や山小屋宿泊予約の有無等）の登録と、富士登山のルール・マナーの事前学習（eラーニング）を行っていただくシステム
- システムは多言語（日・英・中（簡体・繁体）・韓・ベトナム・タイの7言語）に対応
- システム上で、富士登山保全協力金の決済も可能（任意）

■事業概要

- 静岡県側の3つの登山道（五合目地点）で現地スタッフがシステムへの事前登録後に発行されるQRコードを認証
- 現地では、午後4時以降に登山を始める方に対して山小屋宿泊予約の有無を確認
- 開山期間中（19日間：7月10日～9月10日）の登山者の実態（登山者数、外国人登山者数、弾丸登山者数、ヘルメット持参者数）を調査し、システム利用率等を算出する。またシステムに関するアンケート調査を実施し、システムの利便性を検証する



QRコード認証確認の様子

令和6年度事業の目標

- 入域管理システムの実証実験を行い、**利用率やシステムの利便性を検証**する
- 登山者の実態（登山者数、弾丸登山者数、外国人登山者数等）を調査し、**システムの効果等を検証**する

事業の成果／目標の検証結果

- システムの効果を検証し、**次年度以降のシステムアップデートに繋げるポイントを明確化**することができた
- システム利用率70%**(利用率：システム登録者÷登山者数)
 - 弾丸登山者数10.2%**（R5年度と比較し、**約5%減少**）

成果詳細

【結果】

- システム利用率は70%**（システム認証者数61043人÷登山者数89459人）
- 弾丸登山者の割合は、15.1%(R5)から**10.2%(R6)に減少**
- 富士山保全協力金の協力率は74.3%と過去最高**となった
- 開山期間中(7/10-9/10)の遭難救助件数は、70人(2023年)から64人(2024年)に減少したが、死亡者数は6人と過去10年で最多
- 外国人登山者割合は、**25.5%**（R5年度比10.1%増）

【システムに関するアンケート調査の結果】

- 「システムを利用する際に会員登録が必要」、「配信されるメール数が多く煩わしい」といった意見があり、システムの利便性に課題が見られた
- システムと山小屋予約の連携を求める声が多く聞かれた

【事業結果に対する分析と見解】

- 弾丸登山者数については、本年の「静岡県富士登山事前登録システム」の導入と施行による一定の成果が得られたと見られる
- 外国人登山者数については、訪日客需要の増加が見て取れ、今後外国人に向けた取組の周知を徹底していく必要がある
- システムに関しては令和6年度はOTAであったが、来年度は静岡県独自のシステムに移行し、利便性を向上させる。山小屋予約については、山小屋ごとに予約の取り方が多様なため、静岡県システムとの連携が難しいが、将来的には山小屋予約機能も拡充したいと考えている

登山者に占める弾丸登山者および外国人登山者の割合

登山者の割合	R 5 (%)	R6 (%)
弾丸登山	15.1	10.2
外国人	15.4	25.5

富士山保全協力金の協力率



令和6年度の取り組みから見えてきた課題

1 山梨県側と一定程度調和のとれた規制

- ・ 静岡県側ルートに登山者数は6%増えた一方、山梨県側ルートに登山者数は減少しており、山梨県側の通行規制の影響があったものと考えられる
- ・ 開山期間中の遭難救助件数は、令和5年と比較し減少したが、死亡者数は6人と過去10年で最多となった
- ・ 外国人登山者割合も増加しており、外国人へのマナー啓発も重要
- ・ 安全安心な富士登山実現にむけ、山梨県側と一定程度調和のとれた規制を行うことが重要

2 条例に対応した体制の整備

- ・ システムによる事前登録は任意であるにも関わらず、利用率は7割と高い結果となった
- ・ 今後、条例による登山規制が実現した場合は、システムによる入山管理ができるよう、新たな機能を付加したシステム構築及び保守管理が必要
- ・ システム登録後の受付対応、システム未利用者の現地学習スペースが必要。今後条例で制定すると、24時間対応できるよう、拠点や人員の整備が必須

3 弾丸登山者への対応

- ・ 夜間弾丸登山者は15.1%(R5年)から10.2%(R6年)に減少しており、本年の「静岡県富士登山事前登録システム」の導入と施行による一定の成果が得られた
さらなる弾丸登山者減少のための対策が必要
- ・ 山梨県側の取り組みで、登山規制が弾丸登山抑制に大変効果的であることが示された

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

1 条例の制定

- 山梨側と一定程度調和のとれた規制を実施するため、令和7年2月の県議会にて条例案を提出した
【条例案の概要】
 - ・ ルール・マナーの事前学習
 - ・ 夜間登山規制の実施（規制時間：午後2時～翌午前3時。山小屋宿泊者を除く）
 - ・ 入山料の徴収（4000円を徴収）
- 環境省及び山梨県と協力し、事前学習動画（6言語）を制作中

2 県独自システムへのアップデート

- 来年度は静岡県独自のシステムにアップデートし、より使いやすいシステムを目指す。また、変更条例に合わせ、新たに以下の機能を追加予定
- ・ 入山管理料決済機能
 - ・ GPS機能の安全対策活用
 - ・ 気象情報等のプッシュ配信機能、等

3 拠点整備や人員整備

- ・ 来訪者施設の早期整備を目指す
- ・ 登山規制を実施し、弾丸登山者のさらなる減少を目指す
- ・ 弾丸登山者等のマナー違反者に対して適切な指導ができるよう人員整備を強化する
- ・ 現地体制を整備し、事前学習及び現地学習を必修化

17. 京都府京都市

1. 地域概要

計画名	市民生活と調和した「持続可能な京都観光」の実現に向けた観光課題対策推進事業
対象エリア	京都駅、東山（祇園、清水）地域、嵯峨嵐山地域等で実施
実施主体	京都府京都市
年間観光客数 （令和5年）	約5,000万人（うち外国人約700万人）
年間延べ宿泊客数 （令和5年）	約2,300万人（うち外国人約1,150万人）
主な観光資源	茶道、華道、現代美術などの「文化芸術」 世界遺産「古都京都の文化財」などの「文化財」 西陣織、京料理、京菓子などの「伝統産業」 寺社、京町家、里山などの「自然・景観」 など



二条城



鴨川

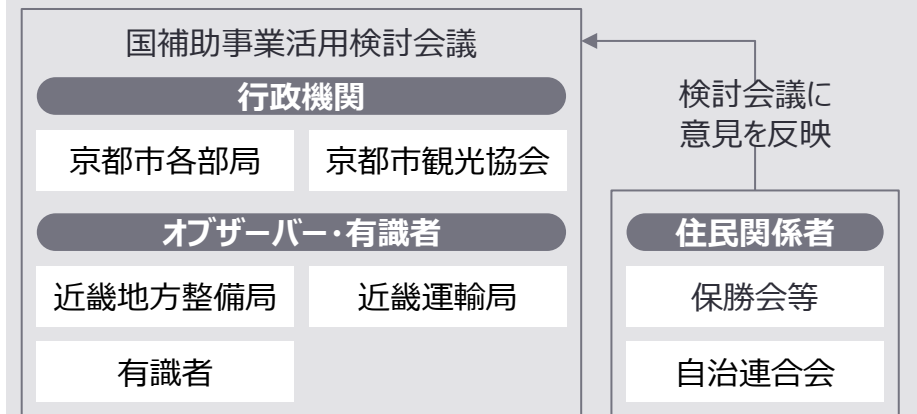
● 観光ビジョン

市民生活と調和した「持続可能な京都観光」

- 市民生活に過度に影響を与える各観光課題への対策を一層強化するとともに、観光に対する市民理解・共感の輪の拡大、観光客・観光事業者等による地域貢献の促進等にも取り組み、京都観光に関わる全ての関係者が対立ではなく互いに尊重し合える関係を築く

● 推進体制（協議の場）

- 対策計画策定においては、国補助事業活用検討会議を開催（京都市各部局、京都市観光協会、有識者等）
- 観光関連16事業者、保勝会等34団体、自治連合会6団体に対し、書面や訪問等による個別意見聴取を実施し意見を反映
- さらに、市民の意見をより幅広く募集するため、市ホームページ上で、市民向けオンラインアンケートを実施。



2. 課題

● 主な課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 市バス混雑・交通渋滞	・ 市バスの車内混雑や交通渋滞によりスムーズな観光ができない、市民の利便性や快適性が低下するなどの問題が発生	観光客・住民
2. 観光地の過度な混雑	・ 大型連休や桜、紅葉などの時期において、清水寺などの人気スポットに観光客が特に集中し、スムーズな観光や住環境に影響	観光客・住民
3. マナー問題	・ ごみの不法投棄、騒音、私有地への無断立ち入りなどにより、観光地近傍の地域に居住する市民の生活に影響	住民
4. 京都観光に対する市民の理解・共感の低下のおそれ	・ 観光のネガティブな影響を強調した、観光課題に関する報道が繰り返されることにより、京都観光に対する市民の目が厳しさを増している。 ・ 京都の魅力は市民の暮らしの中で創造されてきたものであり、京都観光を持続可能なものとしていくためには、市民の京都観光に対する理解・共感の欠けが大きい。そのため、市民生活との調和を大前提とした取組が必要。	住民

1. 車内混雑・交通渋滞



市バス待ちの行列
(京都駅前バスのりば／清水寺方面)

2. 観光地混雑



嵐山エリアの混雑

3. マナー問題



京都観光行動基準 (京都観光モラル)

3. 背景・要因

主な背景・要因

1. 時期・場所などの集中

- 大型連休や桜・紅葉などの**時期**、清水寺や渡月橋など**認知度の高い観光スポット**に、**国内外の観光客が集中**することで、道路や歩道、動線となる公共交通機関の混雑に繋がる。

2. 観光と住民の生活圏の近接

- 観光スポット周辺にも住宅地等が形成されていることから、観光スポット周辺の道路や市バス等の公共交通機関の混雑、観光客によるマナー問題等が、住環境に直接的な影響を与える。

3. 市民、観光客、観光事業者等が互いに尊重し合える関係づくり

- 京都観光を持続可能なものとしていくためには、市民、観光客、観光事業者等が京都観光に共感し、互いに尊重し合える関係づくりが必要。
- 市民に対しては、観光課題対策をしっかりと進めていくことが大前提となるが、**観光による恩恵を市民に実感してもらえることも重要**であり、効果の見える化等をはじめとする共感促進の取組を一層進めていくことが必要。
- 観光客によるマナー問題は、問題となる行動に関する啓発だけでなく、推奨される行動等の実践を促進する仕組みが不足している。

1. 時期・場所などの集中



竹林の小径（嵐山地域）



竹の径（洛西地域・向日市）

2. 観光と住民の生活圏の近傍

- 観光客が集まる場所に住宅があるなど、生活と観光客の動線が重複



嵐山地域の主要観光地と住宅街の位置関係
(国土地理院ウェブサイトを基に、京都市作成)

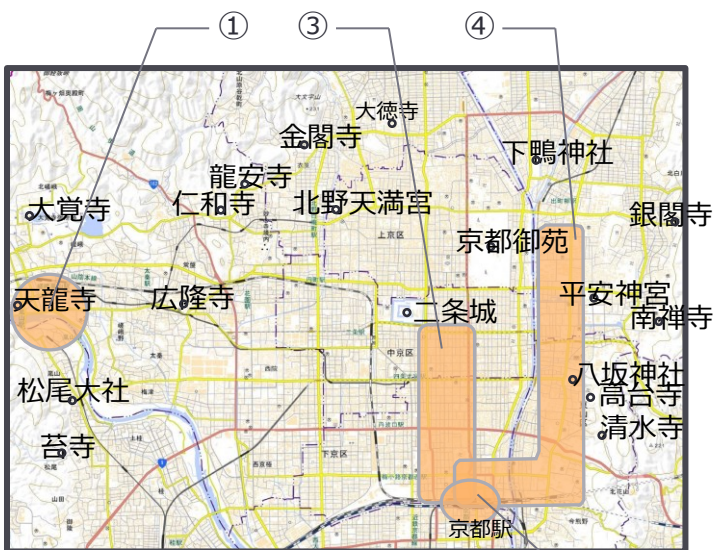
3. 京都観光への共感

- 京都観光に係る関係者全員が京都の観光モラルを作り上げることが必要



4. 対策の概要

- 京都観光の回復に伴い、市民生活への影響を懸念する声が大きくなっている。
- 京都市では、これまでから観光課題対策を強化し、一定の効果も得られてきたが、「観光公害」との報道がなされることも相まり、市民生活との調和の実現に向け、混雑対策やマナー問題等の取組が一層必要な状況。
- 上記を踏まえ、本事業において、エリア内における場所の分散、混雑対策、市民も含めた京都観光の関係者の満足度の向上等、総合的な事業を実施する。



国土地理院ウェブサイトを基に、京都市作成

観光客の分散・平準化

取組み

背景

内容

①嵯峨嵐山エリアの局所的混雑を踏まえた回遊ルート誘導実証事業

- 特定の場所（渡月橋、長辻通）に観光客が集中する一方で、嵯峨エリアは比較的混雑していないなどの偏りが生じている
- デジタルマップを活用したモデルコース紹介やスタンプラリー、ライブカメラ映像の配信を行うとともに、誘導員や看板設置等による回遊ルートへの誘導を行うことで、エリア全体での混雑緩和を図る。

受入環境の整備・増強

観光客の分散・平準化

取組み

背景

内容

②交通混雑緩和に向けた情報発信等の強化

- 京都駅に観光客が一極集中し、同駅発着の一部バス路線に過度な集中が発生
- デジタル広告の活用や鉄道事業者との連携した情報発信により、観光客の他鉄道駅への分散、同駅を発着するバスの待ち時間短縮・車内混雑の緩和を図る

取組み

背景

内容

③手ぶら観光の推進に向けた宿泊施設等を巡回するバス導入実証事業

- 観光客の大型手荷物持ち込みによる市バス車内の混雑等が発生
- 京都駅を起点に市内宿泊施設等を巡回する手荷物持込可の専用バスを導入
- 「宿泊施設に手荷物を預けてから観光する」新たな手ぶら観光スタイルを構築

取組み

背景

内容

④「観光特急バス」をはじめ、観光に便利な系統の新設等 ～生活路線の混雑緩和に向けて～

- 市民利用と観光利用が重なる市バスの一部路線や時間帯で混雑が発生
- 観光地最寄りの停留所のみ停車する「観光特急バス」の情報発信等により利用促進を図り、観光特急バスと並走する生活路線の混雑緩和を図る

地域住民と協業した観光振興

マナー啓発

取組み

背景

内容

取組み

背景

目的

⑤「観光効果の見える化・観光への市民共感」促進事業

- 持続可能な観光実現に向け、市民生活との調和、市民共感の輪の拡大が重要
- 観光がもたらす意義・効果等わかりやすく伝える専用サイトの作成及び周知を行う

⑥観光客による「京都観光モラル」宣言促進事業

- 観光事業者、観光客、市民がともに大切にしたい行動基準を定めた「京都観光モラル」の促進のため、観光客による当該行動基準の実践を促進する必要がある
- 観光客による「京都観光モラル宣言」を行う仕組みを構築するとともに、観光事業者から「京都観光モラル宣言」を行った観光客向けの特典等を提供いただくことで、上記仕組みの一層の活用を図る

5. 主な取組み（詳細）

課題

嵯峨嵐山エリアにおける局所的な混雑発生

取組み

嵯峨嵐山エリアの局所的混雑を踏まえた回遊ルート誘導実証事業

- ・ 実施期間：令和6年10月～令和7年2月
- ・ 実施主体：京都市

事業内容

■ 嵯峨嵐山エリアの局所的混雑を踏まえた回遊ルート誘導実証事業

- ・ 以下取組により、定番ルートやスポット（渡月橋・長辻通・竹林の小径）に集中しがちな観光客に対し、比較的混雑していないエリア（嵯峨エリア）への回遊を促す

①：「デジタルマップ」作成（日本語・英語で配信）

- ・ ①嵯峨エリアを巡るデジタルスタンプラリーの実施（11/1～12/1）
- ・ ②ライブカメラによる混雑状況の発信
（混雑箇所に加え、嵯峨エリアの混雑していない箇所も見える化）
- ・ ③嵯峨エリアを中心とした観光スポット情報や期間限定のイベント情報の紹介
- ・ ④周遊観光におすすめのコースの紹介、混雑予測箇所の明示
- ・ ⑤嵯峨の魅力を紹介する動画の配信 など

②：警備員、誘導員の配置及び看板設置

- ・ 現場において分散化のラストワンプッシュとなる誘導を行う。（11月23日、24日、30日、12月1日）

③：AIカメラ設置

- ・ 歩行者数データを測定・検証し、今後の対策改善につなげる。（11月上旬～令和7年1月末）

【背景・目的】

- ・ 嵯峨嵐山エリアでは、現状、渡月橋・長辻通・竹林の小径といった定番ルートに観光客が集中している一方で、嵯峨エリアは比較的空いており、嵯峨嵐山エリア全体として混雑状況に偏りが見られる。
- ・ 観光の分散や流入調整による局所的な混雑の緩和を図るとともに、歩行者の安全の確保や車両の円滑な運行の推進を図る。

デジタルマップイメージ



5. 主な取組み（詳細）

事業内容

2・3 警備員配置・AIカメラ設置イメージ



成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

- デジタルマップを活用した取組により、**嵐山エリアの混雑緩和**を図る

事業の成果／目標の検証結果

- 非混雑エリアである嵯峨エリアの観光客数が**約30%増加**
嵐山エリアは+7.6%であったため、嵯峨エリアへの分散に効果があったと考えられる
 - PV数：36,845人
 - デジタルマップ利用者：23,555人
 - 利用者アンケート：回答者の**8割**が満足との回答

成果詳細

嵯峨・嵐山周遊ガイド（デジタルマップ）の検証

嵯峨嵐山観光ガイド（実施期間：11/1~12/1）

	総計	うち日本人	うち外国人
閲覧者	36,845件	25,316人	11,529人
利用者	23,555人	16,205人	7,350人

※R6年度祇園祭宵山ガイド（WEB版・3年目）の閲覧者、利用者を上回った

■ その他参考指標

- 外国人利用者の国別データ：米国・英国で約40%
- スタンプラリー利用実績：参加者436名、達成者164名
- 利用者アンケート：
「満足」以上割合：約8割（102/129）
「デジタルマップをみて、奥嵯峨の観光地を訪問しようと思った」：
デジタルマップ利用者の約4割の行動変容を実現（53/129）

- 工夫点として、チラシではなく、デジタルマップ紹介するカード型で作成することで、お土産品として活用できる形とし、直接配布
- タビ前でなく、来訪されたその場で魅力を遡及することで、初年度から利用者を増やし、満足度、エリア内での周遊性を高められた

ビッグデータ等を活用した検証

日本人観光客動向（KDDI Location Analyzer）

	増減割合	R6年度	R5年度
嵐電嵐山駅	+7.6%	41,973人	39,001人
常寂光寺	+33.6%	9,966人	7,461人
祇王寺	+36.0%	7,495人	5,513人
あだし野念仏寺	+27.1%	2,689人	2,116人

嵐山エリア以上に奥嵯峨のお寺を訪問した観光客が明確に増加

■ その他参考指標

- 当該ビッグデータは日本人観光客が対象
- 嵯峨エリアの寺社からの声：
共通意見として、日本人観光客より外国人観光客が増えた。
寺社で個別にSNSでマップの紹介等も行ったため、訪問してくれた方もいると思う。等ポジティブな意見が寄せられた

- デジタルマップ内には、ヒートマップもあわせて掲載し、嵯峨・嵐山エリア内の観光スポットおよび混雑状況をわかりやすく可視化
- また、最も混雑するスポット（長辻通・渡月橋）には、警備員・誘導員・看板を設置することで、嵯峨エリアへの物理的誘引にも成功

令和6年度取り組みから見えてきた課題

- ・ 事業としては、定量的に効果が可視化され、期待する効果が得られた
- ・ 令和6年度、紅葉シーズンの予測がうまくはまったが、季節性から繁忙期が変動することもあり、事業実施時期の見極めが重要
- ・ 観光客の目的地の設定において、細かなスポットまでは到着まで決めていない場合も多く、その点を踏まえた周知方法の検討が必要

1

・ エリア内での周遊においては、いま旅行中の観光客に「観光スポット」・「混雑度」の周知が効果的

- ・ 観光客は嵯峨・嵐山エリアを訪れることは決まっていますが、到着してから個々の訪問先スポットを決定する傾向にある

2

・ 広告媒体を受け取ってもらうための工夫

- ・ デジタルマップをお土産になるような、カード形式で作成
- ・ 観光の起点である駅前にて誘導員が直接配布することで、受取率およびデジタルマップ利用率を高めた

3

・ 紅葉シーズン等の繁忙想定時期の見立て

- ・ 上記誘導員配置等は、市の予算手配上早期に決定しておく必要があるが、紅葉シーズン等は年により変動するため、最繁忙期にあわせられるような柔軟性が必要

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- ・ デジタルマップのデータレポートや利用者アンケート、ビッグデータを複合的に活用することで、国内旅行客、外国人旅行客ともに、一定のデータを収集することができたが、今後のデータ収集・分析方法については、継続的に検討したい

1

1 広報・PR関連事業の実施方法の見直し

- ・ 嵯峨嵐山エリアにおける事業では、デジタルマップ作成の他、ヒートマップ、魅力発信動画、カード形式で配布等、様々な工夫を凝らすことで、周遊に寄与
- ・ 別のエリアにおいても同様の取組横展開を検討したい

2

2 事業効果最大化にむけた手法の見直し

- ・ 日本人観光客についてはビッグデータに基づく人流計測により正確性の高い事業評価ができた
- ・ 外国人観光客については、定性的な評価となったため、将来的な測定方法等の検証が必要

3

3 開花シーズン、GW、夏休み等他繁忙期への応用

- ・ 本事業ではデジタルマップの他、長辻通における人流カメラ設置や交通規制等、複合的な事業により効果が出た
- ・ 紅葉シーズン以外での事業実施について検討したい

5. 主な取組み（詳細）

課題

京都観光の関係者による京都観光への共感の醸成や、互いに尊重し合える関係の構築

取組み

観光客による「京都観光モラル」宣言促進事業

- ・ 実施期間：令和6年10月～令和7年2月
- ・ 実施主体：（公社）京都市観光協会

事業内容

■ 京都観光モラル宣言特設サイト

- ・ 観光客に京都観光モラルについて学び、遵守を宣言していただく「**京都観光モラル宣言特設サイト**」を作成

【背景・目的】

- ・ 観光客を対象とした取組については、マナーをはじめとする啓発関係の取組を重点的に実施してきたが、持続可能な京都観光を実現していくうえでは、観光客による京都観光への共感や、市民や観光事業者等と尊重し合える関係づくりも重要となる。
- ・ 上記を踏まえ、観光客に京都観光モラルについて学び、遵守を宣言していただく「**京都観光モラル宣言特設サイト**」を作成し、**京都観光モラルの理念の周知を図るとともに、民間事業者との連携の下、遵守を宣言した観光客に対して事業者による特典・優待情報等を提供することで、観光客による京都観光モラルの理解と実践を促進する。**

京都観光モラル宣言特設サイト



京都の観光マナー、
文化・歴史をクイズで学べる

京都を愛する皆さまからの
京都観光モラル宣言

京都観光モラル宣言証明書
を条件達成で発行

証明書のご利用で特典獲得
お得・特別な京都観光を！

令和6年度事業の目標

- ・ サイト作成により、**京都観光モラルの理念の周知を図る**
- ・ 観光客に対して事業者による特典・優待情報等を提供することで、観光客による**京都観光モラルの理解と実践を促進する**

事業の成果／目標の検証結果

- ・ **11月1日より特設サイトオープンし、観光モラル宣言の取組への参加者が増加。今後周知活動継続予定**
 - ▶ 観光モラル宣言をする観光客数 **1,199名**
 - ▶ 宣言者向けに特典提供する事業者数 **110件**
 - ▶ 特典の利用実績 **91件**

成果詳細

“京都観光モラル”特設サイトのオープン



“京都観光モラル宣言”活用による地域一体の取組の開始



- ・ **R6.11.1より、京都観光モラル宣言の特設サイトを公開**
京都の文化・マナーを学べるクイズに挑戦することで、特典獲得可能
- ・ **その他ポスター、チラシ等コンテンツの整備が完了**
今後、SNS活用による旅行前段階からの周知を図り、周知の加速を図る

- ・ **タイトなスケジュールでありながら、美術館や博物館の他、伝統工芸品店等110事業者が特典提供を開始**
(モラル宣言証明書の提示で、割引特典や商品提供等特典)
- ・ 今後、お土産店や飲食店等、特典提供を行いやすい事業者の参画を募り、京都市内事業者が一体となって、観光モラルの普及を図る

令和6年度取り組みから見てきた課題

- まずは従来のチラシ・ポスターでの観光客に対するマナー啓発の有用性や普及度合いを計測できる非常に有意義な事業であった。
- その上で、今後の課題としては、普及に関して①**外国人観光客及び若年層への周知**、②**外国人にとっての使いやすさ**の2点が挙げられる。
- また、事業者提供いただいた特典の利用回数が少なかったことから、③**観光客が参加するインセンティブの設計**についても再考が必要である。

1 外国人観光客及び若年層への周知

- 宣言者の約40%が55歳以上であり、若年層の宣言が少ない
- 宣言者の約90%が日本人であり、外国人の宣言者が少ない

2 外国人が使いやすいデザインや設計への改善

- 地図機能が日本語のみであったり、日英併記のサイトであり、外国人にとって使いにくいウェブサイトになっており、デザインや設計の改善が必要

3 事業者が提供する特典の利用回数の増加

- 事業者において魅力的な特典を開発してもらったり、キャンペーンの存在を事業者に認知してもらうための猶予期間が短いため、利用につながる特典の調達が困難であった。
- キャンペーンに参加者層において、旅行をする際に「お得感」を求めるニーズが少ない可能性がある

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- 特設サイト準備からの着手となったため、今期は紅葉シーズンの旅前における周知期間が不十分となった。今後、特に若年層・外国人観光客に向けて適切な周知チャネル及び周知方法を検討する。
- また、ユーザーからユーザーへと拡散していくために、SNSへ投稿したくなるコンテンツの強化にも取り組む。
- 最後に観光客へのインセンティブ設計については、京の夏の旅・京の冬の旅とタイアップするなど、京都ならではの特典を用意し、数よりも質を高めることが重要と考えている。

1 SNSの活用

- 若年層が利用するInstagramでの発信を強化するとともに、英語での周知素材を作成し、若年層・外国人へのリーチを拡大する
- 観光モラルを宣言するという行為を効率的に把握する手段のひとつとして、SNSの活用が考えられる。
- さらなる宣言者を獲得するために、SNS上での情報拡散も必要。

2 外国人に対応したデザイン最適化

- 外国人による利用も想定し、ターゲットごとにデザインの最適化を行う

3 持続可能な観光地づくりに繋がる特典の開発

- 単なる割引などではなく、観光モラルに共感する人だからこそ関心を持つような特別な体験を、特典として用意する

5. 主な取組み（詳細）

課題

- 観光の回復に伴い観光課題が顕在化する中、市民が観光の意義や効果をより実感できる環境づくりを進める必要がある

取組み

「観光効果の見える化・観光への市民共感」促進事業

実施期間：令和6年10月～令和7年2月

実施主体：（公社）京都市観光協会

事業内容

- 市民生活と調和・両立した「持続可能な観光」の実現を目指すに当たり、観光課題対策の強化はもとより、京都観光に対する市民の共感の輪を広げていくことも重要。
- 観光の意義・効果、観光課題とその対策や、観光事業者が主体的に提供する市民限定サービスの情報等を市民に分かりやすく伝える専用サイトを作成し、市民理解の促進を図る。

暮らしと観光をつなぐポータルサイト「LINK! LINK! LINK!」の開設



観光事業者が提供する市民限定サービスの発信

店舗・施設での特典（京都市民限定）!

観光に関連する店舗や施設が提供する割引などの特典情報をご案内。
京都市民の皆さま限定のサービスです！市内を観光・散策する際にぜひご利用ください。

※京都市内在住の個人の方が対象です。
※都合により、予告なくサービス内容が変更となる場合があります。

例：食・グルメ・ショッピング、映画、バス、レンタカー、京都駅周辺、京都駅西口、京都駅南口

☆特典：市内在住の方とわが家とくど、森美術館、デジタル館「京島島上」

キャンペーン（京都市民限定）!

【募集終了】京都市民限定！「キクタン英会話【京都編】」で外国人観光客と交流しよう！キャンペーン

【募集終了】京都市民限定！「京の冬の旅」内覧会ご招待キャンペーン

【募集終了】京都市民限定！「京の冬の旅」おこしバス（京都定期観光バス）ご招待キャンペーン

京都市民に京都観光を楽しんでもらう特典付与

令和6年度事業の目標

- 観光の意義・効果、観光課題とその対策や、観光事業者が主体的に提供する市民限定サービスの情報等を市民に分かりやすく伝える

事業の成果／目標の検証結果

- 情報を充実し、観光で評価されることを誇りに思う市民の割合が増加
 - 特典提供事業者数：50社（目標）→**63社**（3.18時点）
 - 観光効果等を紹介した記事：10本（目標）→**13本**（3.18時点）
 - 観光で評価されることを誇りに思う市民の割合：64.9%以上(R5) → **65.8%**（R6）

成果詳細

暮らしと観光をつなぐポータルサイト「LINK! LINK! LINK!」の開設

店舗・施設での特典（京都市民限定）

観光に関連する店舗や施設が提供する割引などの特典情報をご案内。
京都市民の皆さま限定のサービスです！市内を観光・散策する際にぜひご利用ください。

※京都市内在住の方を対象です。
※都合により、予告なくサービス内容が変更となる場合があります。

暮らしや仕事を支える

観光は、京都の経済に活力を与え、地域の雇用を支える重要な役割を担っています。

観光関連産業で働く人の数

17万5千人 → 5人に1人に相当

注）京都観光総合調査（2023年）に基づき推計

観光による税収効果

京都市の観光予算 13億円

一般合計の0.2%（2019年度）

観光による税収効果 390億円

市民収入の12.8%

注）観光庁「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」の手法を参考に独自推計

京都の経済活動のうち観光産業が占める割合

全国 4.6%

京都 12.4%

注）京都観光総合調査（2019年）などに基づき推計

「LINK! LINK! LINK!」の認知度向上施策

LINK! LINK! LINK!

暮らしと観光をつなぐ

京都市民の皆さまが市内を観光・散策する際に必ずおぼろけの市民限定サービスをお届け！観光が京都にもたらす意義や効果、課題とその対策なども分かりやすくご紹介。世界中の人々が感じる京都の魅力が再発見していきましょう。

訪日ラボ
<https://honichi.com/news/kyotolink>

京都市、暮らしと観光をつなぐポータルサイト開設 - 訪日ラボ
2024年12月16日・京都市は、暮らしと観光をつなぐ市民向けポータルサイト「LINK! LINK! LINK!」を開設しました。このサイトは、市民生活と調和した「持続可能な観光」の実現に...

M [エム] KYOTO by Leaf
<https://www.leafkyoto.net>

京都市民限定のキャンペーンや割引特典も！暮らしと...
2024年12月3日（火）に、京都市民の暮らしと観光をつなぐポータルサイト「LINK! LINK!（リンク・リンク・リンク）」が開設された。京都市と京都市観光協会による新たな取り組みで、グルメや観光スポット、体験施設など、市内の観光・散策時に役立つイベント情報や京都市民限定の割引特典サービスが盛り...

トラベルボイス
<https://www.travelvoice.jp>

京都市、市民と観光をつなぐサイト開設、観光への理...
2024年12月12日・京都の観光を知ってもらうための情報や、京都市公式note「暮らしと観光をつなぐ」で深掘したコンテンツを順次配信する。また、サイト開設に合わせて、京都の魅力を見直すための市民限定キャンペーンを実施。「観光が京都にもたらす効果」に関するクイズに回答すると、「京の冬の旅」...

市内の広報板・回覧チラシでも周知

民間メディアも多数取組を掲載

- R6.12.3「LINK! LINK! LINK!」をオープン
観光客数や経済効果、税収効果等、定量的な情報を発信
- 観光事業者が提供する市民限定サービスの発信
63社が市民限定サービスを提供(R7.3.18時点)

- 市内広報板、公式SNS、その他民間メディアにより広く周知
約3か月で11万PV超と、多くの市民が同サイトを閲覧

令和6年度取り組みから見えてきた課題

- ・ 事業期間に対し、想定以上の好意的な反響が得られた
- ・ 広報板などの従来型の周知方法と、SNS発信などのオンライン上での周知方法を組み合わせることで、広く市民を対象に周知できた
- ・ 特設サイト上でのアンケートによる効果測定を想定していたが、回答者層の偏りが発生し、正しく効果測定できないため、手法については慎重な検討が必要である

1 特設サイトの認知度向上

- ・ 公式LINE、公式noteなど、行政が運営する市民向けの媒体を活用することで周知を図った。に加え、民間メディアが本事業を取り上げて紹介したこともあり、周知が大いに進んだ

2 効果測定手法の検討

- ・ 特設サイト訪問者は、もともと観光課題対策や観光がもたらす恩恵に理解のある市民が集まることが想定されるため、本事業が市民の意識に与える影響を正に評価する方法については今一度検討が必要。

3 取材記事テーマの設定

- ・ 事業実施期間中に取材が可能かどうかといった制約条件があるなかで、観光がもたらす経済効果や、宿泊税の用途についての解説記事を作成したため、本当に市民が知りたいと思っていることへの答えを用意できていない可能性がある。

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- ・ 令和6年度の成果を踏まえた事業の周知に引き続き取り組むことで、事業者の参画を促し、観光事業者から市民に対する利益還元の可視化を推進する。
- ・ 一方的な発信だけでなく、市民が参加できるような企画も検討し、常に活きた情報が掲載されていると感じられるようなWEBサイトの運営を目指す。

1 優待提供事業者の開拓

- ・ 引き続き、参画事業者を増やし、業界全体での取組機運を醸成し、市民による本事業への認知・理解を高めていく。

2 各種関係事業との連動強化

- ・ 事業者からの特典提供を募集するという共通点がある京都観光モラル宣言事業をはじめ、その他事業とも連携した事業設計にすることで、相乗効果を生み出す。

3 市民参加型の企画の検討

- ・ 特典メニューやキャンペーン内容、記事テーマの選定にあたって市民の意見を参考にしたり、市民の意見そのものを活用した記事を作成するなど、事業運営になるべく市民の意見を反映する。

5. 主な取組み（詳細）

課題

日常生活を中心とした市民利用と観光利用が重なる市バスの一部路線や時間帯で混雑が生じている

取組み

観光に便利な系統の新設等

- ・ 実施期間：令和6年9月～令和7年2月
（6月運行開始、以降も継続）
- ・ 実施主体：京都市交通局

事業内容

■ 観光特急バスの利用促進

- ・ 一般バスとは異なる運賃設定のもと、京都駅と特に観光利用の多い東山エリアを結ぶ**観光特急バス**を令和6年6月に新設。
- ・ 本事業では、旅行前・旅行中など、様々な場面、多様な媒体、ルートを通じた積極的な情報発信、観光特急バスの利用に便利な地下鉄・バス1日券のPR、同バスの停車停留所等における積極的な案内・誘導を行う。
- ・ 市バス“おもてなしコンシェルジュ”の同バスへの添乗による案内活動や、京都駅前でののりば案内サインの増設等により利用促進に向けた取組を強化する。

【観光特急バス概要】

- ・ 運 行 日：土休日 ※お盆（8/14～16）、年末年始（12/29～1/3）も運行
- ・ 運行系統：2系統（EX100・EX101）
 - EX100 京都駅前～五条坂(清水寺)～清水道(「かえり」のみ)～祇園～岡崎公園 美術館・平安神宮前～銀閣寺前(32回/日)
※「かえり」の清水道始発便8回を含む
 - EX101 京都駅前～五条坂(清水寺) (16回/日)
- ・ 運 賃：大人500円、小児250円
※現金・ICカード、地下鉄・バス1日券、京都修学旅行1dayチケットが利用可能。
定期券、回数券、敬老乗車証等は対象外

【目的】

- ・ 市民利用と観光利用の棲み分けにより、生活路線における市バスの混雑緩和を図る。



観光特急バス路線図

観光特急バスの運行



コンシェルジュによる添乗案内



観光特急バスの案内サインの増設



旅行者向けPR



5. 主な取組み（詳細）

事業内容

観光特急バスのバス停における案内



五条坂停留所



清水道停留所

- 観光特急バスが停車するバス停（10か所）に案内スタッフを配置
- ・ 案内スタッフはオレンジのビズを着用
- ・ 観光特急バス運行全日で実施（9/7-2/24 ※延べ62日間）

観光特急バスの案内サインの増設等



- 観光特急バスの案内サインを各所に設置
- ・ 始発停留所である京都駅前バスターミナルD1のりば周辺
- ・ 各停留所、JR京都駅デジタルサイネージ、清水寺最寄りの五条坂、清水道（バス停への誘導サインの増設）等

京都市バス”おもてなしコンシェルジュ”の案内活動充実化



- 観光特急バス内に添乗員が観光案内（10月の3連休に実施）
- ・ 京都駅前のりばでの乗車案内や、おりばでのお見送り
- ・ 車窓からの景色にあわせて、車内放送の合間に観光案内を実施

観光特急バス及び地下鉄・バス1日券のPR



- 認知度向上と利用促進を目的としたPR物を作成
- ・ 他言語WEB記事、デジタルサイネージ用動画
- ・ ポスター、リーフレット 等

令和6年度事業の目標

- ・ 運行開始した観光特急バスの普及促進を実施し、混雑を感じる市民を減少させる

事業の成果／目標の検証結果

- ・ PRにより利用者が増加し、混雑緩和に一定の効果が得られた
 - ▶ 並走する一般系統の車内混雑度
運行開始前のweb調査において、並走する生活路線の車内が「混んでいた」との回答 **68.2%以下→57.8%（10.4ポイント改善）**
- （参考）観光特急バスの一当たりの平均利用人数
2,375人／日（運行開始当初）→**2,491人／日**（9月～1月）
（4.9%増）

成果詳細

観光特急バスの利用者数の推移



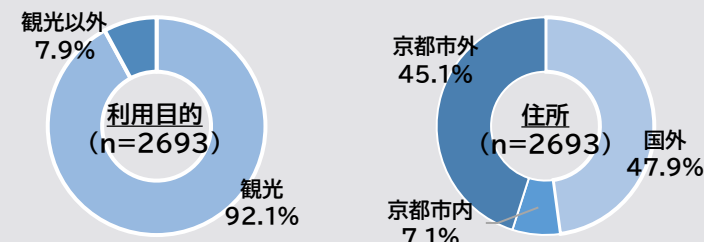
■ 参考

- ・ 観光スポットへの「ゆき」と京都駅への「かえり」で利用者数の差が見られる。
- ・ 時間帯、系統によっても利用者数の差が見られる。

- ・ 繁忙期である、紅葉シーズンにむけ、観光特急バスの周知を促進
- ・ 当初、平均2,200人/日であった利用者が、10-12月にかけて増加
ピーク時には、4,000人/日近い利用があり、並走する一般系統の混雑解消に一定の効果がみられた。

利用者属性および利用者の声

利用者の居住地は、国外が約48%、国内（京都市外）が約45%
利用目的は「観光」が92%
調査日：令和6年10月20日(日)



■ 参考

- ・ 運賃の支払い手段は、現金やICカードが6割強、地下鉄・バス1日券は3割強
- ・ 「観光特急バスにまた乗りたい」と利用者の約9割から高い評価

- ・ 外国人旅行客をはじめ、国内利用者とあわせて、観光での利用が9割以上を占めており、市民の日常利用とのすみ分けに貢献。
- ・ ICカードや現金での利用が多く、地下鉄・バス1日券での利用の余地があるものとみられる。

令和6年度取り組みから見えてきた課題

- 令和6年度運行を開始したバスではあるが、ピーク時には4,000人／日の利用も生まれ、観光客と市民の日常利用と一定分離ができた。
- 本事業の採択・交付決定のタイミングにより、周知時期が、紅葉シーズンの直前となってしまったこともあり、認知度は道半ばと思われる。

1 「ゆき」と「かえり」での利用者数の差

- 観光地に向かう「ゆき」では高い利用率であるが、京都駅に戻る「かえり」は利用拡大の余地がある。
- 「ゆき」での運行に遅れが生じ、その影響で「かえり」も時刻表から遅れた形で運行している。

2 観光特急バスの運行の更なる周知

- 京都観光における繁忙期である、秋の繁忙期の直前での事業開始であったため、利用者に対し、観光特急バスの運行について、継続してより広く周知していく必要がある。

3 IC乗車券の利用トラブルへの対応

- 外国人旅行客においても、地下鉄・バス1日券ではなく、ICカード（Suica、ICOCA等）での利用傾向
- キャッシュレス化が進んでおり、観光利便性は向上しているものと推察される。
- ICカード利用ならではのトラブルが課題（鉄道駅等での直前利用における処理未了、残高不足時の運転士の対処※）

※特に外国人旅行客とのコミュニケーションに苦慮

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- 令和6年度の運行結果、各系統における利用者数や属性等情報の初期値が取得できたため、継続的な運行を目指し、ルート・ダイヤ等の最適化を図っていく。
- 令和6年度事業で、PR・広報に活用できる、各種コンテンツが整備できたため、次年度以降も継続的に周知を強化する。

1 効率的な運行に向けた改善

- 更なる利用拡大に向け、ダイヤ上の運行時分を見直す。
- 平日運行等も検討していく必要があるが、深刻な担い手不足の中、当面は現在の運行を維持しつつ、運行パターンの見直し等の工夫を検討

2 PR強化による周知促進

- 令和6年度に作成したコンテンツを使用し、次年度以降は著効前・旅行中段階での周知を一層強化する。

3 地下鉄・バス1日券の付加価値の周知及び、ICカード利用方法の周知

- 別事業で実施した特典付き地下鉄・バス1日券については、短期間での周知にも関わらず非常に高い人気となったことを踏まえると、付加価値の付帯は重要であるため、既存の地下鉄・バス1日券でも各種優待が受けられることを一層周知し、更なる利用促進を図る。
- ICカードでの利用率が高いことから、支払い時のトラブル防止に向けたカード残高等の事前確認の周知を図る。

18. 奈良県

1. 地域概要

計画名	「奈良公園」及び「山の辺の道」エリアにおけるオーバーツーリズム対策事業計画
対象エリア	「奈良公園」及び「山の辺の道」
実施主体	奈良県観光局観光力創造課 船本広大
年間観光客入込数	奈良公園エリア：約1219.9万人(R5) 山の辺の道エリア：約29.7万人(R5)
年間延べ宿泊者数	奈良公園エリア：約174.8万人(R5)
主な観光資源	奈良公園エリア：奈良公園、春日大社、東大寺、興福寺、薬師寺、シカ 山の辺の道エリア：山の辺の道、石上神宮、奈良歴史芸術文化村、天理市トレイルセンター、長岳寺、大神神社、景観



奈良公園 浮見堂



山の辺の道

● 観光ビジョン

・【奈良公園エリア】

世界に誇れる奈良公園として、世界中の人々が訪問する場所でありつつも、地域と共生可能な持続的な観光力を有する地域

・【山の辺の道エリア】

「地域住民も参画する賑わいの創出」、「観光のチカラによる地域課題の解決」、「シビックプライドの醸成」の3つを柱とした観光地域づくりによる好循環の実現

● 推進体制（協議の場）

Yamanobe Project

- 令和3年10月に立ち上げられた、地域の課題やビジョン、取組などを協議するためのワーキンググループ。
- 山の辺の道エリアの観光関連事業者、住民、地元行政が参画する対話の場

行政機関	事業者	住民関係者
奈良県	天理市 トレイルセンター	山の辺の道 ファンクラブ
天理市	やまのべBASE	ホケノ山古墳 景観保全を語る会
桜井市	天理大学	天理市本通り 商店街共同組合
	など	など

2. 課題

● 主な課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 「奈良公園エリア」の混雑	- 奈良公園エリアに、国内外の観光客が集中し、主要スポットへの人流の集中による混雑やごみ問題等が発生 - 奈良のシカへの禁止行為といった奈良固有のマナー違反問題も発生 - 上記により、県・市・観光協会等へ観光に係る苦情に対応する時間が増加。観光客の満足度低下にも影響を及ぼしている	観光客・住民
2. 「奈良公園エリア」以外に分散させる観光資源が不足	「山の辺の道エリア」は「奈良公園エリア」「西の京エリア」に次ぎ、豊富な観光資源に恵まれるエリアであるが、ルート上に宿泊・飲食等の施設が少なく、観光上の利便性が低い オーバーツーリズムを未然防止しつつ、活用していくことが求められている - 大阪万博やIR誘致等、大幅な入込客数増が想定される一方で、交通網の整備不足や、景観保全の担い手が減少しており、魅力ある田園風景が失われる可能性がある	観光客・住民

1. 「奈良公園」への混雑集中



インバウンド需要も高い奈良公園エリア

2. 「山の辺の道」受入環境の整備・増強



「山の辺の道」は、豊かな田園風景等が魅力である一方で、環境保全方法や担い手の確立が不可欠

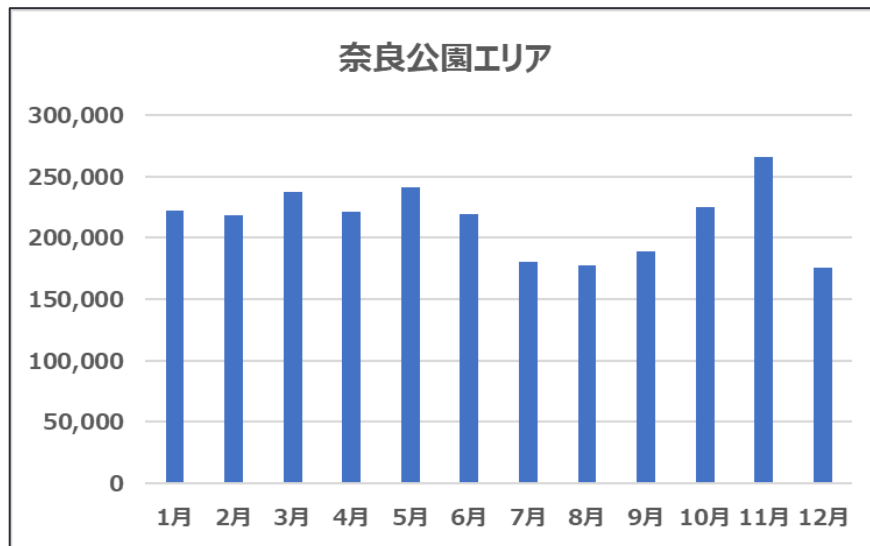
3. 背景・要因

主な背景・要因

1. 「奈良公園エリア」内の観光資源の集中と交通利便性の高さ
 - ・ 東大寺・春日大社等社寺、奈良公園等、比較的狭い範囲内に著名な観光地が立地
 - ・ 京都・大阪等近隣大都市圏から、気軽に訪れることができる（JR奈良駅・近鉄奈良駅）
 - ・ 「奈良公園エリア」の認知度が奈良県内で突出しており、また上記交通利便性の高さから、国内外観光客が日帰りで訪れ、かつ特定のスポットに集中する観光地となっている
2. 地域住民と協業した「山の辺の道エリア」の活用が進んでいない
 - ・ 「山の辺の道」は、住民の生活を縫うように通る道であり、住民と観光客の物理的距離が極めて近いこと、住民との合意形成を図りつつ、奈良公園から分散先として、魅力的なコンテンツ化していくことが必要。しかし、地域側での観光客受入に向けたマインドにばらつきがあり、地域内での合意形成が難しい
 - ・ 奈良市・天理市・桜井市と3つの自治体をまたがっており、施策のばらつき等が発生していた
 - ・ 現状、トレッキングを目的とした日帰り客中心であり、周辺観光資源への訪問や地域消費が少ない
 - ・ 「山の辺の道」周辺は、私有地が多く、耕作放棄地等、保全対策等取組が進みにくい

1. 奈良公園エリア

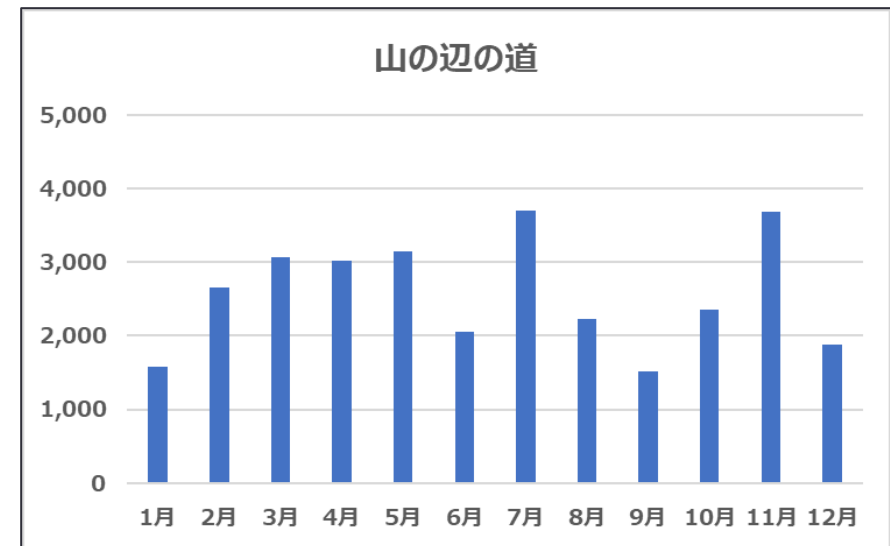
- ・ 旅行客が最も集中するエリアであり、奈良県内でも突出
- ・ R1-3年において、観光客入込客数に対し、日帰り客が約90%を占めており、宿泊客が少ない



日本人観光客人流解析（令和5年）

2. 山の辺の道エリア

- ・ 「古事記」「万葉集」ゆかりの地名や伝説が残る全長約35kmの道
- ・ 多数の古墳群や日本最古の神宮「石上神宮」や、日本最古の神社「大神神社」等、有数の資源があるが来訪者はまだ少ない

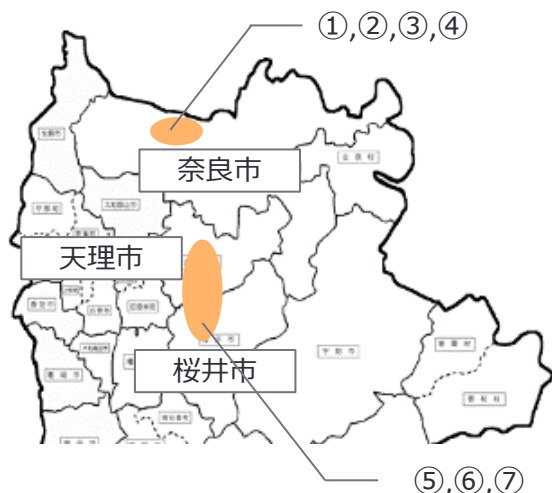


日本人観光客人流解析（令和5年）

4. 対策の概要

- ・奈良県全域でのオーバーツーリズム対策として、「奈良公園エリア」「山の辺の道エリア」の二つのエリアにおいて、計7つの事業を実施する
- ・「奈良公園エリア」では、既に混雑集中による課題が発生していることから、人流の可視化や誘導員配置等、時間的・空間的分散施策を実施
- ・「山の辺の道エリア」はブランディング、モデルルート of 造成、二次交通整備等を行い、次なる観光客受け入れ地として課題の未然防止に取り組む

事業予定地



観光客の分散・平準化

取組み

- ①奈良公園エリアおよびその周辺の人流・混雑の可視化
- ②誘導員配置による人の流れのコントロール
- ③奈良公園に集中する観光客の周辺観光地への分散

内容

- ・混雑している奈良公園の人流を可視化するため、センサーを設置。サイネージやweb等を通じて混雑状況をリアルタイム配信することで、人流を分散・平準化
- ・住民生活道路へ観光客が流入しないようガイドを配置、直接誘導
- ・奈良県内広域の周遊促進のため、インフルエンサーによるファミトリップとSNS発信、奈良公園エリアにおいて個別ガイドを実施

受入環境の整備・増強

取組み

- ④奈良公園エリアへのスマートごみ箱の設置

目的

- ・鹿の保護の観点から、これまでごみ箱を設置していなかったが、近年ごみのポイ捨てや周辺店舗のごみが増加しており、スマートごみ箱設置により軽減を図る

取組み

- ⑤山の辺の道エリアを周遊・滞在型観光地とする環境整備
- ⑥山の辺の道エリアの二次交通整備

目的

- ・奈良公園区域から山の辺の道エリアへ観光客を誘導する仕組みと受入環境整備が課題であるため、ブランディングや周遊ルート of 造成、マップの作成を実施する
- ・山の辺の道のルート内に、宿泊・飲食施設等が不足しており、宿泊先として利便性が低いことから、シェアサイクル設置やシャトルバス実証運行により周遊・滞在促進に向けた効果を図る

地域住民と協業した観光振興

取組み

- ⑦地域活動参加型ツーリズムの実施

目的

- ・景観保全の担い手不足課題を解決するため、地域住民と協働する地域活動参加型ツーリズムを実施し、観光起点で関係人口を創出する

5. 主な取組み（詳細）

課題

山の辺の道エリアの受け入れ環境整備が不十分

取組み

受け入れ環境整備および地域活動参加型ツーリズムの実施

- ・ 実施期間：令和6年9月～令和7年2月
- ・ 実施主体：奈良県

事業内容

①：山の辺の道エリアを周遊・滞在型観光地とする環境整備

- ・ 周遊・滞在型観光地「山の辺」のエリア設定、周遊ルート造成及びデジタルマップ作成
- ・ 周遊・滞在型観光地「山の辺」のブランディング、ブランドブック作成及びプロモーション

②：山の辺の道エリアの二次交通整備

- ・ 山の辺の道エリアにおける二次交通（シェアサイクル及びシャトルバス）実証実験
- ・ 山の辺の道エリアに適した二次交通ビジョン作成

③：地域活動参加型ツーリズム

- ・ 地域住民等と協業した山の辺の道エリアの史跡や街道、耕作放棄地等の景観保全や農業の活動体験を観光コンテンツとする地域活動参加型ツアーの造成・実施

【背景・目的】

- ・ 観光客の集中する奈良公園エリアから山の辺の道エリアへ観光客を誘導するため、ブランディングや周遊ルートの造成、マップの作成を実施する
- ・ 山の辺の道のルート内に、宿泊・飲食施設等が不足しており、宿泊先として利便性が低いことから、シェアサイクル設置やシャトルバス実証運行により周遊・滞在促進に向けた効果を図る



令和6年度事業の目標

- 「奈良公園エリア」から「山の辺の道エリア」へ観光客を分散するため、山の辺の道エリアのブランディングや二次交通を整備することで、**山の辺の道エリアへ観光客を誘導する**
- 地域住民と協業した観光振興として、地域活動参加型ツーリズムのニーズを探る**実証実験を実施し、施策の有効性を検証する**

事業の成果／目標の検証結果

- ブランディングや二次交通を整備により、山の辺の道エリア全体の訪問者が増加**
 - 訪問者数：**25,856人（前年同期比118%）**（令和7年1月）
 - ①**環境整備**：全7つの周遊ルート及びマップの作成
 - ②**二次交通整備**：シャトルバスの利用人数：延べ112名54組
 - ③**地域活動参加型ツーリズム**：参加者27人

成果詳細（①：山の辺の道エリアを周遊・滞在型観光地とする環境整備）

事業概要

山の辺の道は1本のルートからなる古道とのイメージが強く、既存のマップも単一ルートのみ案内となっており、周遊エリアとしての面的整備ができていない

そこで本事業では、山の辺の道エリアの周遊ルート及びデジタルマップを作成した

当該ルートはGoogleMap、特設HPで公開中

全7種類のルートを造成

- Mt.Ryuo Trail
- Yamanobe no Michi-Tenri Trail
- Yamanobe no Michi-Sakurai Trail
- Tenri City Stroll
- Hasedera Temple Trail
- National Treasure Route
- Foodies in Sakurai

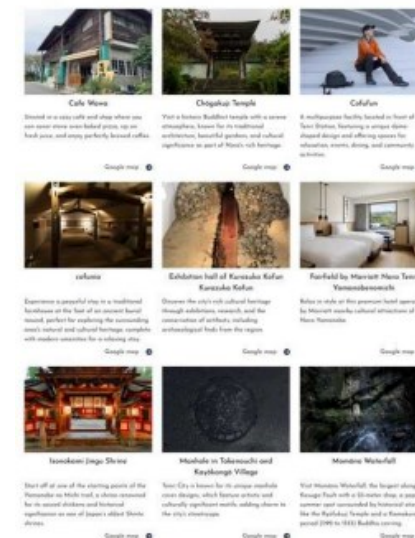
事業成果



About Yamanobe no Michi - Tenri Trail



Explore and discover



作成したデジタルマップの例（Yamanobe no Michi-Tenri Trail）

ブランディング戦略の一環として、YouTubeを活用したプッシュ型マーケティングを実践。地域関係者からは、ブランディングを通じて自地域の魅力を再発見できたとの声が届いており、シビックプライドの醸成にも寄与した。

成果詳細（②山の辺の道エリアの二次交通整備）

シャトルバス運行

結果

山の辺の道ルート上から、エリア内宿泊施設にアクセスできる手段として、シャトルバスの実証運行及びアンケート調査を実施した

バスの運行ルート：奈良健康ランドから天理駅を経由し天理市トレイルセンター
便数：1日6便（3往復）
期間：12月2日～12月21日
料金：無料

延べ112名54組の利用があった
曜日別、時間帯別の利用者数は以下の通り



バスの運行料金についてのアンケートでは、「200円であれば乗車賃を支払う」という意見が最も多かった

金額	単位：人
100円	14
150円	2
200円	21
250円	6
300円	6
有料であれば利用しない	5
合計	54



奈良健康ランド



天理トレイルセンター



天理駅

成果詳細（③：地域活動参加型ツーリズム）

地域活動参加型ツアー

地域の住民等が山の辺で行っている営みを観光コンテンツとして提供する、「地域活動参加型ツーリズム」の実証実験を行い、観光を活用した地域づくりと関係人口の創出につながる仕組みを構築する

ツアーA（日帰り）

ツアー名：「山の辺の道ファンクラブと触れ合う」

実施回数：2回

参加者：計12名

参加費：2,500円

募集方法：SNS（Facebook）

ツアーB（日帰り）

ツアー名：「東乗鞍古墳が語る古代の物語」

実施回数：1回

参加者：計8名

参加費：2,000円

募集方法：SNS（Facebook）

ツアーC（宿泊）

ツアー名：「日本最古の道・山の辺の道を地元ガイドと歩く」

実施回数：1回

参加者：計7名

参加費：10,000円

募集方法：SNS（Facebook）

結果

合計27名が本実証実験に参加し、**需要（参加者）・供給（地域）双方のニーズを確認**できた。需給をつなぐ民間事業者の採算性確保といった課題はあるものの、**持続可能な景観保全の仕組みとできる見込み**

【参加費について】

アンケート調査の結果、全てのツアーにおいて、モニター価格より参加者の回答価格が上回っており、**参加費については値上げの余地**がある

	モニター価格(円)	平均参加者回答価格(円)
ツアーA	2,500	3,900
ツアーB	2,000	5,250
ツアーC	10,000	14,428

【ツアーの様子】



令和6年度取り組みから見てきた課題

1 山の辺の道エリアの認知度向上

- ・ 本事業ではデジタルマップやブランドブックの作成を行ったが、奈良公園エリア等と比較すると、認知率が低いのが実情
- ・ 引き続き、「山の辺の道エリア」のブランディングに力を入れていく必要がある

2 シャトルバスの黒字化

- ・ アンケート調査結果から乗車運賃を200円として国土交通省の基準運賃をもとに収支を試算すると、1日あたり200人以上の利用が必要であることが判明
- ・ 現時点では黒字化は非常に困難

3 地域活動参加型ツーリズムの収益化

- ・ 満足度が高いコンテンツを提供できたが、今後民間企業が企画・運営した際に民間企業に収益が残るかが課題
- ・ また季節によってはツアーに見合った地域活動がない可能性もある
- ・ 今回の事業では参加者を20人として募集したが、満員となった場合は参加者を管理しきれない可能性がある。運営側の受け入れキャパシティを再検討する必要がある

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

1 「山の辺の道エリア」のブランディングの継続実施

- ・ 次年度は奈良県のプロモーション予算を活用し、ブランディングを継続していく
- ・ YouTube等のSNSを活用した広報活動を実施し、山の辺の道エリアへの誘客数を増やす

2 国内旅行代理店に対する営業を強化

- ・ 「山の辺の道エリア」にフォーカスしたツアーを造成してもらうよう、国内旅行会社に働きかける

3 宿泊事業者が持つバスの活用

- ・ アンケート結果から、利用者ニーズは確認できたため、無償運送規制緩和を活用した宿泊事業者による地域共同でのバス運行の実現を模索していく

4 収益化に向けたコンテンツ及びツアーの拡充

- ・ コンテンツ化する地域活動を再検討し、収益化を目指す
- ・ ツアーを通じてどのような学びを提供することができるのか、という視点で、ツアー内容をブラッシュアップする

19. 和歌山県高野町

1. 地域概要

計画名	聖地高野山の交通渋滞の緩和や持続的な参拝観光地の創出に向けた取り組み
対象エリア	高野山
実施主体	高野町
年間観光客数 (令和5年)	約145万人（うち外国人約10万人）
年間延べ宿泊客数 (令和5年)	約21万人（うち外国人約9.3万人）
主な観光資源	・総本山金剛峯寺 ・世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」 ・日本遺産「女性とともに今に息づく女人高野」 ・森林セラピー基地「世界遺産高野山 千年の森」



弘法大師空海



世界遺産 奥之院

● 観光ビジョン

国内外から参拝観光客が来山する 山岳仏教都市「高野山」を維持継承する

- ・ 魂が休まる森に囲まれ、塔頭寺院が軒を連ねる、日本の原風景とも謂える独特な景観と静謐な街高野山を護り伝えと共に、歩いて楽しい街、また来たくなる高野山の創造を目指す
- ・ 2034年執行の宗祖弘法大師御入定1200年記念大法会を念頭に、オーバーツーリズム対策の検討を進める

● 推進体制（協議の場）

課題解決における地域関係者

- ・ 地域採択以降、当該関係者が参加する懇談会を計7回開催（4月～6月）
- ・ 地域の声は、地域に根差した団体の他、高野町連合町内会役員の出席

行政機関	事業者	住民関係者
高野町	総本山金剛峯寺	高野山宿坊協会
和歌山県	南海電気鉄道	高野町商工会
	南海りんかんバス	高野町観光協会
	紀陽銀行	高野町連合町内会
	高野山未来創造プラットフォーム	

2. 課題

● 主な課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 交通渋滞	- 国内旅行者は、公共交通機関からマイカーによる日帰り旅行に移行 - 駐車場不足による渋滞やそれによる路線バスの遅延や緊急車両の通行阻害 - 高野山内の混雑による静謐さ、環境への悪影響	観光客・住民
2. 増加する観光客の持続的な受け入れへの懸念	年間145万人の観光客が来訪しているが、高野町の住民は2,600人規模であり、急増する観光客を受け入れ続けられるかという懸念がある（公衆トイレの維持管理、駐車場の警備員の配置、ごみ処理、公共インフラや救急や医療体制等の観光インフラの維持）	地域経済・住民
3. 信者などの宿泊客を十分に受け入れられない	- 訪日外国人旅行者が増加傾向にあるが、働き手不足から稼働客室は減少 - 訪日外国人旅行者の宿坊人気もあり、価格高騰や客室の早期予約により、信者を含む国内旅行者の宿泊が困難な状態となっている	観光客

1.交通渋滞



紅葉シーズンの交通渋滞様子

2.3.コロナ禍以降のインバウンド需要回復



金剛峯寺を訪れる多くの観光客



人気の高い宿坊の一室
※高付加価値化事業を活用

● 課題の背景・要因

1. 観光客の属性変化 限定的な入域ルート

- ・ 国内宿泊客数は減少する一方、**外国人旅行者は大きく増加し、宿泊者の半数を占める**
- ・ 国内旅行者が、かつての**団体旅行者からマイカーによる日帰り旅行に移行（紅葉シーズンがピーク）**
- ・ 鉄道を使用する場合、南海高野線極楽橋から高野山駅（ケーブルカー）下車後、バスで中心部へ移動
- ・ 山内の移動では、**中心部を貫通する、県道53号高野天川線を使用する他なく、車両が集中**

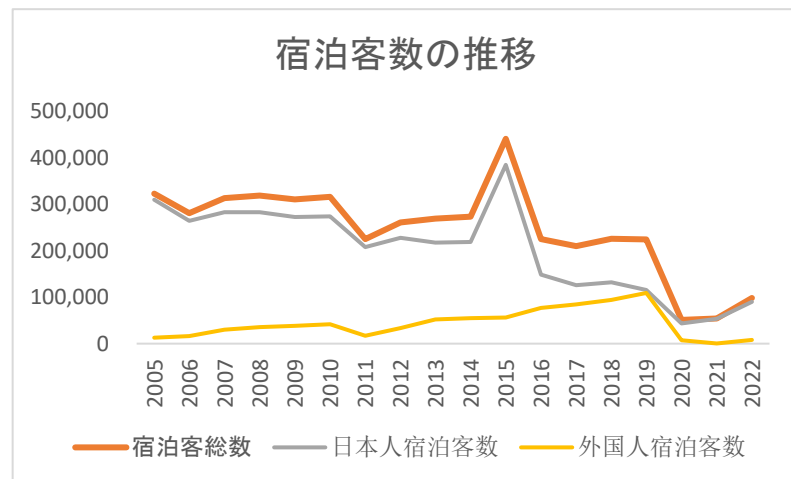
2. 高齢化に伴う税収減

- ・高野町では**高齢化が加速しており、税収減が想定**されている
- ・そのため、**観光税導入における新たな財源確保などが必要**であるが、高野山真言宗の総本山であり、観光目的でなく、**信仰や参拝、お墓参り等を目的とした信者の数が多く**、それら来訪者から駐車場代金や徴税することに対し、**反発の声が大きい**ため、**信者への配慮が必要**である

3. 宿坊の人手不足

- ・ 高野山における観光コンテンツとして、宿坊は誘客力は高いものの、**宿坊側の高齢化や担い手不足により、宿坊数や従業員の減少**が進んでいる
- ・ 一方で、**町外から宿坊で働きたいという声も**上がっているが、従業員の**滞在先等の環境が整っていない**

1.観光客の属性変化



- 国内宿泊者数は減少する一方で、外国人宿泊者は数
右肩上がり増加している

1.限定的な入域ルート



- ・ 地図左側、「高野山大門」を起点に、右側「奥之院」へのルートが一般的な観光ルート
※上記  を結ぶ道路を通る他なく、観光客の車が山内に集中してしまう
- ・ 電車の場合も、地図外の高野山駅から、路線バスにて、高野山大門側から入域する

4. 対策の概要

- 紅葉シーズン等繁忙期において、マイカーによる観光客が集中し、中心エリアが大きく混雑することから、2つの駐車場関連事業を実施する
 - マイカー来訪を抑制するための、満空情報の掲載・発信
 - マイカー来訪者の山内滞留を抑制するための、駐車場有料化および無料駐車場への誘導
- 増加する観光客の受入環境増強に向けて、高野山が提供する体験価値の中心である宿坊の雇用不足解消を目指し、人材マッチングおよび滞在拠点の整備を行う
- 観光地としての持続性を高める上で必要となる原資の確保に向けて、法定外目的税導入の検討や、オーバーツーリズム対策全般の継続的な協議の場を設置する



分散・平準化

取組み

① 駐車場対策事業（満空情報の掲載、利用者データ収集）

内容

- 高野山エリア内の混雑状況を可視化・発信し、公共交通機関の利用誘導や最適なルート案内により、**観光客のマイカーでのエリア内流入数減少を図る**
- 取組を通じて、交通データを蓄積させ、今後の渋滞緩和施策への活用につなげる

受入環境の整備

取組み

② ICTを活用した駐車場の有料化

内容

- 中心部の駐車場が無料であり、長時間駐車が多く、回転率が悪い
- 高野山エリア中心部の駐車場を有料化し、山外の無料の大門南駐車場へ誘導。パークアンドバスライドで山内へ誘導

取組み

③ 宿坊の雇用不足解消に向けた人材マッチング実証実験

内容

- OTAデータを活用し、人手不足となる宿坊を事前に検知し、短期就労者希望者をタイムリーに派遣する
- 域外からの就労希望者の就労期間に滞在できる住居を整備する

調査・分析

取組み

④ 法定外目的税の徴収にむけた協議の実施

内容

- 継続的な協議の場を設置し、法定外目的税の目的・金額・方法・時期について、合意形成を図る

地域住民と協働した観光振興

取組み

⑤ 高野山の観光課題やあるべき姿を考える懇談会の継続開催

内容

- 2034年執行の宗祖弘法大師御入定1200年記念大法会や大阪IR実現等、今後の大規模な観光客の流入を見据え、オーバーツーリズム対策に関する地域内での継続的な協議の場を設置

5. 主な取組み（詳細）

課題

- ・ 繁忙期に対応するための駐車場台数が不足している

取組み

- ・ 駐車場満空情報発信
- ・ 中心部駐車場の有料化
 - 実施期間：令和6年10月～令和7年2月
 - 実施主体：高野町、総本山金剛峰寺

事業内容

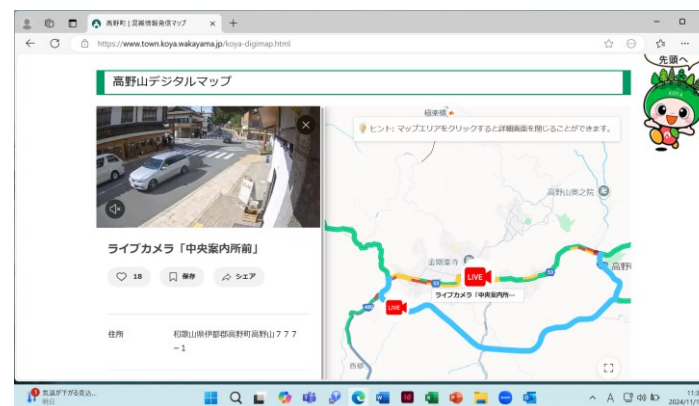
①：駐車場満空情報発信

- ・ 駐車場の満空情報をHP等にリアルタイムで掲載する
- ・ 駐車場の満空情報及び奥の院中の橋駐車場有料化について、旅行前段階・旅行中での情報発信を行う

②：中心部駐車場の有料化

- ・ 奥の院中の橋駐車場を有料化する

混雑状況を可視化・高野町ホームページでリアルタイムで発信



【背景・目的】

- ・ 駐車場不足に起因する交通問題に対し、旅行前段階での満空情報発信により、公共交通機関利用を促す。到着時には、空いている駐車場への誘導、ナンバープレート情報の収集や他データとの組み合わせにより、データに基づく観光地経営に繋げる
- ・ 駐車場が無料のため、山内に点在する駐車場を目指しマイカーが押し寄せ、空いている駐車場を求める「うろつき車両」が渋滞を誘発する他、長時間にわたり駐車する車両が多いため、駐車場の有料化を図る

入山ルートへの混雑情報発信



看板にQRコード掲載



混雑情報 & 有料化案内

精算の様子



有料化した奥之院中の橋駐車場

成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

A：混雑情報の発信：

公共交通機関利用促進への施策の有効性を検証

B：駐車場有料化：

長時間にわたり駐車する車両抑制への施策の有効性を検証

事業の成果／目標の検証結果

A：満空情報発信：

紅葉時期にページビュー数が大幅に増加。取組みに一定の効果があることを確認できたが、認知度はまだ低い水準にとどまっている。

- ・ページビュー**195回/日**(10月後半)→**757回/日**(11月)
- ・訪問者数に占める満空情報の参照割合：**数%程度**

B：駐車場有料化：

- ・来訪者からは概ね理解の声
- ・警備員配置の効率化につながった
- ・地域内での新たな収入源としても有効

成果詳細

満空情報の発信（10/16-11/24）

		10/16～31 A	11/1～24 B		伸び率 B/A
デジタルマップ	ページビュー①	195.3	757.0	回/日	3.88
	ユーザー数②	37.4	102.2	人/日	2.73
乗用車交通量（花坂・観光目的）③		928	1,504	台/日	1.62
比率	①/③	0.210	0.503		
	②/③	0.040	0.068		

■ 対象期間

A：10/16-31 B：11/1-24（駐車場有料化期間）

■ 数値評価

1. デジタルマップの1日あたりのページビュー数やユーザー数は、時間の経過とともに、閲覧者の割合は増加。駐車場有料化の影響もあり
2. ユーザー数は、観光目的の乗用車交通量の4%～7%程度にとどまっており、デジタルマップの周知が必要となる

- ・秋の高野山来訪者数は、紅葉のタイミングおよび天候に左右されるため、一概には評価が難しいが、事業後半でのアクセスが増加
- ・自家用車で来訪される国内旅行客がここ数年、増加傾向にあることから、今後の周知により、混雑解消を図る必要がある

駐車場有料化実証実験結果（11/1-11/24）

有料化駐車場の利用台数および売上			
	売上	利用台数	一日平均
中の橋駐車場	9,251,000円	17,260台	308,333円
本山前第二	5,455,000円	8,103台	224,608円
合計	14,706,000円	25,363台	—

■ その他参考指標等

1. 駐車場有料化に伴い、誘導がしやすくなったことから**警備員配置を例年より22名減員に成功**（169人→147人）
2. 初の有料化であったが、**苦情等はほぼなく**、利用者へのヒアリングにおいては、**有料化への理解を示す声や許容する声が多**数を占めた
3. ヒアリング調査では、**高野山を訪れてから現地で知った観光客が多**数であった（12/19名）

- ・初の有料化実験により、一定の駐車場収入見込額、利用者属性といった初期値の把握ができ、以降の料金設計等に活用ができる
- ・波及効果として、誘導員の最適化や、徒歩観光を選択する旅行客が増加したため、高野山の魅力をより感じてもらえる可能性も高い

令和6年度取り組みから見えてきた課題

- ・ 高野山における特徴として、紅葉シーズンに来訪客が集中する傾向にあるため、単純な比較ができないことが前提としてある
- ・ デジタルマップによる混雑可視化および駐車場有料化は、いずれも現地に到着するまで認知していなかった来訪者が多くを占めていた
- ・ 駐車場有料化は利用者から想定以上に受け入れられ、高野町に恩恵をもたらす一方で、違法駐車など新たな課題も発生した

1 デジタルマップの認知度向上

- ・ 来訪台数に対して、ビュー数は限定的なものとなった
- ・ 一方で高野山を訪れる手前での看板設置により、混雑状況や駐車場有料化について認知は図れたことから、今後認知度向上策を進めていくことが課題

2 駐車場有料化に伴う、路上駐車への増加への対応

- ・ 多くの来訪者から、有料化に対する理解醸成はできた
- ・ 一方で、有料化を忌避して、商工会前付近に路上駐車する等の影響も発生し、車両の流動性が低くなる場面もあった

3 まち歩き観光客の増加

- ・ 駐車場の有料化に伴い、ヒアリングを行った6割の観光客が徒歩で高野山内を散策していることが判明
- ・ 高野山の観光において理想的な「徒歩+バス」での散策の有用性が認識できた

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- ・ 混雑情報の発信、有料化の周知含め、事業期間の経過と共に、認知が進んだ傾向もあるため、今後も事前周知を働きかける
- ・ 有料化については前向きな意見が多く、今回の実証実験で得た知見から、料金体系や除外者等の見直しを行い、あわせて今後も発生が想定される違法駐車対策の検討を行う
- ・ 有料化により、徒歩周遊に繋がる側面もあることから、高野山を歩いて楽しんでもらうコンテンツ作り等も同時並行で推進する必要がある

1 デジタルマップの事前周知および現地広報

- ・ 事業期間の後半、紅葉シーズンにおいてはビュー数が増加したこともあり、今後も継続的な周知が必要
- ・ 現地広報も含め実施方法については、検討が必要
- ・ デジタルマップの活用により、高野山の南側を通る国道371号(循環道路)の利用を促進

2 駐車場の料金設定や対象駐車場の拡大

- ・ 利用者の滞在時間等の初期値も獲得できたため、今後料金体系や駐車場の絶対数の拡大を検討
- ・ 迷惑駐車、違法駐車対策として、警察等との連携も強化

3 徒歩と路線バスによる山内周遊の促進

- ・ 立ち止まる場所・立ち寄る空間づくりなど、時間消費のコンテンツを増強し、徒歩および路線バスの適切な利用の促進を図る
- ・ 大型の大門南駐車場への誘導を強化

5. 主な取組み（詳細）

課題

- ・ 法定外目的税の徴収含む、各種検討が進められていない

取組み

法定外目的税の徴収にむけた協議の実施

- ・ 実施期間：令和6年12月～令和7年2月
- ・ 実施主体：高野町

事業内容

■ 法定外目的税の徴収にむけた協議の実施

- ・ 継続的な協議の場を設定する
- ・ 協議にあたっては、議論の発散を防ぐため、小規模な検討会を設置し、また有識者をにも協力をいただき、議論を継続

【背景・目的】

- ・ インバウンド需要が高まる一方で、少子高齢化が進むことで、参拝観光地高野山の公共インフラ(上水・下水・ごみ処理・公衆トイレの維持・駐車場等への警備員の配置等)を維持するための住民負担が増大、持続可能な参拝観光地の形成が難しくなって来ている
- ・ これまで実施した懇談会では、法定外税（宿泊税）の導入について意見はまとまらず、また具体的な徴収方法についても確定することができなかったことから、継続してこの課題を協議する意見交換会を開催し、徴収の対象、徴収額、徴収の方法、徴収した税の利用方法等について協議を行う必要がある
- ・ 本事業採択後も、法定外税等について、町内各関係者から意見を収集した結果、多数のご意見を頂いた

懇談会の様子



警備員の配置や公衆トイレの維持管理に大きな経費がかかる



令和6年度事業の目標

- 法定外税徴収の目的、金額、徴収方法、徴収対象、徴収開始時期が明確になっており、地域内の合意を得る

事業の成果／目標の検証結果

- 法定外目的税の導入には時間を要するため、まずは、山内駐車場の有料化により一定の財源を確保することを目指すこととした
- 並行して、法定外税や協力金の創設等について、町内関係者と継続的な協議を実施する

成果詳細

関係者懇談会の開催

開催実績			
会議名	開催日	会議名	開催日
第1回懇談会	2024/04/09	第10回懇談会	2024/10/03
第2回懇談会	2024/04/23	第11回懇談会	2025/12/24
第3回懇談会	2024/04/30	第12回懇談会	2025/01/21
第4回懇談会	2024/05/14	第13回懇談会	2025/02/10
第5回懇談会	2024/05/21		
第6回懇談会	2024/05/28		
第7回懇談会	2024/06/04		
第8回懇談会	2024/09/17		
第9回関係者懇談会	2024/09/24		

- 多数の地域関係者（総本山金剛峯寺、宿坊協会、商工会、観光協会、町内会、交通機関、金融機関、高野町、和歌山県等）を集めた協議の場を形成
- 法定外目的税導入に対する現状共有と意見聴取を実施

財源確保を検討する意見交換会の開催

開催実績	
第1回財源確保を検討する意見交換会	2024/12/18
第2回財源確保を検討する意見交換会	2025/01/14
第3回財源確保を検討する意見交換会	2025/01/31

- 参加委員
- 総本山金剛峯寺
 - 一般社団法人高野山宿坊協会
 - 高野町議会
 - 和歌山大学観光学部
 - 高野町（企画公室、税務会計課、観光振興課）
 - 近畿運輸局
 - EYストラテジー・アンド・コンサルティング（伴走事務局）

- 関係者懇談会とは別に、スモールな協議体として、財源確保を検討する意見交換会を設置し、財源に関する認識あわせ・協議を行った
- 専門家である和歌山大学松田特任教授からのアドバイスや、他自治体の事例勉強会を実施（俱知安町・美瑛町・廿日市市）

令和6年度取り組みから見てきた課題

- ・ 法定外目的税導入に向けた初期的な協議の場を設置し、多数の関係者を集めた関係者懇談会と、スモールな協議体である検討部会を設置し、年間を通して協議を実施
- ・ 歴史的・宗教的に特殊性の高い町であることから、徴税すること自体への是非や検討できる徴税方法について議論を行い、高野町の現状認識および財源確保の方向性の目線あわせを実施した

1 「信仰の自由」への懸念の払拭

- ・ 公平性の高い入域料のような形を検討したが、日本仏教の聖地である高野山のお詣りに、費用が発生することに対して、懸念の声が発生した

2 物理的な徴税方法への懸念の払拭

- ・ 公共交通機関（電車・バス）、自家用車が主なアクセス方法であるが、関係者間での初期的な議論において、入域行為に対して税を調整する方法が困難と想定された

3 観光客の受入にかかる経費の増大への対応

- ・ 現在住民が負担している経費（公衆トイレの維持管理費、駐車場への警備員の配慮等）の負担率が他自治体と比べても大きいことが判明

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- ・ 少子高齢化を背景に、町民の負担額が増大していく見込みであること、来訪者される観光客にも負担いただくべき経費があることを共通認識化し、あるべき姿について協議を行った
- ・ 本事業で実施した、駐車場有料化実証実験で得た知見も踏まえ、今後の現実的に高野町で実施できる形を模索していく

1 ステークホルダーとの継続的な協議

- ・ 協議の場を重ねた結果、高野山における現状についての理解を深まり、また料金・税に関わらずに訪問者に負担いただくべき経費について共通認識をもつことができた
- ・ 持続可能な観光地にむけて継続的に協議する

2

・ 山内の駐車場の有料化等から財源確保

- ・ 今回の駐車場の有料化実証実験により、駐車場収入や警備員への削減効果等が検証されたため、高野町および高野山が負担している経費の充当検討を進める
- ・ 別途、法定外税や協力金等の形も検討する

20. 島根県出雲市

1. 地域概要

計画名	出雲大社周辺エリアにおける渋滞対策及び持続可能な観光推進事業
対象エリア	出雲大社周辺エリア
実施主体	出雲市
年間観光客入込数	約1,209万人(2023年)
年間延べ宿泊者数	約84万人(2023年)
主な観光資源	出雲大社、神門通り、稲佐の浜、古代出雲歴史博物館、旧大社駅（重要文化財）



出雲大社



稲佐の浜

● 観光ビジョン

**期待（来たい）が膨らむ観光のまち出雲、
365日楽しめる出雲**

- ・「縁結びの聖地」「神話のふるさと」として広く知られ、出雲大社をはじめ、出雲日御碕灯台やジオパーク、日本遺産「日が沈む聖地出雲」に認定されるなど、出雲の魅力ある観光資源を効果的に組み合わせた取組を展開し、周遊滞在型観光に繋げる
- ・ 秋季と冬季などの繁閑差が大きいことから、各エリアの魅力を効果的に発信し、通年365日楽しめる出雲を目指す
- ・ 地元住民と観光客双方に快適な観光地の実現を図るため、観光資源に負荷をかけ過ぎることなく、中長期の視点で保全と活用のバランスを保った観光振興を目指す

● 推進体制（協議の場）

大社交通渋滞対策実行委員会

- ・ 大社地域内の年末年始、ゴールデンウィーク、盆休み等の歩行者の安全と交通渋滞の緩和を推進することを目的として、委員会を設置

主な構成メンバー

行政機関	商工団体等	地元団体
出雲市	出雲観光協会	出雲大社
島根県	出雲商工会	出雲教
国土交通省	一畑電車	大社地域自治協会連合会
出雲警察署	一畑バス	大社旅館組合

2. 課題

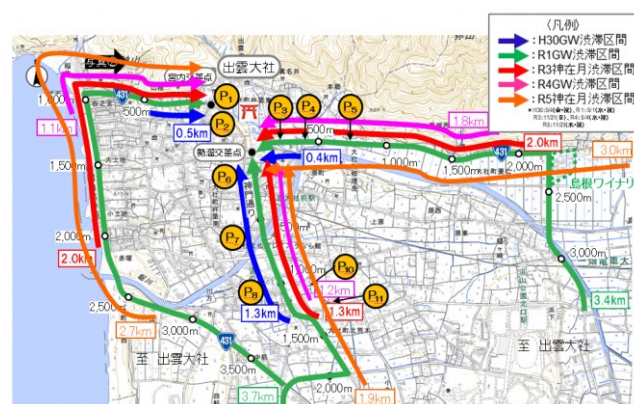
● 主な課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
深刻な交通渋滞による観光客や住民の満足度低下	- ゴールデンウィーク(GW)や神在祭期間、年末年始等、駐車場混雑に伴い周辺道路の渋滞が発生 (R5最大渋滞長、GW2.7キロ、神在祭期間3.0キロ、年末年始3.5キロ) - 交通渋滞の発生により、観光客・地域・住民、多方面にネガティブな影響が出ている ✓ 渋滞による時間のロスなどによる観光客満足度低下 ✓ 時間ロスによる周遊機会の損失 ✓ 観光車両の生活道路への入り込みにより地域住民が自宅から出られない、帰れないなど日常生活に大きな支障が発生	観光客 地域 住民

深刻な交通渋滞による観光客や住民の満足度低下



神門通りの渋滞状況



平成30年から令和5年
大型連休・神在月における渋滞区間



生活道路への観光車両進入

3. 背景・要因

● 課題の背景・要因

主な背景・要因

1. 場所や時期の集中

- ・メイン観光地である出雲大社付近に駐車しようとする車が多く、渋滞が発生しやすい
- ・シーズンに観光客が局所的に集中し、渋滞や混雑が発生しやすい

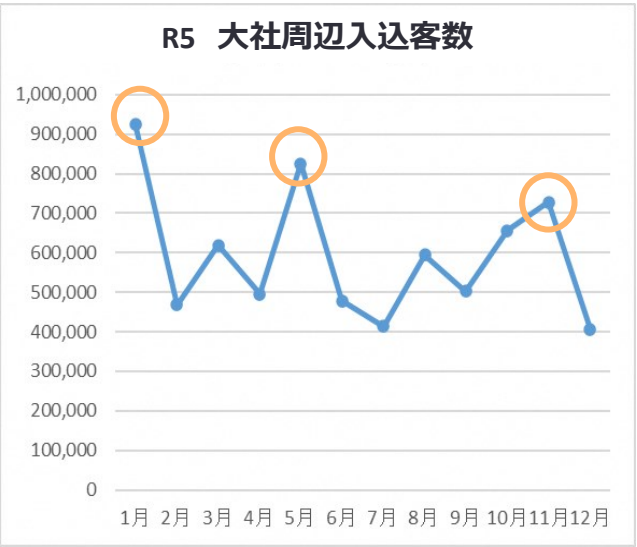
2. 渋滞状況の変化

- ・テレビ番組の報道の影響により、出雲大社に向かう主要道路の渋滞状況が変化しつつある
- ・これまでの経験と勘に基づき渋滞対策実施日を決定しているため、適切な渋滞対策を実施できているか不明
- ・渋滞対策日のみ渋滞状況等のデータを集計しているため、他日の渋滞状況が不明

3. 渋滞対策にかかる経費増

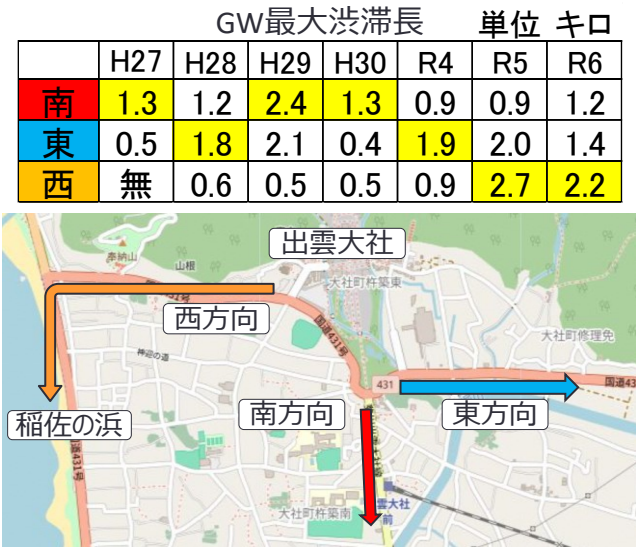
- ・人件費等の上昇により、渋滞対策にかかる経費が年々増加
- ・渋滞対策内容を拡充したくとも、予算不足により、かえって渋滞対策実施日・内容を縮小している状況

1. 場所や時期の集中



- ・年末年始、ゴールデンウィーク、神在祭期間に観光客が集中している

2. 渋滞状況の変化



- ・平成30年11月に稲佐の浜がテレビ番組で紹介され、コロナ禍収束後に、稲佐の浜方面（西方向）へ渋滞が延長するように変化

3. 渋滞対策にかかる経費増

令和6年度 予算書		
(単位:円)		
収入の部		
科	目	予算額
款	項	本年度
1.	寄附金	320,000
2.	協賛金	150,000
3.	負担金	23,000,000
4.	雑収入	117
5.	繰越金	47,883
	計	23,518,000
支出の部		
科	目	予算額
款	項	本年度
1.	事業費	23,481,000
	1. 需用費	900,000
	2. 役務費	11,000
	3. 賃借料	230,000
	4. 委託料	22,340,000
2.	事務費	25,000
3.	予備費	12,000
	計	23,518,000

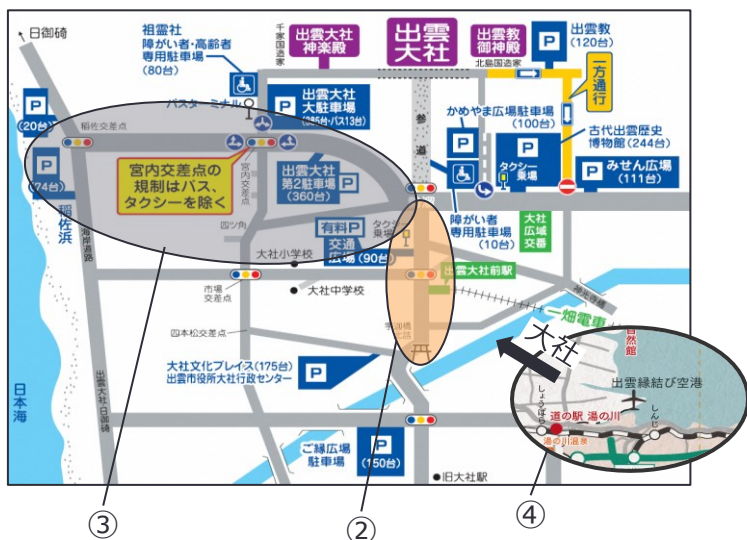
- ・大社交通渋滞対策実行委員会の令和6年度予算では、人件費を含む委託料の占める割合が高い（年々増加傾向）

4. 対策の概要

- GW、神迎期間、年末年始の多客日は、昼間時間帯に観光客が集中し渋滞が発生するため、混雑予報情報をウェブサイトで発信する
- 従来の渋滞対策（駐車場確保、シャトルバス運行、交通規制等）だけでなく、駐車場の有料化に向けた実証や持続可能な対応策についても検討する

エリアマップ

全域: ①



調査・分析

取組み

①多客日における渋滞対策の強化

（ETC2.0プローブデータを活用した渋滞予測作成、駐車場協力金の実証）

- これまでの対策実施状況と渋滞状況の分析
- データ分析に基づく多客日のランク分け、対策実施（臨時駐車場の確保、シャトルバス運行、交通規制等）
- 混雑予報と広報強化
- 駐車場有料化に向けた駐車協力金の実証実験
- 持続可能な対策案の検討

内容

- 今までは経験と勘に基づいた渋滞状況予測と渋滞対策をしていたため、ETC2.0の情報を生かしたデータ分析を実施する
- 多客日のランク分けを始めとした各種対策を実施し、渋滞発生に対応できるようにする
- 新たなwebサイトを構築し混雑予報情報等を発信することで渋滞緩和を図る
- 渋滞対策費を捻出するためにも駐車場有料化に向け実証実験や持続可能な対策案について検討する

受入環境の整備・増強

取組み

②エリアwi-fi導入

内容

- カーナビ情報のみに頼り、出雲大社に隣接する駐車場を目指す車両による渋滞が発生している。ホームページにアクセスし渋滞情報を取得できるようにエリアWi-Fiを導入する

取組み

③グリーンスローモビリティの実証運行

内容

- マイカーやレンタカーの代わりに気軽に利用できる二次交通を整備し渋滞緩和を目指す

取組み

④空港連絡バスのキャッシュレス決済システムの導入

内容

- 空港連絡バス発券機で混雑が発生し、発車時間が遅延し乗継等に影響がでているため、キャッシュレス決済を導入し、定時出発を目指す

5. 主な取組み（詳細）

課題

- 客観的なデータではなく、これまでの経験と勘に基づき渋滞対策を実施
- 特定の時期に観光客が集中

取組み

ETC2.0プローブデータを用いた交通情報の分析の実施
混雑予報カレンダーの作成、将来的な渋滞対策案の策定

- 実施期間：令和6年11月～令和7年2月
- 実施主体：出雲市

事業内容

- ①：ETC2.0プローブデータを用いた交通情報の分析
- ETC2.0プローブデータを用いて、「令和5年度の出雲大社周辺の交通情報のデータ分析」及び「令和6年度の実証実験期間（神在月～年末年始）の交通情報のデータ分析」を行い、客観的なデータに基づき将来的な渋滞対策の在り方を検討
 - ETC2.0プローブデータは国土交通省が管理しており、生データでの提供が受けられないため、データ加工にかかる経費を負担し、提供いただく
- ②：混雑予報カレンダーの作成、将来的な渋滞対策案の策定
- データ加工及び、加工されたデータの分析に基づき、混雑予報カレンダーを作成し、新たに構築したWebサイトで公開するとともに、将来的な渋滞対策案を策定



渋滞状況分析結果に基づく渋滞対策の計画策定（イメージ）

5月		行事	R1 出雲 IC出	R2 出雲 IC出 予想	R1 団体 バス	体制	勢溜 規制	警備員	情報 発信	民地	S バス	バス コン
1日	金											
2日	土					A		○				
3日	日					B	△	○	◎	☆		
4日	月					B	△	○	◎	☆		
5日	火					B	△	○	◎	☆		
6日	水					A		○				
7日	木											
8日	金											

(<https://www.taisha-traffic.net/>)

成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

- A : ETC2.0プローブデータを分析することで、客観的な数値に基づいた渋滞対策を検討する**
- B : 混雑予報カレンダーを作成し、観光客の分散を図る**

事業の成果／目標の検証結果

- A : 令和6年度の実績とデータ分析に基づき、将来的な渋滞長を予測し、渋滞対策の策定根拠として活用することが可能となった**
- B : ・神在祭期間の最長渋滞長は全方面で短縮**
- ▶ 西側 : **0.8km短縮** 南側 : **0.8km短縮** 東側 : **1.2km短縮**
- ・カレンダーのPV数が増加**
- ▶ HP公開後PV数 : **1,433/日** (例年の約1.5倍)

成果詳細

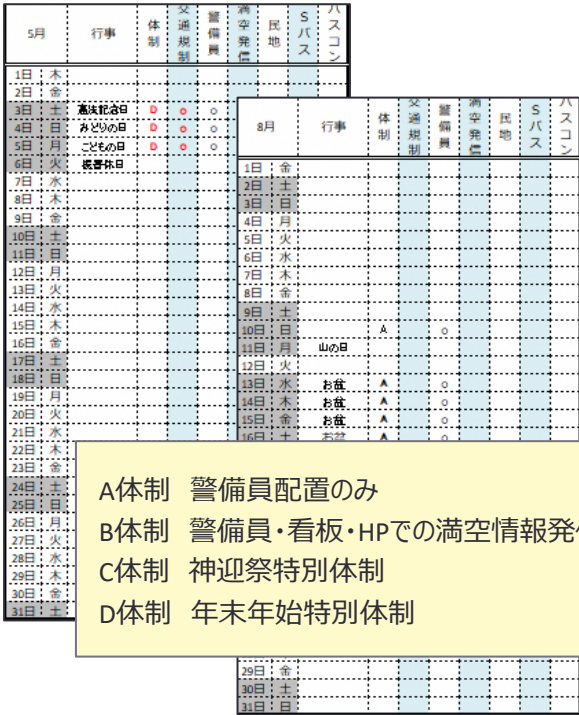
【結果】

- プローブデータの分析結果をもとに**混雑予報カレンダー**を作成し、10月24日にホームページにて公開。
- 混雑予想カレンダー公開後のPV数**は、10月10・16・17日の平均値で1,433/日（R元年：969/日、令和5年：980/日）と、**例年比約1.5倍に増加**
- 神在祭期間の**最長渋滞長は全方面において、R5年度と比較し短縮**
- 令和6年度の結果を踏まえ、来年度の渋滞対策案の検討を開始（右図）
神在祭期間の最長渋滞長

	R5年度	R6年度
西側	2.7km	1.9km
南側	1.9km	1.1km
東側	3.0km	1.8km

【課題】

- ETC2.0プローブデータ（国土交通省が所管）の生データ提供はできない規定になっているため、データ加工の業務委託時間・費用がかかる
- 分析の精度を向上させるためには、長期にわたるデータの積み上げが必要
- 今後、ETC2.0プローブデータ加工経費が毎年生じることは大きな負担になるため、ビッグデータとして無償または安価で提供されることを強く望む



令和7年度大社交通渋滞対策（案）

5. 主な取組み（詳細）

課題

- ・ 人件費等の高騰による渋滞対策経費の不足

取組み

駐車場有料化に向けた交通対策協力金の実施

- ・ 実施期間：令和6年11月～令和7年1月
- ・ 実施主体：出雲市

事業内容

■ 交通対策協力金の実施

- ・ 実施期間：令和6年11月1日～令和7年1月5日
- ・ 実施場所：出雲大社周辺の駐車場（かめやま広場、歴博、みせん広場）、神門通り・神迎の道・お宮通り・宮内周辺の飲食店及び土産物店
- ・ 協力金額：1台あたり200円
- ・ 支払方法：駐車場の出入り口付近、店舗等のレジ付近の募金箱にて支払い（現金、QR決済）

【背景・目的】

- ・ 現在の渋滞対策にかかる経費の財源は、出雲市の負担金及び大社交通渋滞対策実行委員会メンバーの協賛金・寄附金
- ・ 出雲大社周辺駐車場の多くは無料駐車場であるため、持続可能な渋滞対策の在り方として、駐車場有料化を検討

出雲大社周辺地図



駐車場に設置するした看板・協力金箱

駐車場に設置するもの
1か所につき 看板2枚＋募金箱1台



H1,500*W550 両面



H1,140*W360*D280

5. 主な取組み（詳細）

課題

- ・ 人件費等の高騰による渋滞対策経費の不足

取組み

駐車場有料化に向けた交通対策協力金の実施

- ・ 実施期間：令和6年11月～令和7年1月
- ・ 実施主体：出雲市

事業内容

■ 交通対策協力金に関する観光客ヒアリング

- ・ 実施期間：令和6年11月10日、11日、16日、17日、令和7年1月1～4日
- ・ 実施場所：外苑駐車場、第2駐車場、かめやま広場、古代出雲歴史博物館、みせん広場
- ・ 実施方法：各駐車場に調査員1名を配置し、通行する観光客に調査協力を依頼
交通対策協力金に関するチラシ（右下図）を見せながら説明し、各調査項目を聞きとり
- ・ ヒアリング項目：
 - ・ 交通対策協力金の1台あたりの協力金額について
 - ・ 駐車場の有料化に対する考え
 - ・ 出雲大社周辺の駐車場を有料化した場合の行動
 - ・ その他ご意見等



観光客ヒアリングの様子



交通対策協力金に関するチラシ

令和6年度事業の目標

- 「交通対策協力金」徴収の実証実験及びヒアリング調査を行い、**駐車場有料化に向けた課題を明らかにする**

事業の成果／目標の検証結果

- 有料化に関し、**利用者からは概ね理解が得られる見込み**であることが判明した一方、導入に向けては**施設所有者の意向や整備費用が課題**となることが明らかになった
 <実証実験の結果>
 - ▶ **協力金の集金額：約115万円**
 - ▶ **半数以上が有料化に賛成**。協力金(200円/台)について、「安い」、「妥当」との意見が**9割以上**。「安い」回答の**8割以上が400円以上が妥当**と回答

成果詳細

【結果】

- 協力金の総集金額は1,157,613円。駐車場(3カ所)の集金額は約110万、店舗(90店舗)の集金額は約5万円と差が見られた
- QR決済(J-Coin Pay)での集金額は、設置が遅れた(11/22～)こともあり、1,710円と少なかった
- 日ごとの集金額は、神在祭・年末年始等、イベントのある週末に多い傾向がみられた。入込客数が多かったこと、アンケート調査実施のため調査員を配置していたことが要因と考えられる

【課題】

- 周辺駐車場の多くは、出雲大社、島根県古代出雲歴史博物館等の民間駐車場や施設駐車場であり、**有料化には施設所有者の意向や整備費用の課題**がある
- 有料化後の**収入金の分配やランニングコストの負担等を整理**する必要がある
- 出雲大社所有の駐車場においては、参拝者からの参拝料と駐車場料金の二重徴収を懸念されたため、周辺店舗での集金に切替えて実施した
- 今回はあくまで交通対策協力金として実証的に実施した。しかし、導入を決定したキャッシュレス決済システムのうち、大きなシェアを持つシステムでは寄附金目的の使用が認められないケースが多く、シェアの小さなシステムで実証を行った

交通対策協力金 集金表

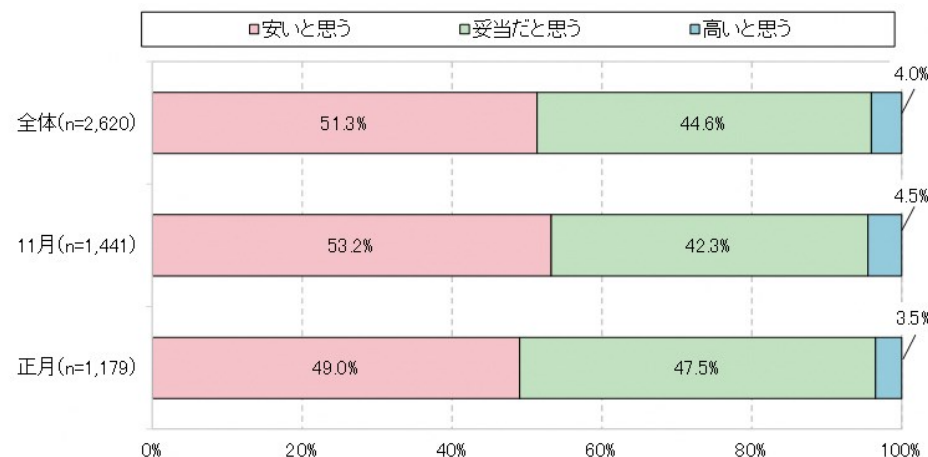
区分	実施場所	協力金(円)
駐車場	かめやま広場	641,158
	歴博	343,619
	みせん広場	120,572
小計		1,105,349
店舗	90カ所	50,554
J-Coin Pay	駐車場及び店舗	1,710
合計		1,157,613

※設置期間

駐車場：令和6年11月1日～令和7年1月5日（66日）
 店舗：令和6年11月1日から随時～令和7年1月5日
 J-coin Pay：令和6年11月22日～令和7年1月5日（45日）

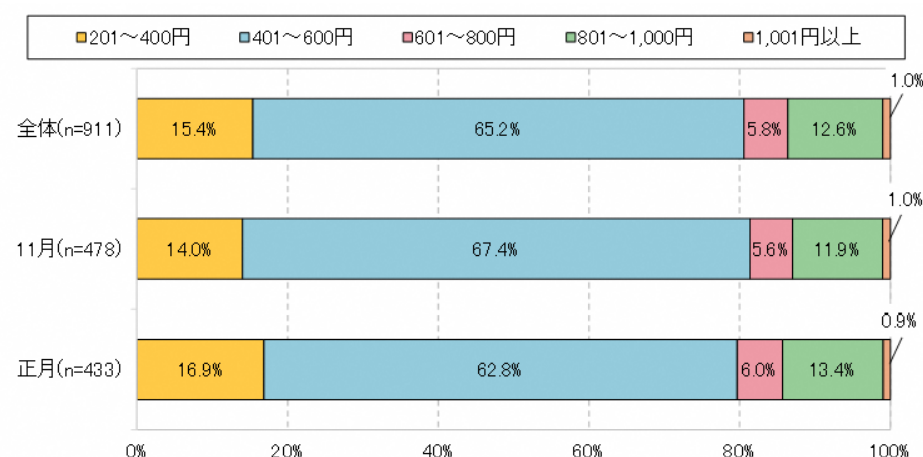
成果詳細

① 交通対策協力金の1台あたりの協力金額について



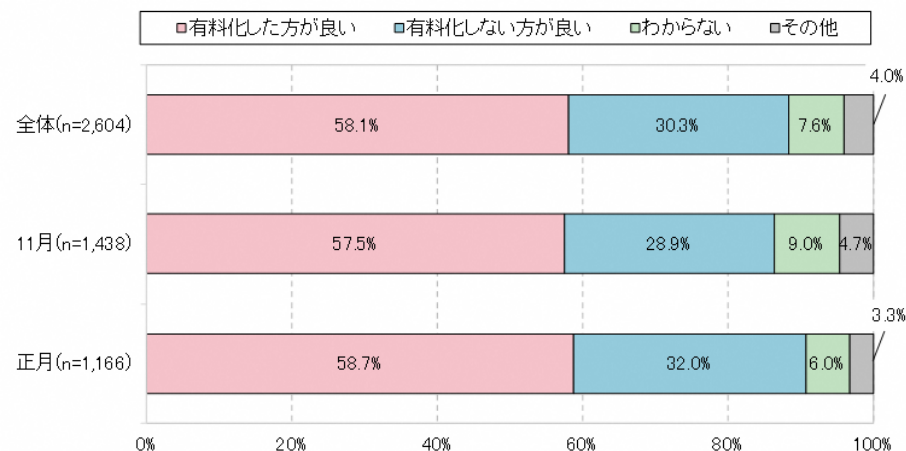
交通対策協力金(200円/台)について、「安いと思う」、「妥当だと思う」という意見が9割以上

② 「安いと思う」と回答した人の妥当だと思う金額



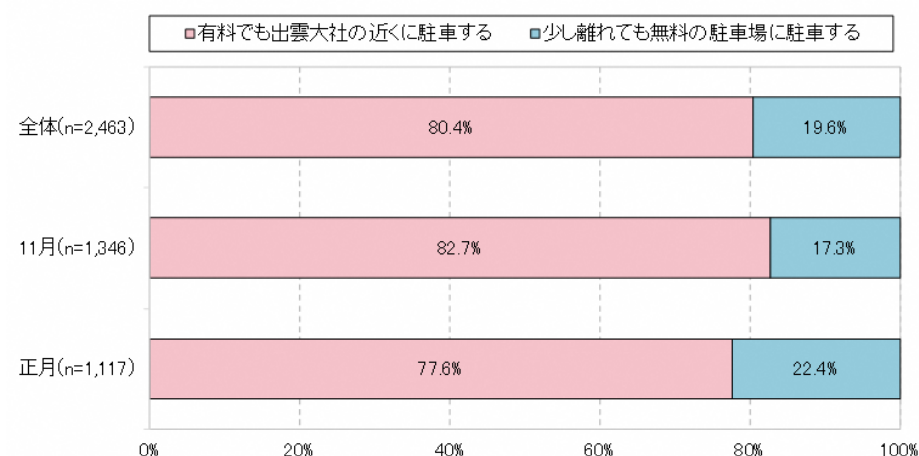
安いと回答した人の8割以上が、400円以上の金額を妥当と回答

③ 駐車場の有料化に対する考え



半数強が駐車場有料化に賛成

④ 出雲大社周辺の駐車場を有料化した場合の行動



約8割が有料でも出雲大社の近くに駐車すると回答

令和6年度取り組みから見えてきた課題

1

渋滞の解消に向けた総合的な対策の継続

- ・ 神在祭時、西側の渋滞長を短縮することができ、生活道路への影響を縮小することができた
- ・ その他の方角についても昨年度と比較すると渋滞長は減少したが、渋滞の完全な解消は難しかった
- ・ 引き続き、混雑カレンダー公開、交通規制、シャトルバス運行、警備員配置、臨時駐車場の確保等、多客日対策を総合的に実施し、渋滞解消に努めていく必要がある

2

交通データの継続取得

- ・ ETC2.0プローブデータの加工に時間と費用がかかり、市の予算では継続的なデータ取得は困難
- ・ 来年度以降の混雑カレンダー作成については、ETC2.0以外のデータの活用も視野に入れる必要がある

3

有料駐車場の実現可能性の再検討

- ・ シェアの小さいQR決済しか使うことができなかった
- ・ 多客日の徴収金額は多かったが、全体を通してみると徴収額は少なく、有料化した際の駐車場設備のランニングコストを捻出は困難

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

1

交通規制の継続

- ・ 交通規制は大きな効果が見られたため継続予定
- ・ シャトルバス運行、警備員配置、臨時駐車場確保も予算の範囲内で継続して実施していく

路線バスとの連携

- ・ 渋滞時期は路線バスも渋滞に巻き込まれてしまう状況
- ・ 年末年始は終着点の場所を変更する対応を実施しているため、ゴールデンウィーク等のその他の渋滞時期も路線変更等の対応ができないか、運行会社と協議

新駐車場の整備

- ・ 駐車場容量が不足しているため、新駐車場の整備を行う

2

コストを抑えた交通情報データの取得

- ・ 本年度取得したETC2.0データを有効活用していくとともに、今後は費用の抑えられる別データでの対応を検討（例：NEXCOからのインターチェンジ情報の取得、等）

3

導入可否に向けた協議継続

- ・ 駐車場を有料化した場合は、駐車場設備の維持管理费用との兼ね合いもあるため、導入可否について今後継続的に検討していく

21. 広島県廿日市市

1. 地域概要

計画名	宮島・宮島口エリアにおけるサステナブル・スマート観光推進事業計画
対象エリア	宮島・宮島口
実施主体	広島県廿日市市 産業部観光課
年間観光客入込数	598.8万人（令和5年）
年間延べ宿泊者数	34.3万泊/人（5.7%）
主な観光資源	歴史的建造物等（厳島神社、大鳥居）、文化施設等（宮島歴史民俗資料館、宮島水族館）、文化・芸能（舞楽、管絃祭）、その他（弥山）等



世界遺産 厳島神社
（社殿・大鳥居）



弥山（山頂）

● 観光ビジョン

「三方よし 厳島宣言」（宮島ルネサンス計画）

- 観光客、地域環境、地域経済の「三方よし」を目指す。（混雑緩和、平日の観光客数増加等、宮島を快適に過ごせる取組を進めつつ、世界遺産の自然や歴史を保全・継承し、観光関連産業の振興を図る）

● 推進体制（協議の場）

- 既存の会議体や地域協議会を活用
- ①宮島ルネサンス計画策定検討会（令和4年3月計画策定）宮島の持続可能な観光地域づくりの方向性「宮島ルネサンス計画」を策定する会議体を活用し、地域住民も交えた中で、オーバーツーリズム対策の論点整理や方針決めを実施
- ②宮島口交通円滑化協議会
宮島口地区において、毎年の行楽シーズンの慢性的な交通渋滞解消に向けた対策を行っている協議会
- ③その他個別協議

行政機関	事業者	住民関係者
廿日市市産業部 観光課	一般社団法人 宮島観光協会	宮島地域コミュニティ 推進協議会
廿日市市経営企画部 宮島企画調整課	JR西日本宮島 フェリー株式会社	宮島口みらい協議会
廿日市市地域振興部 宮島支所	宮島松大汽船 株式会社	
廿日市市建設部 宮島口みなと まちづくり推進課	一般社団法人 はつかいち観光協会	
廿日市市建設部 交通政策課	宮島口交通 円滑化協議会	

2. 課題

● 主な課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 特定時間・場所の混雑集中	日中などの特定時間、フェリー改札やロープウェー乗り場などの特定場所に観光客が集中。コインロッカーや手荷物預かり等の観光客受入が間に合わないことによる利便性低下や、観光地周辺の生活道路の渋滞による地域住民の交通への支障につながっている	観光客・地域住民
2. 自然・文化財の毀損	- 観光客数の大幅な増加やマナー違反行為等で、自然・文化財の保全・継承の妨げが生じている - ごみのポイ捨てや餌付けなどで、宮島島内の鹿の健康被害が生じている	地域資源

1. 特定時間・場所の混雑集中



多くの観光客で賑わう表参道商店街
(宮島)



急増する観光客の荷物預入に
対応できないコインロッカーの数

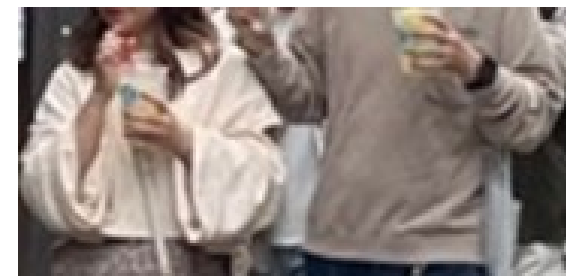


島への移動手段として地域住民も
利用するフェリーターミナルの混雑



混雑する宮島フェリー乗り場前
(宮島口エリア駐車場付近) の道路

2. 自然・文化財の毀損



食べ歩きを楽しむ観光客



ポイ捨てされた紙ごみ等を食べる鹿

3. 背景・要因

● 課題の背景・要因

主な背景・要因

1. 観光ルートが限定的

- 離島である宮島は、宮島口周辺の駐車場⇒フェリー改札⇒商店街⇒宮島ロープウェー等、観光ルートが一定限定されているため、観光ルート上の各所で混雑が生じている

2. 日帰り観光客の多さ

- 観光客うち93.2%が日帰り、ほとんどが日帰り観光客である。そのため、観光の時間帯が日中に集中する状況やが生じている。また、大きなスーツケースや手荷物の預かりニーズが高い

3. マナー周知の不足

- 宮島は、島内の表参道商店街などを中心に食べ歩き文化が定着しており、ごみの扱いに関する啓発が必要
- 島内には世界文化遺産に登録された貴重な文化財が多く、棄損につながりかねない行為（ドローン等）の禁止なども周知が必要

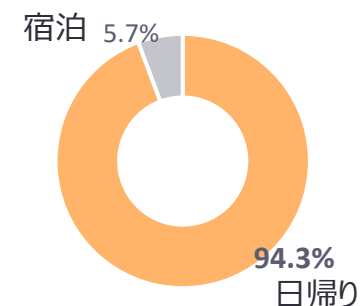
1. 観光導線が限定

- 宮島の入り口である栈橋から、表参道商店街、厳島神社、ロープウェーと、観光客の導線がある程度決まっているため、各所で混雑が生じやすい

3. 世界遺産登録された厳島神社



2. 日帰り観光客が9割以上



3. 商店街の食べ歩き文化



- 宮島観光のオーバーツーリズムの未然防止・抑制に当たり、宮島観光の玄関口である宮島口エリアを含む網羅的な取組として、また従来の取組の拡充に加え、新たな取組を追加し、①～⑦の取組を各ステークホルダー等と連携・共同のうえ実施している。



取組み	①宮島口旅客ターミナル内のコインロッカー増設
背景	・ コインロッカーを配備(28台)しているが、多客時等には不足
内容	・ ロッカーを8台増設し、宮島口における不足を解消する
取組み	②宮島栈橋ターミナル内のコインロッカー増設、観光案内所改修
背景	・ 50年前に建設された現状の建物は、現状の450万人の受入れに不十分
内容	・ 改装し、観光案内所カウンター増設、手荷物預かり室新設、コインロッカー増設。 急増する観光客の荷物預かり需要に応える
取組み	③宮島栈橋フェリー改札口の機能向上（自動改札導入・改札レーン増設）
背景	・ 現状は有人改札2通路で、切符確認等に対応に時間を擁し、乗り残しが発生
内容	・ 乗り残し発生ゼロの為、自動改札機2台・係員対応改札1つの計3通路に拡大

取組み	④宮島口駐車場、宮島ロープウェイの混雑状況の可視化、その他混雑状況（道路、厳島神社、表参道商店街等）、お薦めルート情報の一元化
背景	・ 観光客導線上の混雑が現場でしか分からず、現地に迂回路がなく、渋滞が悪化
内容	・ 混雑状況を既存MAPサービスに一元化し配信し、混雑状況を事前に周知

取組み	⑤観光マナー啓発・PR
背景	・ 来島者へのごみのポイ捨て等マナー周知やトイレの場所等情報提供が不足
内容	・ 増加が見込まれる外国人観光客等へビジュアルメッセージを活用したマナー啓発

取組み	⑥観光客を巻き込んだ啓発イベント等の実施（「旅先クイズ会」の開催等）
背景	観光客の大幅な増加やマナー違反（ポイ捨て等）で、宮島の自然・文化財の保全への懸念や、島内の鹿の健康被害が生じている
内容	観光客を巻き込んだ啓発イベント等（「旅先クイズ会」の開催など）を実施

取組み	⑦宮島公衆トイレ使用状況等調査
背景	・ 宮島島内の公衆トイレが不足している状況
内容	・ トイレ利用状況の把握や観光客導線に基づく通行量調査を行い、新設候補地の選定資料の取りまとめを行う

5. 主な取組み（詳細）

課題

- マナー違反による
- 宮島の自然・文化財の保全への懸念
 - 島内の鹿の健康被害

取組み

観光客を巻き込んだ啓発イベント等の実施（「旅先クイズ会」の開催等）

- 実施期間：令和6年9月～11月 計6回
- 実施主体：廿日市市

事業内容

■ 「旅先クイズ会」の開催

- 旅行者に、クイズを通して地域ごとの歴史やマナー、ツーリストシップを楽しく発信する、マナー啓発イベント
- 広島県観光連盟の観光大使などのボランティアによる参加を募集し、運営側も楽しく実施する
- 昨年4月から開始している「千年先もいつくむ。」プロジェクト、昨年10月から徴収開始している「宮島訪問税」の普及啓発を併せて実施する

【目的】

- クイズイベントを通して、観光客に宮島の歴史・文化や観光マナーの啓発・PRを行い、宮島ファンの増加やサステナブル観光の意識醸成を図る

※参考（クイズの内容）

旅先クイズ会
Travel Destination Quiz



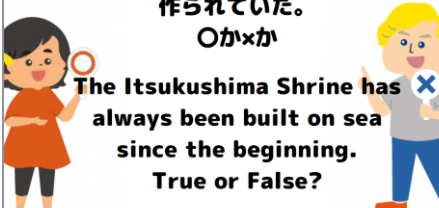
ツーリストシップとは、
スポーツマンシップの観光版。
旅先にも暮らしがあるので、配慮したり、
貢献しながら、交流を楽しもう！

Touristship is a word inspired by
sportsmanship.
Even at tourist destinations,
there are local communities,
so let's enjoy interacting with
the locals while considering &
contributing to them.



昔から、厳島神社は海の上に
作られていた。
○か×か

The Itsukushima Shrine has
always been built on sea
since the beginning.
True or False?



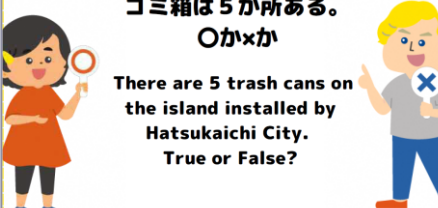

宮島は、古くから「神をいつくまつる島」として、島の
そのものを神体としており、木を切ったり、土を削る
ことで傷をつけないようにしてきたことから、世界遺産
である厳島神社も陸地ではなく、海上に造られたとされ
ている。

True, Miyajima has long been "the island where gods
are enshrined," treating the island itself as a sacred
place to worship. To avoid damaging the island by
cutting trees or digging into the soil, it is said that
the World Heritage Site Itsukushima Shrine was
constructed over the sea rather than on land.



廿日市市が設置する島内の
ゴミ箱は 5 か所ある。
○か×か

There are 5 trash cans on
the island installed by
Hatsukaichi City.
True or False?



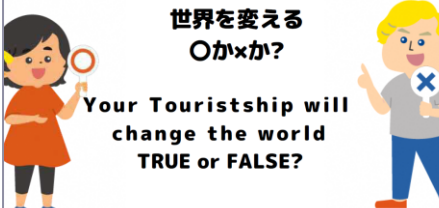

5 か所(宮島桟橋旅客ターミナル内、TOTO宮島おもてなしトイレ内、西松原、紅葉谷公園地、宮島3号桟橋)です。過去には、20箇所以上のごみ箱がありましたが、管理ができなかったため、宮島桟橋旅客ターミナルへの持ち帰りを基本とし、最小限のごみ箱を設置・管理することとしていますので、ご協力をお願いします。

Trash cans are located at 5 locations (inside the Miyajima Ferry Terminal, inside the TOTO Miyajima Hospitality Restroom, Nishi-matsubara, Momijidani Park, and Miyajima 3rd pier). There were over 20 trash bins in the past, but due to management issues, the city implemented a policy of taking waste back to the Miyajima Ferry Terminal. Therefore, the city only installs and manages minimal trash. We appreciate your cooperation.



あなたのツーリストシップが
世界を変える
○か×か？

Your Touristship will
change the world
TRUE or FALSE?



ひとりひとりのツーリストシップで、
観光地は変わります！
ぜひ一緒に実践していきましょう！

Tourist spots will change with
each and every touristship!
Together let's practice great
touristship!



令和6年度事業の目標

- 観光客参加型イベントがマナー啓発として有効か検証する

事業の成果／目標の検証結果

- マナー意識向上を目的としたイベントの継続実施の目途が立った
廿日市市初の取り組みであったが、高い参加者満足度が得られた
 - イベント満足度：日本人・外国人観光客共に100%

成果詳細

旅先クイズ会の様子

■ 実施回数

- 宮島の繁忙期である秋季（9～11月）に、計6回実施

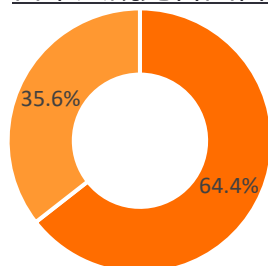
■ 参加者人数

- 観光客：1524人（うち、外国人観光客431人）
- 運営スタッフ：51人（延べ数）

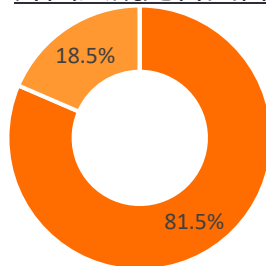
■ イベント満足度アンケート結果

- 「大変満足」「満足」という評価が全体を占め、不満評価はゼロであった
- 特に外国人観光客からの高い満足度を得た

日本人観光客回答



外国人観光客回答



- 大変満足
- 満足
- 不満
- 大変不満

旅先クイズ会の様子



令和6年度取り組みから見てきた課題

- 今後も継続する取り組みとするための持続可能な運営体制の構築や、より多くの人を対象に行動変容を起こすためのイベント施策の強化が課題となった

1

安定的な運営スタッフの確保

- ボランティア募集に依存しており、確保が不安定であった
- 安定的に人材が確保できる工夫が必要

2

マナー啓発対象のリーチ拡大

- マナー啓発の対象がイベント参加者に限られるため、一度のイベント実施における啓発人数に限界があり、費用対効果の面で課題が生じた
- より多くの人に効果的にリーチする工夫が必要

3

行動変容を促すイベント設計

- イベントではマナー意識の変容が見られたものの、その後の島内観光で実際の行動変容に繋がったかは不明確
- 意識変容に留まらず、行動に変化を起こすようなイベント設計が必要

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- 既存の実施手法等をブラッシュアップするとともに新たな企画検討等により観光客参加型のマナー啓発を継続実施する

1

教育旅行コンテンツ造成の検討・試行

毎年、多くの修学旅行生等が訪れる宮島で、修学旅行生がイベント運営スタッフとして参画する教育旅行コンテンツとしての企画・試行を行う

➤ 期待できる効果

■ 運営負担の軽減と人材の安定確保

- クイズ出題など、現場での一部運営を学生に担ってもらうことで、市の負担を軽減すると共に安定した人材確保を実現する

■ 啓発効果の波及

- 修学旅行の学生は数百単位での来訪となるため、一度にリーチできる人数が多い。また、その後の家庭や学校への啓発が広がると期待できる

2

イベント実施手法等のブラッシュアップ^o

- 令和6年度参加したボランティアの継続参加、新規参加を促進させる仕組み・体制づくり
- クイズ参加に合わせ、他の取組・事業との連動などにより行動変容を促す仕組みづくりの検討
他イベントとの共催やスタンプラリー実施など
- より分かり易く、具体的なクイズやメッセージ内容とすることで、観光客の意識・行動変容を促す

5. 主な取組み（詳細）

課題

混雑や周辺道路の渋滞

取組み

デジタルマップにおける混雑状況可視化とお勧めルート情報の一元化

- ・ 実施期間：令和6年11月～令和7年2月
- ・ 実施主体：廿日市市

事業内容

■ 混雑状況可視化とお勧めルート情報の一元化

- ・ 既存のデジタルマップサービスに、宮島口の駐車場・宮島ロープウェイ乗り場の混雑状況やおすすめ観光ルート情報を追加し、観光客へ発信
- ・ （併せて、トイレ・喫煙場所・ごみ箱の位置表示も実施）

【背景】

- ・ 駐車場やロープウェイなどの混雑を事前に知ることができない。一方で、現地に迂回路がないため、滞留の発生や周辺道路の渋滞が悪化している

【目的】

- ・ 混雑情報や複数の観光おすすめルートを事前周知することで、観光客の分散と滞留・渋滞の解消を図る

マップサービス イメージ



成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

- A : 既存デジタルマップに混雑情報等を追加し、観光客にとって有用な情報を集約・提供する媒体に改善することで、観光客の更なる活用を促進する**
- B : 混雑情報を事前に周知することで、観光地の渋滞や混雑を効果的に解消する**

事業の成果／目標の検証結果

- A : 利便性の高いマップに改善することができ、閲覧数が増加した**
- ▶ デジタルマップ月平均アクセス数：
1,155件（令和5年4月～令和6年3月（12ヶ月））
→**17,670件に増加**（令和6年7月～令和7年1月（7ヶ月））
- B : 宮島口周辺道路の渋滞が緩和された**
- ▶ 観光ピーク時平均渋滞：
6.3km 令和6年計7日間（GW4日、紅葉期3日）
→**4.5kmに減少** 令和5年計7日間（GW3日、紅葉期4日）

成果詳細

デジタルマップ画面



△駐車場の混雑情報



△複数のおすすめ観光ルート

- デジタルマップはスマートフォンなどネットの繋がる媒体で閲覧可能。観光協会ホームページや、観光パンフレットなど、様々な流入口を設けた

令和6年度取り組みから見えてきた課題

- デジタルマップは、観光客と地域双方にとって重要な情報を一元化するプラットフォームである
- 令和6年度は、混雑や渋滞の緩和に重点を置いた情報の追加を行い、一定の成果を得た
- 今後は、観光客のマナー遵守を促進するための情報追加が課題となる

1 デジタルマップのアクセス向上

- デジタルマップは、スマートフォンなど手元のデバイスから閲覧が可能のため、旅行前段階からの情報の周知に成功。アクセス数も増加した
- 一方、宮島到着後も活用されるよう、旅行中にも観光客の目に触れる工夫が必要

2 施設の適切な利用促進

- デジタルマップではトイレ・ごみ箱・喫煙場所の位置表示を行い、目的地が分からないことによるマナー違反行動は減少した（ポイ捨て・路上喫煙など）
- 一方、到着した後の行動などについては、更なる啓発が必要（トイレの適切な使用やごみ分別）

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- 他のマナー啓発事業と連携しながら、デジタルマップにマナー関連情報を追加することで、情報の一元化を進める
- 観光客にとって必要な情報を包括的に提供する、利便性の高いデジタルマップとして更なる強化を図る

1

大型デジタルサイネージの現地設置・発信

- デジタルマップの情報を旅行中にも確認できるよう、観光スポット周辺にデジタルサイネージを設置
- 観光客への視認性を高めると同時に、発信手段を多様化させ、情報へのアクセス機会を増やす

2a

マナー啓発情報の追加

- トイレ等の設備の位置表示に加え、使い方や注意点を含むマナー情報をデジタルマップに集約（他事業で制作するマナー動画を連携予定）
- 情報アクセスの利便性向上とマナー遵守促進を図る

2b

ごみ分別を促すユニバーサルな表記の追加

- 景観と調和を保ちながら、外国人観光客にも分かりやすい形で、分別を促進するための表記やデザインのアップデートを図る

22. 香川県小豆島町

1. 地域概要

計画名	「観光により持続できる島、小豆島」を実現するための環境整備
対象エリア	小豆島
実施主体	小豆島町 商工観光課
年間観光客入込数	約91万人（令和5年）
年間延べ宿泊者数	27万泊・人（宿泊率30%）
主な観光資源	エンジェルロード、国立公園 寒霞渓、道の駅 小豆島オリーブ公園、二十四の瞳映画村



エンジェルロード



国立公園 寒霞渓

● 観光ビジョン

観光により消費される島ではなく、
観光により持続できる島へ

- 2024年1月に、小豆島町と土庄町が一つになり「小豆島観光ビジョン」を策定
- 裾野の広い観光産業を中心に「島は1つ」を合言葉に、両町がビジョンを共有し、将来、世界中の観光客で1年中賑わう、持続可能な観光の島を目指す

● 推進体制（協議の場）

- 行政機関、観光協会、地域住民代表（小豆島町自治連合会 会員・土庄町自治会連絡協議会 会員）を中心に、協議・合意形成を行う
- 小豆島観光協会主催の「小豆島観光集いの場」にて、会員に限らないすべての島民に開けた形で、小豆島観光の現状や本事業の進捗を報告

行政機関

小豆島町
商工観光課

小豆島町
企画財政課

土庄町
商工観光課

土庄町
企画財政課

事業者

小豆島観光協会

小豆島地域公共
交通協議会

かんかけタクシー

住民関係者

土庄町自治会
連絡協議会

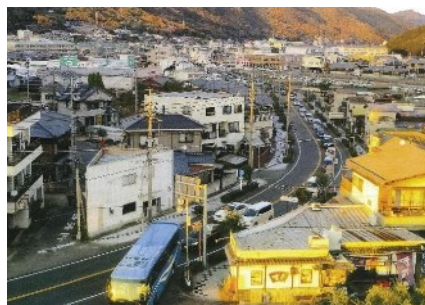
小豆島町
自治連絡協議会

2. 課題

● 主な課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 深刻な交通渋滞	- 繁忙期には、島内主要二次交通であるバスが混雑し、観光客だけでなく住民も乗り切れずに積み残しが発生。次のバスを1時間以上待つこともあり、住民の生活快適度・観光客の旅行満足度が低下している - 人気観光地の駐車場周辺に、駐車場待ちの車の滞留が周辺道路まで伸び、交通渋滞が生じている	観光客・地域住民
2. 島民の生活環境悪化	観光客が生活空間に立ち入ってしまうトラブルが発生している - マナー違反による建造物等の劣化・自然環境・景観の悪化が生じている	地域住民・地域資源

1. 深刻な交通渋滞



エンジェルロード
前面道路の混雑状況



同進入路の状況
(第2駐車場へ誘導)



路線バスの大幅な混雑・積み残し



主要観光地が島の南側に集中

2. 島民の生活環境悪化



田んぼあぜ道への立ち入り



観光地や海岸へのごみのポイ捨て

3. 背景・要因

● 課題の背景・要因

主な背景・要因

1. フェリーで一気に来訪する観光客への二次交通の不足
 - ・ 夏休みや紅葉シーズン、瀬戸内国際芸術祭開催時などピーク時にはフェリー 1 便で約500名の観光客が来島するが、それを受けるバスは50名程度しか乗車できないなど二次交通が脆弱なため、多くの積み残しが発生している
2. 無料で運営される主要観光地の駐車場
 - ・ インジェルロード等の主要観光地の駐車場は、観光客も無料で利用できる状態となっている。そのため、観光客の観光地滞在時間の延長や駐車場の回転率低下、また、満車状態が続くことにより駐車待ちの車列が周辺道路まで伸びる事態となっている
3. 観光エリアと生活エリアの重複
 - ・ 島内は観光地と生活空間が隣接しているため、観光客が知らずに生活空間に立ち入ってしまうトラブルが発生している
 - ・ 瀬戸内国際芸術祭や高松空港国際線増便を契機に、外国人観光客が急増。現在、観光客の2割を外国人観光客が占める
 - ・ 外国人観光客向けの情報発信の不足・日本のモラルやマナーに対する理解不足から、ごみのポイ捨て問題など地域資源の棄損につながる行動がみられる
4. 外国人観光客の急増

2. 満車状態が長引く観光地駐車場



3. 観光エリアと生活エリアの重複



1. フェリーで来訪する観光客



4. ポイ捨てごみ



4. 対策の概要

- ピーク時にはフェリー 1 便で500名程度の観光客が来島するが、二次交通が不十分なため、バスなどの島内交通で混雑が発生している。また、観光地と生活エリアが密接している場所では、観光客のマナー違反によるトラブルが生じている。
- 小豆島全体を包含する観光ビジョンの策定に際し、交通・旅館・観光施設などの観光事業者のほか、大学なども参加し、島内観光が直面する課題を話し合った。
- 小豆島観光協会では毎月会長、副会長、土庄町・小豆島町の商工観光課課長が集まり、観光施策について議論している。その中で上記オーバーツーリズムに関する課題について対策を取る必要があるとの認識に至り、両町の自治会とも相談の上で本事業の実施決定に至った。



④

観光客の分散・平準化

- | | |
|------------|---|
| 取組み | ①エンジェルロード駐車場整備・有料化 |
| 背景 | ・ 無料駐車場に観光客が長時間滞留、周辺道路の渋滞等を引き起こしている |
| 内容 | ・ 駐車場を有料化し、駐車場利用時間の短縮・周辺道路の混雑緩和並びに、駐車場事業で得た収益の町内オーバーツーリズム対策事業への還元を目指す |
| 取組み | ②バスロケーションシステム導入 |
| 背景 | ・ ピーク時に観光地周辺のバスが混雑し、島民が乗れない事態が起きている |
| 内容 | ・ バスの遅延・増便情報を観光客に提供し、バスの利用時間やルート調整を促し、バス混雑の減少を図る |
| 取組み | ③タクシー配車予約システム導入（小豆島全域） |
| 背景 | ・ 予約方法が電話に限られており、配車効率が悪い |
| 内容 | ・ インターネット予約方法の確立、空車台数等見える化により、配車効率化を図る |

受入環境の整備・増強

- | | |
|------------|--|
| 取組み | ④モビリティ等車両導入（坂手港） |
| 背景 | ・ 島内全体で二次交通の供給が不足している |
| 内容 | ・ 次世代自動車やEVバイク等のモビリティレンタル事業で二次交通の選択肢を増やし、バスの混雑緩和に繋げる |

マナー啓発

- | | |
|------------|--|
| 取組み | ⑤スマートフォンによる多言語情報提供（小豆島全域） |
| 取組み | ⑥多言語案内啓発看板設置 島内10か所（赤★ 中山千枚田、大坂城残石記念公園、寒霞渓山頂、エンジェルロード、道の駅小豆島オリーブ公園、醬の郷、二十四の瞳映画村、小豆島ふるさと村、宝生院、土洩海峡） |
| 取組み | ⑦ごみ箱設置（青★ 中山千枚田、大坂城残石記念公園） |
| 背景 | ・ 観光地と島民の生活エリアが近接する小豆島では、生活空間への観光客立ち入りや、ごみのポイ捨てによる生活環境の悪化が起きている |
| 内容 | ・ 案内看板とスマホによる情報提供により、観光客の立ち入り可能地域を明確化・マナー啓発による住民トラブルの未然防止を図る |

5. 主な取組み（詳細）

課題

- 主要観光地エンジェルロードの、駐車場周辺における道路渋滞

取組み

エンジェルロード駐車場整備・有料化

- 実施期間：令和7年2月
- 実施主体：土庄町

事業内容

■ エンジェルロード駐車場整備・有料化

- エンジェルロード駐車場を整備し、有料化する
- エンジェルロードから徒歩5分の第2駐車場は無料のままとする

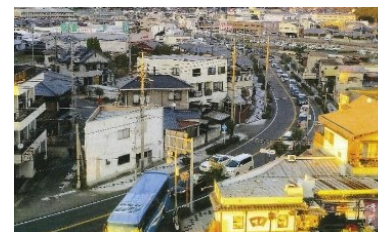
【背景】

- 無料であるため観光客が長時間滞留し、周辺道路の渋滞や観光客の満足度の低下が起きている
- 瀬戸内国際芸術祭開催などの影響もあり、令和元年度には推定来訪者数が30万人を超え、繁忙期の混雑が顕著になったことから、有料化について検討を行ってきた
- 島内路線バスやまちなか周遊ルートなど複合的な検討が必要であることや、島内観光地に有料の事例がなかったことなどから、具体化に至らなかった
- 観光ビジョン策定に至るワーキンググループ等の課題検証において、持続可能な観光に資するために、二次交通の強化や観光客増加による生活環境への悪影響などが挙げられ、混雑・マナー違反对策や次世代につなげていくための財源確保策として、事業立案につながった

【目的】

- 有料化により、駐車場利用時間の短縮・周辺道路の混雑緩和につなげ、また、小豆島全体で持続可能な観光への取組みの一つとして、駐車場事業で得た収益を対策費に充当す形でへの還元を目指す
- 第2駐車場は無料とすることで混雑の分散を図る。隣接する迷路のまちエリアや土洩海峡などの観光地への誘客にもつなげる

区分		使用時間	使用料 (1区画)
8:00～ 18:00	普通車用	30分以内	300円
		30分を超え30分ごと	100円
	大型車用	60分以内	2,000円
		60分を超え30分ごと	1,000円
18:00～ 翌8:00	全区画		無料



エンジェルロード駐車場から伸びる道路の混雑状況



繁忙期（GW）の混雑状況



繁忙期（お盆）の混雑状況

5. 主な取組み（詳細）

事業内容

【周辺図】



国土地理院データ（エンジェルロード付近）を基に土庄町加工作成

<https://maps.gsi.go.jp/#16/34.477154/134.190059/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>

成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

- ・ 駐車場有料化による、駐車場回転率の向上及び周辺道路の混雑緩和

事業の成果／目標の検証結果

- ・ 駐車場の回転率が向上し、混雑が緩和した※()は計測時期
 - ▶ 1台あたり駐車場滞在時間: **29.5分**(R6.8)→**24分**(R7.2)に減少
(**19%減**)
 - ▶ 周辺道路通過の所要時間: **4分55秒**(R6.8)→**4分17秒**(R7.2)に減少
(**13%減**)

成果詳細



有料化後の駐車場



満空情報の掲示

【成果】

- ・ 駐車場の回転率向上
- ・ 周辺道路の混雑緩和
- ・ 継続的な町の収益確保

【副次的な効果】

駐車場に配置する誘導員について、従来5人体制だったところ、2人体制で対応できるようになるなど人員不足の解決にも寄与

【有料化による収益】

駐車場追加や警備員費などの対策費用に活用していく

令和6年度取り組みから見てきた課題

■ 増加する訪日外国人旅行者の利便性向上

- ・ 現状、駐車場に関する看板や支払い方法等のインストラクションが日本語のみとなっている
- ・ 外国人観光客が車で島内を移動するケースも増加しており、インバウンド対応が必要

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

■ 多言語対応や支払い方法の多様化

- ・ 駐車場の使用状況やニーズを把握した上で、必要に応じ、精算機の使い方など多言語化の対応をしていく

5. 主な取組み（詳細）

課題

- 島内二次交通の供給が不足している

取組み

モビリティ等車両導入（坂手港）

- 実施期間：令和7年2月
- 実施主体：小豆島町

事業内容

■ モビリティ等車両導入

- 小豆島町が次世代自動車やEVバイク等のモビリティを購入
- 民間事業者にて、観光客向けモビリティレンタル事業を実施

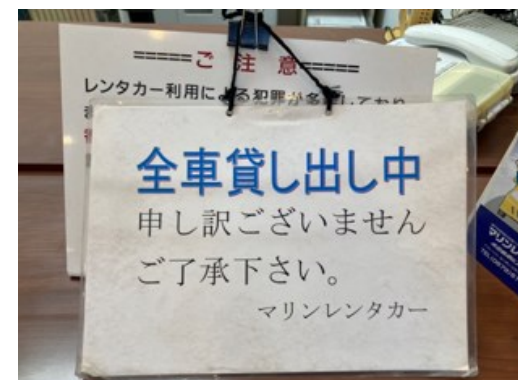
【背景】

- 小豆島では、二次交通の供給量と手段の種類が限られている
- 町民・観光客共にバスへの依存度が高く、バスの利用集中によるバス内の混雑が深刻である
- バス以外の二次交通の手段として、レンタカーが有効であるが、特に繁忙期は供給が不足し、観光客の利用が確保できない状況
- 小豆島は繁忙期と閑散期で来訪者数の変動が大きいいため、民間のレンタカー事業者にとって、繁忙期に合わせた設備投資は現実的ではない
- 観光需要の変動に柔軟に対応するため、町が車両を購入することで、閑散期は町で利用、繁忙期は民間に無料貸与し供給力を補完する方針となった

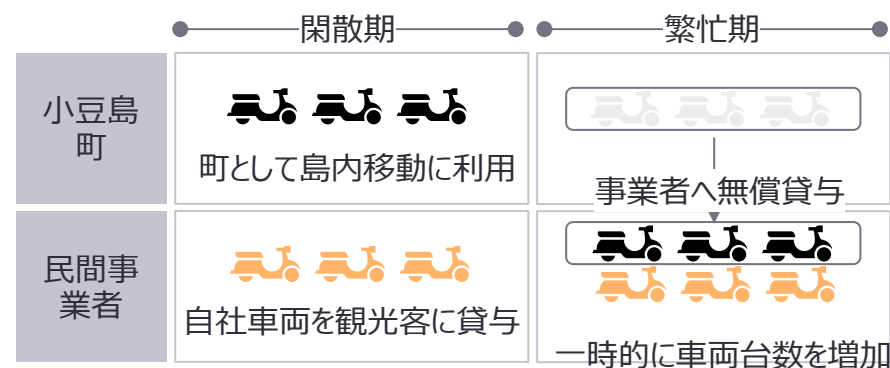
【目的】

- 二次交通の選択肢を増やすことで、観光客の利便性向上と既存の島内交通手段（バス）への一極集中を緩和する

繁忙期にはすぐに満車になるレンタカー



観光需要の変動に応じたレンタル車両の管理



成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

- 自動車・EVバイク等のレンタルを行い、島内二次交通の選択肢を増やす

事業の成果／目標の検証結果

- 車両の導入は完了したが、観光客の利用はこれからとなる
- 大型連休等の多客期や、瀬戸内国際芸術祭開催時期等の多客期に、島内の二次交通として有効な手段となるよう、取組み・検証を行う

成果詳細



自動車PHEV 1台とEVバイク9台を導入

他事業におけるモビリティの増強

小豆島における一般型採択のシェアサイクル事業とあわせ、島内における観光客のモビリティへのアクセスは向上した。

- シェアサイクル 160台導入
- サイクルポート 10か所増設（計42か所）

事業名：「自律運航船（無人運航ボート）とシェアサイクルを組み合わせた新しい島の周遊モデル」

令和6年度取組みから見えてきた課題

■ モビリティのレンタル利用促進

- 島内の移動手段として、知らないと利用してもらえない。観光客が島内移動手段を検討するモーメントを捉え、適切な場所で周知する必要がある

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

■ 関係者と連携した旅行前・旅行中のPR強化

- 観光協会や町のホームページによる周知、観光導線上にある坂手ターミナルやジャンボフェリー内での周知を行い、既存の二次交通バスからの分散を促す

23. 高知県の町

1. 地域概要

計画名	にこ淵を中心とした仁淀川流域の オーバーツーリズム対策
対象エリア	にこ淵を中心とした仁淀川流域
実施主体	高知県のいの町
年間観光客入込数	約30万人（令和5年） ※にこ淵周辺、推計
年間延べ宿泊者数	約4万泊・人（令和5年） ※いの町全体
主な観光資源	・清流仁淀川およびその支流（仁淀ブルー） ・にこ淵 ・仁淀川流域沈下橋 ・グリーンパークほどの



にこ淵



沈下橋

● 観光ビジョン

にこ淵を通じた交流人口の増加

- ・ にこ淵を中心とした仁淀川流域の食や自然、祭りや歴史、住民との交流など、「仁淀川」の魅力を体感した観光客が、仁淀川を好きになり、また訪れたい観光地をめざす

● 推進体制（協議の場）

オーバーツーリズムの未然防止・抑制による持続可能な 観光推進事業関係者協議会

- ・ 本事業実施に向け、新たに協議会を創設

行政機関	事業者	住民関係者
いの町	高知大学次世代 地域創造センター	程野地区長
いの町観光協会	モデルビレッジ	吾北区区長会会長
仁淀川町	NTTコミュニケーションズ	グリーンパーク ほどの 管理人
仁淀ブルー観光協議会	四国 情報管理センター	
高知県		
四国運輸局		

2. 課題

● 主な課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 特定観光スポットの混雑	- 特定の観光スポット（にこ淵）に人や車が集中し、混雑が発生している - 山稜の狭いエリアが混雑することで、人と車両の接触が危ぶまれるなど、安全・安心な観光に懸念が生じている	観光客
2. 観光客受け入れ負担の増加	- 観光スポットがにこ淵に限られ、にこ淵を見て帰るだけの日帰り客が多く、地域での周遊や宿泊が見られない - 地域にお金は落ちない一方で、観光客管理の地域負担が増えている状態（警備員の配置や仮設トイレの汲み取り等）	地域経済

1. にこ淵の混雑



にこ淵へ至る道路の混雑



大型バスと一般車両のすれ違いが
難しい狭い山道

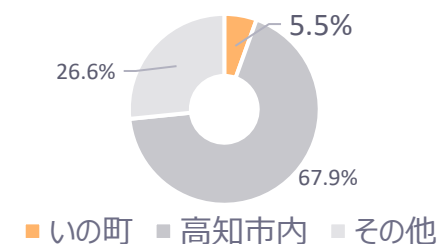


にこ淵周辺の混雑
道路まで列が伸び車両接触の危険



観光地への遊歩道
狭く急で危険な斜面

2. 観光客受け入れ負担の増加



約95%が日帰り客
にこ淵観光客 宿泊地アンケート



車両誘導のための警備員配置

3. 背景・要因

● 課題の背景・要因

主な背景・要因

- | | |
|-----------------|---|
| 1. SNSによる観光客急増 | <ul style="list-style-type: none">・ にこ淵は、仁淀ブルーのSNSによる知名度向上に伴い、観光客が急増
数千人(2010年)→約30万人(2023年)・ そのため、観光客の受け入れ環境整備が追い付いていない |
| 2. 車や人が集中しやすい地形 | <ul style="list-style-type: none">・ 急峻や山間にある観光地のため、アクセス道路は一車線かつカーブが多く、混雑が起きやすい地形・ 道路脇は谷合で、平地が少ないことから駐車場など観光インフラが不足しており、観光客の受入能力が弱い |
| 3. 観光スポットが限定的 | <ul style="list-style-type: none">・ 移動経路の少なさ、狭さに加え、観光スポットがにこ淵に限られるため、回避するための観光地がなく、人・車の集中が起きやすい・ 観光スポットが急峻な山間地の広い範囲に点在しており、周遊性も低い |

2. 点在した駐車場・駐車スペース



- ・ 駐車可能場所が点在しており、どこに駐車可能かわかりづらく、空いている駐車場が視認できず駐車可能場所を探してしまう

2. 狭い一本道



- ・ 山岳地帯のため道路が一本・一車線であり混雑しやすい



3. 観光スポットがにこ淵のみ

- ・ にこ淵はSNSによって急激に観光客が増加
- ・ 観光スポットが近隣になく、にこ淵に集中しやすい
- ・ 周遊がなく日帰りが多いため、地域にお金が落ちない



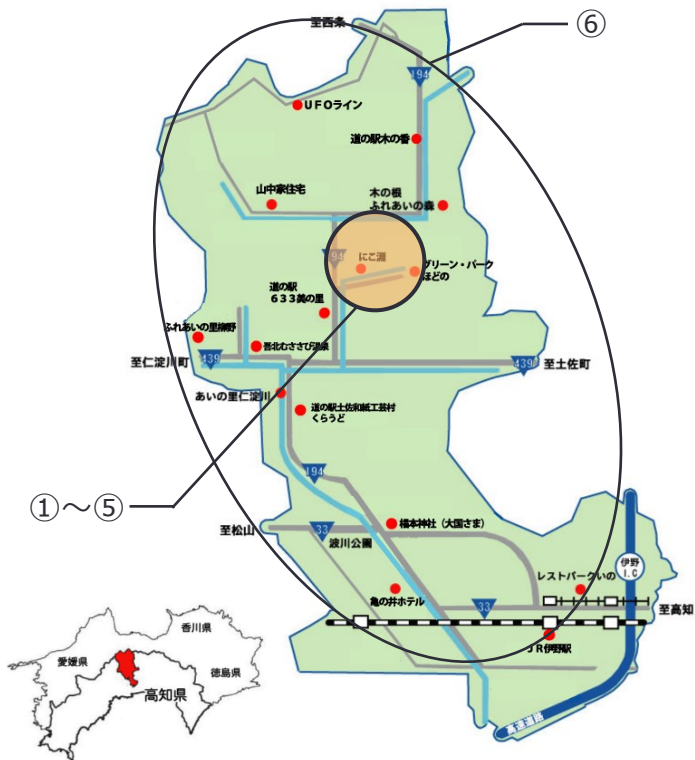
2. 混雑しやすい山岳地形



- ・ 急峻な山間に観光地があり、平地が少ないことから観光客が滞留しやすい上、駐車場等インフラ整備が難しい
- ・ 急で狭い遊歩道しかなく、急増する観光客を受け入れきれしていない

4. 対策の概要

- 山岳地形であることから人・車が集中しやすく、急増する観光客を受け入れるインフラ整備が課題。
観光客へのアンケートの実施や地域住民交えた協議会の議論踏まえ、右記①～⑤のハード整備の実施を決定
※観光客からは、遊歩道・トイレなどについて不満の声
- 観光客急増の一方、観光地が限られるため周遊性がなく、地域への宿泊も少ないため、地域へお金が落ちない状況。
局所集中からの分散、地域への経済波及効果を目的に、新たなコンテンツ開発事業の実施を決定（右記⑥）



受入環境の整備・増強

**取組み
背景
内容**

①なだらかな遊歩道・ビューポイント新設

- ・現状の急で狭い階段では高齢者などがこ淵まで下ることができない
- ・なだらかな遊歩道とビューポイントを新設し、観光客の分散や行列が車道まで伸びることを防ぐとともに、高齢者等も楽しむことができる環境を整備

取組み 背景

② 駐車場拡幅＜大型バス転回スペース＞

- 大型バスが展開場所を求めて狭く危険な山道を余計に運転をする必要が出ており、混雑の原因となったり観光客の安全に懸念が生じている

内容
取組み
背景

- にこ淵駐車場に大型バス転回スペースを設け、観光客・地域住民の安全を確保

③トイレ新設

- ・ 現状の仮設トイレは容量が小さく、繁忙期に利用できない事態が発生するほか、異臭の原因ともなる。また、周辺から見えやすい場所に設置しているため、女性観光客を中心に安心・安全な利用ができない

内容
取組み
内容

- ・ 安心安全に利用できるユニバーサル対応トイレを新設、満足度向上をはかる

④情報掲示板（サイネージ等）新設

- ・ アクセス道沿いにLEDビジョンを設置、駐車場場所や満空情報を提供
- ・ 併せてサインージを設置。マナー、歴史、協力金のお願い、近隣観光コンテンツに関する情報を提供する

取組み 背景

⑤案内看板設置くにご淵への進入口および駐車スペースを案内>

- アクセス道路情報提供不足により、狭い道路や私有地でUターンをすることで、渋滞の原因や、住民への迷惑となっている

内容

- 案内看板を設置し、スムーズな誘導、誤侵入時転回等による渋滞軽減を図る

地域住民と協業した観光振興

取組み 背景

⑥あらたな観光コンテンツ造成

- 現状の観光客は、にこ淵等観光地に直線的に向かい、周遊しない日帰り観光が多いため、地域にお金が落ちない状況

内容

- ・観光客増加を経済波及につなげるため、地域住民が運営する屋台型カフェを周辺に複数設置し、周遊観光の案内も行う
- ・他事業で実施する渋滞予報も活用し、観光客を時間分散を分散させ、新たに造成した観光コンテンツへ分散することで、地域への経済波及の実現を目指す

5. 主な取組み（詳細）

課題

にこ淵の滝つぼまで至る現行の階段が狭く急なため、安全な使用に懸念がある
（高齢者等身体が不自由な方が利用できない）

取組み

なだらかな遊歩道・ビューポイント新設

- ・ 実施期間：令和7年2月～
- ・ 実施主体：高知県の町

事業内容

■ なだらかな遊歩道・ビューポイント新設

- ・ にこ淵の滝つぼまで行くことができる「なだらかな遊歩道」と、遊歩道の途中ににこ淵を見ることができる「ビューポイント」を新設する

【背景】

- ・ 現行の階段は急峻な山道に設置しており、体力のない観光客は、にこ淵に下り仁淀ブルーを楽しむことができない状況
- ・ 階段が狭くすれ違いが難しいため、階段待ちの行列が車道にまで伸び、交通の妨げや観光客の安全に懸念が生じている

【目的】

- ・ 現行の階段ではにこ淵の景色を楽しむことができない人も、にこ淵を見たり、滝つぼまで下りたりできるような環境を整える
- ・ 既存の階段に加え新たに遊歩道が作ることで、滝つぼまでの経路が2つとなり、階段や遊歩道待ちの列が車道に伸びる状況を解消する

既存の階段（傾斜が急で幅が狭い）



車道に伸びる階段待ちの行列



成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

- 遊歩道の傾斜をなだらかにし、遊歩道の途中ににご淵を視認できるビューポイントを設置することで、**体力のない方でも、仁淀ブルーを楽しむことができる環境を提供する**

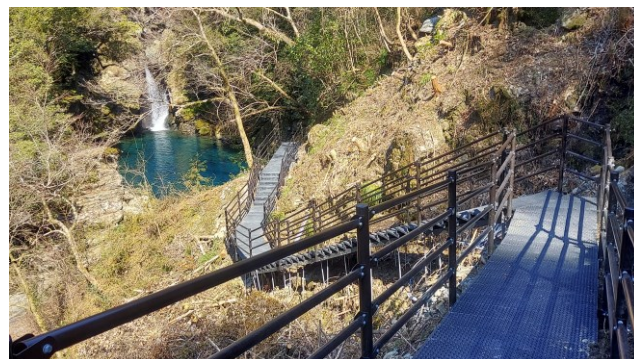
事業の成果／目標の検証結果

- 目標である**ユニバーサルな環境を整備することができた**
 - 不満点として遊歩道を挙げる率：
36.4% (n=192) から 0% (n=28) に減少

成果詳細



遊歩道・ビューポイントの俯瞰図



遊歩道（既存の階段に比べ道幅が広くなだらか）



遊歩道途中のビューポイント（車いすでの来訪も可）

令和6年度取り組みから見てきた課題

■ 持続可能な観光管理に向けた収益基盤の強化

- 利便性向上によりさらなる来訪者増加が見込まれるが、現状の収益源は協力金のみ
- 増大する観光管理費用をカバーするため、にご淵における新たなマネタイズポイントの創出が必要

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

■ 拡張スペースの有効活用による収益化

- ビューポイントなど拡張スペースを活用し、屋台型ポップアップカフェを設置
- 観光体験の向上とともに、収益化できる場を創出
- （本事業「新たなコンテンツ造成」の実証で、省スペースでの実施が可能であることを確認済み）

5. 主な課題（詳細）

課題

にこ淵のみに観光客が集中
日帰り客が多く、地域への経済波及効果が限定的

取り組み

新たな観光コンテンツの造成

- ・ 実施期間：令和6年9月～令和7年1月
- ・ 実施主体：高知県の町

事業内容

■ 地域資源を活用した新たな観光コンテンツの造成

- ・ にこ淵などの観光地周辺や、景観等がよい場所において、地域住民が運営する屋台型ポップアップカフェを複数設置する
- ・ 「地域コンテンツを楽しむ新たな観光地」と「観光案内所」としての2つの機能を持たせ、屋台型カフェ自体を新たな観光目的地にするとともに、地域住民だからこそ知る観光地情報を提供し、観光客の他の観光コンテンツへの送客を図る

【背景・目的】

- ・ にこ淵を含む仁淀川上流域には、近隣に観光スポットがなく周遊につなげていない。そのため、地元への観光による経済波及効果も少なく、持続的な観光振興につなげていない状況。
- ・ 地方部では、巨大な投資を伴う、大規模施設のような観光コンテンツの開発が難しい。そのため、既存の景観や文化遺産等を利用した小規模な観光コンテンツを分散して造成することで、大きな投資を行わず、観光コンテンツを造成し、周遊促進と観光振興を実施する。

屋台型ポップアップカフェ（スペシャルプレイスキット）



令和6年度事業の目標

- 地域住民が運営する屋台型カフェを周辺に複数設置し、観光客の周遊を促すことで、観光客増加を地域全体の経済波及につなげるための運用体制の基礎を確立する

事業の成果／目標の検証結果

- にこ淵以外の地元スポットへの誘客を複数回実施
- にこ淵を訪れる観光客が求めるものなど、地域内他エリアへの展開に向けた基礎的な方向性や運用体制について確立することができた
 - 計6回の実施で、にこ淵以外のスポットへ計31組送客

成果詳細

■ イベント結果の概要

- 実施した下記イベントのうち、①・⑤については、10%程度の送客を行うことができた。一方、コーヒーフESTAや音楽イベントイノビエンナーレなどのイベントへの誘因率は低い
- このことから、にこ淵からの誘客においては、「美しい景色や、地元の食事・産品が楽しめるもの」を訴求することが有効であることを把握
- あわせて、②についても、9%の誘引率を示しており、「グリーンパークほどの」など近隣地域への誘客も期待できる

結果詳細

	日付	にこ淵に流入した車の台数	送客先への訪問数	送客先訪問率	周遊促進（送客先）
①	10/5	114組	10/104組	9.6%	神楽と鮎と酒に酔う @仁淀川河川敷の波川公園
②	11/3	112組	9/100組	9%	簡易カフェ・うどん店舗はちのじ @にこ淵からさらに山奥に位置するグリーン・パークほどの
③	11/4	191組	4/120組	3%	地域住民向けの音楽イベントイノビエンナーレ @商店街
④	12/7	88組	2/77組	2.6%	簡易カフェ @道の駅土佐和紙工芸村クラウド
⑤	1/13	52組	4/43組	9.3%	簡易カフェ・焚火イベント @道の駅土佐和紙工芸村クラウド
⑥	1/19	46組	2/48組	4.3%	コーヒーフESTA @商店街内の古民家カフェ店舗ukikiコーヒー

成果詳細



②簡易カフェ・うどん店舗はちのじ



①イベント「神楽と鮎と酒に酔う」

スペシャルプレイスキット設置による にこ淵からの分散化 全体像



スペシャルプレイスキットを設置し、近隣や商店街などへ分散



⑥コーヒーフェスタ



③地域住民向けの音楽イベントイビエンナーレ



④簡易カフェ



⑤簡易カフェ・焚火イベント

令和6年度取り組みから見えてきた課題

- 令和6年度はコンテンツの中身を創り上げることに焦点を当てたが、そのコンテンツを活かすための誘客や支える人材の確保が課題となった

1 マーケティング戦略の練り上げ

- コンテンツは作り上げたが、コンテンツへの来訪を促すための仕掛けが不足

2 旅行前の周知の強化

- 旅程を組んで訪れる観光客が多く、旅行中段階での新規コンテンツ発信では来訪・周遊につながりにくい
- 来訪前の段階で適切な情報を届ける施策が必要

3 担い手人材の確保

- 現在は地域おこし協力隊（県外からの流入人材）に依存しており、さらなる人材確保が課題。
- 県内人材の活用など、新たな人材確保の仕組みが必要

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- 観光客ニーズを精査し、媒体や大学などの関係機関と連携しながら、観光客の地域内分散に寄与するほど強力な集客力を持つコンテンツへアップデートしていく

1 ターゲット別の訴求ポイント整理

- にこ淵来訪者は「通過型」と「滞在型」に大別され、それぞれ異なるニーズを持つと仮説設定
- 各ターゲットに適した訴求ポイントを整理し、効果的なマーケティングを展開

2 適切な媒体と連携した事前周知

- いの町旅行に関心のある層にアプローチできる媒体を選定し、連携して情報発信を強化
- 事業者ごとに発信しているイベント情報を集約し、効果的に媒体と連携する仕組みを構築

3 高知大学との連携

- 県内の若手起業家支援や定着推進の文脈で高知大学と連携し、大学卒業後にいの町で活躍する人材を確保する

新たな観光コンテンツ造成の今後について

観光コンテンツの新たな造成の今後の方針について

- 観光コンテンツの造成を通じて、地元の人が副業で観光収入があげられるよう、観光事業を行う人材を育成する取り組みを実施する。
- 本取り組みを通じて、地域おこし協力隊などの移住者に職を提供し、定住につなげていく。

いの町の目指す姿

対策（案）

①分散型観光スポットの創出

- メインスポットの周辺に「行く場所」を作る

②小規模店舗（カフェなど）による案内拠点づくり

- 人を通じて観光情報を案内
- 小さなマネタイズモデルを作る

③空き家を活用した宿泊施設でマネタイズ

- 少額投資での宿泊施設モデルを構築
- 宿泊＋カフェ＋観光スポットのセットを構築

仁淀川流域独自の
分散型観光モデルを構築

モデル例



実際に1軒目をやってみて、そこを研修場所
として地域内への開業（起業）を支援



あまり知られていない
地元の観光スポット

案内



太鼓など
伝統芸能

地域おこし協力隊など
若者を受け入れ、経営ノウハウや物件選定
を支援して地域内で開業してもらう。



【事例】

- いの町大国町でコーヒーショップ「Ukikiコーヒー」を経営する浮木さん。※2024年11月までのいの町の地域おこし協力隊
- 現在、本取り組みを行っており、にこ淵においてスペシャルプレイスキットを用いたポップアップカフェを今後実施
- いの町での定住を目指し、空き家を活用した少額投資ホテルについても、今後、取り組む予定



24. 熊本県阿蘇市

1. 地域概要

計画名	「サステナブルな阿蘇」で旅行者も地域も潤う環境 トライアル
対象エリア	阿蘇市
実施主体	熊本県阿蘇市
年間観光客入込数	約650万人（令和5年度）
年間宿泊者総数	約60万人（令和5年度）
主な観光資源	5大観光スポット：阿蘇神社・阿蘇山上・内牧温泉・大観峰・阿蘇駅周辺



阿蘇カルデラ（大観峰）



草千里ヶ浜

● 観光ビジョン

自然、地域、旅行者の「三方よし」の循環モデルで、
サステナブルな観光地域づくり

- 「住んでよし、訪れてよし」の旅行者・事業者・住民の共存共栄「三方よし」の関係性を構築し、名実ともに持続可能な観光地「阿蘇」となる

● 推進体制（協議の場）

阿蘇カルデラツーリズム推進協議会

- 令和2年7月より阿蘇のサステナブルな観光地域づくりに取り組んでいる本協議会が、関係者との協議の場として機能

行政機関

阿蘇市	（一社）阿蘇門前町 商店街振興協会	阿蘇山上職域 防災防犯協会
熊本県	大観峯観光株式会社	内牧温泉街繁栄会
環境省	坊中商店街名店会	

事業者

観光協会、商工会、観光事業者、交通事業者等（20者・団体）

2. 課題

● 主な課題

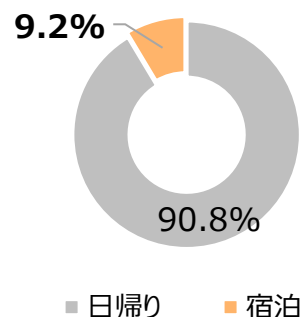
	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 特定スポットの混雑や交通渋滞	- 大観峰や草千里ヶ浜など、人気の5大観光スポットに人や車が集中し、混雑や交通渋滞が発生している - 列車やフライトに間に合わない、予約した次のアクセシビリティに参加できないなど観光客のクレームが発生するほか、無理に引き返そうとして逆走する危険な車も発生している	観光客
2. 増加する観光客の受け入れ負担の増加	- 景色を眺望するだけの日帰り観光客が多く、エリア内の周遊や滞在が弱いため、場所や時間が分散しない - 地域にお金は落ちない一方、地域の観光客受入れ負担が増え続けている状態	観光客 地域経済
3. マナー違反	草原への無断立ち入りや放牧牛・馬に勝手に触れるなどマナー違反により、阿蘇の守り続けてきた草原景観などの観光資源が維持できなくなる懸念がある	地域資源

1.5 大人気スポットの混雑



- 大型連休中、阿蘇山上への上りで約3.5キロ、下りで約1.5キロの渋滞が発生
- JR阿蘇駅から阿蘇山上ターミナルを結ぶ産交バスの定期便は、最長143分の遅延が発生

2. 地域の負担



- 観光客の9割以上が日帰りであり、経済効果は限定的
- また、昼間と夜間との需要ギャップが激しい

3. マナー違反



- 阿蘇の草原は、地元農家などが野焼き・放牧・採草を行い、維持管理されてきた半自然資源
- 特に、外国人旅行者による草原への無断立ち入りや放牧されているあか牛への接触は見られる

3. 背景・要因

● 課題の背景・要因

主な背景・要因

1. 一本道へのマイカー集中

- ・ 山岳地域のため複数の道路を設けることが難しく、**観光スポットまでは基本的に一本道**となっている
- ・ 個人旅行が主流となり、**マイカー・レンタカーでのドライブが増加**したことで渋滞が悪化している

2. 観光スポット・観光スタイルが限定的

- ・ 阿蘇市には年間650万人もの観光客が訪れるが、大観峰や草千里など**定番スポットで草原を見て帰る観光スタイルが定着**。そのため、**場所の集中・昼間への集中が起こりやすい**
- ・ また、物見遊山の観光スタイルのため**地域に消費が落ちにくい**

3. 阿蘇の資源保全への理解が不足

- ・ 観光客急増により、阿蘇が守ってきた草原の景観などの**自然保全への理解が不足している観光客も増えている**

1. 観光地への一本道



- ・ 山岳地帯のため道路が一本・一車線であり混雑しやすい

2. 目的地の駐車場が満車



- ・ 道路が一本・一車線の先の目的地となる観光地の駐車場が満車状態



2. 観光スポットが限定的



- ・ 5つの観光スポットに観光客が集中し、それに向かう道路が混雑しやすい

3. 阿蘇の資源への理解不足



- ・ 観光客急増とともに、阿蘇が大切にしてきた資源を理解していない観光客の増加が懸念

4. 対策の概要

- 山岳地形であることから渋滞が起きやすく、観光スポットも限られることから局所到人・車が集中しやすい構造。そのため、受入環境整備を行いつつ、場所や時間の分散化を図る
- 具体的には、駐車場混雑可視化や夜間店舗の充実化、草原を活用した滞在型コンテンツ造成などを実施する
- 滞在型コンテンツ造成により、経済波及効果の拡大も図り、地域の観光客受け入れ負担の軽減にもつなげる

エリアマップ



観光客の分散・平準化

- | | |
|------------|--|
| 取組み | ①大観峰周辺の草原でのコンテンツ造成及びアクティビティ受付拠点整備 |
| 内容 | ・ 地元消費の向上につながる草原での体験コンテンツを3種類造成することで、5大スポットへの観光客集中を分散し、収益の上げにくい自然資源型地域での持続可能な観光地域づくりを目指す |
| 取組み | ②夜間店舗の充実・非混雑エリアのコンテンツ磨き上げ |
| 内容 | ・ 内牧温泉は昼間の商店街に観光客が集中する。宿から夜間店舗への送客や、非混雑エリアにおける特産品の食べ歩きや飲食可能な拠点を充実させることで、時間と場所の分散化を図る |

受入環境の整備・増強

- | | |
|------------|--|
| 取組み | ③ICT等を活用した駐車場の混雑状況可視化等（阿蘇神社・阿蘇市） |
| 内容 | ・ AIカメラ分析等により駐車場の空き状況を見える化し、利用効率を向上するとともに、駐車場整備を行うことで、渋滞緩和を図る |
| 取組み | ④多言語モニター設置による観光施設の混雑状況の見える化 |
| 内容 | ・ 外国語表記のインフォメーションモニターにより、待ち時間をリアルタイムに周知し、外国人観光客にもスムーズな案内を可能とすることで、混雑の解消を図る |
| 取組み | ⑤宿への荷物搬送・ツアー専用車導入 |
| 内容 | ・ 荷物搬送を効率化するとともに、使っていない時間はツアー客の搬送を行うことで観光客の分散化も図る |
| 取組み | ⑥内牧商店街の歩行者天国化の実証 |
| 内容 | ・ 車道の一部を歩行者天国にすることで観光客と車両の接触事故防止を図る |
| 取組み | ⑦バス停周辺の環境整備 |
| 内容 | ・ バス停を改修することで、渋滞や安全面の課題を解消する |



4. 対策の概要

- 阿蘇の重要な資源である草原や放牧馬・牛を保全するため、マナー啓発を実施
- 持続可能な観光の推進のためには、観光客・住民双方の満足する観光地を目指す必要がある。そのため、阿蘇の観光やビジョンに対する住民・事業者の理解を促進も図る

エリアマップ



調査・分析

取組み

⑧ AIカメラ設置による施設の利用者数及び駐車場の満空状況の計測

内容

- 駐車場の混雑状況についてリアルタイムに情報発信を行い、混雑軽減を図る
- 時間帯別の施設利用者データを可視化し、レジの稼働数や清掃タイミング、施設内動線の最適化を図る
- 崇城大学IOT・AIセンター並びにDXfromKUMAMOTOと連携することにより、AIカメラ画像分析からのマーケティング利用を行う

取組み

⑨ 将来的なEV自動運転導入に向けた調査・検討

内容

- 草千里駐車場の混雑による渋滞が発生しており、空いている古坊中駐車場への分散化が必要。草千里と古坊中駐車場間を環境に配慮したEVバスで繋ぐことで、古坊中駐車場利用を促進する

マナー啓発

取組み

⑩ 草原や放牧場でのマナー啓発のためのツール作成・配布

内容

- 観光客の増加により、草原への無断立ち入り、牛・馬に無断で触れるなどの事象が発生しており、草原踏み荒らしや口蹄疫発生への懸念がある
- 阿蘇の重要な資源である自然への理解を促進させ、自然に配慮した観光を推進するため、ガイドラインをわかりやすく伝え、草原への無断立ち入りや牛馬への接触等を抑制する

住民と協業した観光振興

取組み

⑪ 地域住民の体験会の実施

内容

- 阿蘇市の観光コンテンツを、住民や事業者等にも体験してもらい、その魅力を五感で感じてもらうことで、「自分ごと」として阿蘇市の魅力を捉え、おもてなしや観光地域づくりに取り組む機運を醸成する
- 併せて、双方向の観光地域づくりについての意見交換会を開催し、「住民・来訪者・環境」の三方良しの取組みを推進する

5. 主な取組み（詳細）

課題

- “5大観光スポット”で“草原を見るだけ”の観光となっており、場所や時間の集中が発生
- 地域への経済効果も限定的

取組み

草原でのコンテンツ造成及びアクティビティ受付拠点整備

- 実施期間：令和6年10月～令和7年2月
- 実施主体：あそBe隊、梅木観光、阿蘇ネイチャーランド、日航観光社

事業内容

①：コンテンツ造成

- 大観峰以外でも楽しめる草原を活用したコンテンツ（以下、三種類）を造成する
 - E-MTBによるカルデラ草原ライドツアー
 - 北外輪山をフィールドした本格4輪バギーアドベンチャー
 - 引き馬乗馬ユニバーサルコンテンツ

②：アクティビティ受付拠点の整備

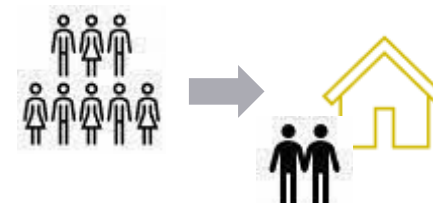
- 新たなコンテンツに誘導するための受付拠点を整備する

【目的】

- 人気スポット周辺に新たなコンテンツを造成することで、観光客の分散化を図る
- “見る”から“体験する”観光コンテンツとすることで、滞在時間の延長や経済効果の向上を図る

②：アクティビティ受付拠点

昼間に大観峰や草千里に集中する観光客を分散化



大観峰や草千里に集中する観光客をコンテンツに誘導するための拠点を整備



受付拠点を經由した分散化



大観峰からの分散化



①：コンテンツ造成



E-MTBによるカルデラ草原ライドツアー



北外輪山をフィールドした本格4輪バギーアドベンチャー



引き馬乗馬ユニバーサルコンテンツ

令和 6 年度事業の目標	事業の成果／目標の検証結果
阿蘇の草原コンテンツ及びアクセシビリティ受付拠点を新規に造成し、大観峰など人気スポットからの分散を促せるコンテンツとして有効な手段となるか検証	- 分散化への有効性を確認。令和 7 年度から、定番商品として販売する 3 つの新たなコンテンツについて、計225人が参加し。大観峰などに集中する観光客の分散に有効となり得ることが確認できた - 満足度が高いこと、また収益化の見通しが立ったことから、令和 7 年度から定番商品として販売する見込み

成果詳細			
■ 草原コンテンツ造成による場所の分散			
- E-MTBライド体験以外は当日予約でも参加することができ、大観峰に多いドライブ客等が気軽に参加できる体験機会の創出となっている。 - コンテンツ参加を通し、景観だけではない草原の価値についての理解も深められている - 収益確保の見通しも立ったため、今後定番商品として継続させる			
	E-MTBライド体験	バギー体験	引馬体験
人数	12回 34人	164人	89人
年齢	20歳代～70歳代 - 外国人3割、日本人7割	30～40歳代の参加が多い - 外国人1割、日本人9割 - 福岡3割、関東圏3割、熊本2割、その他	- ファミリー（5歳～30歳代）の参加が多い - 外国人1割、日本人9割
単価	8,500円～	7,700円～	1,100円～
意見	- 満足度は高い。思ったよりやり甲斐・アドベンチャー感があった。 - 野焼きや輪地切り等の意義について、アクティビティをしながら理解を深められた。 - 草原を維持する人々の苦労や、昔カルデラが湖だったころの話に関心が高い。	- 草原景観の中で楽しめるアクティビティとして、満足度は高い。 - アクティビティ体験をしながら草原の話をすると理解しやすい。 - 草原の話は、特に40歳代以上に反響が良い。	- 子どもが喜んでおり、ファミリー層に好評 - 普段の目線より高くなり、非日常感を体感できる。 - 馬の対応（反応）が温かい（気質も体温も）

成果詳細



- これまで眺めるが中心だった阿蘇の草原の中で、様々なアクティビティを体験できるようになった

令和6年度の実証から見てきた課題

- 令和6年度の実証を踏まえ、草原コンテンツの観光客ニーズや属性を把握。商品価値は十分にあり、今後の本格実施の見込みが立った
- 大観峰等からの分散化及び実施事業者のビジネス安定のためには、利用者の拡大が大きな課題

1 ツアー客の取り込み

- 大型バスで来訪する旅行者については、予め行程が決まっているため、コンテンツに興味をもってもらっても参加いただけない
- 旅行前段階から、行程として組み込んでもらう必要がある

2 他集中スポットへの分散コンテンツの展開

- 本事業では、大観峰からの分散を見込んだコンテンツを造成。大観峰の取組を踏まえ、阿蘇駅、山上など他4集中スポットについても分散化の取組を拡大していく必要

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- 利用者の拡大に向け、旅行会社との連携によるツアー客の取り込み、大観峰以外でのコンテンツ拡大を図る

1 旅行会社との連携によるツアーへの組み込み

- 北外輪山の大観峰周辺エリアで気軽に楽しめるアクティビティを旅行会社に紹介し、ツアーに組み込んでもらう
- 令和7年度の実施に向け、旅行会社との協議を開始している

2 子どもやお年寄りも楽しめるコンテンツの造成

- 阿蘇駅ではE-MTBライド、阿蘇山上ではグリーンスローモビリティによる草原ライドの造成に取り組む
- 体力のない人でも楽しめるコンテンツの要望があったことから、グリーンスローモビリティによる草原ライドを導入する

5. 主な取組み（詳細）

課題

持続可能な観光地づくりに向け、住民の巻き込みや阿蘇観光に対する理解・機運醸成を図る必要がある

取組み

地域住民の体験会の実施

- ・ 実施期間：体験会（令和6年10月～令和7年2月）、意見交換会（令和6年10月、令和7年2月）
- ・ 実施主体：阿蘇カルデラツーリズム推進協議会

事業内容

■ 住民体験会の実施

- ・ 阿蘇市の観光コンテンツを、宿泊事業者や観光事業者等、観光客と直接接点がある地域の方にも体験してもらい、その魅力を五感で感じてもらう
 - 体験の実施（4種類）
 - 体験したコンテンツ及び阿蘇市オーバーツーリズムに関するアンケート調査
 - 地域住民向けサステナブル講習会の開催

【目的】

- ・ 持続可能な観光地づくりを目指すため、地域の方に対し、**阿蘇の魅力の理解や観光客からの視点を育成**し、阿蘇観光を「自分ごと」として捉え、おもてなしや観光地域づくりに取り組む機運醸成する

【背景】

- ・ 地域の方が阿蘇の魅力について自ら観光客に伝えることは、知られざる魅力発信や地域と観光客の交流や繋がり創出、地域と観光客の相互理解の促進にもつながる
- ・ しかし、**地元の人々は地元を観光しないため、既知の人気スポット以外の魅力が伝わらず、結果として人気スポットに観光客が集中しやすい**
- ・ 体験会・意見交換会を開催することで、阿蘇の魅力への理解や観光客からの視点を育成し「住民・来訪者・環境」の三方良しの取組みを推進する

意見交換会・アンケート調査

- ・ 体験会、アクティビティに対するアンケート、オーバーツーリズムに関するアンケート、講習会を実施
- ・ 阿蘇の魅力理解・観光客視点の育成、アクティビティのモニターを含めた地域協議の新しいスタイル



成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

- 阿蘇の草原コンテンツに対する**住民の満足度**や、**地域の魅力・価値**を**来訪者に伝える役割を担うこと**についての**意向**などを調査し、**体験会の有効性を検証**する
- その他分散化や観光地域づくりの課題を調査し、対策を検討する

事業の成果／目標の検証結果

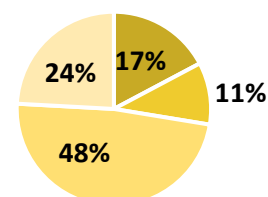
- 実体験に基づき、阿蘇の魅力を自ら発信していける人材の育成の第一歩を踏み出すことができた
 - 計**76人**が参加
 - 体験会の満足度（目標80%以上） **約8割**
 - 観光客への紹介意向（目標80%以上） **約9割**

成果詳細

体験会の概要

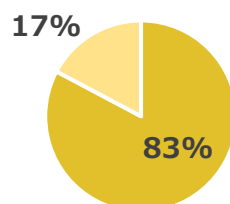
実施期間：令和6年11月～12月
参加者数：76人
内容：4つの草原コンテンツの体験
回数：24回

参加者年齢



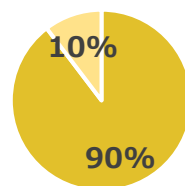
■ 20代 ■ 30代
■ 40代 ■ 50代

満足度



■ 80%以上

観光客への紹介意向



■ 80%以上 ■ 80%未満

- ✓ **地域の魅力・価値を来訪者に伝えることができる人材を育成**するという目的から、参加者の大半は、普段から観光客との接点がある**観光事業者、宿泊事業者**
- ✓ **体験会の満足度：80%以上 約8割**
- ✓ **観光客への紹介意向：80%以上 約9割**

アンケート結果・分析

- ✓ **地域に住みながらも阿蘇を知らない人が多く、阿蘇の魅力に感動し、観光客にも紹介するとの意見が多かった**

- 地域に暮らしていても知らない情報、埋もれてしまっているような情報を、体験しながら知り、学ぶことが大変素晴らしかった
- 馬が愛情を持って飼育・調教されており、穏やかで賢くて感動した
- 阿蘇の風景に感動しながらの最高の体験。たくさんの方に感動を味わっていただきたい
- 訪日客だけでなく、特別な旅(高単価な旅)を希望の方へアピールする発信ができればと思う

- ✓ **一方、体験コンテンツの価格については、地域が適性と思う額と実際の販売額に乖離があった**

- バラグライダー、E-MTB、アウトドアダイニングの3つは実際の価格よりも、地元の方の想定価格が2割程度低かった
- 乗馬については、想定価格のほうが高い特徴が見られた。また、コメントについても乗馬に対する評価が高かった。

→ 価格に見合った付加価値の高いコンテンツへの改善とともに、地元の人には草原の存在が当たり前となっていることも価格に表れていると考えられ、阿蘇の魅力や価値を引き続き伝えていく必要

成果詳細



- 意見交換会、協議会だけでなく、実際に阿蘇の魅力を体験する機会も設けることで、持続的な観光の推進を自分ごととして捉えやすくなる
- 観光事業者や宿泊事業者は、阿蘇を観光したことがない方も多く、観光客視点から阿蘇を考える機会ともなった

令和6年度取り組みから見てきた課題

- 阿蘇の人が阿蘇を知らないということは従前からの課題であったが、本事業を機に、実体験に基づき、阿蘇の魅力を自ら発信していける人材の育成の第一歩を踏み出すことができた
- 多くの人に満足いただくことができたが、体験者数が限られていることが課題である

参加者の拡大

- 計76名に参加いただき一定の成果が得られたが、阿蘇市の人口や事業者数を踏まえると、参加者が限定的
- 地域全体で、阿蘇の魅力を伝えていく機運を醸成するには、参加者のさらなる拡大が必要

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- 阿蘇の魅力や価値を来訪者に伝えていくことができる地元人材を増やしていくため、一般住民向けの体験会の開催など、参加者を拡大していく

一般住民向けの体験会の開催

- 今回は観光客との接点の多い観光事業者・宿泊事業者向けに開催したが、阿蘇への理解や誇りの醸成、将来の観光人材の育成に向け、主婦や子どもなど多様な方々への機会提供も提供する

5. 主な取組（詳細）

課題

園内の混雑状況がわからない、外国人観光客への説明時間を要することにより、発券所付近に人混みが発生

取組み

多言語モニター設置による観光施設の混雑状況の見える化

- ・ 実施期間：令和6年10月～令和7年2月
- ・ 実施主体：阿蘇熊牧場

事業内容

■ 入園前の発券機付近への多言語モニター設置

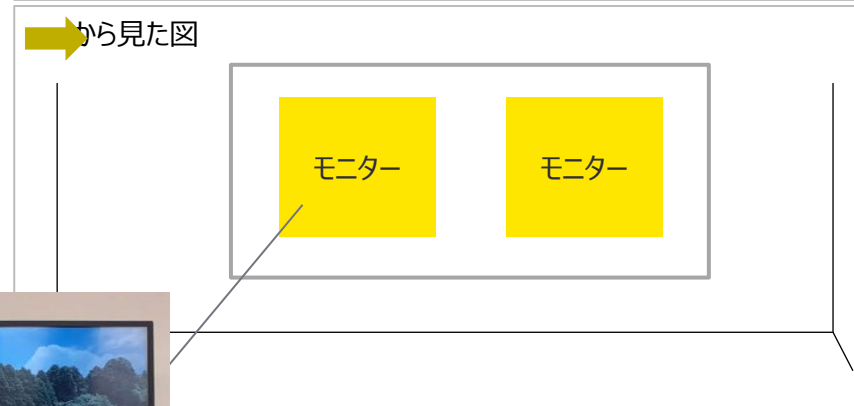
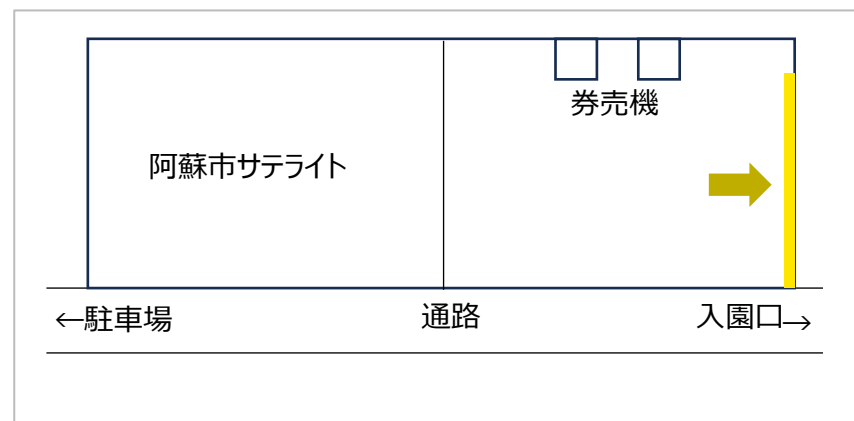
- ・ 発券機付近を中心に、リアルタイムの予約状況を確認できるモニターを設置
- ・ 外国人向けに3～4か国語（日本語・英語・中国語(繁体・簡体)・韓国語にて表記）対応の案内を実施

【目的】

- ・ 券売機付近に園内施設の受付状況を確認できるモニターを設置することで、入口での受付状況の問い合わせ対応に関する混雑や返金トラブルを解消する

【背景】

- ・ 園内の人気アクティビティこぐまのふれあいやヘリコプター遊覧について、これまで受付状況が見える化されておらず、先着順であった
- ・ そのため、入園券購入後窓口に並んで空き状況を確認する観光客が多く、待ち時間や入園口の混雑、空きがないことによる返金トラブルが発生していた



入園口前にモニターを設置

成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

- 受付状況の見える化による入園口混雑及び返金トラブルの解消

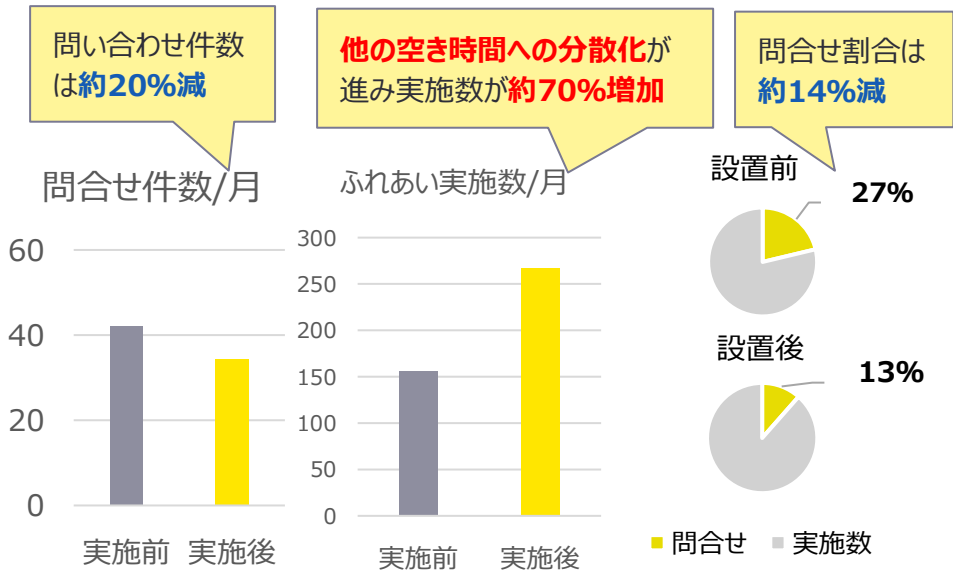
事業の成果／目標の検証結果

- 問い合わせ件数減による混雑緩和、返金トラブルの減少
 - 問い合わせ件数 こぐまのふれあい **約253件→約138件**
ヘリコプター遊覧体験 **約145件→約49件**
 - キャンセル件数 ヘリコプター遊覧体験 **8件→5件**
- ※実施前：5～10月 実施後：11～2月の実績

成果詳細

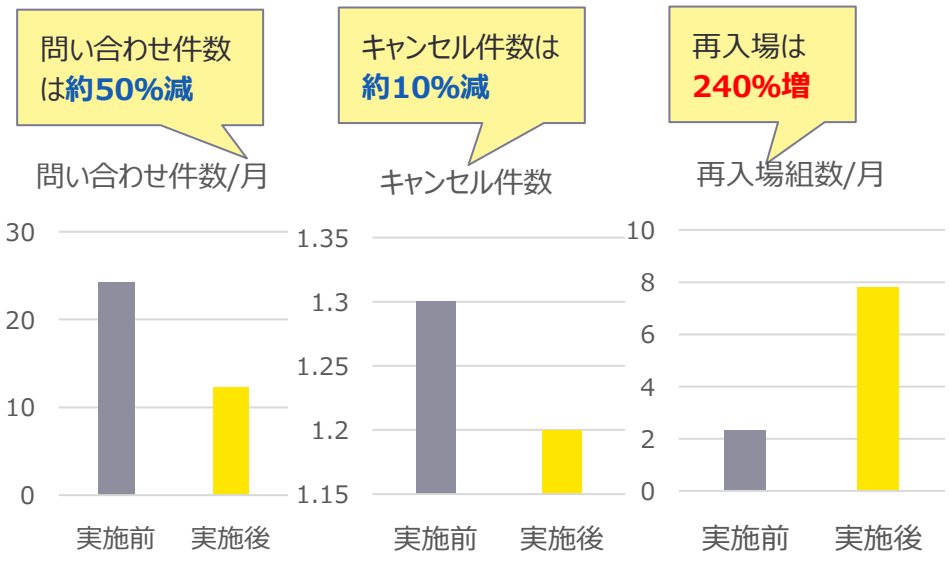
こぐまのふれあい

- ✓ 予約状況の見える化により、問い合わせ件数の減少に伴う混雑解消、他の空き時間への分散化への効果が見られた
 - 問い合わせ件数：約42.1件/月→約34.5件/月
 - ふれあい実施数：約156件/月→約267件/月



ヘリコプター遊覧体験

- ✓ 混雑解消などに一定以上の効果が出るとともに、受付状況が見える化されたことで、混んでいる時間は周辺の観光等を楽しみ、モニターで状況を見て再入場してくる観光客が増えたと想定される
 - 問い合わせ件数：24.2件/月→12.3件/月
 - キャンセル件数：1.3件/月→1.2件/月
 - 再入場組数：2.3件/月→7.8件/月



令和6年度取り組みから見てきた課題

- モニター設置後、口頭での問い合わせは格段に減少しているが、新たな滞留発生などへの対応が課題となっている

1 入園口付近の滞留への対応

- モニターで満席及び天候不良による受入不可を確認した後、その後の観光コースをその場でスマホ等で探される方が多く見受けられる
- そのため、入園口付近に一定時間滞留が発生し、混雑が発生する場合がある

2

ごみ分別やトイレ利用方法の改善

- 外国人観光客を始めとした観光客の急増により、トイレの利用やごみ分別のマナー悪化が目立つようになっている
- 混雑対応と併せて、マナー問題への対応も必要

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- モニター設置後、口頭での問い合わせは格段に減少しているが、新たな滞留発生などへの対応が課題となっている

1

受入れ状況の事前発信

- 観光客が来園前に受入状況を把握が可能なツールを検討
- 人員も限られているため、スタッフによるHPやSNS発信ではなく、受入状況をリアルタイムでの周知方法を検討する

2

マナー啓発の強化

- トイレ利用やごみ分別などのマナー啓発を実施
- 外国語観光客が急増していることから、多言語による案内を実施する

25. 沖縄県

1. 地域概要

計画名	令和8年の首里城正殿復元を契機とした、首里杜地区を中心とした暮らしと観光が両立した住みやすく魅力的なまちづくり
対象エリア	首里杜地区
実施主体	沖縄県
年間観光客数	首里城公園年間観光客数 280万人（平成30年）
宿泊者数	259.2万人（那覇市等への宿泊）
主な観光資源	- 首里城公園（首里城・園比屋武御嶽石門・守礼門等） - 金城町 石畳道 - 中城御殿跡 - 首里染織館suikara



首里城正殿



金城町の石畳道

● 観光ビジョン

100年後まで住み続けられる持続的なまちづくり

- 首里杜地区は、自然や歴史を基盤にした首里の人々の営みによって形づくられてきた。沖縄戦などの被害を受けながらも、歴史・文化を受け継ぎ、新たなまちを形成してきた活力は、首里に住む人々や関係する人々の古都首里への誇りと愛着、そして訪れる人々の理解と親しみによって生み出されていると考えられる
- このような自然・歴史・暮らしが調和する首里らしいまちに、100年後まで住み続けられる持続的なまちづくりを目指す。

● 推進体制（協議の場）

首里杜まちづくり推進協議会

行政機関

沖縄県

那覇市

内閣府
沖縄総合事務局

事業者

沖縄美ら島財団

沖縄観光コンベン
ションビューロー

SCSK
株式会社

住民関係者

首里杜地区
まちづくり
団体連絡協議会

学術機関

琉球大学

2. 課題

● 主な課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 首里城公園 周辺道路の渋滞	- 交通渋滞により、通勤や学校の送迎などの点で地域住民の日常生活に影響が出ている - 首里城公園は小学校に近接しており、危険性が高いとの声が上がっている 緊急車両が動けず危険な状況が発生している - 観光客のツアー行程や快適な観光にも影響が出ている	観光客・住民
2. 施設の混雑	- 首里城公園内施設は、修学旅行を始めとした大勢の観光客が訪れるが、一部施設に混雑が発生し、快適に観光が出来ないなどの不満等が出ている - 混雑が要因で避難誘導が困難となり、群衆事故が発生する懸念もある	観光客

1. 交通渋滞



- 一度に大型バスが来園することにより、約150m通過に約25分かかるほど深刻な交通渋滞が発生



- 特に午前中の時間帯の渋滞がひどく通勤・通学の時間帯と重複してしまっている

2. 施設混雑



- 素屋根、木材倉庫見学エリア等に修学旅行生を含む観光客の集中が発生している



- 有料見学エリア入場口（奉神門）付近で、観光客が入場待ちが発生する。

3. 背景・要因

● 課題の背景・要因

主な背景・要因

1. 特定時間の集中 (午前中)

- ・ 那覇市街地から車で20分とアクセスが良く、ツアーや観光ルートとして最初の行程に組みやすい
- ・ そのため、観光客の約39.3%が朝8時～10時に集中して来園している状況

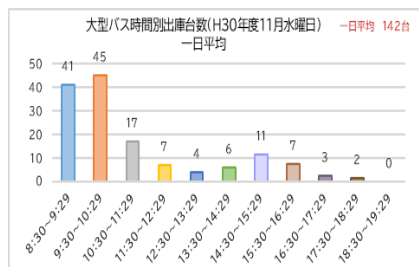
2. 特定場所の集中 (首里城のみ)

- ・ 首里城公園や城内人気スポットに観光客が集中するため、混雑が発生
- ・ 公園周辺にも観光スポットが存在するが、認知度の低さや徒歩では行きにくいことなどから、観光客分散・周遊観光が進んでおらず、地域への経済波及効果も低い

3. 観光と市民の生活圏の重複

- ・ 首里城公園は住宅街にあるため、交通渋滞が通勤・通学・緊急車両通行など住民の生活に影響を及ぼしやすい
- ・ 住民からは、交通渋滞による影響は受けるが、観光の経済波及効果を感じないと意見が出ており、住民の観光への理解浸透も重要となっている

1. 午前中への集中



- ・ 約60%が朝8時半～10時半に集中



- ・ 早朝から観光バスなどが来園
- ・ 小学校の送迎車と時間が重なる



2. 首里城公園への集中



- ・ 首里城公園周辺にも観光スポットが存在するが、観光客が分散していない

3. 住民生活圏との重複



- ・ 周辺には多数の学校が存在。住民への影響が出やすい地域

4. 対策の概要

- 地域の現状を把握するため、交通量のデータ分析、また地域住民へのアンケートを実施し、計画を策定
- 時間と場所の分散を対策の軸として、駐車場満空情報や予約状況の見える化などを実施する
- また、本エリアはR4にまちづくり協議会が設立し、20年、50年先を見据えつつ、持続可能なまちづくりを進めていく計画である。そのためには、効果検証のための数値指標を設定し、観光による地域の変化を測る必要があるが、その指標が設定されていない
- そのため、日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）を活用した指標設定や研修により、地域の体制も強化していく

エリアマップ



観光客の分散・平準化

取組み	①予約状況が見える化するためのバス予約システムの構築
内容	• 一時に大型バスが来園することにより、約150m通過に約25分かかるほど深刻な交通渋滞が発生 • 予約状況が見える化することで、駐車場予約時間の分散化を図る
取組み	②首里城公園駐車場とあわせた周辺民間駐車場の位置及び満空情報の発信システム及びWebサイトの構築
内容	• 周辺駐車場を探し回ることによるうろつき交通が発生し、混雑の要因となっている • 周辺の民間駐車場への誘導により、スムーズに車を分散させることで、うろつき交通・渋滞解消を図る。あわせて、周遊観光の促進も図る
取組み	③首里城公園駐車場の満空情報を発信するためのwebサイト構築、道路サインージの設置①
内容	• 満車にもかかわらず、飛び込みで来るレンタカーなどが交通渋滞が発生させている • 来園前に満空を確認できるようにすることで、場所・時間の分散を図る
取組み	④近距離モビリティ実証実験
内容	• 首里城公園周辺の観光スポットに観光客が分散せず、園内が混雑 • 近距離モビリティにより周遊しやすい環境を整備することで、周遊観光促進及び観光の経済効果の波及を図る

需要の適切な管理

取組み	⑤人流解析基礎データ情報を取得するための機器の設置②
内容	• 首里城の特定エリアに修学旅行生などの観光客が集中し、快適な観光への影響の他、群衆事故が発生する懸念もある • まずは人流を把握し、需要の適切な管理方法の構築に繋げていく

調査・分析

取組み	⑥日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)を活用したデータ収集・分析等
内容	• 進捗状況や成果等を分析、効果検証するための数値指標が設定されておらず、観光によって地域がどうなったかが見えていない • そのため、データ分析の仕組みを構築し、効果検証を実施する

5. 主な取組み（詳細）

課題

首里城公園駐車場への集中による交通渋滞発生

取組み

満空情報の発信／バス予約システム構築（3事業）

- ・ 実施期間：令和6年7月～令和7年2月
- ・ 実施主体：沖縄県

事業内容

1. 周辺民間駐車場の位置及び満空情報の発信

- ・ 首里城公園駐車場周辺の民間駐車場の情報について、満空情報の発信を追加する

2. 満空情報発信するためのサイネージの設置

- ・ 首里城公園駐車場の満空情報を首里城前のサイネージにより発信する

3. 予約状況が見える化するためのバス予約システムの構築

- ・ 予約を行ったバスについて、QRコードを使用した入庫の仕組みを構築する

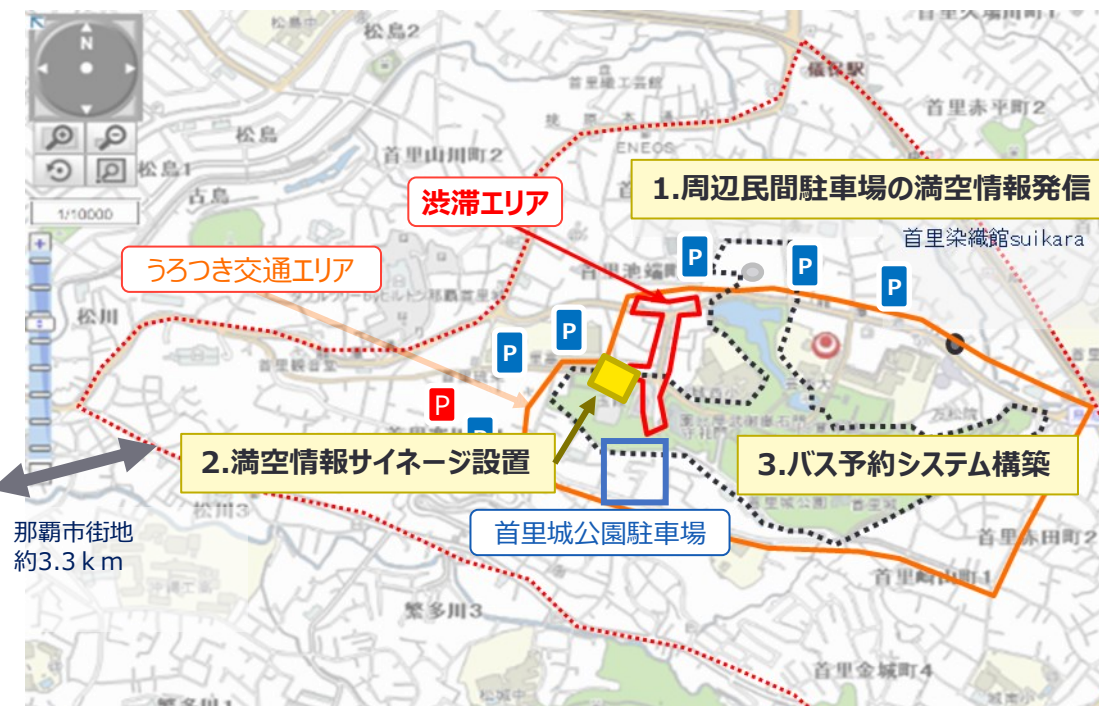
【現状】

首里城公園駐車場に集中するため、駐車場待ちによる交通混雑が発生しやすい

事業1： 周辺駐車場の満空情報を集約し首里城公園WEBサイトで発信することで、首里城公園駐車場からの分散を図る

事業2： 駐車場の満空情報情報をサイネージで発信し、来園前に周辺駐車場などに回避させる

事業3： 渋滞の要因となっているバスについて、事前予約制にすることで駐車場待ちの渋滞を解消する



令和6年度事業の目標

- 満空情報及び周辺駐車場の空き情報見える化により、首里城公園周辺における交通渋滞を解消する

事業の成果／目標の検証結果

- エリア一体で交通渋滞軽減を図る仕組みを構築し、仕組みの有効性を確認した
事業1：連携する民間駐車場の箇所数：
6か所73台、サイトへのアクセス数4,881pv
(2024年12月～2025年1月)
事業2：満空情報発信までのタイムラグ 15秒⇒5秒に削減
事業3：入庫確認時間（平均） 20秒⇒10秒に削減

成果詳細

1. 周辺民間駐車場の位置及び満空情報の発信

- 6か所73台の民間駐車場と連携
- 周辺民間駐車場のサイトアクセス数は4,881PVとなり、首里城公園駐車場からの分散化を図ることができていると考えられる



TOPページから周辺駐車場を案内

周辺の民間駐車場のご案内

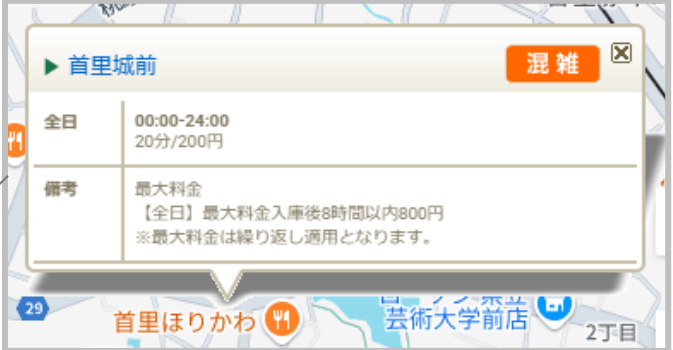


No.	名称	収容台数	満空情報 (外部サイト)
1	首里パーク第1	30台	—
5	守礼駐車場	営業停止	—
6	タイムズ首里城前第2	4台	満空情報
7	首里城入口駐車場	15台	—
8	首里城前パーク	40台	—
9	龍潭前ひまわりパーク	5台	—
10	首里城公園前パーク	20台	—
11	三井のリパーク 首里城前	13台	満空情報
12	三井のリパーク 鳥堀町1丁目第1	4台	満空情報
13	三井のリパーク 鳥堀町1丁目第2	18台	満空情報
14	三井のリパーク 鳥堀町1丁目第3	34台	満空情報
15	Dパーク 那覇市首里城川町第1	36台	満空情報

満空情報の追加

駐車場マップ
のエリア追加

空車 2025/02/17 11:20現在
タイムズ首里城前第2

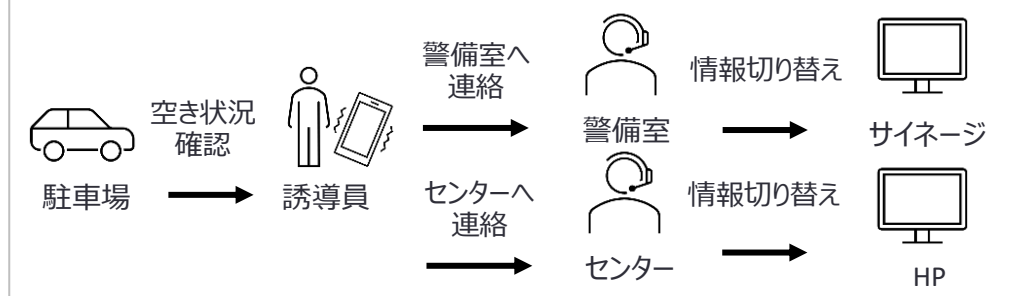


成果詳細

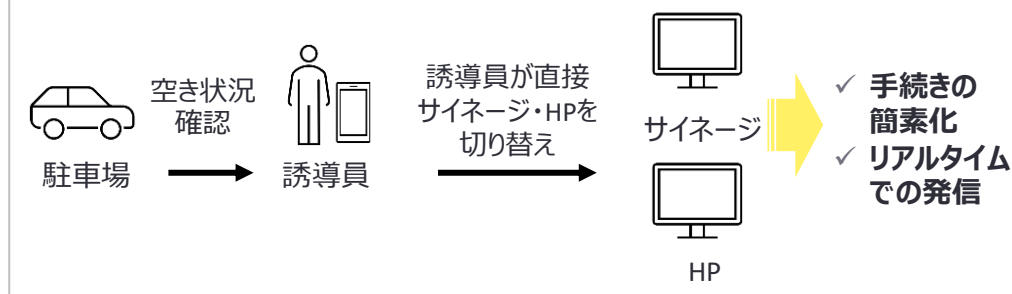
2. 駐車場の満空情報を発信するためのサイネージの設置

- ・ **設置前**：誘導員が警備室・センターに連絡し、サイネージ・HPを切り替えていたため、手続きが煩雑で、タイムラグも発生
- ・ **設置後**：誘導員が直接切り替えられるようになり、手続きが簡素化。タイムラグも解消した

【設置前】



【設置後】



満空情報発信までのタイムラグ 15秒⇒5秒



サイネージ



HP

成果詳細

3. バス予約システム構築（出入口へのQRリーダー設置）

- バスによる来園時間帯の平準化による周辺道路の渋滞緩和を図るため、バスの駐車場利用については、令和5年7月3日から予約制を導入
- WEBサイトでの予約時にQRコードを発行し、入庫をスムーズ化する

WEB上で駐車場を予約

予約する

2025年 2月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

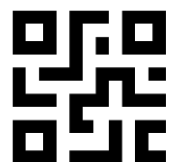
エリアかツアー区分のどちらかは指定してください。

エリア
首里城公園駐車場

ツアー区分
選択してください

検索

QRコード発行



QRコードを読み取り入庫



入庫確認時間（平均）
20秒⇒10秒に削減

令和6年度の取組みから見てきた課題

■ 2026年秋の正殿再建を見据えた需要のコントロール

- 渋滞の要因となっているバスについては予約制とし、平準化を図っているが、バスを優先とした結果、**レンタカーなどが止められない時間帯が発生**
- 正殿再建後は、観光客が急増し、混雑や渋滞が悪化することが想定されるため、**エリア全体でさらなる需要のコントロールの仕組みを構築していく必要がある**

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

■ 小型車の予約制導入

- 首里城公園駐車場はバスのみを予約制としているが、レンタカーなど、小型車についても予約制の導入を実施

■ 周辺駐車場の満空情報の発信強化

- 首里城公園駐車場に入れない車両を周辺駐車場に誘導するために、満空情報発信を強化する

■ 首里城正殿の時間制チケット導入

- 時間制チケットを導入し、総量のコントロールを実施。チケットを予約したが駐車場に止められないという事態が発生しないよう、正殿と駐車場の予約を連動させる方法などを検討

首里杜エリアの目指す姿

➤ 首里杜エリアの目指す姿

- 首里城公園に集中する車・人について、予約制などにより需要をコントロールしつつ、周辺への分散化を促進し、地域の活性化にもつなげる
- このように、エリア一体で観光管理の体制を構築することで、自然・歴史・暮らしが調和する首里らしいまちに、100年後まで住み続けられる持続的なまちづくりを目指す

首里城復興を 見据えた エリアマネジメント	需要の管理	• 首里城正殿の時間制予約の導入 • バス・小型車の駐車場予約制の導入
	分散化	• 満空情報発信による駐車場状況の見える化、周辺駐車場への誘導
	周遊促進	• 首里城公園周辺の周遊ルート開発、2次交通の整備

100年後まで
住み続けられる
持続的なまちづくり



5. 主な取組み（詳細）

問題

- ・ 首里城正殿復元の際に来園者が爆発的に増加すると周辺住民への影響が予想され、観光に対する不安の高まり、信頼度低下が懸念される

対策事業

- 日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)の各項目に基づくデータの収集・記録、取組
- ・ 期間：令和6年9月～令和7年2月
 - ・ 実施主体：沖縄県

事業内容

■ 日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）の各項目に基づくデータの収集・記録、取組

- ・ JSTS-Dロゴの取得に向けた意見交換・計画改定
- ・ まちづくりの取組の効果検証のための指標設定
- ・ GSTCトレーニングの受講
- ・ 今後の地域づくりに関するワークショップ等の開催
- ・ 他地域との意見交換

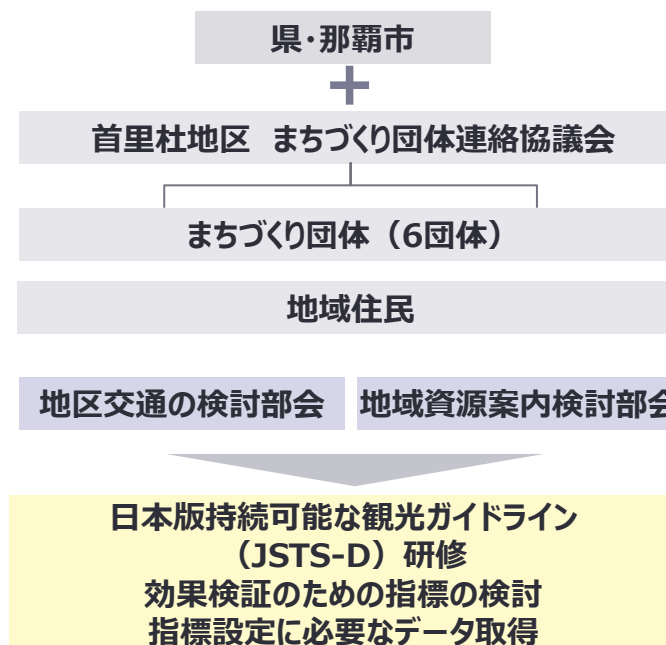
【背景】

- ・ 首里杜まちづくり推進協議会において、持続的なまちづくりを進め、10年計画のロードマップを協議しているが、進捗状況や成果等を分析、効果検証するための数値指標が設定されておらず、観光によって地域がどうなったかが見えていない
- ・ 首里城正殿復元の際に来園者が爆発的な増加による周辺住民への影響が予想され、観光に対する不安の高まり、信頼度低下が懸念される

【目的】

- ・ 地域における課題再整理、可視化のため、日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)を活用し、地域住民に対して取組の更なる浸透を図るほか、暮らしと観光の両立について、首里地域にあった姿は何か、関係者の議論を深める

地域住民の巻き込み体制



<令和6年度の事業内容>

- ・ まちづくり推進協議会は年2回、県・那覇市・大学も含め、直近は約80名で実施
- ・ 部会は、年2回実施
- ・ 持続可能な観光WGを新設した。
- ・ 部会に附随するワークショップは、3地区で年2回実施

成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

- 今後のまちづくりの取組の**効果検証に向けた指標を設定**
- **日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）ロゴマークの取得**や座組の強化など、**持続可能な観光地づくりに向けた体制の整備**

事業の成果／目標の検証結果

- **7つの指標案**を作成。**指標策定に向け、引き続き協議を継続**する
- 持続可能な観光地域づくりに関する国際基準(GSTC)トレーニング修了証明書を取得するなど、**ロゴマーク取得を進めていく**

成果詳細

住民を含めたワーキンググループの実施



持続可能な観光地域づくりに関する国際基準（GSTC）トレーニングの実施



令和6年度の取組みから見えてきた課題

■ 共通指標の策定に向けた合意形成

- 持続可能な観光地域づくりに向けては、関係者で共通認識を持つための指標を策定する必要があるが、合意形成には時間がかかる

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

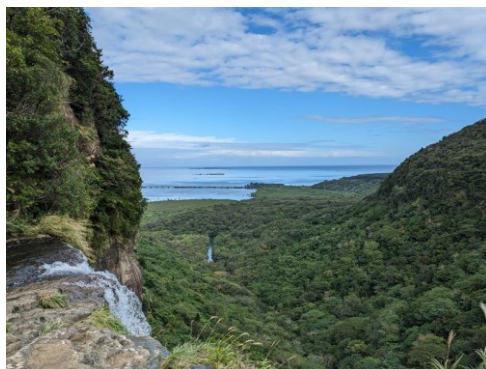
■ 指標策定に向けた協議の継続実施

- 引き続き、地域住民との協議やワークショップ等を継続し、まちづくりの取組と効果を継続的に検証するための指標策定を目指す

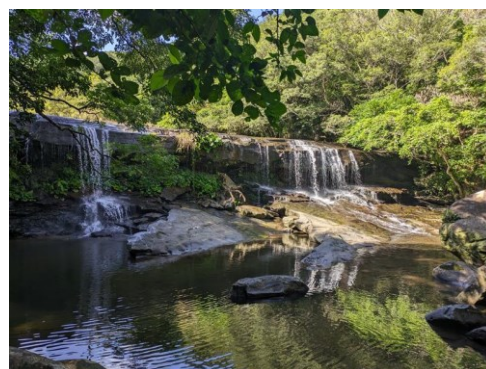
26. 沖縄県竹富町

1. 地域概要

計画名	西表島における立入制限エリア導入を核とした持続可能な自然体験型観光推進計画
対象エリア名	西表島
実施主体	沖縄県 竹富町 自然観光課
年間観光客入込数	約33万人（平成22年～令和元年10年間の平均値）
年間延べ宿泊者数	約7.6万人(宿泊率：23%)
主な観光資源	ヒナイ川（ピナイサーラの滝）、西田川（サンガラの滝）、浦内川源流域



ピナイサーラの滝



サンガラの滝

● 観光ビジョン

西表島エコツーリズム推進全体構想

- 「西表島の自然を損なうことなく持続的に利用し、将来に渡って自然からの恵みを得る」ことを目的に策定
- 西表島の自然や動植物、それらと共存してきた地域文化を尊重し、無秩序な観光利用により損なわれないように保全を図りながら、安全で質の高い体験を通じてその魅力を伝え、地域の持続可能な振興につなげていく

● 推進体制（協議の場）

- 地域住民、学識経験者、地元関係団体、関係行政機関等計40委員からなる竹富町西表島エコツーリズム推進協議会を開催
- 令和元年度の設立以降、概ね年2回程度の開催頻度。必要に応じ下部組織としてWG等を設置し、集中議論

行政機関	事業者	住民関係者
国 (環境省、林野庁)	ガイド事業者代表	地元住民代表
沖縄県	観光・商工業関係代表	学識経験者
竹富町	自然環境保全等 関係団体代表	

2. 課題

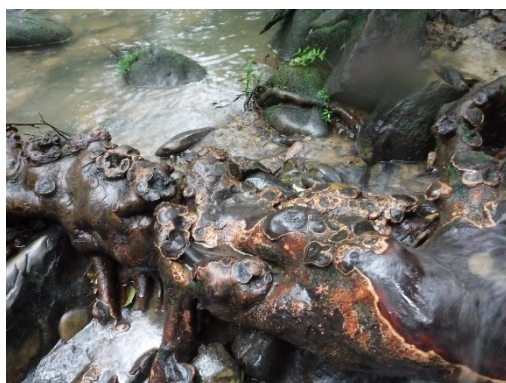
● 主な課題

主な現状・問題点		影響を受けている主な対象
1. 自然資源の悪化	過剰利用により、踏圧による樹木の根や岩の削れ、離合地点での林床の裸地化等、地域の観光資源である自然環境の劣化が生じている	地域資源
2. 地域感情の悪化	- 地域・住民共通の資産である島の自然環境の劣化により、観光利用に対する地域感情の悪化が顕著である - 竹富町は消防非常備市町村であるが、十分な知識を持たない観光客の遭難事故発生による消防団の出動が大きな負担となっている	地域住民

1. 自然資源の悪化



踏圧により変形する自然環境
(二列の溝は人の足跡によるもの)



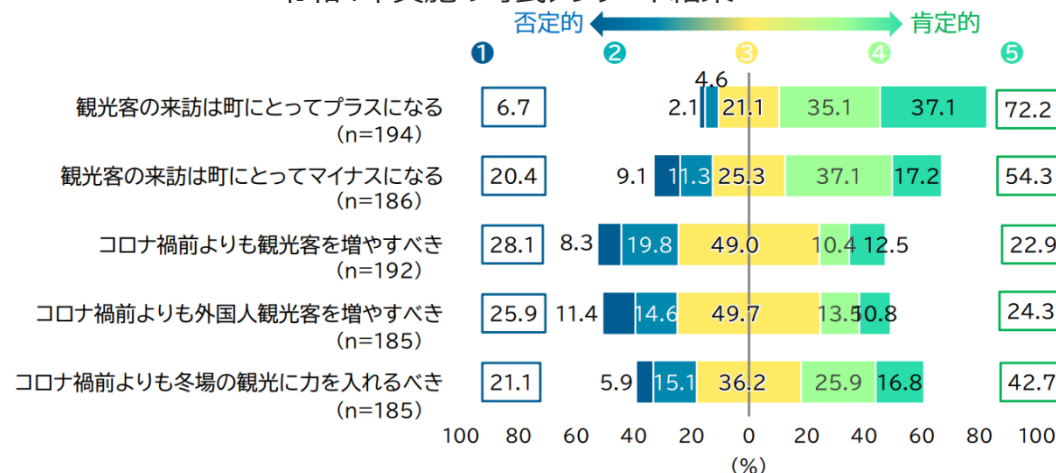
踏圧による樹根の変形

2. 地域感情の悪化

観光客遭難事故に伴う消防団出動記録の事例

発生日時：令和6年10月 AM2:30 道迷いにより遭難救助要請
 遭難者：昆虫採集目的の観光客 AM6:00 日の出に合わせて集合・搜索
 AM6:30 遭難者発見、カヌーにて救助
 AM7:00 活動終了

令和4年実施の町民アンケート結果



観光客来訪に肯定的な評価が7割超の一方、否定的な評価も5割超

3. 背景・要因

● 課題の背景・要因

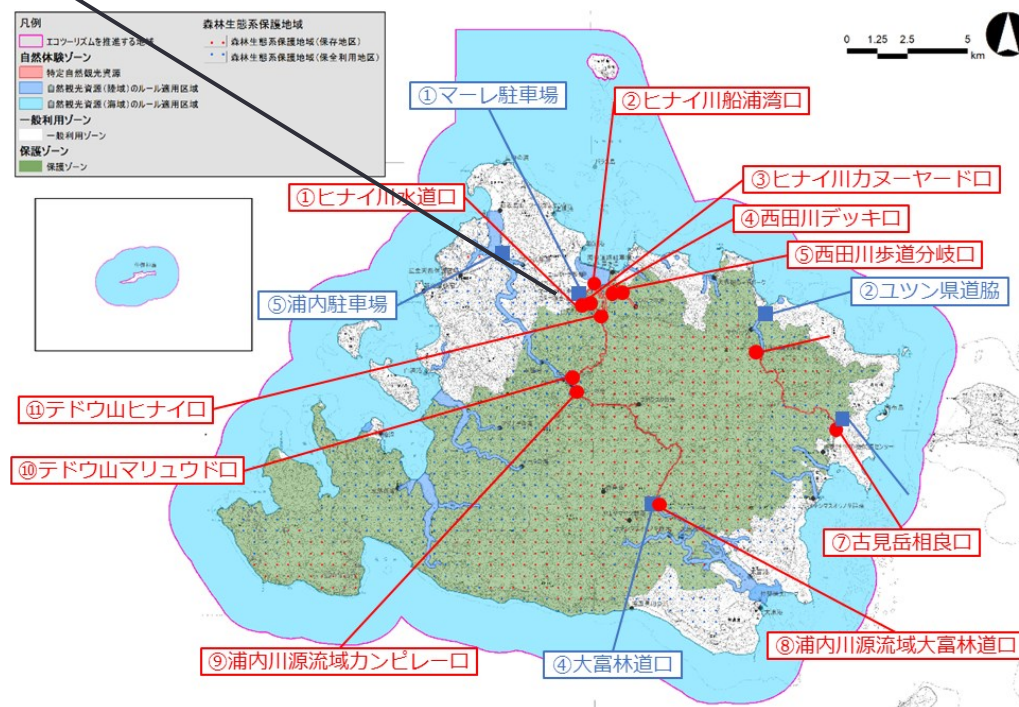
主な背景・要因

1. 受入許容を超える来島者数
 - ・ 航空路線・高速船等のインフラ整備や世界自然遺産登録などを機に、**自然体験型の観光利用者数が増加**
 - ・ 観光客数増加に伴い、自然体験活動に**十分な知識・技術を持たない観光客やルールを遵守しない事業者・観光客**の増加が見られる
2. 特定のフィールドへの集中
 - ・ ピナイサーラの滝を有するヒナイ川等、**特定のフィールドに利用が集中することで、自然体験フィールドの過剰利用**につながっている
3. 観光客の低いモラル意識
 - ・ **フィールドで濡れたままの観光客が飲食店に入店し店内設備を汚損**するなど、観光客のマナー・モラル遵守不足による軋轢が生じている
 - ・ 観光客は**島全体をレジャー施設のように捉えており、島は住民の生活空間でもある**という認識に乏しいことが原因で、マナーやモラルが低くなっているのではないかという住民の声も上がっている

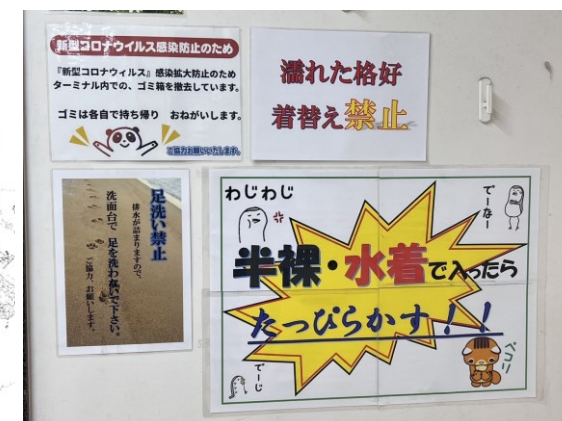
1.2. フィールドの過剰利用 (ピナイサーラの滝)



1.2. 無造作に係留される観光用カヌー



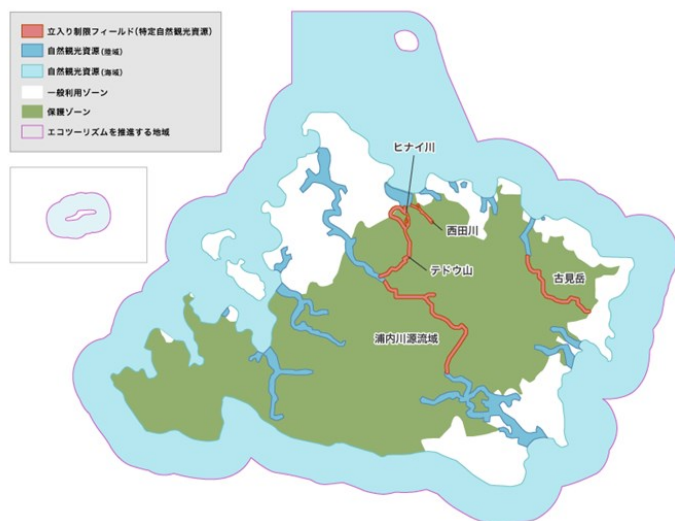
3. 観光客へのマナー違反行為等警告書 飲食店、港旅客施設等に多数掲示



4. 対策の概要

- 西表島では、豊かな自然を活用した自然体験型の観光が盛んに行われている。一方で、過剰利用等に伴う自然環境の劣化や、モラルの遵守不足等による住民生活への影響といった課題も生じている。
- また、ユネスコ世界遺産委員会からも、世界自然遺産登録時に要請事項として観光客の訪問レベル管理に関する要請事項を受けている。
- こうしたことを受け、エコツーリズム推進法に基づく法定協議会の設立及び議論を通じ、西表島エコツーリズム推進全体構想を策定するとともに、本事業においてその構想実現に係る事業を実施する運びとなった。

※全体構想において、特定自然観光資源に定めた区域（赤囲み）が本事業における取組の中心



需要の適切な管理

取組み 背景

①入域管理システムと標識の整備

- 自然体験フィールドの過剰利用により、自然環境の劣化やフィールドの混雑が生じている

内容

- エコツーリズム推進法に基づき、入域管理システムの導入や、特定自然観光資源区域を示す標識及びアクセス拠点への注意喚起標識の整備等を行う

取組み 背景

②観光客を適正かつ安全・快適に案内できるガイドの養成

- 自然体験フィールドの過剰利用や、観光客のルール等遵守不足による地域住民との軋轢が生じている

内容

- 講習及び試験を開催し、立入制限エリア等において観光客を適切かつ安全・快適に案内できるガイドの養成を行う

マナー啓発

取組み 背景

③講習プログラムの作成

- 自然体験フィールドの過剰利用や、観光客のルール等遵守不足による地域住民との軋轢が生じている

内容

- 立入制限エリアへの立入希望観光客を対象としたルール等講習プログラムを作成する。特定自然観光資源区域に個人で入域する場合においては、当該講習の受講を義務付ける

取組み 背景

④送客側事業者や観光客への適切な情報発信

- 観光客のルール等遵守不足による地域住民との軋轢が生じている

内容

- 立入制限制度を含む観光管理の取組に関して、説明会や広報資料の作成等を通して、送客側事業者や観光客への適切な情報発信を行う

地域住民と協業した観光振興

取組み

⑤協議会の開催を通じた地域住民側の理解度向上

背景

- 観光利用に対する地域感情の悪化が生じている

内容

- 竹富町西表島エコツーリズム推進協議会を開催し、本計画に係る取り組みの共有・進捗報告、意見徴収、合意形成の場として活用する

5. 主な取組み（詳細）

課題

- 観光客の自然フィールド過剰利用による**自然環境劣化**
- 自然保護を目的とした「立入り制限区域導入」の**立入りに係る許認可行為が煩雑**

取組み

入域管理システムと標識の整備

- 実施期間：予約開始 令和6年9月～
管理開始 令和7年3月～
- 実施主体：竹富町

事業内容

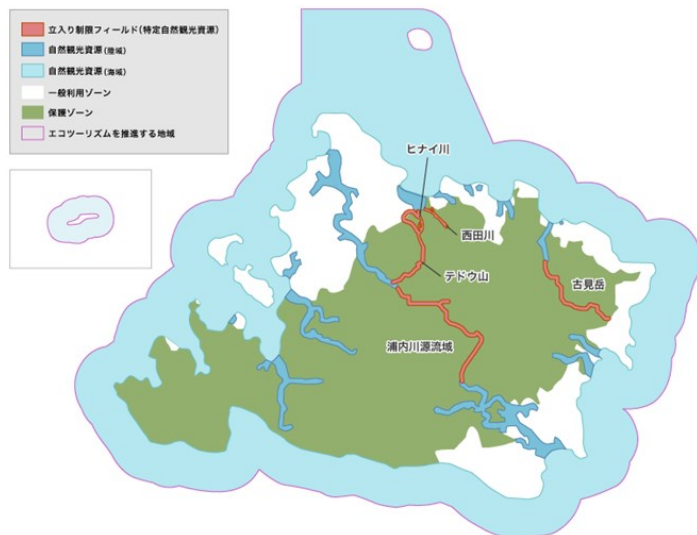
①：入域管理システム構築

- 立入制限区域導入に向けて、**立入承認申請から承認までの一連の申請プロセスを電子運用するためのシステム**
- エコツーリズム推進法に基づき、「立ち入り制限フィールド」における入域許可を、**1日410人以内に制限**

【目的】

- 本システムは、**人数制限のための単なる予約制度ではなく、エコツーリズム推進法に基づく許認可行為の円滑化**を目的として導入
- 入域にあたっては、法律に基づき竹富町が許認可を行う必要があるが、1日410人の観光客の許認可行為・予約の変更・キャンセルなどを1つ1つ行うことは非常に煩雑である。このため、システム導入によりその行政手続を自動化することで、管理の簡素化・行政の負担軽減を図る**

西表島MAP（赤色部分が立入り制限フィールド）



立入り条件

フィールドの名称	立入りの上限人数		立入りのための条件
ヒナイ川 <ピナイサーラの滝>	200人/日	合計 300人/ 日	登録引率ガイドが利用者に同行すること
西田川 <サンガラの滝>	100人/日		
古見岳	30人/日	登録引率ガイドが利用者に同行すること または 利用者全員が町が主催する講習等を受講すること	
浦内川源流域 <横断道、マヤグスクの滝>	50人/日		
テドウ山	30人/日		

※登録引率ガイドは試験に合格し立入制限フィールドを案内する資格を持ったガイドのこと

5. 主な取組み（詳細）

事業内容

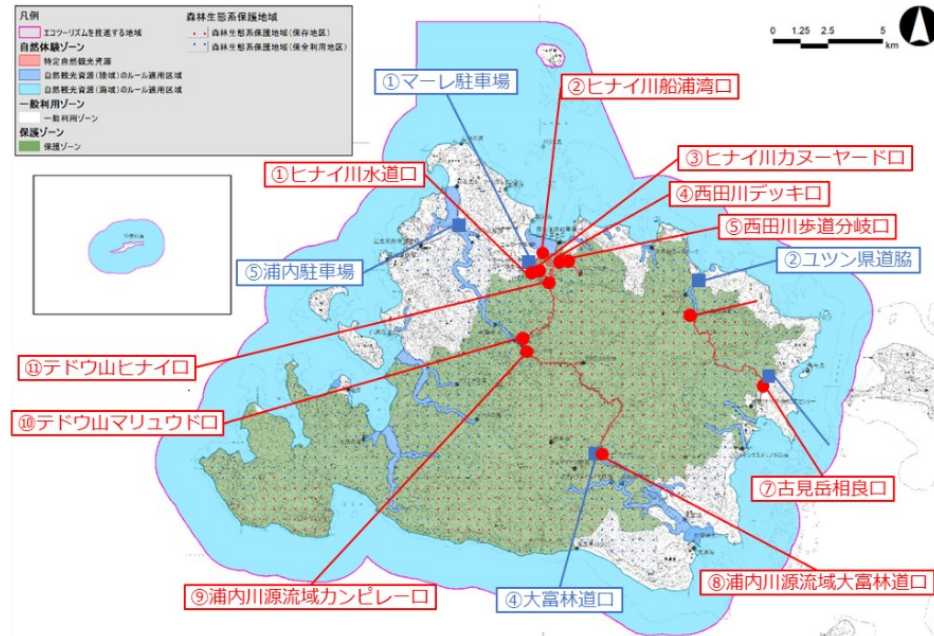
②：注意喚起標識等の整備

- ・ 特定自然観光資源区域標識（11基）、注意喚起標識（5基）を設置
- ・ 立入制限区域の入口部等に標識を設置。標識にはシステムで読み込むためのQRコードを表示し、入域を開始する際ガイドがQRコードを読み込むことで、入域承認申請プロセスのみでなく入退域状況についても管理
（予約システムのみでは、予約と実際の入退行動に乖離が発生する可能性がある）

【目的】

- ・ 入域管理システムと標識のQRコードを連動することで、ルートごとの利用状況等も把握
- ・ 入域者数やフィールド内の行動をデータとして取得し、検証することで、フィールドの順応的管理(※)に活用
※ 自然環境の変動や不確実性に対応するため、計画実施中に得られた情報に基づいて柔軟に計画を修正・改善していく

標識等の設置場所



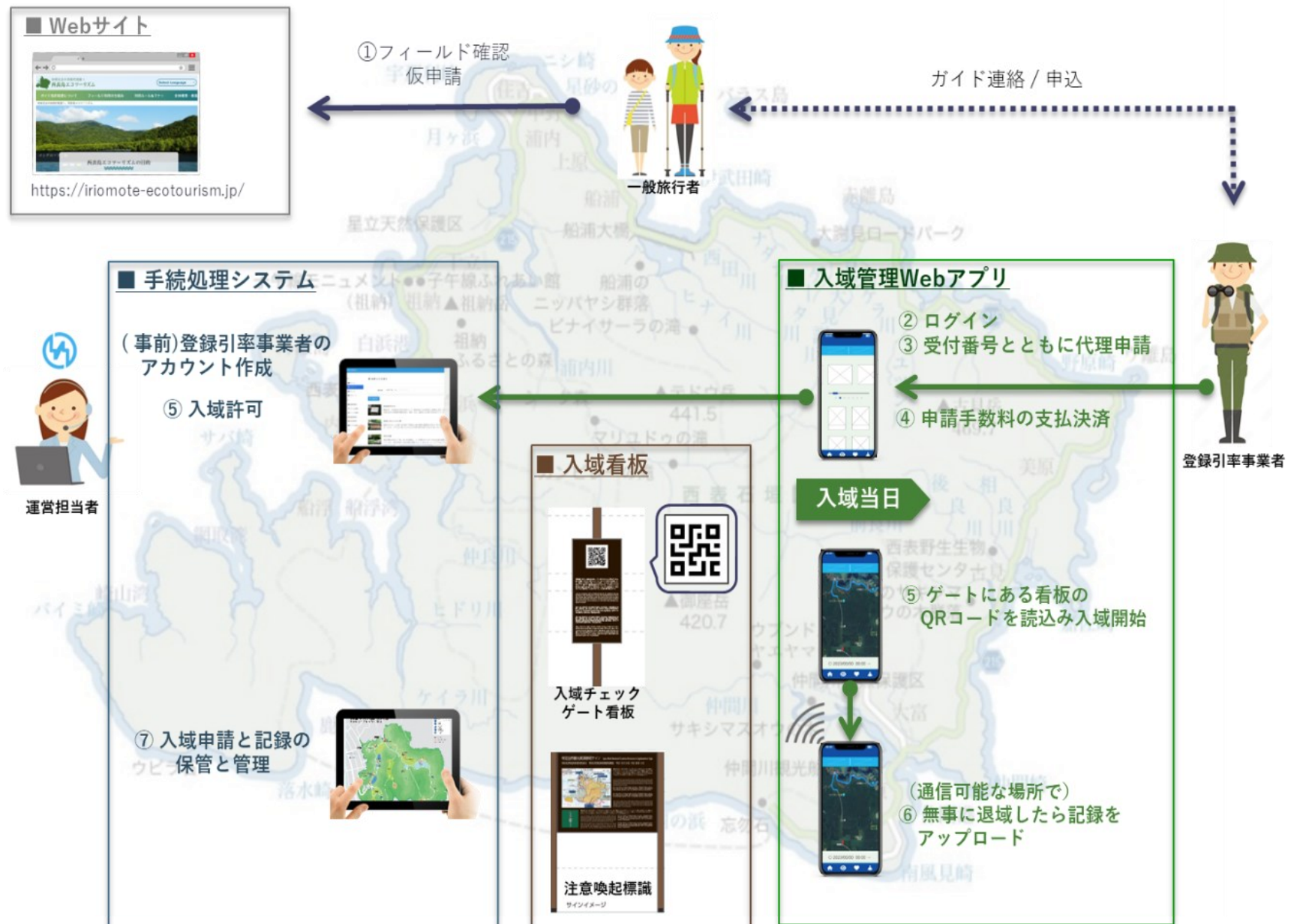
●：特定自然観光資源区域標識（11基）

■：注意喚起標識（5基）



5. 主な取組み（詳細）

一元的な入域管理システムの全体像



5. 主な取組み（詳細）

令和6年度事業の目標

- A：令和7年3月からの入域制限に向け、入域管理システムを導入し、入域管理・運用体制を構築する**
- B：令和6年9月から予約受け付けを開始し、運用体制に問題はないか、今後新たに検討すべき課題を特定する**

事業の成果／目標の検証結果

- A：入域管理システムの導入と入域管理・運用体制を構築できた**
令和6年9月から予約を開始し、令和7年2月25日付で約800件の申請を承認済み
- B：入域管理システムは、大きな問題なく運用ができた**
令和7年3月に入域制限を開始する体制が整った

令和6年度取組みから見えてきた課題

- 実際の入域開始が始まる前の現時点で、下記3点の課題が明らかになった

- 1 ガイドや観光客の観光管理に対する理解醸成**
 - 予約の段階で立入者を明確にする必要があるという点で、現在の旅行業界における商習慣との親和性が必ずしも高くないことから、ガイド、観光客等の関係者の理解・協力が必要である
- 2 申請プロセスにおける申請者負担の軽減**
 - ツアー等の事業者予約と入域申請はそれぞれ別の手続きが必要であり、制度の複雑化の一因となっている
 - 今後、安定的に多くのガイド・観光客に利用される仕組みになるには、申請者の負担軽減が必要である
- 3 財源確保の仕組み検討**
 - 本事業含め自然環境保全に係る施策は、コストを要するにも関わらず、そのコストを施策を通じて回収することが相応に困難であり、財源確保の仕組み検討が必要である

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- 入域制限開始後初の観光シーズンである令和7年夏に向け、立入制限制度を適切かつ継続的に運用するための体制を更に整えていく

- 1 観光管理に係る継続的な情報発信**
 - 観光管理の取り組みについて、国や県と連携しながら、送客側事業者や観光客に適切な情報発信を、継続して実施していく（説明会や広報等）
- 2 事業者予約との紐づけ、申請画面のUI等改善検討**
 - 事業者予約と入域申請を連携させることで、申請手続きを効率化
 - 申請システムのUIを改善しスムーズな運用を目指す
- 3 訪問税等の検討**
 - 検討が開始されている「訪問税」の導入等、外部来訪により増幅する行政需要や、持続可能な自然環境保全に必要な財源を確保する手段について、引き続き模索していく